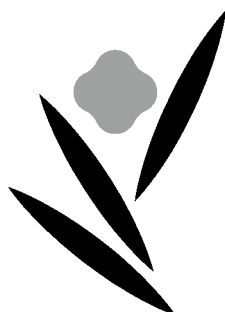


福祉心理学科の教育と授業計画

2019年度



福島学院大学福祉学部
福祉心理学科



建学の精神

本学は学則第1条に『教育基本法、学校教育法に則り、学院創設者の信念である「真心こそすべてのすべて」という建学の精神に基づき Sincerity（真心）と Hospitality（思いやり）を教育の根本におき、広く知識を授けるとともに、専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、地域社会に積極的かつ実践的に貢献することを目的とする』とうたっています。

「真心」を身につけた学生を育成することが、本学の創立者故菅野慶助先生の建学の理想だったのです。

「真心」

真心とはいうまでもなく、誠とか至誠とか呼ばれるものと相通じ、一般的な考え方を示すものとして、広辞苑では、「誠の心。いつわりのない真実の心」と記しています。また、「誠」の項では、「真」、「実」などの文字とともに、「真実の通りであること。うそでないこと」、また、「人に対して親切にして欺かぬこと」としてあります。

このようにして、真心はまず、自己に対していつわりのないこと。すなわち「自らの良心の声に聞いて恥じないこと」を意味しています。

また、他人に対しては、自己に対するいつわりのない心で接し、その人の身になって考える思いやりがあり、他人を決して欺かないことを意味しています。

「すべてのすべて」

以上のような意味の「真心」こそは、人間の行為のすべてを貫くものでなければならないのであって、菅野慶助先生が「一にも真心、二にも真心」と述べているのはこのことを指しています。

さらに、真心はすべての徳の中でも根本に位するものとして、これらをとらえることができます。この二つの意味を含めて「すべてのすべて」と言っているのです。

「信念のことは」

真心を以上のように誠、至誠と解するとき、それはまず、儒学における重要な概念として、儒学者の諸説があり、また、国学においても「真心」について説くところがあります。さらに、その他の倫理・哲学者においても説きかたは様々です。

しかし、本学における言葉並びにその精神は、創立者菅野先生の日常の実践の中において体得されたものであり、また、これを体現すべく努めに努めた体験の中から生まれてきた信念であって、思弁的な産物ではありません。

したがって、この言葉の真の意味は、菅野先生がこれまで歩んできた「足あと」そのものの中から見出すことができるものと言って過言ではありません。

本学においては、真心とその実践を基盤とする国際平和の実現のための教育を、ひとつの特色として打ち出しており、これもまた、菅野先生の信念から生み出されたものです。

われわれは、建学当初の「真心こそすべてのすべて」の精神を基本として、人々の信頼と幸福を求め、さらに、世界平和の実現のための教育の重視へと発展してきたその経緯をたずね、さらに将来を展望し、建学の精神の高揚に努めなければなりません。

教育の理念

本学は、感銘と感動を与え、知的好奇心を喚起する授業の実施を目指すとともに、自らの人生を創造的に生きようとする学生を受け入れ、支援します。

本学が求め、そして育成しようとする人間像については次の通りです。

1. 真心を持って人に接し、人の立場を考えて行動できるひとを育てます。

真心は人間社会を築く礎であり、人間関係の基本です。

心のこもった応対や接遇を心掛け、相手や他人の立場を理解しようとする謙虚さを失うことなく行動ができる人間を育成します。

2. 夢とロマンを胸に、自らの人生を創造的に生きようとするひとを育てます。

夢をもって生きること、浪漫を求めて生きること、その実現に努力すること、それは自らの青春を美しく磨くことです。

3. 的確な判断ができ、自らの知識と技能を生かして社会に貢献できるひとを育てます。

的確な判断は、現代社会に必要な知識と教養の獲得と、社会のいろいろな人との多様な人間関係の錬磨の中から生まれてくるものです。

自らの知識を深め、自らの技能を高めて、社会に貢献できる人材の育成につとめます。

4. 国際的な視野に立ち、多様性を理解し、相互理解の心を持つひとを育てます。

情報は一瞬にして世界を駆け巡ります。世界は日本に、日本はまた世界へ影響を与えます。国際的な視野に立って相手のことを理解することのできる人間の育成につとめます。

5. 感銘と感動を素直に表現できるひとを育てます。

感銘と感動ある人生ほど素晴らしいものはありません。

一つひとつの発見や驚きが、人生に若さと新鮮さを与えてくれます。そうした「ひとを育てる教育」でありたいと思います。

こうした学生を育成することを教育の理念として掲げ、本学はこれを建学の精神と合わせて学是としています。

2019年度学生用便覧 Campus Life



I. 福祉学部福祉心理学科の教育	1
II. 教育課程と履修の方法	3
III. 科目履修	6
IV. 資格取得の方法	9
V. 地域社会に学ぶ体験教育	18
VI. その他	19

平成30年度以前入学者は、入学年度の便覧 Campus Life を参照ください。

I 福祉学部福祉心理学科の教育

1. 入学者受入れ、教育課程編成・実施、卒業認定・学位授与の方針

(1) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

福祉心理学科では、心理的対人援助活動に関心を持ち、社会福祉、精神保健福祉、臨床心理、カウンセリング等の分野において広く地域社会に根ざし、将来に渡って地域の発展に寄与しようとする気概を持つ人、現代社会に必要な知識と教養を身に付け、自らを高める努力をしようとする人を求めています。

福祉心理学科においては、学修するための基本となる学力要素を、高等学校での学習を通して教科毎に形成された知識や技能に求めています。この知識や技能を証明するものとして、各学科に定める高等学校での評定平均を重視し、その中でも特に、人間関係構築の基本であり、コミュニケーション能力の基礎となる国語力を身につけていることを希望しています。

別に定める学科による各選考方法の基本は、高等学校における学習成果を前提に、福祉心理学科において新たな知識を獲得するための希望者本人の意欲や論理的思考能力を確認することです。各選考に共通して設けられた面接では、学科への適性のほか、生徒会・部活動や地域ボランティアなど課外活動の実績も評価していきます。

(2) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成にあたっては、学部及び学科にかかる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するように配慮しています。

福祉心理学科の教養教育科目では、学生・社会人としての現代的教養観、即ち表現力やコミュニケーション能力・情報リテラシー、および生活教養などを重視した科目で編成しています。

専門教育課程は、福祉と心理という学際的領域で、他者の心の痛みに共感でき、心の痛みを抱える人々に積極的な援助活動を行うことができる人材を育成するために「専門基礎科目」「心理関連科目」「社会福祉・精神保健福祉関連科目」の科目群で構成し、「福祉」と「心理」の分野から所定の単位を修得することを卒業要件とし、心のケアができる人材を育てる教育課程を編成しています。

教養教育・専門教育科目それぞれに、知識や技能、論理的思考力、文章・身体・感性等に関する表現力、課題対処力、多様性の理解力や対人関係構築力の獲得など対応する教育目標が設定されており、これら個々の評価を合わせ、総合的な学修経験を通して学科教育、人材育成の目的に到達できるように各年次に配当して編成しています。

(3) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

福祉心理学科においては、心理的対人援助活動に関心を持ち、広く社会の福祉に貢献する人材の育成を目指す学科教育に基づき、教養教育科目及び専門教育科目において指定された科目を履修し、その他、学則に示された所定の要件を満たすことを基本としています。

単位の修得にあたっては、各科目にそれぞれに対応する教育目標として、知識や技能、論理的思考力、文章・身体・感性等に関する表現力、課題対処力、多様性の理解力や対人関係構築力の獲得などが設定されており、これら個々の評価を合わせ、総合的な学修経験を通して修学したことを学科教育、人材育成の目的に適う者とし、かつ、学士の学位を授与するにふさわしい人格識見と健全な精神を有していると福祉心理学科会議で判定された学生について、学長が教授会の議を経て卒業を認定し、「学士（福祉心理学）」の学位を授与します。

2. 教育課程の考え方

(1) 「福祉」と「心理」の両面から援助できる専門家の養成

福祉心理学科が目指す福祉の専門家を育成するために、教育課程は「福祉」と「心理」の2分野の専門性を両軸として「専門基礎科目」「心理関連科目」「社会福祉・精神保健福祉関連科目」の3科目群が

ら構成されています。「福祉」と「心理」の2分野それぞれ30単位以上履修することが卒業要件となっており、「福祉」と「心理」の両面から心のケアのできる人材を育てる教育課程となっています。

現代はストレス社会、少子超高齢社会等と指摘されていますが、このような社会で生活していくためには、「心の問題」とどう向き合っていくかが重要です。福祉心理学科では、地域福祉の担い手として、幅広いニーズに対応できるとともに、深刻になりつつある「心の問題」を理解し、「心のケア」のできる福祉の専門家を養成しようとしています。

(2) 教養教育の充実

本学の学是である“真心こそすべてのすべて”の精神を持った人材を育成し、現代社会のニーズに応えるため、福祉心理学科の教養教育には、大学生に求められる表現力、マナー、異文化理解、地域ボランティア活動に重点を置いた特色ある科目を用意しています。

- ① 「本学の教育」では、建学の精神の高揚に努め、学生生活の充実を図るとともに、本学創立者が掲げた「真心をもって行動し、社会に貢献できる人材」となることを目指します。
- ② 「文章表現」では、社会においてどのような場面でも必要になる表現力の向上のため、その基礎となる漢字能力と対話能力を高めることを目標にしています。
- ③ 「生活教養Ⅰ」および「生活教養Ⅱ」では、大学生としてあるいは社会人として必要なコミュニケーションの基本となるマナーをしっかりと身につけるため、ケース・スタディ（事例研究）を通して学びます。
- ④ 「国際理解論」「国際理解演習」では、国際的な視野に立って物事を考えることのできる人材育成の観点から、異文化への理解を深めることで、多様性を理解することを目標にしています。
- ⑤ 「地域ボランティア活動」「地域振興活動」では、活動中での人間関係の錬磨を通して、基本的な対人コミュニケーション力、的確な判断力、問題解決に立ち向かう態度を育てます。

3. 学習の成果を挙げるための方法

① きめ細かい履修指導と個別相談

クラスアドバイザーの他に全学生に対して、個別面談担当教員を配置しています。

個別面談担当教員が学生との個別面談を実施することによって、学生一人一人と向き合い学生生活における様々な相談に応じる体制をとっています。

また、資格取得に必要な学修や就職活動、国家試験受験対策などについて、クラスセミナーや個別相談を通じて随時対応しています。

② 演習・実習科目の充実

資格取得に必要な科目はもちろんのこと、実社会において即戦力として役立つ知識や能力を身につけるため、授業は可能な限り体験・演習・実験の形態で進めていくよう工夫しています。演習等の科目においては、具体的な事例を通して理解を深めていきます。

③ ゲストスピーカーの招聘

授業では、それぞれの授業内容に関連し、授業担当教員が学生にとって最も効果的で新鮮な話を提供できる、ゲストスピーカーを招聘する授業も行います。ゲストスピーカーは、地域あるいは様々な職業現場で幅広く活躍している方々です。

④ 映像及びプレゼンテーションツール利用授業

授業は、本学が長年推進してきた映像教育を行い、またプレゼンテーションツールを利用し、分かりやすく効果的に行います。

⑤ ディスカッション及びグループワークを用いた授業

一方的な講義ではなく、ディスカッションやグループワークの時間を授業に多く導入したアクティブラーニングを実施しています。

⑥ 施設見学

「相談援助演習Ⅱ」「精神保健福祉援助演習（専門）」等の実践的な授業科目については、福祉施設などを実際に訪問し、学生が目指す福祉の現場を見て学ぶ機会を設けています。

⑦ 附属施設スタッフ（兼任）による指導

大学院には心理臨床相談センターというメンタルケアに対応している附属施設を併設しています。ここで相談業務にあたっている医師、公認心理師、臨床心理士は福祉学部の教員です。常に実践現場にいる教員が授業を担当することで、より実践的な授業が受けられます。

⑧ 成績評定平均点・本学独自のGPA（グレード・ポイント・アベレージ）の重視

厳格な成績評価の方法として本学独自のGPA制度を設け、各種表彰や実習・卒業のための基準のひとつに採用しています。GPAを学習成果の目安とし、4年間意欲的に学ぶことができます。（P 6～P 7のGPAについての説明を参照してください）

4. 学生の努力目標－生きた知識と実践教育

- 本学の学是である「真心こそすべてのすべて」の精神にもとづき、福祉と心理を学ぶ本学の学生としての「真心」と「専門職者意識」を高めるように努めましょう。
- 卒業後の社会生活・職業生活を支える基盤をつくるために、専門的立場から、物事を多角的に判断し、実践できるような教養を身につけましょう。
- 対人援助に必要な知識と技能を身につけるように努めましょう。
- 各種のボランティア活動を体験し、他者理解や対人援助について能動的に考え、自らの福祉に関する興味関心を深めましょう。
- 授業のなかで、実際に福祉・心理の現場で活躍されている方をゲストスピーカーとして招聘します。教科書だけでは学ぶことの出来ない生きた知識を吸収し、さらに積極的な姿勢で自分の問題意識を高めましょう。
- 実習後には、事後指導の一環として、実習事後指導（実習反省会）を実施します。自分が体験したことをまとめて人に伝えることは、さらなる気付きのきっかけとなります。また、後輩の実習意欲を喚起する役割も兼ねていますので頑張って取り組みましょう。
- 大学開講科目で学ぶ基礎知識をさらに専門的な知識・技術として習得するために大学が地域貢献として開催するセミナーなどへの参加に努めましょう。
- 福祉・心理は人や社会と切り離しては考えられない学問です。常に地域社会の現状に関心を持ち、将来、地域社会と連携して活躍できる専門家を目指して日々の授業や課題に取り組みましょう。

Ⅱ 教育課程と履修の方法

1. 教育課程（カリキュラム）

(1) 基本的な考え方

福祉学部福祉心理学科で開講される授業は「教育課程表」（P 22～P 24）のとおりです。

教育課程（カリキュラム）は、「教養教育科目」と「専門教育科目」に分かれています。そして、科目ごとに、授業の方法（講義・演習・実習）、履修できる学年（1年次～4年次）、科目の種類（必修・選択）、単位数（1単位・2単位・4単位等）が決められています。

これらの科目の中から、どの科目を履修するのかを自分で決めていくのが大学でのシステムです。ただし、履修には幾つかの約束事がありますので、しっかりと理解し、確認してください。

自分で決めた科目（授業）を受けて、学期末の試験（筆記試験・レポート試験等）に合格すると「単

位」が認定されます。「単位」については、後で説明しますが、卒業や資格取得への目安になる「数字」と考えてください。

(2) 履修できる学年

教育課程表の「標準履修年次」に1～4までの数字がありますが、これはその授業を受けることができる標準的な履修年次です。「1」の場合、「1年次に受けることが望ましい授業」、「1・2」の場合、「1年次もしくは2年次に受けることが望ましい授業」ということです。下位学年が「標準履修年次」になっている科目は、上位学年になってからでも履修することができますが、上位学年が「標準履修年次」になっている科目を下位学年の者が履修することはできません。

(3) 科目の種類

科目には「必修科目」と「選択科目」の2種類があります。

卒業までに必ず単位取得しなければならないのが「必修科目」であり、それ以外の科目は「選択科目」となっています。

「必修科目」は福祉心理学科で学ぶ学生が、最低限単位を取得する必要がある科目であり、卒業時にこれらの科目のうちひとつでも単位を取得できていなければ卒業ができません。

「選択科目」は原則として「受けてみたい」という科目を卒業に必要な単位数を満たす範囲で自由に選ぶことができますが、興味ある授業だけを選択するのではなく、「授業計画」を参考にして、幅広い教養を学ぶために様々な分野の科目を選択してください。

また、資格取得のために必要な科目もありますので留意してください。

授業科目は、教育課程表にまとめられています。この中から卒業、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、認定心理士の指定科目を取得するために必要な科目と単位数を確認して、履修する授業科目を決めていきます。

(4) 授業の開講期及び単位制

学習時間は年間を前期（4月1日～9月30日）と後期（10月1日～3月31日）の2期に分け、1期15週とします。授業科目によっては前後各1期で完結する「半期科目」と、1か年（通年）30週で完結する「通年科目」があります。

- ① 単位とは学習時間を表したものであって、ある科目について所要の時間数を履修し、その試験に合格したとき、あるいは授業科目担当者がその科目を履修したことを認定した時に単位を取得したことになります。
- ② 単位の計算方法は「大学設置基準」に基づいて本学学則に定められています。各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間以外に必要な学修を考慮して、次の基準により計算します。

- 講義および演習については、15時間から30時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 実験・実習および実技については、30時間から45時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。
- 授業時間は2時間連続（正味90分）を「時限」としておりますので、各時限を2時間として単位の計算をします。
- 授業時間以外に必要な学修時間の計算方法は、講義2単位の場合90時間の学修量が必要です。1回2時間（90分）で15回の授業では、2時間×15回＝30時間（90時間の1/3）の学修になります。90－30＝60時間は授業外の学修時間（予習・復習）となり、この場合60時間分の予習・復習等の学修が必要となります。

(5) 卒業に必要な単位数

「単位数」は決められただけの数を取っていないと卒業できません。福祉心理学科の「卒業に必要な単位数」は次のとおりです。

卒業に必要な単位数

教養教育科目	26単位以上	必修	16単位		合計 124単位以上
		選択必修	7単位		
		選択	3単位以上		
専門教育科目	98単位以上	必修	心理系 (P系)	7単位	
			福祉系 (W系)	10単位	
			ゼミナール	4単位	
		選択	77単位以上 (うち、P系科目23単位以上、W系科目20単位以上を含む)		

(6) 科目ごとの授業期間

「教育課程表」の「授業期間」の欄に「通年科目」と「半期科目」があり、各科目ごとに定められています。「通年科目」とは、1年間を通して授業を開講する科目で、原則として30回の授業です。ただし、後期末試験を行う場合は31回となります。

「半期科目」とは、前期か後期のどちらかに授業を開講する科目で、原則として15回の授業です。ただし、期末試験を行う場合は16回となります。

2. 履修の方法【履修規程】

学則第32条に「学生は履修する科目を選定し、履修届を提出するものとする」とあります。

大学では高等学校と違い、自分で履修科目を選び履修届を提出しなければなりません。

履修届の記入の方法、提出期日については、オリエンテーションで教務課より説明がありますので、しっかりと聞いてください。提出期限に遅れると履修が出来ません。また、教員や教務課職員が早く出すよう一人一人に指示をしたりはしませんので、全て自分の責任で届出を行うこととなります。十分に注意してください。

<単位取得までの一連の手続き>

- ① 必要書類の確認 履修届の用紙、学生便覧等の書類がオリエンテーションの際に配付されます。
- ② 履修科目の選定 卒業必修科目、資格必修科目を確認してください。(不明な点は、必ず教員に確認すること)
- ③ 履修届の提出 指定された日時までに必ず提出してください。
- ④ 履修確認 履修登録にミスがないか確認し、修正の必要があれば教務課に提出します。
- ⑤ 授業の出席 定められた授業時数の3分の2以上を出席しなければなりません。5分の4以上の出席を義務付けている科目もありますので、注意してください。
- ⑥ 期末試験 【試験規程】参照
- ⑦ 成績通知 取得単位数の確認
- ⑧ 単位取得

3. 履修の制限

履修には制限のある場合があります。

- (1) (授業を行う学生数) 学則第29条
- (2) (履修科目の制限) 履修規程第22条

実習に出るには、それぞれの学年で取るべき単位を落とさずにとっておくことが大切です。標準履修年次が1・2年次の科目はその学年で取っておきましょう。1・2年次の科目を落としてしまうと、3・4年次に実習に向けて履修する科目に支障をきたします。

- (3) (履修科目の登録の上限) 学則第34条

修得しようとする一年間の単位数は、希望資格取得に必要な単位数や一人一人の能力によっても異なってきます。学生が各年次にわたり、授業科目を適切に履修するため、1年間に登録できる履修単位の上限をおおむね50単位としています。オリエンテーション時に履修の上限について説明・指導しますので注意して下さい。

4. 資格の取得

福祉心理学科において指定された単位を取得すると、次の資格が取得できます。

- ① 社会福祉士国家試験受験資格
- ② 精神保健福祉士国家試験受験資格
- ③ 社会福祉主事任用資格
- ④ 認定心理士

なお、公認心理師国家試験受験資格は、「大学における必要な科目」を全て修得して卒業し、さらに、大学院修士課程において「必要な科目」を全て修得してはじめて得られるものです。

詳しくは、資格取得の方法（P 9～18）の説明をよく読んでください。

Ⅲ 科目履修

1. 授業時間

大学では1回の授業を1コマと数え、授業時間は1コマ90分です。

【福島駅前キャンパス】

1時限目	9:40 ~ 11:10	4時限目	15:20 ~ 16:50
2時限目	11:20 ~ 12:50	5時限目	17:00 ~ 18:30
昼休み	12:50 ~ 13:40	6時限目	17:50 ~ 19:20 (大学院)
3時限目	13:40 ~ 15:10	7時限目	19:30 ~ 21:00 (大学院)

【宮代キャンパス】

1時限目	8:50 ~ 10:20	3時限目	12:50 ~ 14:20
2時限目	10:30 ~ 12:00	4時限目	14:30 ~ 16:00
昼休み	12:00 ~ 12:50	5時限目	16:10 ~ 17:40

2. 評価

単位を取得するためには、履修した科目の評価を受けなければなりません。

成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格、59点以下は不合格となります。

成績の段階は次の6段階です。成績通知書にはこの評価が記載されます。

A ⁺	90点以上	A	80～89点	B	70～79点
C	60～69点	D	50～59点	F	50点未満

【本学独自のGPA（グレード・ポイント・アベレージ）】

本学では、厳格な成績評価を実施することとしています。その方法として本学独自のGPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を設けています。

(1) 本学のGPA成績評価方法

- ① 授業科目はシラバスにより学習目標、成績評価基準を明示したうえで100点満点で成績評価し、単位取得科目（60点以上）の評価点（素点）に単位数を乗じた点数をその科目のグレード・ポイントとします。
- ② 入学以来の取得単位科目のグレード・ポイントを累計し、累計した総取得単位数の1単位あたりの平均点を算出します。これをGPA（グレード・ポイント・アベレージ）と呼びます。すなわち各科目の評価点に単位数をかけたものの総点を総取得単位数で割ったものです。
- ③ GPAは、次項に詳しく示しますが、進級・卒業・実習科目の履修に利用されます。それ以外にも、各学年の学期末に算出されたGPAが70点に満たない学生については、個別に学科長並びに学生主任、クラスアドバイザー等が学習指導、生活指導を行い、学力の向上の助言を行います。
- ④ C評価（60点～69点）の科目については再履修が認められ、評価点を向上させる機会が与えられます。しかし、その再履修の結果、点数が下がる、もしくは不合格になった場合でも、再履修時の評価が採用されますので注意してください。

(2) GPA評価の利用

① 進級

学則第40条の2にあるように、3年次への進級に関して2年次末のGPA評価が利用されており、GPA65点未満もしくは取得単位数60単位未満の場合は3年次への進級を認めないことがあります。

② 実習科目の履修制限

福島学院大学福祉学部履修規程第22条にあるように、実習科目の履修をするうえで、GPAが70点に達している必要があります。

③ 卒業

心身ともに健康で豊かな「福祉社会」の実現のために、地域社会に貢献できる人材の育成を目的とする本学においては、高い付加価値を身に付けた質の高い卒業生を送り出すために、厳格な卒業認定基準を設定します。

すなわち、各授業科目の取得単位はそれぞれ60点以上の評価点を得れば認定され、必修科目を含むその累計単位数が124単位（教養教育科目26単位、専門教育科目98単位）以上であれば卒業認定要件を満たすことができます。

本学ではさらに、学則第49条第1項第3号にあるように卒業年次末のGPAが70点以上であることを卒業要件として、学生の質の確保を図ることとします。

④ 卒業年次で留年した場合

卒業要件が満たせず卒業年次で留年した場合は、下記のような学費免除もしくは軽減措置をとります（学則第62条）。

ア. 再履修科目が20単位以内であり、GPAが68点以上の場合については、留年後1年以内に限り授業料および教育充実費を免除します。

イ. ア.に定める履修の期間を超えて留年となった場合は、所定の学費を適用します。ただし、卒業に必須な科目が10単位以内でGPAが70点以上の場合は科目履習生の学費を適用します。

3. 試験【履修規程】【試験規程】

学習成績の判定の方法は中間試験、期末試験、レポート、調査、作品、実技、出席状況、口頭試問等、担当の教員の定めた方法で行われます。試験には、他に追試験、再試験があります。

試験日程については、教務課の掲示板に掲示されます。学生に配付されたりすることはありませんので注意してください。

(1) 試験の種類

① 定期試験（中間試験、期末試験等）

授業期間の途中や、前期末・後期末に実施される試験です。

② 追試験

履修規程第13条による事由により定期試験に出席できなかった場合は、速やかに教務課に連絡し、その事由を証明する書類を添付して、追試験願を事前もしくは事後1週間以内に提出すれば追試験を受けることができます。

ただし、本人の不注意だった場合には、満点は80点とし1科目につき追試験料5千円がかかります。（年度内3科目以内）

③ 再試験【履修規程第14条】参照

卒業学年に在籍し、履修規程第15条に定める再履修を行う場合、卒業年度内の再履修が困難で、卒業もしくは国家試験受験資格、認定資格等取得に必須の科目が2科目以内である場合は、再試験願を教務課に提出して、試験等の再試験を受けることができます。再試験料は1科目5千円です。

(2) 試験の方法【試験規程】参照

① 筆記試験

筆記試験は通常90分です。

試験開始から20分以上の遅刻は認められません。20分経過すると退出が認められます。

科目によって、教科書やノートを持ち込んでよいという指示がある場合もあります。試験日程とともに持ち込みの可否も掲示されていますので、よく確認してください。

② レポート

レポート用紙や形式は、担当教員からの指示に従い、指定期限内に指示された場所に提出します。

③ その他の方法

調査、作品、実技、口頭試問等、試験方法はさまざまです。

4. 科目「書写演習」

2年次の書写演習は指定者必修科目です。1年次に履修する文章表現の成績がC評価以下だった者は必ず履修して下さい。この単位は、教養教育科目の選択の単位に含みません。

5. 科目「情報機器操作」

情報機器操作はⅠ～Ⅲまであり、入学時の能力検定により履修レベルを決定します。

科目名	レベル	開講年次	単 位
情報機器操作Ⅰ	初級レベル	1年	1単位
情報機器操作Ⅱ	中級レベル	1年	1単位
情報機器操作Ⅲ	—	1年	1単位

- 初級レベルである「情報機器操作Ⅰ」を指定された人
前期に「情報機器操作Ⅰ」を履修して1単位を取得した後、後期に「情報機器操作Ⅱ」を履修して1単位を取得してください。
- 中級レベルの「情報機器操作Ⅱ」を指定された人
前期に「情報機器操作Ⅱ」を履修して1単位を取得した後、後期に「情報機器操作Ⅲ」を履修して1単位を取得してください。

6. ゼミナール

「ゼミナール」は、福祉・心理に関する課題や問題点を自ら見出し、解決する方法を研究する力の涵養を目的に、専門教育科目における卒業必修科目（4単位）として設定されています。履修学年は3年次、4年次と2カ年の継続履修で、2学年がともに学修に励む科目となっています。「ゼミナール」の単位は各ゼミナールにおける研究成果として、研究論文等の提出が必須の条件となります。

各ゼミナールの履修定員は学科定員の10%程度とし、当該学年学生数を勘案したうえで、事前希望調査に基づいて極端な偏りを防ぐよう配属できるよう計画されています。1年次より問題意識を持ち、3年次までに研究課題を絞り込んでいきましょう。

4年次には各ゼミナールの研究領域に関わらず「研究発表会」にて研究成果の発表を行います。

Ⅳ 資格取得の方法

福祉心理学科では、福島学院大学福祉学部履修規程第20条「卒業後の公認心理師国家試験受験資格取得」に定める通り、複数の国家試験受験資格を取得しようとする場合、最大2種類までとしています。①社会福祉士と精神保健福祉士、②公認心理師と社会福祉士、③公認心理師と精神保健福祉士の組み合わせで、資格取得に必要な科目の履修が可能です。

1. 社会福祉士

(1) 社会福祉士とは

社会福祉士とは、昭和62年に制定された「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づく国家資格です。平成19年12月「社会福祉士及び介護福祉士法の一部を改正する法律」の改正により、現行のカリキュラムが施行されています。社会福祉士制度の施行から現在に至るまでの間に、介護保険制度の施行等による措置制度から契約制度への転換など、社会福祉士を取り巻く状況は大きく変化しており、今後の社会福祉士に求められる役割としては、①福祉課題を抱えた者からの相談に応じ、必要に応じてサービス利用を支援するなど、その解決を自ら支援する役割、②利用者がその有する能力に応じて、尊厳を持った自立生活を営むことができるよう、関係する様々な専門職や事業者、ボランティア等との連携を図り、自ら解決することのできない課題については当該担当者への橋渡しを行い、総合的かつ包括的に援助していく役割、③地域の福祉課題の把握や社会資源の調整・開発、ネットワークの形成を図るなど、地域福祉の増進に働きかける役割、これらを適切に果たしていくことが求められています。

社会福祉士の資格を取得するためには「国家試験」を受験しなければなりません。受験資格を得るには法律でいくつかの規定がありますが、本学はそのうち「指定科目を修めて卒業した者」の養成課程となっています。つまり、「大学で指定科目の中から条件を満たすように単位を取得した場合に国家試験が受験できる」ということです。

(2) 指定科目

社会福祉士法では「指定科目」として22科目を規定していますが、本学の開講科目は26科目履修する

必要があります。

「◎」のついた2科目は本学では「必修科目」ですので、必ず履修しなければなりません。

「○」のついた19科目は本学では「選択科目」となっていますが、国家試験受験のための「指定科目」となっていますので必ず履修しなければなりません。

「A1」のついた3科目については、法令では「3科目のうち1科目を履修すること」となっていますので、「A1」のついた3科目の中から1科目以上を必ず履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれらの3科目全てについて試験科目として出題されますので、3科目全てを履修することが望まれます。

「A2」のついた科目について、法令では「3科目のうち1科目を履修する」となっていますので、「A2」のついた3科目の中から1科目以上を必ず履修しなければなりません。しかし国家試験ではこれらの3科目全てについて試験科目として出題されますので、3科目全てを履修することが望まれます。

本学開講科目一覧は次の通りです。

社会福祉士 指定科目表

法令指定科目	本学開講科目	分類	年次	単位
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	A 1	1	4
心理学理論と心理的支援	心理学概論	◎A 1	1	4
社会理論と社会システム	社会学	A 1	2	2
現代社会と福祉	社会福祉原論	◎	2	4
社会調査の基礎	社会調査法	○	3	2
相談援助の基盤と専門職	相談援助の基盤と専門職	○	1	4
相談援助の理論と方法	社会福祉援助技術論Ⅰ	○	2	4
	社会福祉援助技術論Ⅱ	○	3	4
地域福祉の理論と方法	地域福祉論	○	2	2
	コミュニティーソーシャルワーク	○	2	2
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	○	3	2
福祉サービスの組織と経営	社会福祉運営管理	○	3	2
社会保障	社会保障	○	2	4
高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者に対する支援と介護保険制度	○	1	4
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	○	2	2
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童・家庭福祉	○	2	4
低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者に対する支援と生活保護制度	○	3	2
保健医療サービス	保健医療サービス	○	3	2
就労支援サービス	就労支援	A 2	3	1
権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度	A 2	3	2
更生保護制度	更生保護制度	A 2	3	1
相談援助演習	相談援助演習Ⅰ	○	2	1
	相談援助演習Ⅱ	○	3	2
	相談援助演習Ⅲ	○	4	2
相談援助実習指導	相談援助実習指導	○	3・4	3
相談援助実習	相談援助実習	○	3・4	4

(3) 科目「相談援助実習指導」「相談援助実習」

① 科目の内容

「相談援助実習指導」では、年間45コマ（前期30コマ、後期15コマ）の授業を開講し、前期（実習事前学習）は、実習の意義と目的を学び、実習施設の理解を深めるとともに、実習に向けての「実習計画書」の作成を行います。後期（実習事後学習）は、「実習日誌」「実習全体のまとめ」から実習を振り返り、実習報告書の作成と実習反省会での発表を行います。この授業は4/5以上の出席を必要とします。

「相談援助実習」は、社会福祉士の受験資格のため「180時間以上」の配属実習を学外（集中）で行うものです。これまで学んできた社会福祉援助に関する倫理、専門知識や専門技術について自らの体験を通じて主体的に学び、社会福祉専門職として基本的な態度を学びます。

② 履修制限

a. 福島学院大学福祉学部履修規程第22条第1項のとおり、「相談援助実習」は、履修する前の年度末の時点でGPA70点以上でなければ履修することはできません。

b. 「相談援助実習」を履修する前までに履修する必要のある科目が不合格となり、学科会議で不適格とされた者は実習科目を履修することができないことがあります。

(1) 3年次に「相談援助実習」の履修を希望する者が、2年次末までに単位取得する必要のある科目は次の8科目です。

条件1：B評価以上で単位取得を求める科目

- ① 「文章表現」
- ② 「心理学概論」
- ③ 「社会福祉原論」
- ④ 「社会保障」

条件2：単位取得済みであることが求められる科目

- ⑤ 「人体の構造と機能及び疾病」
- ⑥ 「相談援助の基盤と専門職」
- ⑦ 「社会福祉援助技術論Ⅰ」
- ⑧ 「相談援助演習Ⅰ」

(2) 4年次に「相談援助実習」の履修を希望する者が、3年次末までに単位取得する必要のある科目は、前述の8科目に次の3科目を加えた11科目です。

上記(1)の条件を満たすことに加え、単位取得済であることが求められる科目

- ⑨ 「社会福祉援助技術論Ⅱ」
- ⑩ 「保健医療サービス」
- ⑪ 「相談援助演習Ⅱ」

c. 履修制限の解除

履修規程第23条のとおり、第22条第1項によって履修制限を受けていた者が、その後の学期末の時点で、次の要件を満たした場合には、次の学期以降に「相談援助実習」の履修制限が解除されます。

1. GPAが70点以上になったとき
2. 当該実習科目履修前に履修する必要のある科目の単位が合格となり、学科会議の結果、適格と判定されたとき

③ 「地域ボランティア活動」および「地域振興活動」の履修について

実習事前準備のため、実習履修の前年度末までに、「地域ボランティア活動」または「地域振興活動」のいずれか1科目を履修してください。

2. 精神保健福祉士

(1) 精神保健福祉士とは

平成9年（1997年）に制定された「精神保健福祉士法」に基づく国家資格です。精神保健福祉士法が改正され、平成24年4月から新カリキュラムが施行されています。

精神保健福祉士の仕事の内容は、精神障がい者の退院促進を支援し、精神障がい者が地域でその人らしく生きるための生活課題に取り組み地域生活の維持・継続ができるよう相談援助を行います。

精神保健福祉士の資格を取得するためには「国家試験」を受験しなければなりません。受験資格を得るためには法律でいくつかの規定がありますが、本学はそのうち「指定科目を修めて卒業した者」の養成課程となっています。つまり、「大学で指定科目の中から条件を満たすように単位を取得した場合に国家試験が受験できる」ということです。

(2) 指定科目

精神保健福祉士法では「指定科目」として22科目を規定していますが、本学の開講科目は24科目履修する必要があります。

「◎」のついた3科目は本学では「必修科目」ですので、必ず履修しなければなりません。

「○」のついた19科目は本学では「選択科目」となっていますが、国家試験受験のための「指定科目」となっていますので必ず履修しなければなりません。

「A1」のついた3科目については、法令では「3科目のうち1科目を履修すること」となっていますので、「A1」のついた3科目の中から1科目以上を必ず履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれらの3科目全てについて試験科目として出題されますので、3科目全てを履修することが望まれます。

本学開講科目一覧は次の通りです。

精神保健福祉士 指定科目表

指定科目等の名称	開講科目の名称	分類	年次	単位
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	A 1	1	4
心理学理論と心理的支援	心理学概論	◎A 1	1	4
社会理論と社会システム	社会学	A 1	2	2
現代社会と福祉	社会福祉原論	◎	2	4
地域福祉の理論と方法	地域福祉論	○	2	2
	コミュニティーソーシャルワーク	○	2	2
社会保障	社会保障	○	2	4
低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得者に対する支援と生活保護制度	○	3	2
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	○	3	2
保健医療サービス	保健医療サービス	○	3	2
権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度	○	3	2
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	○	2	2
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	◎	1	4
精神保健の課題と支援	精神保健学	○	1	4
精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	○	2	2
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	○	2	2
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	○	3	4
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	○	3	4
精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉に関する制度とサービス	○	2	4
精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援システム	○	2	2
精神保健福祉援助演習(基礎)	精神保健福祉援助演習(基礎)	○	3	1
精神保健福祉援助演習(専門)	精神保健福祉援助演習(専門)	○	4	2
精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉援助実習指導	○	4	3
精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助実習	○	4	5

(3) 科目「精神保健福祉援助実習指導」「精神保健福祉援助実習」

① 科目の内容

「精神保健福祉援助実習指導」では、年間45コマの授業があります。前期の実習事前指導30コマは、当事者への相談業務やリハビリテーション活動について必要な資質・能力・技術などの専門的援助技術を学ぶとともに、専門職としての自覚に基づいた行動ができるよう学習を行います。後期の実習事後指導15コマは、実習の振り返りを個別やグループで行い、実習事後指導（実習反省会）で発表し、それらを報告書にまとめます。この授業は4/5以上の出席を必要とします。

「精神保健福祉援助実習」（210時間、27日以上）では、①90時間以上の医療保健福祉関係機関での

実習が法律上必修になっています。②また医療機関の他に必ず福祉サービス事業施設等での現場実習を行う必要があります。現場実習を通して精神保健福祉士の役割と業務の理解や関連分野の専門職種との連携のあり方等を学びます。

② 履修制限

- a. 福島学院大学福祉学部履修規程第22条第1項のとおり「精神保健福祉援助実習」は、履修する前の年度末の時点でGPA70点以上でなければ履修することはできません。
- b. 「精神保健福祉援助実習」を履修する前までに履修する必要のある科目の単位が不合格となり、学科会議で不適格とされた者は実習科目を履修することができないことがあります。

※3年次末（実習を履修する前年度末）までに単位取得する必要のある科目は次の10科目です。

条件1：B評価以上で単位取得を求める科目

- ① 「文章表現」
- ② 「心理学概論」
- ③ 「社会福祉原論」
- ④ 「社会保障」

条件2：単位取得済であることが求められる科目

- ⑤ 「人体の構造と機能及び疾病」
- ⑥ 「精神疾患とその治療」
- ⑦ 「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）」
- ⑧ 「精神保健福祉相談援助の基盤（専門）」
- ⑨ 「精神保健福祉援助演習（基礎）」
- ⑩ 「保健医療サービス」

c. 履修制限の解除

履修規程第23条のとおり、第22条第1項によって履修制限を受けていた者が、その後の学期末の時点で、次の要件を満たした場合には、次の学期以降に「精神保健福祉援助実習」の履修制限が解除されます。

1. GPAが70点以上になったとき
2. 当該実習科目履修前に履修する必要のある科目の単位が合格となり、学科会議の結果、適格と判定されたとき

③ 「地域ボランティア活動」および「地域振興活動」の履修について

実習事前準備のため、実習履修の前年度末までに、「地域ボランティア活動」または「地域振興活動」のいずれか1科目を履修してください。

3. 社会福祉主事任用資格

(1) 社会福祉主事とは

「社会福祉主事」とは社会福祉法第19条に規定されている資格です。社会福祉主事は福祉事務所で働く時に必要な資格であり、福祉事務所で「現業員」という仕事に就いたときに「社会福祉主事」と名乗れるというもので、このような資格を「任用資格」と呼んでいます。

つまり卒業して地方公務員試験を受けて地方自治体職員に採用され、福祉事務所に配属になったときに初めて名乗れる資格といえます。

しかし一般的に社会福祉の領域では、「社会福祉に関する業務を行うのに、最低限必要な資格」と位置づけられています。卒業後に社会福祉施設などで働く者にとって、最低限必要な資格といえるでしょう。

(2) 指定科目

社会福祉法では指定科目を34科目規定しており、「指定科目を3科目以上履修した者」は、その単位

が認定されれば、卒業と同時に「社会福祉主事任用資格」が与えられます。

本学では必修科目である「社会福祉原論」「心理学概論」が指定科目ですので、他に「地域福祉論」「社会保障」などの科目を履修し単位を取得すれば、卒業と同時に「社会福祉主事任用資格」を有することになります。科目の詳細は、クラスセミナー等で周知します。

※「社会福祉主事任用資格」は大学で付与する資格ではありません。資格を有することについては、本学の卒業証明書と成績証明書の2点をもって証明できます。

4. 認定心理士

(1) 認定心理士とは

認定心理士（日本心理学会認定心理士）とは、心理学の専門家として仕事をするために必要な、「最小限の標準的基礎学力と技能を修得している」と日本心理学会が認定した者のことです。

つまり、学会が認定している「認定資格」と呼ばれるもので、国家資格ではありません。心理学を専門に学ぶ者が、心理学専攻者としてのアイデンティティを持ち、専門性を向上していくために作られた制度です。

認定心理士の資格を取得するためには、定められた指定科目を履修し、必要単位を修得して、卒業（または卒業見込み）しなければなりません。この条件を満たして初めて、資格認定の申請を行うことができます。

申請後、資格認定委員会の審査を経て認められた場合、「認定心理士」の資格を取得することができます。

(2) 指定科目

認定心理士の資格を取得するには、日本心理学会が定める「指定科目」を履修し、36単位以上修得することが必要です。「指定科目」は基礎科目と選択科目に分かれています。

基礎科目はさらにA・B・Cの3領域に分かれ、Aは4単位以上、BとCは合わせて8単位以上、合計12単位以上修得する必要があります。

また選択科目はDからHまでの5領域に分かれています。そのうち3領域以上から各4単位以上修得し、合計16単位以上修得しなければなりません。その他、残りの8単位はA～Hの領域にある残りの科目から任意に選択して履修することとなります。

これらの「指定科目」を本学のカリキュラムにあてはめたのが次の表です。「認定心理士」の資格を

取得したい学生は、この表を参考に履修科目を決めてください。

認定心理士 指定科目表

	領域	本学授業科目	単位	配当年次	履修方法
基礎科目	A	心理学概論	2	1	A領域：4単位以上 B・C領域の合計：8単位以上 合計：12単位以上
		臨床心理学概論	1(注1)	1	
		感情・人格心理学	1(注1)	2	
	B	心理学研究法	2	2	
		心理学統計法	2	3	
	C	心理学実験	2	2	
		心理的アセスメントⅠ	1	3	
心理的アセスメントⅡ		1	3		
心理演習		1	3		
選択科目	D	知覚・認知心理学	2	2	D～Hまでの5領域のうち3領域以上で、それぞれが少なくとも4単位以上 合計：16単位以上
		学習・言語心理学	2	2	
	E	神経・生理心理学	2	2	
	F	発達心理学	2	1	
		発達臨床心理学	2	3	
		教育・学校心理学	2	3	
	G	司法・犯罪心理学	2	2	
		障害者・障害児心理学	2	2	
		心理療法	2	2	
		健康・医療心理学	2	3	
		福祉心理学Ⅱ	2	3	
	H	社会・集団・家族心理学	2	2	
		産業・組織心理学	2	3	

(注1) これら2科目は、A領域の副次主題での申請とするため、開講単位数の半数が認定単位数となる。

(注2) 基礎科目および選択科目、その他の科目を合わせて、総単位36単位以上必要。

5. 公認心理師

(1) 公認心理師とは

公認心理師とは、平成29年（2017年）9月に施行された「公認心理師法（平成27年制定）」に基づく国家資格です。心理学に関する専門知識及び技術をもって、保健医療、福祉、教育その他の分野で、心理に関する支援を必要としている人の心理状態の観察と分析、相談、助言、指導その他の援助等を行う者であり、国家試験合格により公認心理師の名称を用いて仕事を行うことができますようになります。

公認心理師の資格を取得するためには、「大学で必要な科目をすべて修め、かつ、大学院で必要な科目をすべて修めて課程を修了した者」が受験資格を得た上で、国家試験に合格することが求められます。つまり、大学を卒業しただけでは公認心理師国家試験受験資格を得ることはできない、ということです。

大学卒業後、一定の実務経験（医療機関等において心理専門職として2年以上の援助実績）でも国家試験受験資格を得ることはできますが、これから大学で学びを始める人にとっては、大学で必要な科目を修め、その後、大学院で必要な科目を修めることが公認心理師国家試験受験資格取得の早道といえる

でしょう。

本学には大学院も設置されており、公認心理師養成を行っております。福祉心理学科においても、法に規定されている「大学における必要な科目」をすべて開講し、公認心理師を目指す学生に対して、大学院進学および資格取得の支援を行っています。

(2) **大学における必要な科目**

公認心理師法では、「大学における必要な科目」として25科目を規定していますが、本学の開講科目は27科目となっており、全ての科目を履修する必要があります（資格必修）。

本学開講科目一覧は次の通りです。

公認心理師 大学における必要な科目表

公認心理師法に定められた 大学における必要な科目名称	開講科目の名称	配当年次	単位
公認心理師の職責	公認心理師の職責	3	2
心理学概論	心理学概論	1	4
臨床心理学概論	臨床心理学概論	1	2
心理学研究法	心理学研究法	2	2
心理学統計法	心理学統計法	3	2
心理学実験	心理学実験	2	2
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2	2
学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	2
感情・人格心理学	感情・人格心理学	2	2
神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	2
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2	2
発達心理学	発達心理学	1	2
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2	2
心理的アセスメント	心理的アセスメントⅠ	3	1
	心理的アセスメントⅡ	3	1
心理学的支援法	心理学的支援法	2	2
健康・医療心理学	健康・医療心理学	3	2
福祉心理学	福祉心理学Ⅰ	1	2
	福祉心理学Ⅱ	3	2
教育・学校心理学	教育・学校心理学	3	2
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	2
産業・組織心理学	産業・組織心理学	3	2
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	1	4
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	1	4
関係行政論	関係行政論	3	2
心理演習	心理演習	3	1
心理実習	心理実習	4	2

(3) 科目「心理演習」「心理実習」

① 科目の内容

「心理演習」および「心理実習」は、福島学院大学福祉学部履修規程第22条第2項に規定する通り、履修者の上限を30名としています。学生個別面談等を通して取得希望資格について教員と話し合い、その結果に基づいて履修者が決定されます。

「心理実習」は、「80時間以上」の学外実習および事前・事後指導によって構成されています。

学外実習の実習施設については、「心理に関する支援の実態に対する理解を促す観点から、主要な5分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）に関する施設の見学を中心とした実習が必要」とされています。ただし、経過措置期間中は、医療機関（病院又は診療所）での実習を必須とし、医療機関以外の施設での実習については適宜行うことが認められているため、実習年度に実習先について説明します。

事前・事後指導は、学外実習の前後に適宜実施します。

② 履修制限

- a. 福島学院大学福祉学部履修規程第22条第2項のとおり、「心理実習」は、履修する前の年度末の時点でGPA70点以上でなければ履修することはできません。
- b. 「心理実習」を履修する前までに履修する必要がある26科目のうち1科目以上の単位が未修得の者は、学科会議で不適格とされた場合、実習科目を履修することができない場合があります。
- c. 履修制限の解除

福島学院大学福祉学部履修規程第23条のとおり、第22条第2項によって履修制限を受けていた者が、その後の学期末の時点で、次の要件を満たした場合には、次の学期以降に「心理実習」の履修制限が解除されます。

1. GPAが70点以上になったとき
2. 当該実習科目履修前に履修する必要がある科目の単位が合格となり、学科会議の結果、適格と判定されたとき

③ 「地域ボランティア活動」「地域振興活動」

実習事前準備のため、実習履修の前年度末までに、「地域ボランティア活動」または「地域振興活動」のいずれか1科目を履修してください。

V 地域社会に学ぶ体験教育

1. 地域社会に貢献する人材の育成

「地域ボランティア活動」「地域振興活動」を開講し、地域社会に貢献できる人材を育成します。

- (1) 「地域ボランティア活動」では、学生の興味関心に基づいたボランティア活動を行い、福祉の専門職として地域に関わる視点を構築します。
- (2) 「地域振興活動」では県内・市内において実施される各種の地域イベントに参加し、参加者および地域振興の担い手としての役割を体験的に実習します。

Ⅵ その他

1. クラスセミナー

「クラスセミナー」とは、重要な連絡事項、履修指導、学習指導、資格説明等のオリエンテーション、就職対策セミナー、特別講演会などに使われる時間です。基本的に全ての連絡事項は、掲示によって行われますが、特に説明を必要とするような重要な事項等はこの時間に行われます。また、学科学友会を中心に于行われる行事や、検討事項の協議等も行います。必ず出席してください。

2. 表彰制度

本学では、本学独自のGPA制度の導入により卒業者のレベル向上を図ると同時に優秀な成績を修めた学生には「学長表彰」を行い、学生全体の学習意欲の向上につなげます。

「学長表彰」は、年次毎に前年度に履修し取得した授業科目のGPAおよび学外実習の成績や学外活動等を参考とし、卒業時に原則として88点以上の学生を授与対象とします。（【学長賞授与規程】参照）

なお、成績優秀者には、学長賞以外にも学部長賞、学科長顕賞が授与されます。（【学部長賞授与規程】
【福祉心理学科長顕賞規程】参照）

■ 福祉学部福祉心理学科カリキュラムツリー〔2019年度入学生用〕

福祉学部福祉心理学科の教育目標	社会福祉、精神保健福祉、臨床心理、カウンセリング 人々に積極的な援助活動を行うことができる人材を
項目	〔1〕 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格の取得、公認心理師を目指す（大学院入学）、

科目群	専門教育科目		
資格等	社会福祉士国家試験受験資格	精神保健福祉士国家試験受験資格	公認心理師に必要な科目

	↑	↑	↑	↑
	専門科目	共通科目	専門科目	
4年	相談援助演習Ⅲ		精神保健福祉援助演習 (専門)	
3年	社会調査法 社会福祉援助技術論Ⅱ 社会福祉運営管理 就労支援 更生保護制度 相談援助演習Ⅱ	福祉行財政と福祉計画 低所得者に対する支援と生活保護制度 保健医療サービス 権利擁護と成年後見制度	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 精神保健福祉援助演習(基礎)	福祉心理学Ⅱ 教育・学校心理学 産業・組織心理学 心理的アセスメントⅠ・Ⅱ 心理学統計法 心理演習 公認心理師の職責 健康・医療心理学 関係行政論
2年	社会福祉援助技術論Ⅰ 児童・家庭福祉 相談援助演習Ⅰ	社会福祉原論 地域福祉論 コミュニティーソーシャルワーク 社会保障 障害者に対する支援と障害者自立支援制度	精神保健福祉に関する制度とサービス 精神障害者の生活支援システム 精神保健福祉相談援助の基盤(基礎) 精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	心理学研究法 感情・人格心理学 知覚・認知心理学 心理学的支援法 心理学実験 社会・集団・家族心理学 障害者・障害児心理学 司法・犯罪心理学 学習・言語心理学 神経・生理心理学
1年	相談援助の基盤と専門職 高齢者に対する支援と介護保険制度	心理学概論 人体の構造と機能及び疾病	精神疾患とその治療 精神保健学	心理学概論(再掲) 福祉心理学Ⅰ 発達心理学 臨床心理学概論 人体の構造と機能及び疾病(再掲) 精神疾患とその治療(再掲)

等の分野において将来の専門職として必要な教育を行うとともに、他者の心の痛みに共感でき、心の痛みを抱える育成する（学則第6条の3第1項第1号）

認定心理士申請資格の取得	〔2〕 対人援助職として望まれる資質を修得	〔3〕 学外実習とその事前・事後指導を通して、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師を目指す者としての技術・態度を修得
--------------	-----------------------	---

		教養教育科目	専門教育科目（実習）	
認定心理士申請資格	本学独自の科目	※教養教育科目全般を通して、「知識」「論理的思考力」「文章表現能力」「まごころ、思いやりの発現力」等の力を身につけていく。	事前・事後指導	実習



	ゼミナール		相談援助実習指導 精神保健福祉援助 実習指導	相談援助実習 精神保健福祉援助 実習 心理実習
福祉心理学Ⅱ（再掲） 発達臨床心理学 教育・学校心理学（再掲） 産業・組織心理学（再掲） 心理的アセスメントⅠ・Ⅱ（再掲） 心理学統計法（再掲） 健康・医療心理学（再掲）	犯罪行動と心理演習 医療福祉論 福祉住環境演習 ゼミナール	生活教養Ⅱ ウェブ動画制作 現代人間関係論	相談援助実習指導 （精神保健福祉士とW取得を目指す学生）	相談援助実習 （精神保健福祉士とW取得を目指す学生）
心理学研究法（再掲） 感情・人格心理学（再掲） 知覚・認知心理学（再掲） 心理学実験（再掲） 社会・集団・家族心理学（再掲） 障害者・障害児心理学（再掲） 司法・犯罪心理学（再掲） 学習・言語心理学（再掲） 神経・生理心理学（再掲） 心理療法	福祉キャリア研究	書写演習 法学 社会学（再掲） 英会話Ⅱ 中国語会話Ⅱ		
心理学概論（再掲） 発達心理学（再掲） 臨床心理学概論（再掲）	国際理解演習 アカデミック・スキル演習	本学の教育 文章表現 情報機器操作Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 生活教養Ⅰ 地域ボランティア活動 地域振興活動 音楽演習 美術演習	心理学概論（再掲） 食生活と健康 英会話Ⅰ 中国語会話Ⅰ 国際理解論 スマートフォン活用法 スマートフォンのモラルとリスク 体育実技	

平成31年度福祉学部福祉心理学科 教育課程

- ① 「科目区分」欄の「P」は心理系科目、「W」は福祉系科目です。
- ② 「授業期間」欄の「集中」は集中講義の意味です。
- ③ 備考欄の「備考A」については、入学時にテストによりⅠ、Ⅱのクラス分けを実施します。
Ⅰの履修者はⅡを、Ⅱの履修者はⅢを続けて履修してください。教室規模により、1クラス35名程度で実施します。
- ④ 備考欄の「備考B」について、1年次に選択語学を1種類選択します。同一言語のⅠ・Ⅱを、2年間で2科目履修することを基本としています。
- ⑤ 評価欄における「認定」の意味は、合・否判定をもって成績とするものであり、評点は付かないのでGPAには反映されません。
- ⑥ 「精神保健福祉士」「社会福祉士」欄の「○」は必修科目ですので、必ず履修しなければなりません。「A1」と「A」（Aは本学では必修科目です）のついた3科目の中から1科目以上、「A2」のついた3科目の中から1科目以上履修しなければなりません。しかし、国家試験ではこれら6科目全てについて試験が実施されますので、全て履修することが望まれます。
- ⑦ 「公認心理師」を目指す場合は、「必要な科目」欄に「○」のついたすべての科目（27科目）の履修が必要です。
- ⑧ 「認定心理士」指定科目欄の基礎A～C、選択D～Gは、資格取得のために定められた科目の領域を表しています。

詳細は、キャンパスライフの各資格の取得に関する説明を参照してください。

福島学院大学

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業			社会福祉士	精神保健福祉士	認定心理士	公認心理師	授業期間		実習時間数(日数)	回数	評価	備考
				必修	選択必修	選択	指定科目	指定科目	指定科目	必要な科目	通年	半期				
教育方針	本学の教育	講義	1	1								○		8		
表現力向上分野	文章表現	講義/演習	1	4								○		30		文字・成語・小論文を含む
	書写演習	演習	2			1						○		15		指定者必修
	会話演習	演習	2	2									○	15		対話及びプレゼンテーションを含む
情報教養分野	情報機器操作Ⅰ	演習	1	選択必修 2単位以上	1								○	15		備考A
	情報機器操作Ⅱ	演習	1		1								○	15		
	情報機器操作Ⅲ	演習	1		1								○	15		
	スマートフォン活用法	演習	1			1							○	8		
	スマートフォンのモラルとリスク	演習	1			1							○	8		
	ウェブ動画制作	演習	2			1							○	15		
人間関係分野	生活教養Ⅰ	講義/演習	1	2									○	15		
	生活教養Ⅱ	講義/演習	3			2							○	15		
	現代人間関係論	講義	2			2							○	15		
	地域ボランティア活動	実習	1・2・3・4	選択必修 1単位以上	1							時間割外	45時間		認定	※事前事後指導10時間を含む
	地域振興活動	実習	1・2・3・4		1							時間割外	45時間		認定	※事前事後指導10時間を含む
人文社会及び健康分野	音楽演習	演習	1・2			2							○		30	
	美術演習	演習	1			2							○		30	教室規模により24名までとする。
	心理学概論	講義	1	4			A	A	基礎A	○	○			30		
	法学	講義	2			2							○	15		
	社会学	講義	2			2	A1	A1					○	15		
	癒しと心	講義	1			2							○	15		
	職場とストレス	講義	1			2							○	15		
	食生活と健康	講義	1			2							○	15		
国際理解分野	英会話Ⅰ	演習	1	選択必修 2科目4単位以上	2								○		30	備考B
	英会話Ⅱ	演習	2		2								○		30	
	中国語会話Ⅰ	演習	1		2								○		30	
	中国語会話Ⅱ	演習	2		2								○		30	
	国際理解論	講義	1	2									○	15		
	国際理解演習	演習	1・2・3・4			2						時間割外		15	認定	
体育分野	体育実技	実技	1	1									○		20	

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業			社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	公認心理師 必要な科目	授業期間		実習 時間数 (日数)	回数	評価	備考	
				必修	選択必修	選択					通年	半期					
専門基礎科目(P系およびV系科目)	福祉心理学Ⅰ	P	講義	1	2					○		○		15			
	福祉心理学Ⅱ	P	講義	3	2				選択G	○		○		15			
	福祉キャリア研究	W	演習	2	2							○		15	認定	クラスセミナーとの隔週開講	
	アカデミック・スキル演習	P	演習	1	1							○		15		クラスセミナーとの隔週開講	
	人体の構造と機能及び疾病	W	講義	1			4	A1	A1		○	○		30			
	精神疾患とその治療	W	講義	1	4				◎		○	○		30			
専門教育科目(必修21単位を含め98単位以上履修)	心理関連科目(P系科目)	発達心理学	P	講義	1	2				選択F	○		○	15			
		臨床心理学概論	P	講義	1			2			基礎A	○		○	15		
		心理学研究法	P	演習	2			2			基礎B	○	○		30		
		感情・人格心理学	P	講義	2			2			基礎A	○		○	15		
		知覚・認知心理学	P	講義	2			2			選択D	○		○	15		
		教育・学校心理学	P	講義	3			2			選択F	○		○	15		
		発達臨床心理学	P	講義	3			2			選択F			○	15		
		産業・組織心理学	P	講義	3			2			選択H	○		○	15		
		心理的アセスメントⅠ	P	演習	3			1			基礎C	○		○	15		
		心理的アセスメントⅡ	P	演習	3			1			基礎C	○		○	15		
		心理学統計法	P	講義	3			2			基礎B	○		○	15		
		心理学的支援法	P	講義	2			2				○		○	15		
		心理演習	P	演習	3			1			基礎C	○		○	15		
		心理学実験	P	実習	2			2			基礎C	○	○		60時間	30	
		社会・集団・家族心理学	P	講義	2			2			選択H	○		○	15		
		障害者・障害児心理学	P	講義	2			2			選択G	○		○	15		
		司法・犯罪心理学	P	講義	2			2			選択G	○		○	15		
		犯罪行動と心理演習	P	演習	3			2						○	30		
		心理療法	P	講義	2			2			選択G			○	15		
		公認心理師の職責	P	講義	3			2				○		○	15		
		学習・言語心理学	P	講義	2			2			選択D	○		○	15		
神経・生理心理学	P	講義	2			2			選択E	○		○	15				
健康・医療心理学	P	講義	3			2			選択G	○		○	15				
関係行政論	P	講義	3			2				○			15				
心理実習	P	実習	4			2				○		時間割外	80時間以上				
社会福祉・精神保健福祉関連科目(W系科目)	社会福祉原論	W	講義	2	4			◎	◎			○		30			
	医療福祉論	W	講義	3			2					○		15			
	社会調査法	W	講義	3			2		◎			○		15			
	相談援助の基盤と専門	W	講義	1			4		◎			○		30			
	社会福祉援助技術論Ⅰ	W	講義	2			4		◎			○		30			
	社会福祉援助技術論Ⅱ	W	講義	3			4		◎			○		30			
	地域福祉論	W	講義	2			2		◎	◎			○	15			
	コミュニティーソーシャルワーク	W	講義	2			2		◎	◎			○	15			
	福祉行政と福祉計画	W	講義	3			2		◎	◎			○	15			
	社会福祉運営管理	W	講義	3			2		◎				○	15			
	社会保障	W	講義	2			4		◎	◎			○	30			
	高齢者に対する支援と介護保険制度	W	講義	1			4		◎				○	30			

授業科目	科目区分	授業形態	標準履修年次	卒業			社会福祉士 指定科目	精神保健福祉士 指定科目	認定心理士 指定科目	公認心理師 必要な科目	授業期間		実習 時間数 (日数)	回数	評価	備考
				必修	選択必修	選択					通年	半期				
専門教育科目 (必修21単位を含め98単位以上履修) 社会福祉・精神保健福祉関連科目(W系科目)	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	W	講義	2			2	○	○			○		15		
	児童・家庭福祉	W	講義	2			4	○				○		30		
	低所得者に対する支援と生活保護制度	W	講義	3			2	○	○			○		15		
	保健医療サービス	W	講義	3			2	○	○			○		15		
	就労支援	W	講義	3			1	A2				8コマ		8		
	権利擁護と成年後見制度	W	講義	3			2	A2	○			○		15		
	更生保護制度	W	講義	3			1	A2				8コマ		8		
	相談援助演習Ⅰ	W	演習	2			1	○				○		15		
	相談援助演習Ⅱ	W	演習	3			2	○				○		30		
	相談援助演習Ⅲ	W	演習	4			2	○				○		30		
	相談援助実習指導	W	演習	3・4			3	○				○		45		
	相談援助実習	W	実習	3・4			4	○				時間割外	180時間以上			
	精神保健学	W	講義	1			4		○			○		30		
	精神保健福祉に関する制度とサービス	W	講義	2			4		○			○		30		
	精神障害者の生活支援システム	W	講義	2			2		○			○		15		
	精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	W	講義	2			2		○			○		15		
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	W	講義	2			2		○			○		15		
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	W	講義	3			4		○			○		30		
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	W	講義	3			4		○			○		30		
	精神保健福祉相談援助演習(基礎)	W	演習	3			1		○			○		15		
	精神保健福祉相談援助演習(専門)	W	演習	4			2		○			○		30		
精神保健福祉相談援助実習指導	W	演習	4			3		○			○		45			
精神保健福祉相談援助実習	W	実習	4			5		○			時間割外	210時間以上				
福祉住環境演習	W	演習	3			2					○		30			
共通専門科目	ゼミナール	一	演習	3,4	4						○		60		2年連続4単位	

卒業に必要な単位数

教養教育科目	26単位以上	必修	16単位		合計 124単位以上
		選択必修	7単位		
		選択	3単位以上		
専門教育科目	98単位以上	必修	心理系(P系)	7単位	
			福祉系(W系)	10単位	
			ゼミナール	4単位	
選択	77単位以上 (うちP系科目23単位以上、W系科目20単位以上を含む)				

平成31年度 福祉学部福祉心理学科授業計画 目次

平成31年度 福祉学部福祉心理学科 授業計画のみかた	27
成績評価への補足的対応措置	29
他大学・短期大学に開放する科目	30

教養教育科目

本学の教育	桜田 葉子	31
文章表現	佐藤 晴雄	33
文章演習	佐藤 晴雄	37
情報機器操作Ⅰ	桑木 道子	39
情報機器操作Ⅱ(後期科目)	桑木 道子	42
情報機器操作Ⅱ(前期科目)	桑木 道子	45
情報機器操作Ⅲ	桑木 道子	48
情報機器操作Ⅰ(旧カリ)	桑木 道子	51
情報機器操作Ⅱ(旧カリ)	桑木 道子	55
スマートフォン活用法	桑木 道子	59
スマートフォンのモラルとリスク	桑木 道子	61
生活教養Ⅰ	小松 由美	63
生活教養(旧カリ)	小松 由美	65
生活教養Ⅱ	渡辺 雅子	67
地域ボランティア活動	日下 輝美	71
地域振興活動	日下 輝美	73
音楽演習	山崎 信政	75
美術演習	古畑 雅規	78
心理学概論	岸 良範	81
心理学(旧カリ)	岸 良範	84
法学	中里 真	87
社会学	牧田 実	89
癒しと心	梅宮れいか	91
食生活と健康	中村 啓子	94
英会話Ⅰ	サインバン・オドバヤル	97
英会話Ⅱ	オカンポ・メリッサ・ブラザ	98
国際理解論	坂本 恒夫	103
国際理解演習(シンガポール)	中丸 一志	106
国際理解演習(バリ島)	佐藤 敦子	108
体育実技(トレッキング&ウォーキング)	杉浦 広幸	111
体育実技(ジャズダンス)	佐藤 香	113
体育実技(バスケットボール)	入澤 裕樹	116
体育実技(バレーボール)	島田 貴広	119
体育実技(卓球)	入澤 裕樹	122
体育実技(ボディ・コンディショニング)	島田 貴広	125

専門教育科目

福祉心理学Ⅰ	星野 仁彦	128
福祉心理学(3年次以上)	茂木 積雄/藤原 正子	130
福祉キャリア研究	茂木 積雄/日下 輝美	133
アカデミック・スキル演習	遠藤 寿海	136
人体の構造と機能及び疾病	茂木 積雄	138
精神疾患とその治療	星野 仁彦	142
精神医学(旧カリ)	星野 仁彦	145
発達心理学	渡邊 勉	148
発達心理学(旧カリ)	渡邊 勉	150
臨床心理学概論	渡邊 勉	153
心理学研究法	阿部 恒之	155
感情・人格心理学	田辺 稔	158
人格心理学	田辺 稔	161
知覚・認知心理学	和田 裕一	165
認知心理学	和田 裕一	167
こどもの心理	杉山 雅彦	170

青年の心理	八木 孝憲	172
職場の心理	渡部 敦子	174
心理診断法実習	木村 泰博	176
心理統計学	和田 裕一	179
心理学的支援法	杉山 雅彦	181
カウンセリング概論	杉山 雅彦	183
カウンセリング演習	杉山 雅彦	186
心理学実験	渡邊 宏周	189
社会・集団・家族心理学	渡部 敦子	192
社会心理学	渡部 敦子	194
障害者・障害児心理学	渡邊 宏周	197
障害児・者への心理援助	渡邊 宏周	199
司法・犯罪心理学	生島 浩	201
心理療法	星野 仁彦	204
学習・言語心理学	田辺 稔	206
神経・生理心理学	角田 裕	209
社会福祉原論	齊藤 隆之	211
医療福祉論	本田ルミ子	214
社会調査法	齊藤 隆之	216
相談援助の基盤と専門職	齊藤 隆之	218
社会福祉援助技術論Ⅰ	齊藤 隆之	221
社会福祉援助技術論Ⅱ	齊藤 隆之	224
地域福祉論	日下 輝美	227
コミュニティーソーシャルワーク	日下 輝美	230
福祉行財政と福祉計画	日下 輝美	233
社会福祉運営管理	遠藤 寿海	236
社会保障	遠藤 寿海	239
高齢者に対する支援と介護保険制度	遠藤 寿海	243
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	齊藤 隆之	247
児童・家庭福祉	安部 郁子	250
低所得者に対する支援と生活保護制度	日下 輝美	254
保健医療サービス	本田ルミ子	257
就労支援	北本明日香	259
権利擁護と成年後見制度	中里 真	261
更生保護制度	北本明日香	263
相談援助演習Ⅰ	齊藤 隆之	265
相談援助演習Ⅱ	遠藤 寿海	267
相談援助演習Ⅲ	遠藤 寿海	271
相談援助実習指導	遠藤 寿海	275
相談援助実習	遠藤 寿海	280
精神保健学	星野 仁彦	282
精神保健福祉に関する制度とサービス	北本明日香	285
精神障害者の生活支援システム	藤原 正子	289
精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	藤原 正子	291
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	北本明日香	293
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	北本明日香	296
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	藤原 正子	300
精神保健福祉援助実習指導	藤原 正子／北本明日香	304
精神保健福祉援助実習	藤原 正子／北本明日香	312
福祉住環境演習	中丸 一志	316
特別研究Ⅰ（地域の福祉）	日下 輝美	319
特別研究Ⅰ（こころの健康と精神障がい者の地域生活支援）	藤原 正子	322
特別研究Ⅰ（臨床心理学研究法）	木村 泰博	325
特別研究Ⅰ（臨床心理学研究法）	岸 良範	327
特別研究Ⅰ（臨床心理学研究法）	渡邊 勉	330
特別研究Ⅱ（地域の福祉）	日下 輝美	332
特別研究Ⅱ（こころの健康と精神障がい者の地域生活支援）	藤原 正子	335
特別研究Ⅱ（臨床心理学研究）	木村 泰博	338
特別研究Ⅱ（臨床心理学研究）	岸 良範	340
特別研究Ⅱ（臨床心理学研究）	渡邊 勉	342

シラバス 平成31年度 福祉学部福祉心理学科 授業計画のみかた

この授業計画は、福祉心理学科で学ぶ全学生のために作成されています。構成は教育課程表と各授業の内容とになっています。まずは教育課程表にきちんと目を通し、とらなければならない「必修」科目を確認しましょう。次に興味をかき立てられる授業を探します。どのような授業が開かれ、どのような内容で勉強するのかを知るために、この授業計画を使います。

*注意 教育課程表は「入学年度別」に3種類あります。まずは自分の入学年度を確認してください。

福祉学部 福祉心理学科 授業計画 2019年度

授業科目名	①	授業形態・単位数	②	・ 単位
		開講年次	③	年次
担当教員	職名：	開講期	④	
	氏名：	授業回数	⑤	回
	(本務先： 職名：)	期末試験の有無	⑥	
卒業・資格・免許 ⑦		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
開講キャンパス	⑧	授業時間以外の必要な学修時間	⑨	
オフィスアワー・メールアドレス等	⑩			

授業の概要	授業の概要及び到達目標との対応項目 ⑫
⑪	
授業の到達目標 ⑬	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
	目標 ⑭

- ① 「科目名」 教育課程表に基づく科目の名称です。
- ② 「授業形態・単位数」 「講義」「演習」「実習」「実技」があります。取得できる単位数が記入されています。
- ③ 「開講年次」 教育課程表の標準履修年次が書かれています。
- ④ 「開講期」 「前期」「後期」「通年」「集中」「時間割外」があります。
- ⑤ 「授業回数」
- ⑥ 「期末試験の有無」
- ⑦ 「卒業要件資格指定科目」
 - 卒業：卒業に「必修」か「選択必修」かが記載されています。
 - 資格：資格取得のための指定内容が書かれています。目指す資格を取得するために、その科目が「必修」なのか、「選択必修」なのかをきちんと確認の上、履修するようにしてください。
- ⑧ 「開講キャンパス」 授業は基本的に、福島駅前キャンパスにて開講されますが、一部宮代キャンパス開講のものがあります。
- ⑨ 「授業時間以外の必要な学修時間」
- ⑩ 「オフィスアワー・メールアドレス等」 授業時間外の学生からの質問受け付け方法等が書かれています。
- ⑪ 「授業の概要」 授業で取り上げる内容のあらましや考え方が記されています。
- ⑫ 「授業の概要及び到達目標との対応項目」 授業の概要に対応して本科目を受講することによりどのような知識や理解に結びつのか、A～Lに該当する項目に○がついています。
- ⑬ 「授業の到達目標」 この授業を受けることでどのような力が身につくのか、授業の具体的な到達目標が書かれています。
- ⑭ 「授業の概要・到達目標との対応項目」 受講することによりどのような力が得られるのか到達目標A～Lの対応項目が示されています。

A	知識	内容について知ること、理解すること
B	技術・技能	物事を巧みに（能率的に）行うわざ、それを巧みに（見事に）してのけることができる
C	論理的思考力	理路整然とした論理構成で話すこと、書くことができる力
D	文章表現力	まとまった考え・感情を洗練された文章や言葉選びで豊かに表現することができる力
E	表情及び身体表現力	自分の内面から出る豊かな表情と動作で表すことができる力
F	感性及び感動表現力	与えられた情報を様々な角度から捉え、自分の心で深く考え、心で感じて表すことができる力
G	協働能力	主体性を持って多様な人々と関わり、協働することができる力
H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	真実、誠意ある心、純粋に親切な心から現し出すことができる力、夢の実現に向かって努力することができる力
I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	進んで発言し、発言によって誰かに何かを伝え、納得させる力
J	多様性への理解力、応用力	色々なことを考えながら、知識を生かし、実際的な事柄にあてはめて利用することができる力
K	課題対処力	与えられる主題や解決しなければならない問題に対し、適切な対応・処置をとることができる力
L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	人間関係を円滑にし、構築できる力、人との対話ができる力

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
⑮	⑯	⑰	⑱

内容の欄には、⑮各回に、⑯どんな内容を、⑰どのような方法で授業が実施されるかが明示されています。その授業を的確に理解するための予習復習や授業時間以外での学修が⑱に記載されています。

なお、授業計画については、授業の進度などによって多少の変更や回の入替えが生じる場合があります。

到達の評価 評価をする観点とその比重が明示されています。
詳しくは次頁の「成績評価への補足的対応措置」を確認してください。

教科書 授業の指定教科書が明示されています。指定の販売日に必ず購入してください。

参考書 授業をよりよく、そしてより深く理解するために、是非読んでほしい文献や、手引き書などが書かれています。購入の義務はありませんが、勉強する上で参考にする価値がある文献です。

その他の補足事項 履修する上で必要なことが記載されています。

成績評価への補足的対応措置

成績評価において、遅刻、早退、欠席、および授業中の態度等に関わる減点については、次の事項をご参照ください。

1. 授業内容に関係のない私語、もしくは授業の流れを阻害する学生の私語

注意学生1回につき1点減点、同一学生の注意が3回以降は1回につき2点減点とする。ただし、必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置をとるものとする。

2. 遅刻・早退・欠席

遅刻・早退1回につき1点減点、欠席1回につき3点減点とする。

ただし、遅刻・早退3回で1回の欠席とされた者の場合は、その欠席とした分については減点しない。

ただし、次の場合の遅刻または欠席は減点の対象とはしない。なお、該当学生は該当項について「事由書」を文書（書式自由）で、事前に判明した場合は事前に、当該授業後の場合は事後に各授業担当教員に提出するものとする。

- ① 学内外における本学所定の実習に参加する場合
- ② 学校保健安全法の規定に基づく学長による出席停止の指示に従う場合
- ③ 裁判員制度による裁判員に選任された場合
- ④ 就職試験や面接を受験する場合
- ⑤ 公共交通機関の遅延や運休による場合
- ⑥ 悪天候または事故等によりやむを得ない場合
- ⑦ 親族の不幸等やむを得ない場合

3. 欠格

定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、前号①から⑦までの場合を含めて欠格とし、期末試験への出席を認めず、単位認定は行わないものとする。

4. 質問応答

指名応答

指名した学生が質問に適切に応答したと認めるとき、その内容の評価に応じ1回につき1～2点加点とする。質問に不適切な応答をしたと認めるとき、または質問に答えられなかったとき、1回につき1点減点とする。

自発的応答

教員の質問に対して自ら挙手するなど学生が自発的に適切に応答したと教員が認めるとき、その内容の評価に応じ1回につき1～3点加点とする。また、学生の自発性および授業の双方向性推進の措置として、全授業回数中、教員の質問に対し学生が自発的応答を1回もしなかったとき、5点減点とする。

5. 小論文（宿題）

未提出の小論文1件につき2点減点とする。また、教員が小論文を優良と評価したとき、小論文1件につき内容の優良さに応じ1～3点加点とする。

6. 小テスト

授業の理解度を計る小テストについて教員が優良と認めた場合は、小テスト1件につき評価により1～3点加点とする。

7. 期末試験としてのレポート提出を課す場合

レポートは原則として試験期間開始前に提出させるものとし、教員が指定する締め切り期限を過ぎた場合は期限後1日（土曜、日曜、祝日を含む）あたり2点減点とし、また、提出がない場合のレポート評価は零点とする。教員が定めた場合の最低字数に不足する場合も適宜減点するものとする。字数の上限を定めた場合で、それを超えた場合も同様とする。

平成31年度 福島学院大学が他大学・短期大学に開放する科目

学科名	区分	科目名	授業形態	単位	開講時期	履修年次
福祉学部 福祉心理学科	教養 教育科目	心理学概論	講義	4	通年	1
		法学	講義	2	前期	2
		社会学	講義	2	後期	2
		食生活と健康	講義	2	前期	1
		国際理解論	講義	2	前期	1
	専門 教育科目	福祉心理学Ⅰ	講義	2	後期	1
		発達心理学	講義	2	前期	1
		臨床心理学概論	講義	2	後期	1
		社会福祉原論	講義	4	通年	2
		人体の構造と機能及び疾病	講義	4	通年	1
		精神疾患とその治療	講義	4	通年	1
		感情・人格心理学	講義	2	前期	2
		知覚・認知心理学	講義	2	前期	2
		青年の心理	講義	2	前期	3・4
		心理統計学	講義	2	前期	3・4
		心理学的支援法	講義	2	前期	2
		社会・集団・家族心理学	講義	2	前期	2
		心理療法	講義	2	前期	2
		医療福祉論	講義	2	後期	3
		社会調査法	講義	2	前期	3
		相談援助の基盤と専門職	講義	4	通年	1
		社会福祉援助技術論Ⅰ	講義	4	通年	2
		社会福祉援助技術論Ⅱ	講義	4	通年	4
		地域福祉論	講義	2	前期	2
		コミュニティソーシャルワーク	講義	2	後期	2
		福祉行財政と福祉計画	講義	2	前期	3・4
		社会福祉運営管理	講義	2	後期	3・4
		社会保障	講義	4	通年	2
		高齢者に対する支援と介護保険制度	講義	4	通年	1
		障害者に対する支援障害者自立支援制度	講義	2	前期	2
		児童・家庭福祉	講義	4	通年	2
		低所得者に対する支援と生活保護制度	講義	2	後期	3・4
		保健医療サービス	講義	2	前期	3・4
		就労支援	講義	1	後期	3・4
権利擁護と成年後見制度	講義	2	後期	3・4		
精神保健学	講義	4	通年	1		
精神保健福祉に関する制度とサービス	講義	4	通年	2		
精神障害者の生活支援システム	講義	2	前期	2		
精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	講義	2	前期	2		
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	講義	2	後期	2		
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	講義	4	通年	3・4		
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	講義	4	通年	3・4		

授 業 科 目 名	本 学 の 教 育		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 1 単 位
			開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：桜 田 葉 子		開 講 期	前 期
			授 業 回 数	8 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	福島県議会議員・平成15年～平成29年			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	聖光学院理事、福島県高等理容美容学院顧問、福島県薬剤師連盟特別顧問、福島県理容生活衛生同業組合顧問			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	国立音楽大学声楽学科卒業 (芸術学士)			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	教 養 教 育 科 目	必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	宮 代 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	30 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	授業終了後に教室で質問等に対応。 オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
建学の精神「真心こそすべてのすべて」の理念と本学の教育が目指す姿を学ぶことによって、感性豊かな心を育み、大学生活の充実につなげる。	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	○ D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	○ F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	○ H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)
本学の建学の精神や教育理念及び本学の教育について理解する。	目 標	D・F・H

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	開講にあたって オリエンテーション (授業の進め方、評価方法等) ① 大学とは何か ② 本学の建学の精神と育成しようとする人間像 ③ まごころの実践	「本学の教育」 パワーポイント及び映像 利用 ※スーツ着用指定	「本学の教育」の「建学の精神」「教育の理念」を読んでおく。
2	本学の教育(1) ～魅力ある授業を目指して～ ① アクティブラーニング授業の実施 ② 学生受講規程の説明と学生の授業改善意見 ③ シラバスと成績評価の方法 ④ 本学のGPAとその活用 (進級・留年・卒業判定への活用及び学生の表彰制度) ⑤ 本学の文章表現及び会話表現教育	「本学の教育」 ※スーツ着用指定	「本学の教育」の諸規程集の「学則」「履修規程」「学生受講規程」を読んでおく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	校歌の練習 第一校歌と第二校歌	校歌歌詞映像利用 「本学の教育」	「本学の教育」の「校歌」のページを読み、歌詞を事前に見ておく。CDを聴き、自分で校歌を口ずさみ予習しておく。
4	本学の教育(2) あいさつ ～まごころの始まり～ ① 大学生らしい振る舞い、エチケット・マナー ② 学生らしい服装(学友会有志をモデルに) ③ 学習スタイルの構築 ④ 学生のボランティア活動、社会貢献活動	「本学の教育」	レポートの構想を練る。
5	本学の教育(3) 大学での生活	「本学の教育」	「学生生活ガイドブック」の「大学での生活」の部分を復習する。
6	先輩からのアドバイス 卒業生のアドバイス	卒業生の話(ビデオレターを含む)	レポート作成を始める。(レポート提出は6月7日まで)
7	第一校歌を斉唱 教員からのアドバイス	資料配付 ※スーツ着用指定	
8	第二校歌を斉唱 レポート発表 ① 学生のプレゼンテーション ② レポート総評	※スーツ着用指定	
期末試験	なし(レポート提出)		
期末試験の講評			
レポートの評価は、コメントを付して返却します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標D・F・H: レポート(1,000字以上1,200字以内) 次のいずれかのテーマで作成し、6月7日(金)13:00までに教務課(駅前キャンパスは5階事務室)へ所定様式にて提出のこと。なお、誤字・脱字の多いもの、文章不整なもの及び内容や趣旨が不十分なものは、再提出を求めます。また期日に遅れた場合は、100点満点から1日につき2点の減点とします。</p> <p><レポートのテーマ> 2つのうちのいずれかを選択 ① 私の夢 ② 私のキャリアデザイン</p>			
教科書			
「本学の教育」「学生生活ガイドブック」 ※入学時配付されたものを使用します。また、必要に応じて資料を配付します。			
その他補足事項			
<p>授業はカーサ・フローラ千葉記念ホールで行い、出欠確認をスムーズに行うため座席指定とします。 授業8回の3分の1を超える回数を欠席した場合は欠格となります。遅刻・早退は3回で1回の欠席となります。2コマ連続授業ですので注意してください。</p>			

授業科目名	文章表現		授業形態・単位数	講義・演習・4単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：佐藤晴雄		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島民報社論説委員（平成7年4月～平成27年3月、このうち平成19年6月～平成21年3月論説委員長）。編集局長、編集主幹も歴任			
社会貢献としての委員会・職等	中山義秀文学賞第1次・第2次選考委員（平成20年～平成26年）			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東北大学文学部卒業 文学士 日本マス・コミュニケーション学会、日本ビジネス実務学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは初回授業時に説明します。 メールアドレス：sato.haruo fukushima-college.ac.jp			

授業の概要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>社会人として求められる文章作成の基本を身に付けるための講義と演習を展開します。</p> <p>前期は、プリントを使ったトレーニング、日本語検定受検対策、日本語検定模擬試験、小論文を通して文章作成の基本を身に付けます。</p> <p>日本語検定は、日本語の総合的な運用能力を見る試験です。この授業では、3級（高校卒業レベル）に合格した後、2級（大学卒業レベル）合格を目指します。</p> <p>後期は、実際に広報紙を作ります。テーマを提示しますから、グループで取材、記事作成、割り付けを実践し、人に伝えるための文章力を身に付けてください。授業外で取材することもあります。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	○ C	論理的思考力
	○ D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
① 社会人として通用する文章表現力を習得します。	目標	C・D
② グループ活動によって、問題設定から取材、執筆、割り付けまで一連の作業を通して、文章力を磨き上げます。	目標	C・D・I
③ 日本語検定を受検し、3級に合格した後、2級合格を目指します。	目標	C・D

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	<p>オリエンテーション</p> <p>(1) 授業の概要と目標</p> <p>(2) 評価方法</p> <p>(3) 日本語検定試験（19回目まで毎回、授業の終わりに問題を配付します。自宅で予習として、その問題を解いてもらい、次回授業の冒頭に答え合わせと解説をします）</p> <p>(4) 日本語検定（3級）の過去問題を実際に解いてみる。</p> <p>(5) 教科書予習の解説</p>	<p>授業計画</p> <p>ワークシートに平仮名、片仮名を書き提出する。</p>	<p>日本語検定問題を解く。</p> <p>教科書予習（12P～22P）</p>

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	文章表現力(1) 文は短く書く (10回目まで毎回、不適切な表現を記入したプリントを配付します。直して解答してもらった後、解説します)	ワークシートを返却。 日本語検定問題を解答。 プリントの文章を直す。 教科書	平仮名、片仮名の正しい書き方を復習。 日本語検定問題を解く。 教科書予習 (24P～42P)
3	文章表現力(2) 主語と述語、能動と受動	日本語検定問題を解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (43P～69P)
4	文章表現力(3) 「に」「を」を正しく	日本語検定問題を解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (70P～83P)
5	文章表現力(4) 話し言葉を避ける	日本語検定問題を解答。 プリントの文章を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習 (86P～107P)
6	文章表現力(5) 分かりやすく書く	日本語検定問題を解答。 プリントの文書を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習(108P～124P)
7	日本語検定の模擬試験 (60分) 文章表現力(6) 「これ」「それ」に注意	日本語検定問題を解答。 プリントの文書を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習(125P～136P)
8	文章表現力(7) 「ことで」でつながない	日本語検定問題を解答。 プリントの文書を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 教科書予習(138P～156P)
9	文章表現力(8) 簡潔に書く	日本語検定模擬試験の返却と解説。 日本語検定問題を解答。 プリントの文書を直す。 教科書	日本語検定の返却模擬試験を復習。 日本語検定問題を解く。 教科書予習(157P～206P)
10	文章表現力(9) 余分な「つなぎ語」は削る、句読点、かっこの正しい使い方	日本語検定問題を解答。 プリントの文書を直す。 教科書	日本語検定問題を解く。 新聞を読む。
11	日本語検定過去問題 トレーニング1 日本語検定3級、または2級合格を目指した個人指導をします。	予習と連動した個人指導。 苦手なところを解説して指導する。	日本語検定3級受験の結果分析表に基づき、苦手な部分を克服する。
12	日本語検定過去問題 トレーニング2 日本語検定3級、または2級合格を目指した個人指導をします。	予習と連動した個人指導。 苦手なところを解説して指導する。	日本語検定3級受験の結果分析表に基づき、苦手な部分を克服する。
13	日本語検定過去問題 トレーニング3 日本語検定3級、または2級合格を目指した個人指導をします。	予習と連動した個人指導。 苦手なところを解説して指導する。	日本語検定3級受験の結果分析表に基づき、苦手な部分を克服する。
14	広報紙作りの基本(1) (新聞を活用しながら、広報作りの基本となる作業を解説します。自宅などで新聞や広報紙などに目を通して理解を深めてもらいます) グループ分け テーマ一覧から問題設定へ	日本語検定問題を解答。 新聞	日本語検定問題を解く。 新聞を読む。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	広報紙作りの基本(2) テーマの設定、取材の仕方、写真の効果的な利用、夏の取材計画	日本語検定問題を解答。 新聞 夏休み時の取材計画の策定など	日本語検定問題を解く。 新聞を読む。
期末試験	小論文 (600~800字)		
16	広報紙作りの具体化(1) 作業過程の理解、割り付けソフト「パーソナル編集長」の使い方 *ゲストスピーカー 梅宮れいか教授	小論文の返却。 日本語検定問題を解答。 新聞 グループワーク	返却小論文を復習。 日本語検定問題を解く。 新聞を読む。
17	広報紙作りの具体化(2) 広報紙は、署名記事で作ります。 各自が署名記事を執筆し、それを割り付けて紙面とします。17回から28回までに3回の発行を目指してください。発行回数に応じて、そのグループの加点とします。優秀な記事には、別に加点します。	日本語検定問題を解答。 新聞 グループワーク	日本語検定問題を解く。 新聞を読む。
18	広報紙作りの具体化(3)	日本語検定問題を解答。 新聞 グループワーク	日本語検定問題を解く。 新聞を読む。 記事の執筆。
19	広報紙作りの具体化(4)	日本語検定問題を解答。 新聞 グループワーク	日本語検定問題を解く。 新聞を読む。 記事の執筆。
20	広報紙作りの具体化(5)	日本語検定問題を解答。 新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。
21	広報紙作りの具体化(6)	新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。
22	広報紙作りの具体化(7)	新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。
23	広報紙作りの具体化(8)	新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。
24	広報紙作りの具体化(9)	新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。
25	広報紙作りの具体化(10)	新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。
26	広報紙作りの具体化(11)	新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。
27	広報紙作りの具体化(12)	新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆
28	広報紙作りの具体化(13)	新聞 グループワーク	新聞を読む。 記事の執筆。
29	広報紙作り発表会の準備 感想発表や反省の準備	新聞 グループワーク	新聞を読む。 発表会の準備。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
30	広報紙作り発表会 感想発表や反省 *ゲスト 学内評価協力者	発表会 講評	広報紙作りを総括。
期末試験	小論文(600~800字、広報紙作りを振り返り、まとめる)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーなどを通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
目標①：授業中の返答(10点)、授業中の日本語試験(15点)、前期小論文(15点)、後期小論文(15点) 55点満点 目標②：グループ活動による広報紙作り(1回10点)、特に優れた記事(1回15点) 目標③：日本語検定の合格級に応じて点数を加算 加算内容(準3級5点、3級8点、準2級20点、2級30点) 30点満点 以上を合計して100点を上回る場合は、一律100点として評価します。 詳しくは初回授業時に説明します。			
教科書		参考書	
書名：文章力の基本 著者名：阿部紘久 発行所：日本実業出版社 価格：1,300円(税別) 書名：日本語検定公式練習問題集3訂版3級 著者名：日本語検定委員会 発行所：東京書籍 価格：900円(税別)		書名：日本語検定公式練習問題集3訂版2級 著者名：日本語検定委員会 発行所：東京書籍 価格：1,000円(税別) 各自購入	
その他補足事項			
前期・後期の小論文は、内容と正しい表現の両面から評価します。 記事の優秀者加算は、授業担当者と学内評価協力者2人の合計点(5点×3=15点)で構成します。 癖のある読みにくい字を書くため矯正が必要な学生は、次年度に「書写演習」を受講して単位を取得しなければなりません。さまざまな提出物を精査して受講者を指定します。 日本語検定の受検料は、大学が1回目を負担します。2回目は、合格者に受検料と同じ額を支給します。日本語検定の受検日は、1回目6月8日(土)、2回目11月9日(土)です。授業の開講キャンパスでの実施です。病気・けが、家族の事情など、やむを得ない事情で2回とも受検できなかった場合は、追試(本学独自)で加算採点をします。			

授業科目名	文章演習		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員	職名：兼任教授 氏名：佐藤晴雄		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島民報社論説委員（平成7年4月～平成27年3月。このうち平成19年6月～平成21年3月は論説委員長）。編集局長、編集主幹も歴任。			
社会貢献としての委員会・職等	中山義秀文学賞第1次・第2次選考委員（平成20年～平成26年）			
最終卒業（修了）学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東北大学文学部卒業 文学士 日本マス・コミュニケーション学会、日本ビジネス実務学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	指定者必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは初回事業時に説明します。 メールアドレス：sato.haruo fukushima-college.ac.jp			

授業の概要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
社会人として必要とされる、論理的で分かりやすい文章を書く能力を高めるため、文章力の基本を身に付けます。良い文例を学びながら、悪い文例を修正して、簡潔で分かりやすい文章づくりを習得します。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	
小論文を含む学術的な文章のほか、ビジネス文書、報告書などの実用的な文章にも対応できる文章力を身に付けます。		目標 A・C・D

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標を説明します。 1回目の授業から毎回、不適切な表現の文例を記入したプリントを配付します。直して解答してもらったあと、解説します。	授業計画 プリント記述	プリント復習 教科書予習 (12P～22P)
2	短く書く	プリント記述 教科書	プリント復習 小論文①作成 教科書予習 (24P～42P)
3	主語と述語 能動と受動	小論文①提出 プリント記述 教科書	プリント復習 教科書予習 (43P～69P)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	「に」「を」を正しく使う	小論文①返却・個別指導 他の学生はプリント課題の記述 教科書	小論文①復習 プリント復習 教科書予習(70P~83P)
5	話し言葉は避ける	プリント記述 教科書	プリント復習 教科書予習(86P~100P)
6	主張は明確にする	プリント記述 教科書	プリント復習 小論文②作成 教科書予習(102P~107P)
7	分かりやすく	小論文②提出 プリント記述 教科書	プリント復習 教科書予習(108P~124P)
8	「これ」「それ」に注意	小論文②返却・個別指導 他の学生はプリント課題の記述 教科書	小論文②復習 プリント復習 教科書予習(125P~136P)
9	「こと」でつながらない	プリント記述 教科書	プリント復習 教科書予習(138P~156P)
10	簡潔に書く	プリント記述 教科書	小論文③作成 プリント復習 教科書予習(157P~162P)
11	余分な「つなぎ語」を削る	小論文③提出 プリント記述 教科書	プリント復習 教科書予習(164P~165P)
12	具体的に書く	小論文③返却・個別指導 他の学生はプリント課題の記述 教科書	小論文③復習 プリント復習 教科書予習(166P~183P)
13	共感を呼ぶ書き方	プリント記述 教科書	小論文④作成 プリント復習 教科書予習(186P~197P)
14	正しい表記	小論文④提出 プリント記述 教科書	プリント復習 教科書予習(198P~206P)
15	まとめ	小論文④返却・個別指導 他の学生はプリント課題の記述 教科書	小論文④復習 プリント復習 授業を総括
期末試験	小論文(600~800字)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
目標A・C・D:簡潔で分かりやすい文を書く。 (期末試験の小論文22点、提出小論文7点×4回=28点、授業プリントへの記述と応答50点) 小論文は①テーマと内容があっているか、②正しく分かりやすく表現しているか——を基準に評価します。			
教科書			
書名:文章力の基本 著者名:阿部紘久 発行所:日本実業出版社 価格:1,300円(税別)			
その他補足事項			
1年次(平成30年度以前の入学者)の「国語表現」の成績がC評価(69点以下)の場合、指定者必修として「文章演習」を履修しなければならない。			

授 業 科 目 名	情報機器操作 I		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：桑 木 道 子		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	宮城県立がんセンター医療電算事務（平成5年4月～平成6年2月）			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士（情報科学） 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」 情報処理学会、日本教育工学会、教育システム情報学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>初回に情報機器操作スキルの習熟度判定テストを受け、初級レベルと判定された学生が受講する科目です。</p> <p>本学の教育用コンピュータ・ネットワークシステムを使用し、文字入力のためのタッチタイピング、Windowsシステムの使い方、Wordを使った文書作成の方法およびExcelを使った表計算方法の基礎的な知識・技能を習得します。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
① コンピュータ・ネットワークに対する知識・技能を習得する。	目標	A・B
② タッチタイピングによる文字入力を習得する。	目標	B
③ Word、Excelの基礎的な知識・技能を習得する。	目標	A・B・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業内容、演習環境についての理解) 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメントと習熟度判定テスト	授業計画 タイピング練習アプリ	タイピング練習
2	Windowsおよびアプリケーションの基本操作 タイピング練習とタイピング速度の計測	ピアアセスメント タイピング練習アプリ	タイピング練習
3	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word(1) 文書の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3-14	タイピング練習 ビジネス文書の構成を復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word(2) 文字の拡大と縮小	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト 3-15	タイピング練習 課題の完成と提出
5	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word(3) 文字の修飾	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト 3-16	タイピング練習 課題の完成と提出
6	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word(4) 表を活用した文書の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト 3-17	タイピング練習 課題の完成と提出
7	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word(5) 表の編集	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト 3-18	タイピング練習 課題の完成と提出
8	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word(6) 画像や図形を活用した文書の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト 3-19	タイピング練習 課題の完成と提出
9	中間試験 ・タイピング速度の測定 ・Wordによるビジネス文書作成 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	配付課題	タイピング練習
10	タイピング速度の測定 Excel(1) 表計算ソフトとは データ入力の基礎	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト 4-3、4-4	タイピング練習 課題の完成と提出
11	タイピング速度の測定 Excel(2) 基本的なワークシート編集	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト 4-5	タイピング練習課題の完 成と提出
12	タイピング速度の測定 Excel(3) 関数を使った計算式	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト 4-6	タイピング練習課題の完 成と提出
13	タイピング速度の測定 Excel(4) 小数点とセルの参照 罫線 行の挿入	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト 4-7、4-8、 4-9	タイピング練習課題の完 成と提出
14	タイピング速度の測定 Excel(5) グラフ	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト 4-10	タイピング練習課題の完 成と提出
15	タイピング速度の測定 Excel(6) 表とグラフの練習 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	配付課題	これまでに習得した知 識・技術の整理
期末 試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）		
(1) 目標A・B	: 授業内の課題提出 授業のふりかえり提出	10点満点 5点満点
(2) 目標B	: タッチタイピング目標達成	25点満点
(3) 目標A・B・K	: Word文書作成（期末試験） Excel表作成（期末試験）	30点満点 30点満点
教科書		
書名：30時間でマスター Office2013（Windows 8 対応） 著者名：実教出版企画開発部 発行所：実教出版株式会社 価格：1,000円（税別）		
その他補足事項		
<ul style="list-style-type: none"> • USBフラッシュメモリを各自用意してください。（仕様は第1回授業で説明します。） • 授業時間内に完了しなかった課題は、次回授業までに完成させ持参してください。 • 本科目を履修し合格した後に、後期開講の「情報機器操作Ⅱ」を単位取得する必要があります。 • ピアアセスメントとは、授業内で学生同士が互いに課題の進捗状況を確認しあい、協力し合って達成度合いを評価していく授業スタイルです。 		

授 業 科 目 名	情報機器操作Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：桑 木 道 子		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	宮城県立がんセンター医療電算事務（平成5年4月～平成6年2月）			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士（情報科学） 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」 情報処理学会、日本教育工学会、教育システム情報学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
1年次の前期に情報機器操作Ⅰを履修した学生が受講する科目です。 コンピュータの仕組み、ネットワークの仕組み、Windowsの仕組みを理解した上で、中級レベルの情報機器操作スキルを習得します。本学の教育用コンピュータ・ネットワークシステムを使用し、タッチタイピングスキルの向上を目指します。また、Wordを使った文書作成およびExcelを使った表計算方法の応用的な知識・技能、PowerPointを使ったプレゼンテーションの基礎的な知識・技能を習得します。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① コンピュータ・ネットワークに対する知識・技能を習得する。	目標	A・B
② タッチタイピングによる文字入力スキルを向上させる。	目標	B
③ Word、Excelの応用的知識・技能およびPowerPointの基礎的な知識・技能を習得する。	目標	A・B・I・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業内容、演習環境についての理解) 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント タイピング練習と速度計測	授業計画 タイピング練習アプリ	タイピング練習
2	タイピング練習と速度計測 Wordによる文書作成の復習 Excelによる表・グラフの作成の復習	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付課題	タイピング練習 課題の完成と提出
3	タイピング練習と速度計測 Excel(1) 条件判定と順位付け	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-11	タイピング練習 課題の完成と提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	タイピング練習と速度計測 Excel(2) 検索関数の利用	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-12	タイピング練習 課題の完成と提出
5	タイピング練習と速度計測 Excel(3) Excelの便利な機能	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-13	タイピング練習 課題の完成と提出
6	タイピング練習と速度計測 Excel(4) Webページを活用した表の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-14	タイピング練習 課題の完成と提出
7	タイピング練習と速度計測 Excel(5) WordとExcelの活用	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-15	タイピング練習 課題の完成と提出
8	中間試験 ・タイピング速度計測 ・WordとExcelを活用した文書の作成 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付課題	タイピング練習
9	タイピング練習と速度計測 PowerPoint(1) スライド作成の基本 文字修飾と図形の活用	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト5-1～5-5	タイピング練習 課題の完成と提出
10	タイピング練習と速度計測 PowerPoint(2) グラフ、SmartArt、アニメーション	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト5-6～5-8	タイピング練習 課題の完成と提出
11	タイピング練習と速度計測 PowerPoint(3) 表の活用と画像の挿入、ワードアートの挿入、その他の機能	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト5-9～5-11	タイピング練習 課題の完成と提出
12	タイピング練習と速度計測 PowerPoint(4) スライドショーと資料作成 プレゼンテーションの基礎知識	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト5-12、5-13	タイピング練習 課題の完成と提出
13	タイピング練習と速度計測 Officeのフォトタッチ機能 プレゼンテーション資料の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト6-1、6-2	タイピング練習 課題の完成と提出
14	タイピング練習と速度計測 プレゼンテーション資料の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト6-1、6-2	タイピング練習 課題の完成と提出
15	タイピング練習と速度計測 プレゼンテーション 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	ピアアセスメント タイピング練習アプリ	これまでに習得した知識・技術の整理
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
(1) 目標A・B	: 授業内の課題提出 授業のふりかえり提出	10点満点 5点満点	
(2) 目標B	: タッチタイピング目標達成	10点満点	
(3) 目標A・B・I・K	: Word文書作成 (中間試験) Excel表作成 (中間試験) PowerPointスライド作成 (期末試験)	15点満点 25点満点 35点満点	

教科書

書名：30時間でマスター Office2013 (Windows 8 対応)
著者名：実教出版企画開発部
発行所：実教出版株式会社
価格：1,000円 (税別)

その他補足事項

- USBフラッシュメモリを各自用意してください。(仕様は第1回授業で説明します。)
- 授業時間内に完了しなかった課題は、次回授業までに完成させ持参してください。
- ピアアセスメントとは、授業内で学生同士が互いに課題の進捗状況を確認しあい、協力し合って達成度合いを評価していく授業スタイルです。

授 業 科 目 名	情報機器操作Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：桑 木 道 子		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	宮城県立がんセンター医療電算事務（平成5年4月～平成6年2月）			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士（情報科学） 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」 情報処理学会、日本教育工学会、教育システム情報学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>初回に情報機器操作スキルの習熟度判定テストを受け、初級修了レベル以上と判定された学生が受講する科目です。</p> <p>本学の教育用コンピュータ・ネットワークシステムを使用し、文字入力のためのタッチタイピング、Windowsシステムの使い方、Wordを使った文書作成の方法およびExcelを使った表計算方法の基礎から応用までの知識・技能を習得します。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
① コンピュータ・ネットワークに対する知識・技能を習得する。	目標	A・B
② タッチタイピングによる文字入力を習得する。	目標	B
③ Word、Excelの基礎から応用までの知識・技能を習得する。	目標	A・B・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業内容、演習環境についての理解) 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメントと習熟度判定テスト	授業計画 タイピング練習アプリ	タイピング練習
2	Windowsおよびアプリケーションの基本操作 タイピング練習とタイピング速度の計測	ピアアセスメント タイピング練習アプリ	タイピング練習
3	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word(1) 文書の作成、文字の拡大と縮小、文字の修飾	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト 3-14～3-16	タイピング練習 ビジネス文書の構成を復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word(2) 表を活用した文書の作成、表の編集	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3-17～3-18	タイピング練習 課題の完成と提出
5	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word(3) 画像や図形を活用した文書の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3-19	タイピング練習 課題の完成と提出
6	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word(4) Wordのまとめ試験	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付課題	タイピング練習 課題の完成と提出
7	タイピング速度の測定 Excel(1) 表計算ソフトとは、データ入力の基礎、基本的なワークシート編集	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-3～4-5	タイピング練習 課題の完成と提出
8	タイピング練習とタイピング速度の測定 Excel(2) 関数を使った計算式、小数点とセルの参照	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-6～4-7	タイピング練習 課題の完成と提出
9	タイピング練習とタイピング速度の測定 Excel(3) 罫線、行の挿入	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-8～4-9	タイピング練習 課題の完成と提出
10	タイピング速度の測定 Excel(4) グラフ	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-10	タイピング練習 課題の完成と提出
11	タイピング速度の測定 Excel(5) 条件判定と順位付け	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-11	タイピング練習 課題の完成と提出
12	タイピング速度の測定 Excel(6) 検索関数の利用	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-12	タイピング練習 課題の完成と提出
13	タイピング速度の測定 Excel(7) Excelの便利な機能	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-13	タイピング練習 課題の完成と提出
14	タイピング速度の測定 Excel(8) Webページを活用した表の作成、WordとExcelの活用	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-14～4-15	タイピング練習 課題の完成と提出
15	タイピング速度の測定 Excel(9) 表とグラフの作成練習 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	配付課題	これまでに習得した知識・技術の整理
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
(1)	目標A・B	: 授業内の課題提出 授業のふりかえり提出	10点満点 5点満点
(2)	目標B	: タッチタイピング目標達成	25点満点
(3)	目標A・B・K	: Word文書作成（期末試験） Excel表作成（期末試験）	30点満点 30点満点

教科書

書名：30時間でマスター Office2013 (Windows 8 対応)
著者名：実教出版企画開発部
発行所：実教出版株式会社
価格：1,000円 (税別)

その他補足事項

- USBフラッシュメモリを各自用意してください。(仕様は第1回授業で説明します。)
- 授業時間内に完了しなかった課題は、次回授業までに完成させ持参してください。
- 本科目を履修し合格した後に、後期開講の「情報機器操作Ⅲ」を単位取得する必要があります。
- ピアアセスメントとは、授業内で学生同士が互いに課題の進捗状況を確認しあい、協力し合って達成度合いを評価していく授業スタイルです。

授 業 科 目 名	情報機器操作Ⅲ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：桑 木 道 子		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	宮城県立がんセンター医療電算事務（平成5年4月～平成6年2月）			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士（情報科学） 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」 情報処理学会、日本教育工学会、教育システム情報学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>1年次の前期に情報機器操作Ⅱを履修した学生が受講する科目です。</p> <p>コンピュータの仕組み、ネットワークの仕組み、Windowsの仕組みを理解した上で、中級レベルの情報機器操作スキルを習得します。本学の教育用コンピュータ・ネットワークシステムを使用し、タッチタイピングスキルの向上を目指します。また、PowerPointを使ったプレゼンテーション、および画像編集の基礎的な知識・技能を習得します。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
① コンピュータ・ネットワークに対する知識・技能を習得する。	目標	A・B
② タッチタイピングによる文字入力スキルを向上させる。	目標	B
③ PowerPointおよび画像編集の基礎的知識・技能を習得する。	目標	A・B・I・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業内容、演習環境についての理解) 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント タイピング練習と速度計測	授業計画 タイピング練習アプリ	タイピング練習
2	タイピング練習と速度計測 Wordによる文書作成の復習 Excelによる表・グラフの作成の復習	配付課題	タイピング練習 課題の完成と提出
3	タイピング練習と速度計測 PowerPoint(1) プレゼンテーションの作成、 文字修飾と図形の活用	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト5-3～5-5	タイピング練習 課題の完成と提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	タイピング練習と速度計測 PowerPoint(2) グラフの活用 SmartArtの活用 アニメーション効果	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト5-6～5-8	タイピング練習 課題の完成と提出
5	タイピング練習と速度計測 PowerPoint(3) 表の活用と画像の挿入 ワードアートの挿入 その他の機能	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト5-9～5-11	タイピング練習 課題の完成と提出
6	タイピング練習と速度計測 PowerPoint(4) スライドショーと資料作成 プレゼンテーションの基礎知識	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト5-12～5-13	タイピング練習 課題の完成と提出
7	タイピング練習と速度計測 Officeのフォトレタッチ機能	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト6-1～6-2	タイピング練習 課題の完成と提出
8	タイピング練習と速度計測 InkscapeとGIAMによる画像編集とアニメーション制作(1)	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
9	タイピング練習と速度計測 InkscapeとGIAMによる画像編集とアニメーション制作(2)	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
10	タイピング練習と速度計測 InkscapeとGIAMによる画像編集とアニメーション制作(3)	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
11	タイピング練習と速度計測 プレゼンテーション(1) ・プレゼンテーション資料の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
12	タイピング練習と速度計測 プレゼンテーション(2) ・プレゼンテーション資料の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
13	タイピング練習と速度計測 プレゼンテーション(3) ・プレゼンテーションの準備(発表練習)	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
14	タイピング練習と速度計測 プレゼンテーション(4) ・発表(1/2)	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付資料	タイピング練習 課題の完成と提出
15	タイピング練習と速度計測 プレゼンテーション(5) ・発表(2/2) 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付資料	これまでに習得した知識・技術の整理
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）		
(1) 目標A・B	：授業内の課題提出 授業のふりかえり提出	20点満点 10点満点
(2) 目標B	：タッチタイピング目標達成	20点満点
(3) 目標A・B・I・K	：画像編集 PowerPoint資料作成（期末試験）	20点満点 30点満点
教科書		
書名：30時間でマスター Office2013（Windows 8 対応） 著者名：実教出版企画開発部 発行所：実教出版株式会社 価格：1,000円（税別）		
その他補足事項		
<ul style="list-style-type: none"> • USBフラッシュメモリを各自用意してください。（仕様は第1回授業で説明します。） • 授業時間内に完了しなかった課題は、次回授業までに完成させ持参してください。 • ピアアセスメントとは、授業内で学生同士が互いに課題の進捗状況を確認しあい、協力し合って達成度合いを評価していく授業スタイルです。 		

授 業 科 目 名	情報機器操作 I (旧カリ)		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：桑 木 道 子		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	宮城県立がんセンター医療電算事務（平成5年4月～平成6年2月）			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士（情報科学） 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」 情報処理学会、日本教育工学会、教育システム情報学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>前期は、本学の教育用コンピュータ・ネットワークシステムを使用し、文字入力のためのタッチタイピング、Windowsシステムの使い方、Wordを使った文書作成の方法およびExcelを使った表計算方法の基礎的な知識・技能を習得します。</p> <p>後期は、コンピュータの仕組み、ネットワークの仕組み、Windowsの仕組みを理解した上で、中級レベルの情報機器操作スキルを習得します。本学の教育用コンピュータ・ネットワークシステムを使用し、タッチタイピングスキルの向上を目指します。また、Wordを使った文書作成およびExcelを使った表計算方法の応用的な知識・技能、PowerPointを使ったプレゼンテーションの基礎的な知識・技能を習得します。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
① コンピュータ・ネットワークに対する知識・技能を習得する。	目標	A・B
② タッチタイピングによる文字入力を習得する。	目標	B
③ Word、Excelの基礎的知識・技能を習得後、応用的知識・技能を身につけ、さらにPowerPointの基礎的知識・技能を修得する。	目標	A・B・I・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業内容、演習環境についての理解) 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメントと習熟度判定テスト	授業計画 タイピング練習アプリ	タイピング練習
2	Windowsおよびアプリケーションの基本操作 タイピング練習とタイピング速度の計測	ピアアセスメント タイピング練習アプリ	タイピング練習
3	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word(1) 文書の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3-14	タイピング練習 ビジネス文書の構成を復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word(2) 文字の拡大と縮小	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3-15	タイピング練習 課題の完成と提出
5	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word(3) 文字の修飾	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3-16	タイピング練習 課題の完成と提出
6	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word(4) 表を活用した文書の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3-17	タイピング練習 課題の完成と提出
7	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word(5) 表の編集	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3-18	タイピング練習 課題の完成と提出
8	タイピング練習とタイピング速度の測定 Word(6) 画像や図形を活用した文書の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト3-19	タイピング練習 課題の完成と提出
9	中間試験 ・タイピング速度の測定 ・Wordによるビジネス文書作成 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	配付課題	タイピング練習
10	タイピング速度の測定 Excel(1) 表計算ソフトとは データ入力の基礎	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-3、4-4	タイピング練習 課題の完成と提出
11	タイピング速度の測定 Excel(2) 基本的なワークシート編集	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-5	タイピング練習 課題の完成と提出
12	タイピング速度の測定 Excel(3) 関数を使った計算式	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-6	タイピング練習 課題の完成と提出
13	タイピング速度の測定 Excel(4) 小数点とセルの参照 罫線 行の挿入	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-7、4-8、 4-9	タイピング練習 課題の完成と提出
14	タイピング速度の測定 Excel(5) グラフ	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-10	タイピング練習 課題の完成と提出
15	タイピング速度の測定 Excel(6) 表とグラフの練習 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	配付課題	これまでに習得した知識・ 技術の整理
期末 試験	前期末試験		
16	オリエンテーション (授業内容、演習環境についての理解) 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント タイピング練習と速度計測	授業計画 タイピング練習アプリ	タイピング練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	タイピング練習と速度計測 Wordによる文書作成の復習 Excelによる表・グラフの作成の復習	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付課題	タイピング練習 課題の完成と提出
18	タイピング練習と速度計測 Excel(1) 条件判定と順位付け	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-11	タイピング練習 課題の完成と提出
19	タイピング練習と速度計測 Excel(2) 検索関数の利用	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-12	タイピング練習 課題の完成と提出
20	タイピング練習と速度計測 Excel(3) Excelの便利な機能	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-13	タイピング練習 課題の完成と提出
21	タイピング練習と速度計測 Excel(4) Webページを活用した表の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-14	タイピング練習 課題の完成と提出
22	タイピング練習と速度計測 Excel(5) WordとExcelの活用	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト4-15	タイピング練習 課題の完成と提出
23	中間試験 ・タイピング速度計測 ・WordとExcelを活用した文書の作成 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	ピアアセスメント タイピング練習アプリ 配付課題	タイピング練習
24	タイピング練習と速度計測 PowerPoint(1) スライド作成の基本 文字修飾と図形の活用	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト5-1～5-5	タイピング練習 課題の完成と提出
25	タイピング練習と速度計測 PowerPoint(2) グラフ、SmartArt、アニメーション	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト5-6～5-8	タイピング練習 課題の完成と提出
26	タイピング練習と速度計測 PowerPoint(3) 表の活用と画像の挿入、ワードアートの挿入、その他の機能	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト5-9～5-11	タイピング練習 課題の完成と提出
27	タイピング練習と速度計測 PowerPoint(4) スライドショーと資料作成 プレゼンテーションの基礎知識	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト5-12、5-13	タイピング練習 課題の完成と提出
28	タイピング練習と速度計測 Officeのフォトタッチ機能 プレゼンテーション資料の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト6-1、6-2	タイピング練習 課題の完成と提出
29	タイピング練習と速度計測 プレゼンテーション資料の作成	ピアアセスメント タイピング練習アプリ テキスト6-1、6-2	タイピング練習 課題の完成と提出
30	タイピング練習と速度計測 プレゼンテーション 情報機器操作スキルに関するセルフアセスメント	ピアアセスメント タイピング練習アプリ	これまでに習得した知識・ 技術の整理
期末 試験	後期末試験		

期末試験の講評

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

前期

- | | | | | |
|-------------|------------------|-------|----------------|-------|
| (1) 目標A・B | : 授業内の課題提出 | 10点満点 | 授業のふりかえり提出 | 5点満点 |
| (2) 目標B | : タッチタイピング目標達成 | 25点満点 | | |
| (3) 目標A・B・K | : Word文書作成（期末試験） | 30点満点 | Excel表作成（期末試験） | 30点満点 |

後期

- | | | | | |
|---------------|------------------------|-------|----------------|-------|
| (1) 目標A・B | : 授業内の課題提出 | 10点満点 | 授業のふりかえり提出 | 5点満点 |
| (2) 目標B | : タッチタイピング目標達成 | 10点満点 | | |
| (3) 目標A・B・I・K | : Word文書作成（中間試験） | 15点満点 | Excel表作成（中間試験） | 25点満点 |
| | PowerPointスライド作成（期末試験） | 35点満点 | | |

教科書

書名：30時間でマスター Office2013（Windows 8 対応）

著者名：実教出版企画開発部

発行所：実教出版株式会社

価格：1,000円（税別）

その他補足事項

- USBフラッシュメモリを各自用意してください。（仕様は第1回授業で説明します。）
- 授業時間内に完了しなかった課題は、次回授業までに完成させ持参してください。
- ピアアセスメントとは、授業内で学生同士が互いに課題の進捗状況を確認しあい、協力し合って達成度合いを評価していく授業スタイルです。

授 業 科 目 名	情報機器操作Ⅱ(2年次対象)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：桑 木 道 子		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	宮城県立がんセンター医療電算事務(平成5年4月～平成6年2月)			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士(情報科学) 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」 情報処理学会、日本教育工学会、教育システム情報学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>情報機器操作Ⅰで習得した基本的知識と情報機器操作スキルを基にして、中級レベルの情報機器操作スキルとプレゼンテーション力を習得するための科目です。</p> <p>具体的には、Word、Excel、PowerPoint等を使用した実践的な実習や、画像・動画の編集、簡単なコンピュータプログラミングを通じて情報リテラシーの習得・維持・向上を目指します。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
① 中級レベルの情報機器操作スキルを習得する。	目標	A・B・K
② データ分析に関する基礎的なスキルを習得する。	目標	A・B・C・K
③ 情報モラルや情報セキュリティの基本的な概念を理解する。	目標	A・K
④ 画像や動画、音楽などのマルチメディア情報を活用できる。	目標	A・B・I・K
⑤ プログラミングに関する基礎的なスキルを習得する。	目標	A・B・C・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション Wordの基本操作の復習(1) ・タイピング速度の測定 ・ビジネス文書の作成	配付課題 ピアアセスメント	1年次に習得したWord・Excelの操作を復習
2	Wordの基本操作の復習(2) ・ビジネス文書の作成	配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	Wordの基本操作の復習(3) ・図や表が入った文書の作成	配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
4	Excelの基本操作の復習 ・オートSUM ・グラフの作成	配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
5	Excel(1) ・数式の基本 ・セル名を使った計算式	配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
6	Excel(2) ・関数の基本 ・簡単な統計処理(1)	配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
7	Excel(3) ・簡単な統計処理(2) ・絶対参照・相対参照	配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
8	Excel(4) ・様々な関数(1)	配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
9	Excel(5) ・様々な関数(2)	配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
10	Excel(6) ・様々な関数(3)	配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
11	Excel(7) ・分析ツール(1)	配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
12	Excel(8) ・分析ツール(2)	配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
13	Excel(9) ・分析ツール(3)	配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
14	Excel(10) ・ピボットテーブル(1) ・ピボットグラフ(1)	配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
15	Excel(11) ・ピボットテーブル(2) ・ピボットグラフ(2)	配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
期末 試験	前期末試験		
16	コンピュータプログラミング入門(1) ・HTML	プログラミングツール 配付課題	授業内容の復習 課題の完成と提出
17	コンピュータプログラミング入門(2) ・JavaScript(1)	プログラミングツール 配付課題	授業内容の復習 課題の完成と提出
18	コンピュータプログラミング入門(3) ・JavaScript(2)	プログラミングツール 配付課題	授業内容の復習 課題の完成と提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	コンピュータプログラミング入門(4) ・作品制作	プログラミングツール 配付課題	授業内容の復習 課題の完成と提出
20	コンピュータプログラミング入門(5) ・作品発表会	プログラミングツール 配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
21	情報モラルと情報セキュリティ(1)	配付課題 ジグソー学習	授業内容の復習 課題の完成と提出
22	情報モラルと情報セキュリティ(2)	配付課題 ジグソー学習	授業内容の復習 課題の完成と提出
23	アニメーションの作成(1) ・画像編集ソフトの基本操作 ・アニメーション制作の基本 ・作品製作(1)	画像編集ソフト 配付課題	授業内容の復習 課題の完成と提出
24	アニメーションの作成(2) ・作品制作(2) ・作品発表会	画像編集ソフト 配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
25	ショートムービーの作成(1) ・動画編集ソフトの基本操作 ・作品制作(1)	動画編集ソフト 配付課題	授業内容の復習 課題の完成と提出
26	ショートムービーの作成(3) ・作品制作(2) ・作品発表会	動画編集ソフト 配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
27	プレゼンテーション(1) ・スライド作成のポイント ・プレゼンテーション資料の作成(1)	PowerPoint 配付課題	授業内容の復習 課題の完成と提出
28	プレゼンテーション(2) ・プレゼンテーション資料の作成(2) ・発表練習	PowerPoint 配付課題	授業内容の復習 課題の完成と提出
29	プレゼンテーション(3) ・発表(1)	PowerPoint 配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習 課題の完成と提出
30	プレゼンテーション(4) ・発表(2) 後期のまとめ	PowerPoint 配付課題 ピアアセスメント	授業内容の復習
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）		
(1) 目標A・B・K	：前期末試験	20点満点
	後期末試験	20点満点
(2) 目標A・B・C・K	：授業内の課題提出	10点満点
	授業のふりかえり提出	5点満点
(3) 目標A・K	：授業内の課題提出	10点満点
	授業のふりかえり提出	5点満点
(4) 目標A・B・I・K	：授業内の課題提出	10点満点
	授業のふりかえり提出	5点満点
(5) 目標A・B・C・K	：授業内の課題提出	10点満点
	授業のふりかえり提出	5点満点
教科書		
使用しない。		
その他補足事項		
<ul style="list-style-type: none"> • USBフラッシュメモリを各自用意してください。（仕様は第1回授業で説明します。） • 授業時間内に完了しなかった課題は、次回授業までに完成させ持参してください。 • ピアアセスメントとは、授業内で学生同士が互いに課題の進捗状況を確認しあい、協力し合って達成度合いを評価していく授業スタイルです。 		

授 業 科 目 名	スマートフォン活用法		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：桑 木 道 子		開 講 期	前期
			授 業 回 数	8回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	宮城県立がんセンター医療電算事務（平成5年4月～平成6年2月）			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士（情報科学） 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」 情報処理学会、日本教育工学会、教育システム情報学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	6.5時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>経済産業省の報告によると、業務におけるスマートフォンの活用が近年拡大傾向にあります。</p> <p>この授業では、授業や業務においてスマートフォンを効果的に活用する方法をグループワークにより検討し、活用の実践を行います。また、福祉心理学科の学生がスマートフォンをより効果的に活用できることを目的に、その活用法を提案書としてまとめます。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
① スマートフォンを活用する上で必要なセキュリティ関連の基礎知識を得る。	目標	A
② 授業および福祉・心理分野におけるスマートフォン活用の提案ができる。	目標	G・K
③ 授業および福祉・心理分野におけるスマートフォンの活用法を習得する。	目標	A・B

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション スマートフォン利用に関するセルフアセスメント 企業等におけるスマートフォン活用実態の把握 SNSを活用した情報発信の留意点	経済産業省による統計資料などの配付資料	
2	スケジュール管理(1) ・調査・活用法の検討	配付資料等をもとにグループでのディスカッション	予習：アプリの調査 復習：活用の実践
3	スケジュール管理(2) ・活用法の提案	各自の活用報告をもとにグループでのディスカッション Wordで提案書を作成	予習：活用報告をまとめる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	授業における活用(1) ・調査・活用法の検討	配付資料等をもとにグループでのディスカッション	予習：アプリの調査 復習：活用の実践
5	授業における活用(2) ・活用法の提案	各自の活用報告をもとにグループでのディスカッション Wordで提案書を作成	予習：活用報告をまとめる
6	福祉・心理分野における活用(1) ・調査・活用法の検討	配付資料等をもとにグループでのディスカッション	予習：アプリの調査 復習：活用の実践
7	福祉・心理分野における活用(2) ・活用法の提案	各自の活用報告をもとにグループでのディスカッション Wordで提案書を作成	予習：活用報告をまとめる
8	福祉心理学科の学生を対象としたスマートフォン活用法の提案 スマートフォン利用に関するセルフアセスメント	Wordで提案書を作成	予習：これまでの活用報告をふりかえる
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 目標A : 期末試験 40点満点 (2) 目標G・K : 提案書 4回×5点=20点満点 (3) 目標A・B : 授業後のふりかえりシート 8回×5点=40点満点			
教科書			
使用しない。			
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> 各自所有のスマートフォン（Android、iPhone等）を持参してください。iPad等のタブレット端末の持込みも可とします。 Wi-Fi環境が整備された教室で授業を行い、基本的に無料アプリを使用します。ただし、授業中に発生したパケット通信料金は自己負担とします。 			

授 業 科 目 名	スマートフォン・モラルとリスク		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：桑 木 道 子		開 講 期	後期
			授 業 回 数	8回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	宮城県立がんセンター医療電算事務（平成5年4月～平成6年2月）			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻博士課程前期2年の課程修了、修士（情報科学） 第一種情報処理技術者、職業訓練指導員免許「情報処理科」、高等学校教諭専修免許「情報」 情報処理学会、日本教育工学会、教育システム情報学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	6.5時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>インターネットに接続できるスマートフォンやタブレット端末の普及により私たちの生活は便利になりました。その反面、情報技術を悪用したトラブルや事件なども増えてきています。</p> <p>この授業では、そのようなトラブルや事件などから身を守るために最低限必要な情報モラルおよび情報セキュリティに関する知識を習得した上で、情報社会におけるスマートフォンやタブレット端末を活用する際の望ましい態度について考えます。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 情報社会における問題の現状を理解する。	目標	A・J
② 情報モラルおよび情報セキュリティに関する知識を習得する。	目標	A・J
③ スマートフォンやタブレットを活用する際の望ましい態度を身につける。	目標	A・I・J・L

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション スマートフォン利用に関するセルフアセスメント 企業等におけるスマートフォン活用実態の把握 SNSを活用した情報発信の留意点	配付資料	復習：授業のふりかえりをSNSで発信
2	情報と情報社会	テキスト1章 グループディスカッション	予習：テキストを読む 復習：授業のふりかえりをSNSで発信
3	個人情報と知的財産	テキスト2章 グループディスカッション	予習：テキストを読む 復習：授業のふりかえりをSNSで発信

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	ネットにおけるコミュニケーションとマナー	テキスト3章 グループディスカッション	予習：テキストを読む 復習：授業のふりかえりをSNSで発信
5	情報社会における生活	テキスト4章 グループディスカッション	予習：テキストを読む 復習：授業のふりかえりをSNSで発信
6	情報セキュリティとネット被害	テキスト5章 グループディスカッション	予習：テキストを読む 復習：授業のふりかえりをSNSで発信
7	まとめのプレゼンテーション資料作成	グループワーク	復習：授業のふりかえりをSNSで発信
8	プレゼンテーション	グループ単位で発表 ピアアセスメント	復習：授業のふりかえりをSNSで発信
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 目標A・J : ふりかえりの提出 8回×5点=40点満点 (2) 目標A・J : 期末試験 40点満点 (3) 目標A・I・J・L : プレゼンテーション 20点満点			
教科書			
書名：インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版 著者名：情報教育学研究会（IEC）・情報倫理教育研究グループ 発行所：実教出版 価格：450円（税別）			
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> 各自所有のスマートフォン（Android、iPhone等）を持参してください。iPad等のタブレット端末の持込みも可とします。 Wi-Fi環境が整備された教室で授業を行い、無料アプリを使用します。ただし、授業中に発生したパケット通信料金は自己負担とします。 ピアアセスメントとは、授業内で学生同士が互いに課題の進捗状況を確認しあい、協力し合って達成度合いを評価していく授業スタイルです。 			

授 業 科 目 名	生 活 教 養 I		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職名：兼任教授 氏名：小 松 由 美		開 講 期	後 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	(公財) 実務技能検定協会ビジネス系検定面接試験委員 (H14年～)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	日本ビジネス実務学会評議員			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	秘書検定1級、ビジネス文書検定1級、サービス接客検定1級、 パフォーマンス教育協会認定エグゼクティブパフォーマンスインストラクター 日本ビジネス実務学会、秘書サービス接客教育学会、日本秘書協会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	教 養 教 育 科 目	必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー に つ い て は 初 回 授 業 時 に 説 明 し ま す 。			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
日常生活で円滑な人間関係を構築するために必要なマナーについて学ぶ。また、卒業後の就職も念頭に置き、社会人として身に付けておきたい敬語や来客対応・電話対応等のビジネスマナーについても学ぶ。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
日常生活におけるマナーについて学び、円滑な人間関係の構築ができるようになる。	目 標	A・B・L
社会人として求められるビジネスマナーを身に付ける。	目 標	A・B

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション (授業概要と進め方、評価方法) 社会生活におけるルールとマナー、人間関係	資料配付 テキストpp.50-52 ディスカッション、発表	テキスト該当箇所を読んで予習する
2	第一印象の重要性	テキストpp.2-11 資料配付 ロールプレイング	〃
3	職場でのルールとマナー 仕事の進め方	テキストpp.12-18 映像資料視聴予定 ディスカッション、発表	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	話し方と聞き方 敬語の基礎知識(1)	テキストpp.53-68 プリント演習	配付のプリント課題に取り組む
5	敬語の基礎知識(2)	テキストpp.53-68 プリント演習	1回～5回までを復習し、小テストに備える
6	来客応対(1)	小テスト テキストpp.19-48	テキスト該当箇所を読んで予習する
7	来客応対(2)	テキストpp.19-48 資料配付 グループワーク	配付のプリント課題に取り組む
8	電話応対(1)	テキストpp.70-86 映像資料視聴予定	テキスト該当箇所を読んで予習する
9	電話応対(2)	テキストpp.70-86 資料配付 グループワーク	6回～9回までを復習し、小テストに備える
10	手紙・文書作成のマナー(1)	小テスト テキストpp.88-110 資料配付	テキスト該当箇所を読んで予習する
11	手紙・文書作成のマナー(2)	テキストpp.88-110 プリント演習	配付のプリント課題に取り組む
12	慶弔の知識(1)	テキストpp.156-165 資料配付	テキスト該当箇所を読んで予習する
13	慶弔の知識(2)	テキストpp.166-174 プリント演習	10回～13回までを復習し、小テストに備える
14	食事・パーティのマナー	小テスト テキストpp.112-138 映像資料視聴予定	テキスト該当箇所を読んで予習する
15	旅行のマナー	テキストpp.140-154	〃
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標A : 後期末試験70%</p> <p>目標B・L : 小テスト及び授業参加態度（グループワーク等演習時の積極性等）30%</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠席、遅刻、授業中の態度等に関わる減点については、シラバスの最初に掲載している「学業成績評価の共通基準」に基づきます。 詳細は初回授業時に説明します。 			
教科書			
<p>書名：新生活教養</p> <p>著者名：近喰晴子 他著</p> <p>発行所：建帛社</p> <p>価格：2,000円（税別）</p>			
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> 授業内容は進度によって前後することがあります。 授業の内容によって、スーツ着用を指示する場合があります。 予習・復習については、授業内に適宜指示します。 			

授 業 科 目 名	生活教養 (旧カリ)		授業形態・単位数	講義・演習・2単位
			開 講 年 次	2年次以上
担 当 教 員	職名：兼任教授 氏名：小 松 由 美		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	(公財) 実務技能検定協会ビジネス系検定面接試験委員 (H14年～)			
社会貢献としての委員会・職 等	日本ビジネス実務学会評議員			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	秘書検定1級、ビジネス文書検定1級、サービス接客検定1級、 パフォーマンス教育協会認定エグゼクティブパフォーマンスインストラク ター 日本ビジネス実務学会、秘書サービス接客教育学会、日本秘書協会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
日常生活で円滑な人間関係を構築するために必要なマナーについて学ぶ。また、卒業後の就職も念頭に置き、社会人として身に付けておきたい敬語や来客対応・電話対応等のビジネスマナーについても学ぶ。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
日常生活におけるマナーについて学び、円滑な人間関係の構築ができるようになる。	目標	A・B・L
社会人として求められるビジネスマナーを身に付ける。	目標	A・B

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業概要と進め方、評価方法) 社会生活におけるルールとマナー、人間関係	資料配付 テキストpp.50-52 ディスカッション、発表	テキスト該当箇所を読んで予習する
2	第一印象の重要性	テキストpp.2-11 資料配付 ロールプレイング	〃
3	職場でのルールとマナー 仕事の進め方	テキストpp.12-18 映像資料視聴予定 ディスカッション、発表	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	話し方と聞き方 敬語の基礎知識(1)	テキストpp.53-68 プリント演習	配付のプリント課題に取り組み
5	敬語の基礎知識(2)	テキストpp.53-68 プリント演習	1回～5回までを復習し、小テストに備える
6	来客応対(1)	小テスト テキストpp.19-48	テキスト該当箇所を読んで予習する
7	来客応対(2)	テキストpp.19-48 資料配付 グループワーク	配付のプリント課題に取り組み
8	電話応対(1)	テキストpp.70-86 映像資料視聴予定	テキスト該当箇所を読んで予習する
9	電話応対(2)	テキストpp.70-86 資料配付 グループワーク	6回～9回までを復習し、小テストに備える
10	手紙・文書作成のマナー(1)	小テスト テキストpp.88-110 資料配付	テキスト該当箇所を読んで予習する
11	手紙・文書作成のマナー(2)	テキストpp.88-110 プリント演習	配付のプリント課題に取り組み
12	慶弔の知識(1)	テキストpp.156-165 資料配付	テキスト該当箇所を読んで予習する
13	慶弔の知識(2)	テキストpp.166-174 プリント演習	10回～13回までを復習し、小テストに備える
14	食事・パーティのマナー	小テスト テキストpp.112-138 映像資料視聴予定	テキスト該当箇所を読んで予習する
15	旅行のマナー	テキストpp.140-154	〃
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標A : 後期末試験70%</p> <p>目標B・L : 小テスト及び授業参加態度（グループワーク等演習時の積極性等）30%</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠席、遅刻、授業中の態度等に関わる減点については、シラバスの最初に掲載している「学業成績評価の共通基準」に基づきます。 詳細は初回授業時に説明します。 			
教科書			
<p>書名：新生活教養</p> <p>著者名：近喰晴子 他著</p> <p>発行所：建帛社</p> <p>価格：2,000円（税別）</p>			
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> 授業内容は進度によって前後することがあります。 授業の内容によって、スーツ着用を指示する場合があります。 予習・復習については、授業内に適宜指示します。 			

授 業 科 目 名	生 活 教 養 Ⅱ		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	3 ・ 4 年 次
担 当 教 員	職 名 : 兼 任 教 授 氏 名 : 渡 辺 雅 子 <small>わた なべ まさ こ</small>		開 講 期	後 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	福 島 女 子 短 期 大 学 (現 福 島 学 院 大 学) 事 務 局 研 修 担 当 (平 成 元 年 4 月 ~ 平 成 6 年 3 月)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	伊 達 市 子 ど も ・ 子 育 て 会 議 委 員 、 伊 達 市 学 校 施 設 利 活 用 審 議 会 委 員			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	福 島 女 子 短 期 大 学 (現 福 島 学 院 大 学 短 期 大 学 部) 準 学 士 日 本 保 育 学 会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	教 養 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー は 最 初 の 授 業 時 に 説 明 し ま す 。 メ ー ル ア ド レ ス : watanabe.masako fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>現代社会では、コミュニケーション能力が求められています。そのコミュニケーション能力の基本の一つに「マナー」があげられます。</p> <p>本授業では、品格ある教養を兼ね備えた社会人を目指すことを目的に、授業の前半は、社会生活をおくる上で必要な人間関係を円滑に図るためのマナー（訪問のマナー、応対のマナー、電話のマナーなど）を、これからの生活の中でも十分に活用できるように演習や事例研究を通して修得していきます。</p> <p>授業の後半では、会食のマナー（日本料理、西洋料理、中国料理、パーティーの基礎知識）、冠婚葬祭お付き合いのマナーについて、演習や実践を通して学んでいきます。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)
社会人としての基本マナー（訪問・応対・電話等のマナー）を身に付ける。	目 標	A ・ B ・ L
冠婚葬祭お付き合いのマナーの基礎知識を修得する。	目 標	A
会食のマナー（食作法）について、実践を通して身に付ける。	目 標	A ・ B

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	<p>オリエンテーション</p> <p>授業概要と到達目標 授業内容（学外授業を含む） 評価 その他</p> <p>訪問のマナー(1)</p> <p>訪問前の準備 手土産について</p> <p>玄関先でのマナー 席次のマナー</p>	<p>授業計画</p> <p>教科書・配付資料・スライド</p> <p>DVD「スマートなマナー①」5分</p> <p>「和室での作法」7分</p> <p>「上座・下座」5分</p>	<p>授業計画</p> <p>教科書P32~37を見ておく</p> <p>課題①</p> <p>教科書P27~37,44~48、配付資料を見て、席次をまとめる(A4判1枚)</p>

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	訪問のマナー(2) 客間でのマナー 辞去のマナー ◎事例研究 もてなしのマナー 茶菓のいただき方 茶菓の出し方	課題①の発表・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「スマートなマナー②③」10分 「煎茶のいれ方」3分 茶菓の出し方の演習	課題② 就職活動で企業を訪問した際の言葉遣いをまとめる(A4判1枚) 課題③ 訪問のマナー小テストの準備
3	◆小テスト①：訪問のマナー 電話のマナー(1) 対応のポイント かけ方(応用編) ◎かけ方の演習	課題②の発表・解説 教科書・配付資料・スライド 電話機を使用しての演習：事例研究	課題④ 就職活動で電話をかける際の言葉遣いをまとめる(A4判1枚)
4	電話のマナー(2) 受け方(応用編)① ◎受け方の演習①	課題④の発表・解説 前回実施の小テスト(返却)・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「会社の星：電話」7分 電話機を使用しての演習：事例研究	課題⑤ 職場で電話を受ける際の言葉遣いをまとめる(A4判1枚)
5	電話のマナー(3) 受け方(応用編)② ◎受け方の演習② 伝言メモ作成の留意点	課題⑤の発表・解説 教科書・配付資料・スライド 電話機を使用しての演習：事例研究 DVD「家族からの電話」3分 伝言メモの作成(演習)	課題⑥ 職場で電話を受ける際の言葉遣いをまとめる(A4判1枚) 課題⑦伝言メモの作成 課題⑧電話のマナー小テストの準備
6	◆小テスト②：電話のマナー 対応のマナー 来客対応の心構え お迎え 名刺の受け渡し 取次ぎ 案内 見送り ◎事例研究 (アポイントメントがないケース他)	課題⑥⑦の発表(実物投影機)・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「会社の星：名刺」5分 「案内の仕方」3分 名刺と名刺入れを使用しての演習(二人一組)	課題⑨ 職場でお客様を迎える際の言葉遣いをまとめる(A4判1枚) 課題⑩ 教科書P128~134を見て食事の仕方の疑問点をまとめておく(A4判1枚)
7	会食のマナー：西洋料理 メニュー テーブルセッティング レストランでの基本マナー 食べ方の基本 グラスの扱い方・乾杯のマナー 西洋料理における酒の知識	前回実施の小テスト(返却)・解説 課題⑨⑩の発表・解説 教科書・配付資料・スライド ナブキン、カトラリー、洋食器等を使用しての演習 DVD「スマートな食べ方の流儀①②③」15分(5分×3項目)	課題⑪ ナブキン・カトラリーの使い方を日常生活でも実践する 課題⑫ バイキングとビュッフェについて調べておく(A4判1枚) 課題⑬会食のマナー小テストの準備
8	会食のマナー：パーティーのマナー パーティーの基礎知識 立食パーティーのマナー 服装のマナー ◆小テスト③：会食のマナー(総合問題)	課題⑫の発表・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「会食マナー①」7分 皿・グラス・カトラリー等を使用しての演習 グループワーク(ディスカッション) DVD「会食マナー②」10分	課題⑭ カイセキ料理(会席料理・懐石料理)について調べておく(A4判1枚)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	<p>会食のマナー：日本料理 日本文化としての箸のマナー 日本料理の流れ（種類） 食べ方の基本マナー 日本酒の基礎知識</p> <p>◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導</p>	<p>前回実施の小テスト（返却）・解説 課題⑭の発表・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「箸のマナー」20分 「会席と懐石」7分 「土瓶蒸しの食べ方」3分 箸・椀・和食器等を使用しての演習</p>	<p>課題⑮ 箸使いを日常生活でも実践する 課題⑯ テーブルマナー演習 事前レポートの作成（A4判1枚）</p>
10	<p>◆学外授業「テーブルマナー演習」実施</p> <p>① 特別講義「現代の結婚式事情」 ② 日本料理テーブルマナー演習</p>	<p>日本料理テーブルマナーの実践 *予定：12月中に実施 ウエディングエルティ</p>	<p>課題⑰ テーブルマナー演習 事後レポートの作成（A4判2枚） 課題⑱ 中国料理（4大料理）・飲茶について調べておく（A4判1枚）</p>
11	<p>◆学外授業「テーブルマナー演習」事後指導</p> <p>会食のマナー：中国料理 中国料理の種類 中国料理の基礎知識 食べ方の基本マナー 中国茶・中国酒の基礎知識</p>	<p>課題⑯⑰の提出・課題⑱の発表・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「高級中国料理を学ぶ」20分 「中国茶」7分 箸・レンゲ・中国食器等を使用しての演習</p>	<p>課題⑲ 挙式のスタイルをまとめておく（A4判1枚）</p>
12	<p>冠婚葬祭お付き合いのマナー 結婚式・披露宴での招待客のマナー 招待状の返信 お祝い電報 祝品・祝金 祝儀袋の表書き 服装と当日のマナー</p>	<p>課題⑲の発表・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「六曜」7分 「ウエディングマナー」15分 返信用ハガキ、祝儀袋の表書き、袱紗の使い方の演習</p>	<p>課題⑳ 表書きを筆ペンで書いてみる 課題㉑ 授業で視聴したDVDの披露宴受付時のパッドマナーをまとめておく</p>
13	<p>冠婚葬祭お付き合いのマナー 人生の祝い事（赤ちゃん・子どもの祝い事） 帯祝から十三参りまで 冠婚葬祭お付き合いのマナー 年中行事(1) 暦の基礎知識 お正月</p>	<p>課題⑳㉑の発表（実物投影機）・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「七五三の由来」3分 「お正月の過ごし方」30分(15分×2回)</p>	<p>課題㉒ 五節句・二十四節気・雑節について調べておく（A4判1枚）</p>
14	<p>冠婚葬祭お付き合いのマナー 年中行事(2) 1月から12月までの行事</p>	<p>課題㉒の発表・解説 教科書・配付資料・スライド DVD「節分」10分「ひな祭り」8分 「七夕の祝い」6分「8・9月の行事」15分「クリスマスって何？」5分</p>	<p>課題㉓ 自分の誕生月の行事を二つ以上取り上げ由来や祝い方等をまとめておく（A4判1枚）</p>
15	<p>冠婚葬祭お付き合いのマナー 弔問のマナー 葬式のスタイル 葬式の手順 お悔やみ電報 供物・供花 弔慰金 不祝儀袋の表書き 服装のマナー 通夜・告別式への参列のマナー</p>	<p>課題㉓の提出 教科書・配付資料・スライド DVD「お香典・お焼香悩み解決」12分 焼香・玉串奉奠・献花の演習 袱紗と不祝儀袋を使用しての演習 不祝儀袋の表書きの演習</p>	<p>課題㉔ 表書きを薄墨の筆ペンで書いてみる</p>
期末試験	後期末試験	筆記試験	後期末試験に向けて、教科書・配付資料等、既修内容を再確認

期末試験の講評

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、宮代キャンパスでのオフィスアワー等を通じて説明します。

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標A・B・L：後期末試験（筆記試験）50%
目標A・B：テーブルマナー演習（事前レポート5%・事後レポート15%）20%
目標A：小テスト①②（2回×5%）10%
目標A・L：小テスト③（1回：グループごとに実施）10%
目標A：課題⑳の内容10%
*その他、評価に関する共通理解に則る減点を総合点から行います。

教科書

*1年次「生活教養」で使用した教科書を使用します。
書名：新生活教養 ― 社会人としての基本マナー ―
著者名：近喰晴子・三村善美 他
発行所：建帛社
価格：2,000円（税別）
※授業内容に応じて参考資料を配付します。

その他補足事項

1. 配付資料を整理するための専用ファイル（A4判）を1冊準備してください。
2. 学外授業など、指定された場合にはスーツを着用してください。
3. 学外授業の日程、授業の進捗状況により、授業内容の入れ替えや授業内容の一部を変更する場合があります。
4. 遅刻をした場合は授業終了時に必ず申し出てください。（申し出がない場合は出席扱いとはしないので注意してください）
5. 学外授業「テーブルマナー演習」は履修者全員で実施します。必ず出席してください。
*12月中にウエディングエルティにて実施予定です。後期時間割確定後に日時を決定します。
6. 学外授業「テーブルマナー演習」食事代の一部として、一人あたり2,500円の実費を徴収します。
その他の経費は大学で補助します。

授 業 科 目 名	地域ボランティア活動		授業形態・単位数	実習・1単位
			開 講 年 次	1・2・3・4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：くさ か てる み 日 下 輝 美		開 講 期	時間割外
			授 業 回 数	時間割外
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月）		
社会貢献としての委員会・職 等		福島県子ども・子育て会議副会長、柴田町教育委員会委員 福島県社会福祉協議会評議員、日本地域福祉学会福島県地方委員		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了(修士(経営学)) 日本地域福祉学会、日本社会福祉学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
社会福祉の現状と課題を踏まえ、地域福祉への理解を深めながら地域貢献を目指し、自主的なボランティア活動を実践する。	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	○ D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力
	○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 社会福祉施設、地域、在宅及びボランティア団体での実習を通して、対人援助職としての心構えを身につけます。	目標	J・K・L
② ボランティア活動の意義・社会的役割の重要性を学びます。	目標	D

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業内容の説明 評価基準について ボランティアの基本的姿勢と心構え	演習	予習・復習：福島市内や出身市町村の社会福祉施設の概要について調べる。
2	実際のボランティア・NPO事例紹介 (社会福祉施設、地域、在宅、災害時等におけるボランティア・NPO活動)	演習	予習・復習：ボランティア、NPO活動の実践例のまとめ
3	実習事前オリエンテーション (実習日誌の作成方法) 社会福祉施設、地域活動でのボランティア (定期的訪問、行事参加等) ※基準時間35時間に達するまで	演習	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
4	ボランティア・地域振興活動体験発表会 (中間反省会：平成31年7月6日(土)予定) 実習事後指導		復習：ボランティア活動の振り返り ・責任ある行動 ・的確なコミュニケーション 上記の観点等から、実践上の課題等を整理する。
5	実習事後指導	実習のまとめ	
期末試験	実習のまとめレポートの提出		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>実習出勤簿等のボランティア実践を証するもの、実習日誌、まとめレポートの提出により単位認定します。</p> <p>目標 J・K・L：実習日誌の記録 (各30点)</p> <p>目標 D : レポートは10点満点の採点とする。課題(宿題)は授業で配付された資料や図書館等で調べレポートを作成し指定された期日まで提出すること。</p> <p>本科目は点数ではなく「認定の可否」で評価を行います。総計が59点未満は「不認定」となりますがGPAには反映されません。</p>			
教科書			
使用しない。			
その他補足事項			
<p>年度始めのオリエンテーション時に履修説明を行う。</p> <p>クラスセミナーの時間を活用した授業を基本とするが、別途時間設定する場合には、掲示にて指示する。</p>			

授 業 科 目 名	地域振興活動		授業形態・単位数	実習・1単位
			開 講 年 次	1・2・3・4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：くさ か てる み 日 下 輝 美		開 講 期	時間割外
			授 業 回 数	時間割外
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間		社会福祉法人柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月）		
社会貢献としての委員会・職 等		福島県子ども・子育て会議副会長、柴田町教育委員会委員 福島県社会福祉協議会評議員、日本地域福祉学会福島県地方委員		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了（修士（経営学）） 日本地域福祉学会、日本社会福祉学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目		選択必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>福島県内の歴史や文化、行事（イベント）の現状と課題を踏まえ、地域活性化への理解を深めながら地域貢献を目指し、自主的な活動を行う。</p> <p>実習にあたっては、特に、福島市の中心市街地で開催される行事（イベント）および、福島県、福島市、福島市本町商店街振興組合、中小企業同友会、青年会議所等団体（NPO含む）が企画する行事（イベント）に関わり、企画立案等の実体験を通して地域振興活動について学ぶ。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標		授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
事前学習で、福島県内の歴史や文化、行事（イベント）の現状を理解する。		目標 A
実習を通して、対人援助職としての心構えを身につける。		目標 D・I・L
地域振興活動の意義・社会的役割の重要性を学ぶ。		目標 A

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	授業内容の説明 評価基準について 地域振興活動と実習に当たっての基本的姿勢と心構え	演習	予習・復習：福島市内の行事について調べる。
2	ゲストスピーカーの招聘 福島市中心市街地、福島県内で開催される行事（イベント）や伝承、観光、まちづくり活動について	演習	予習・復習：実習内容選定
3	実習事前オリエンテーション (実習日誌の作成方法) 地域振興活動（NPO活動等を含む） (定期的訪問、行事参加等) ※基準時間35時間に達するまで	演習	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
4	ボランティア・地域振興活動体験発表会 (中間反省会：平成31年7月6日(土)予定) 実習事後指導		復習：活動の振り返り ・責任ある行動 ・的確なコミュニケーション 上記の観点等から、実践上の課題等を整理する。
5	実習事後指導	実習のまとめ	
期末試験	実習のまとめレポートの提出		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>実習出勤簿等のボランティア実践を証するもの、実習日誌、まとめレポートの提出により単位認定する。</p> <p>目標D・I・L：実習日誌の記録 (各30点)</p> <p>目標A : レポートは10点満点の採点とする。課題(宿題)は授業で配付された資料や図書館等で調べレポートを作成し指定された期日まで提出すること。</p> <p>本科目は点数ではなく「認定の可否」で評価を行います。総計が59点未満は「不認定」となりますがGPAには反映されません。</p>			
教科書			
特に使用しない。			
その他補足事項			
<p>年度始めのオリエンテーション時に履修説明を行う。</p> <p>クラスセミナーの時間を活用した授業を基本とするが、別途時間設定する場合には、掲示にて指示する。</p>			

授 業 科 目 名	音 楽 演 習		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	1 ・ 2 年 次
担 当 教 員	職名：兼担教授 氏名：山崎信政 <small>やま ざき のぶ まさ</small>		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	保育者養成校講師（昭和63年4月～平成12年3月） 幼稚園教諭（昭和55年4月～平成31年3月）			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福島県全私立幼稚園協会教育研究委員 国立市社会福祉協議会評議員			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	国立音楽大学音楽学部教育音楽学科卒業 芸術学士 白梅学院大学大学院修了 修士（こども学） 保育士資格・幼稚園教諭専修免許状・中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽） 日本保育学会会員・幼児教育史学会会員・日本乳幼児教育学会会員			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	教 養 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	宮 代 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	30時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー に つ い て は 初 回 授 業 時 に 説 明 す る 。			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
音楽を楽しみ、その楽しさを他と分かち合えることを目標とする。音楽を楽しむためには、スキルアップが必要であり、知的好奇心を持って自ら取り組む力を一緒に培っていききたい。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)
いろいろな楽器に触れ、奏法を習得する。	目標	A・B
童謡から歌謡曲までいろいろな分野の歌に触れ歌のレパートリーを広げる。	目標	A・B
コミュニケーションツールとしての音楽の幅を広げる。	目標	E・F
グループで音楽や表現活動を創り上げる。	目標	B・E・F

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 年間授業の流れと留意点。授業の進め方の確認		
2	いろいろな歌遊びを楽しむ 遊びの楽しさを他に伝えるために考察	ディスカッションしながら歌 遊びの楽しみ方を考える	授業配付プリントを読ん でおく
3	いろいろな歌遊びを楽しむ 遊びの楽しさを他に伝えるために考察	ディスカッションしながら歌 遊びの楽しみ方を考える	授業配付プリントを読ん でおく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	歌遊びを創作し楽しむ 遊びの楽しみを他に伝えるために考察	ディスカッションしながら歌遊びの楽しみ方を考える	授業配付プリントを読んでおく
5	いろいろな楽器に触れ親しむ	ディスカッションしながら歌遊びの楽しみ方を考える	授業配付プリントを読んでおく
6	いろいろな楽器に触れ親しむ、合奏を楽しむ	ディスカッションしながら歌遊びの楽しみ方を考える	授業配付プリントを読んでおく
7	いろいろな楽器に触れ親しむ、合奏を楽しむ ミニ発表会をする	ディスカッションしながら歌遊びの楽しみ方を考える	授業配付プリントを読んでおく
8	手作り楽器を作る 作った楽器で合奏をする	楽器を作り、協力して演奏をする	授業配付プリントを読んでおく
9	手作り楽器を作る 作った楽器で合奏をする	楽器を作り、協力して演奏をする	授業配付プリントを読んでおく
10	手作り楽器を作る 作った楽器で合奏をする	楽器を作り、協力して演奏をする	授業配付プリントを読んでおく
11	いろいろな分野の歌に触れる 歌のレパートリーを広げる	ディスカッションしながら歌遊びの楽しみ方を考える	授業配付プリントを読んでおく
12	いろいろな分野の歌に触れる 歌のレパートリーを広げる	ディスカッションしながら歌遊びの楽しみ方を考える	授業配付プリントを読んでおく
13	グループ毎に歌と合奏で音楽を創る	ディスカッションしながら自ら音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
14	グループ毎に歌と合奏で音楽を創る	ディスカッションしながら自ら音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
15	グループ毎に歌と合奏で音楽を創る ミニ発表会をする	ディスカッションしながら自ら音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
16	絵本や紙芝居に音楽を付ける	ディスカッションしながらグループ毎に音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
17	絵本や紙芝居に音楽を付ける	ディスカッションしながらグループ毎に音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
18	絵本や紙芝居に音楽を付ける ミニ発表会をする	ディスカッションしながらグループ毎に音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
19	寸劇に音楽を創作する	ディスカッションしながらグループ毎に音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
20	寸劇に音楽を創作する	ディスカッションしながらグループ毎に音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
21	寸劇に音楽を創作する ミニ発表会をする	ディスカッションしながらグループ毎に音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
22	自らテーマを設け音楽表現を創作する	音楽技術のスキルアップのために自ら取り組む	授業配付プリントを読んでおく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
23	自らテーマを設け音楽表現を創作する	音楽技術のスキルアップのために自ら取り組む	授業配付プリントを読んでおく
24	自らテーマを設け音楽表現を創作する ミニコンサートをする	音楽技術のスキルアップのために自ら取り組む	授業配付プリントを読んでおく
25	グループ毎に音楽表現を創作する	ディスカッションしながらグループ毎に音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
26	グループ毎に音楽表現を創作する	ディスカッションしながらグループ毎に音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
27	グループ毎に音楽表現を創作する	ディスカッションしながらグループ毎に音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
28	グループ毎に音楽表現を創作する	ディスカッションしながらグループ毎に音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
29	ミニコンサートをする	音楽技術のスキルアップのために自ら取り組む	授業配付プリントを読んでおく
30	グループ毎でミニコンサートをする	ディスカッションしながらグループ毎に音楽を創っていく	授業配付プリントを読んでおく
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>目標A・B : 授業内容に応じたレポートを提出する。30点満点の採点。 目標A・B・E・F : 毎回の授業の感想から各自の授業内容の取り組みを評価する。40点満点の採点。 目標E・F : 授業内容に応じた発表や、ミニコンサートでのグループ内での取り組み状況により評価する。30点満点の採点。</p>			
教科書			
特に教科書は使用せず、担当教員がその都度作成し、授業内容に即したプリントを配付する。			

授業科目名	美術演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼担教授 氏名：古 畑 雅 規		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	プロの画家・造形作家として2000年より、現在まで作品制作・個展などによる活動。			
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	名古屋芸術大学 美術学部 絵画科 洋画専攻 (芸術学士) 中学校・高等学校教諭一種免許状			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：furuhata.masanori fukushima-college.ac.jp			

授業の概要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
動物や植物などをモチーフに、デッサン、水彩画、ポスターカラーなどで描く。絵画としてモチーフそのものだけでなく、背景を描くことによりその場の臨場感や奥行きを出させ、絵本のような物語を感じさせる作品づくりを目指す。また、立体として平面同様動物や植物などをモチーフにして粘土細工などでオブジェなどを制作する。絵画には表現できない立体感や重量感、またモチーフそのものの質感を追求する。最後に絵画と立体の混合作品の制作もすることにより、現代美術の要素も学ぶ。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 作品の制作に対して、基本的な技法とその技術を学ぶ。	目標	A・B
② さまざまなアイデアを出し合い、工夫する。	目標	B・F
③ 意欲をもって楽しく学ぶ。	目標	F

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション	授業内容と計画の説明 (1) 授業の概要と目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 本科目の留意点など	
2	動物のオブジェの制作 ～形の成り立ち	板・アルミ箔・樹脂粘土などを使いオブジェを乗せるための土台づくり	制作する対象の資料を用意する
3	動物のオブジェの制作 ～骨格のバランス	アルミ箔・樹脂粘土などを使い動物の基礎の形づくり	身近な動植物の観察 (Web検索、写真撮影など)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	動物のオブジェの制作 ～形のボリューム感	アルミ箔・樹脂粘土などを使い肉付けする	身近な動植物の観察 (Web検索、写真撮影など)
5	動物のオブジェの制作 ～形のボリューム感	アルミ箔・樹脂粘土などを使い背景も同時に制作する	身近な動植物の観察 (Web検索、写真撮影など)
6	動物のオブジェの制作 ～形のボリューム感	樹脂粘土を使い細部に手を加え完成させる	身近な動植物の観察 (Web検索、写真撮影など)
7	動物のオブジェの制作 ～形のボリューム感	アクリル絵具などを使いおおまかに着彩	身近な動植物の観察 (Web検索、写真撮影など)
8	動物のオブジェの制作 ～絵具によるグラデーション	アクリル絵具などを使いグラデーションをとり入れて着彩	身近な動植物の観察 (Web検索、写真撮影など)
9	動物のオブジェの制作 ～プロポーシヨンとその背景	アクリル絵具などを使い全体のバランスを整え仕上げ。ニスを塗り完成	身近な動植物の観察 (Web検索、写真撮影など)
10	「未来の自分」を描く ～アイデアスケッチ	アイデアノート・鉛筆を使いテーマに沿って描くための準備作業	絵本などを閲覧
11	「未来の自分」を描く ～絵画の構図	アイデアノート・鉛筆 ダーマート(黒)を使い水彩紙に下描きをする	絵本などを閲覧
12	「未来の自分」を描く ～クレヨンの特性	クレヨンの使い方を知りながら描く	絵本などを閲覧
13	「未来の自分」を描く ～クレヨンの特性	クレヨンでの着彩の仕上げ	絵本などを閲覧
14	「未来の自分」を描く ～水彩絵具の特性	バックを水彩絵具で着彩して完成	絵本などを閲覧
15	授業のまとめ	作品の見直しや授業の感想	
期末試験	期末試験		
16	動植物を図形化して描く ～絵画やデザインの基礎	イラストボード・定規などで図形を描くための準備	定規やコンパス等で図形を描く練習をする
17	動植物を図形化して描く ～様々な図形	定規やコンパスの使用方法を学びながら正確に描けるようにする	定規やコンパス等で図形を描く練習をする
18	動植物を図形化して描く ～図形としてのバランス	図形を完成させる	空き時間などを使って制作を進める
19	完成させた図形に着彩 ～絵具の使い方	色相環を使いポスターカラーで着彩する	普段の生活の中でどのように色が利用されているか観察する
20	図形に着彩 ～混色の技法	色相環を使いポスターカラーで着彩する	普段の生活の中でどのように色が利用されているか観察する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	図形に着彩 ～色(明度)の効果	色相環を使いポスターカラーで着彩する	普段の生活の中でどのように色が利用されているか観察する
22	粘土を素材とする立体の風景の制作 ～制作の準備	制作する対象物のアイデアをまとめる	制作する対象の資料を用意する
23	粘土を素材とする立体の風景の制作 ～素材の特性	板・粘土を使い土台をつくる	粘土以外の素材を用意する
24	粘土を素材とする立体の風景の制作 ～ボリュームと質感	粘土で立体となる部分の制作	粘土以外の素材を用意する
25	粘土を素材とする立体の風景の制作 ～ボリュームと質感	粘土で立体となる部分の制作	身近な風景の色を観察する
26	粘土を素材とする立体の風景の制作 ～ボリュームと質感	粘土で立体となる部分を完成させる	身近な風景の色を観察する
27	粘土を素材とする立体の風景の制作 ～背景の効果	アクリル絵具で背景を描く	身近な風景の色を観察する
28	粘土を素材とする立体の風景の制作 ～全体のバランス	全体の色のバランスを考えて着彩	身近な風景の色を観察する
29	粘土を素材とする立体の風景の制作 ～仕上げ	ニス塗りをして完成させる	
30	授業のまとめ	作品の見直しや授業の感想	
期末試験	期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
目標B・F : 作品評価 70点(2作品の技術力、表現力など総合で評価) 目標A・B・F : 授業態度 20点(授業への意欲、質疑応答の内容などで評価) 目標A : 期末試験 10点(ペーパー試験)			
教科書			
教科書は使用しない。 その都度資料を配付する。			
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・材料費として2,700円を徴収する。 ・授業の進行状況により、授業内容が入れ替わることがある。 			

授 業 科 目 名	心 理 学 概 論		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 4 単 位
			開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 岸 良 範	よ しのり	開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	愛知教育大学、茨城大学、各臨床心理相談室相談員他 (平成12年4月～平成29年3月)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	日本臨床心理士資格認定協会理事、 専門職大学院認証評価判定委員会副委員長他			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了、文学修士 臨床心理士、心理臨床学会、箱庭療法学会、精神分析学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒業	教養教育科目	必修		
社会福祉士	教養教育科目	選択必修		
精神保健福祉士	教養教育科目	選択必修		
公認心理師	教養教育科目	必修		
認定心理士	教養教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワー：木曜日 メールアドレス：kishi.yoshinori fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
この授業は、人間を心理学の視点から理解し基礎知識、論理的思考力を身につけ、その過程の中で人間の多様性を理解し、それぞれの専門領域への応用への礎となることを目指します。また各回の授業では、その都度提示するテーマを様々な方法(簡単な実験を含む)で調べ、授業内で討論をするアクティブラーニングの方法をとり授業理解の確認のためにフィードバック用紙への記入と提出が要求されます。予習、復習にはその内容相応の時間が必要とされます。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)
心理学に関する正確な知識を身に付ける。	目標	A
論理的思考力を身に付ける。	目標	C
多様性への理解力、応用力を身に付ける。	目標	J

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	1. 心理学の成り立ち 2. 人の心理学的理解 (1) 脳の仕組みと感情・情緒	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
2	(2) 欲求・動機づけと行動	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	(3) 感覚・知覚・認知①	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
4	(3) 感覚・知覚・認知②	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
5	(3) 感覚・知覚・認知③	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
6	(4) 学習・記憶・思考①	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
7	(4) 学習・記憶・思考②	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
8	(5) 知能と創造性	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
9	(6) 様々な人格理論	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
10	(7) 集団と適応①	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
11	(7) 集団と適応②	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
12	(8) 人と環境①	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
13	(8) 人と環境②	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
14	(9) 人の成長・発達と心理①	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
15	(9) 人の成長・発達と心理②	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
期末試験	前期末試験		
16	(9) 人の成長・発達と心理③	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
17	(10) 日常生活と心の健康 ストレス反応	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
18	(10) 日常生活と心の健康 ストレス要因による心理的反応	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
19	(10) 日常生活と心の健康 ストレスからの回復	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
20	(11) 心理的支援の方法と実際 人格検査①	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	(11) 心理的支援の方法と実際 人格検査②	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
22	(11) 心理的支援の方法と実際 様々な検査①	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
23	(11) 心理的支援の方法と実際 様々な検査②	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
24	(11) 心理的支援の方法と実際 カウンセリングの概念①	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
25	(11) 心理的支援の方法と実際 カウンセリングの概念②	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
26	(12) 心理的支援の方法と実際 カウンセリングとソーシャルワーク	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
27	(12) 心理的支援の方法と実際 精神医学的視点 DSM-5	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
28	(12) 心理的支援の方法と実際 心理療法①	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
29	(12) 心理的支援の方法と実際 心理療法②	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
30	(12) 心理的支援の方法と実際 心理療法③	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
期末 試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標 A・C：筆記試験・記述方式のテストを各学期末に実施（成績全体の60パーセント） 目標 J：小レポートの評価、理解度の確認のためのフィードバックを含む。（成績全体の40パーセント）			
教科書			
使用しない。			
その他補足事項			
本科目は、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師3つの国家資格の指定科目となっている。学生一人ひとりの進路希望等に合わせて、随時相談に応じながら、学生の理解の一助となるテキストや参考書を紹介する。			

授 業 科 目 名	心理学 (旧カリ)		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	3年次以上
担 当 教 員	職名：教授 氏名：岸 良 範	よし のり	開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	愛知教育大学、茨城大学、各臨床心理相談室相談員他 (平成12年4月～平成29年3月)			
社会貢献としての委員会・職 等	日本臨床心理士資格認定協会理事、 専門職大学院認証評価判定委員会副委員長他			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了、文学修士 臨床心理士、心理臨床学会、箱庭療法学会、精神分析学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	必修		
社会福祉士	教養教育科目	選択必修		
精神保健福祉士	教養教育科目	選択必修		
公認心理師	教養教育科目	必修		
認定心理士	教養教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワー：木曜日 メールアドレス：kishi.yoshinori fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
この授業は、人間を心理学の視点から理解し基礎知識、論理的思考力を身につけ、その過程の中で人間の多様性を理解し、それぞれの専門領域への応用への礎となることを目指します。また各回の授業では、その都度提示するテーマを様々な方法(簡単な実験を含む)で調べ、授業内で討論をするアクティブラーニングの方法をとり授業理解の確認のためにフィードバック用紙への記入と提出が要求されます。予習、復習にはその内容相応の時間が必要とされます。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
心理学に関する正確な知識を身に付ける。	目標	A
論理的思考力を身に付ける。	目標	C
多様性への理解力、応用力を身に付ける。	目標	J

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1. 心理学の成り立ち 2. 人の心理学的理解 (1) 脳の仕組みと感情・情緒	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
2	(2) 欲求・動機づけと行動	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	(3) 感覚・知覚・認知①	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
4	(3) 感覚・知覚・認知②	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
5	(3) 感覚・知覚・認知③	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
6	(4) 学習・記憶・思考①	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
7	(4) 学習・記憶・思考②	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
8	(5) 知能と創造性	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
9	(6) 様々な人格理論	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
10	(7) 集団と適応①	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
11	(7) 集団と適応②	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
12	(8) 人と環境①	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
13	(8) 人と環境②	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
14	(9) 人の成長・発達と心理①	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
15	(9) 人の成長・発達と心理②	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
期末試験	前期末試験		
16	(9) 人の成長・発達と心理③	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
17	(10) 日常生活と心の健康 ストレス反応	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
18	(10) 日常生活と心の健康 ストレス要因による心理的反応	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
19	(10) 日常生活と心の健康 ストレスからの回復	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習
20	(11) 心理的支援の方法と実際 人格検査①	講義及びグループにおけるディスカッション	配付資料及び参考文献の予習・復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	(11) 心理的支援の方法と実際 人格検査②	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
22	(11) 心理的支援の方法と実際 様々な検査①	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
23	(11) 心理的支援の方法と実際 様々な検査②	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
24	(11) 心理的支援の方法と実際 カウンセリングの概念①	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
25	(11) 心理的支援の方法と実際 カウンセリングの概念②	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
26	(12) 心理的支援の方法と実際 カウンセリングとソーシャルワーク	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
27	(12) 心理的支援の方法と実際 精神医学的視点 DSM-5	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
28	(12) 心理的支援の方法と実際 心理療法①	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
29	(12) 心理的支援の方法と実際 心理療法②	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
30	(12) 心理的支援の方法と実際 心理療法③	講義及びグループにおける ディスカッション	配付資料及び参考文献の 予習・復習
期末 試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標 A・C：筆記試験・記述方式のテストを各学期末に実施（成績全体の60パーセント） 目標 J：小レポートの評価、理解度の確認のためのフィードバックを含む。（成績全体の40パーセント）			
教科書			
使用しない。			
その他補足事項			
本科目は、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師3つの国家資格の指定科目となっている。学生一人ひとりの進路希望等に合わせて、随時相談に応じながら、学生の理解の一助となるテキストや参考書を紹介する。			

授 業 科 目 名	法 学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	3・4年
担 当 教 員	職名：非常勤講師		開 講 期	前期
	氏名：中 ^{なか} 里 ^{ざと} 真 ^{まこと}		授 業 回 数	15回
	(本務先：福島大学 職名：准教授)		期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等		福島県立医科大学臨床研究委員会委員、福島県公有財産審議会会長 福島県消費生活審議会会長、福島市民の消費生活を守る対策会議会長		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		日本私法学会、日本消費者法学会、日本観光学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応。電子メール対応も可。 メールアドレス：nakazato_ads.fukushima-u.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
市民的教養として法学を習得し、市民社会の中で遭遇する法的紛争に対する問題解決能力を養えるようになることが目標である。具体的には以下の到達目標それぞれについて理解することが求められる。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 日常生活に法がどのように関与しているか。	目標	A
② 私法・公法の役割は何か。	目標	A・J・K
③ 契約とは何か。	目標	A・C・K
④ 家族の法の関係。	目標	A・J
⑤ 紛争の解決方法。	目標	A・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス ・授業内容と評価方法 ・学校生活と法	授業計画案内	シラバスの内容を確認
2	イントロダクション ・社会生活と法	レジュメ配付	教科書序章を事前に読む
3	公法と私法	レジュメ配付	教科書7章、11章を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	裁判と法	レジュメ配付	教科書12章を事前に読む
5	裁判員制度の理解を深める	DVD視聴 「昔話法廷」20分	第4回授業で扱った内容を復習する
6	人間の生死と法 ・法的にはいつからいつまでが人なのか	レジュメ配付	教科書1章、14章を事前に読む
7	こどもと法 ・親子関係に関する法	レジュメ配付	教科書1章、2章を事前に読む
8	高齢者と法 ・高齢者を取り巻く法的問題	グループディスカッション (冒頭20分) (レジュメ配付)	教科書13章を事前に読む
9	住居と法 ・戸建て住宅と共同住宅	レジュメ配付	教科書6章を事前に読む
10	契約と法 ・契約の成立と拘束力	レジュメ配付	教科書5章を事前に読む
11	消費者と法(1) ・消費者という考え方	レジュメ配付	教科書5章を事前に読む
12	消費者と法(2) ・食の安全と製造物責任法	レジュメ配付 (指名しての意見聴取を含む)	第10回、第11回の内容を復習する
13	労働と法の関係 ・職業と法	レジュメ配付 学生の身近な例を紹介してもらう	教科書3章を事前に読む
14	情報と法	レジュメ配付	教科書8章を事前に読む
15	まとめ		これまで配付した資料に目を通す
期末試験	筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
各授業・最終講義時の課題で成績判定を行う。基準は上記「到達目標」の①～⑤に照らして、下記の通りとする。			
80点以上：すべての項目がきわめて高い水準に達している。			
79～70点：全ての項目が高い水準に達している。			
69～60点：全体的に望ましい水準に達している。			
59点以下：不合格			
教科書		参考書	
書名：『市民社会と法【第4版】』 著者名：中川淳（編集） 発行所：法律文化社 価格：2,300円（税別）		書名：ポケット六法 平成31年度版 著者名：山下友信、宇賀克也（編集代表） 発行所：有斐閣 価格：1,852円（税別）	
その他補足事項			
授業中、条文に触れる機会があるため、参考書に挙げたポケット六法（有斐閣）やデイリー六法（三省堂）など小型の六法を用意することが望ましい。また、教室を巡回し、条文の読みあげをしてもらうことがあるほか、上記に示した回以外にも指名して意見を挙げてもらうことがある。受講者はその準備しておくこと。			

授 業 科 目 名	社 会 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職 名 : 非 常 勤 講 師 氏 名 : 牧 田 実 (本務先: 福島大学 職名: 教授)	まき た みのる	開 講 期	後 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	福島大学教員 (平成7年4月~現在に至る) 等			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	伊達市障害活躍のまち運営推進協議会 (会長) 玉川町まち・ひと・しごと総合戦略有識者会議 (座長) 特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター理事長			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程短期取得退学、学術修士 日本社会学会、地域社会学会、コミュニティ政策学会、都市計画学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	教 養 教 育 科 目	選 択		
社 会 福 祉 士	教 養 教 育 科 目	選 択 必 修		
精 神 保 健 福 祉 士	教 養 教 育 科 目	選 択 必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	授 業 終 了 後 に 教 室 で 質 問 等 に 対 応 E-mail Makita educ.fukushima-u.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
初学者を対象に社会学の基礎を講じる。 授業では社会学の「古典理論」をそれぞれの理論家たちが生きた「現代」との格闘の記録として位置づけ、これを知的な道具として現代日本社会の諸問題を考えていきたい。具体的には、代表的な社会学理論のエッセンスをできるだけ平易に解説し、ついでその視角から現代社会の社会と文化をめぐる現実の問題にアプローチしていく。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)
社会学理論のエッセンスを理解できる。	目標	A
現代日本の社会・文化状況を社会的に捉えることができる。	目標	C
現代日本の社会・文化的状況について自分なりに論述することができる。	目標	D

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 、 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	ガイダンス ～社会学の基本的性格	講義、シラバス 質疑応答	シラバスを読んでおく
2	自殺と社会(1) ～自殺の社会的分析	講義・配付資料 質疑応答	配付資料を読んでおく
3	自殺と社会(2) ～自殺と社会の類型	講義・配付資料 質疑応答	小レポートを課す

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	自殺と社会(3) ～現代日本と自殺	講義・配付資料 質疑応答、レポート発表	小レポートのふりかえり
5	宗教と資本主義(1) ～プロテスタントと資本主義	講義・配付資料 質疑応答	小レポートを課す
6	宗教と資本主義(2) ～日本資本主義の理念的要因	講義・配付資料 質疑応答、レポート発表	小レポートのふりかえり
7	自由からの逃走(1) ～ナチズムと権威主義的性格	講義・配付資料 質疑応答	小レポートを課す
8	自由からの逃走(2) ～日本のファシズムと自由の問題	講義・配付資料 質疑応答、レポート発表	小レポートのふりかえり
9	孤独な群集(1) ～他人思考型パーソナリティ	講義・配付資料 質疑応答	小レポートを課す
10	孤独な群集(2) ～現代社会の若者と社会的性格	講義・配付資料 質疑応答、レポート発表	小レポートのふりかえり
11	潜在的機能(1) ～意図せざる結果	講義・配付資料 質疑応答	ワークシート
12	潜在的機能(2) ～予言の自己成就	講義・配付資料 質疑応答	ワークシート
13	日本生活の社会学(1) ～社会的行為	講義・配付資料 質疑応答	ワークシート
14	日本性格の社会学(2) ～相互行為の秩序	講義・配付資料 質疑応答	ワークシート
15	まとめとふりかえり ～社会学で学んだこと	講義・配付資料 質疑応答	全体のふりかえり
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、メール等で説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標A・B・C：期末筆記試験（60点）、小レポート（40点）			
教科書		参考書	
使用しない。		授業時に随時紹介する。	
その他補足事項			
本科目は、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の指定科目である。国家試験の出題基準に準じて、随時、解説を含める。			

授 業 科 目 名	癒しと心		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	H31入学 1年次 H29以前入学 3・4年次
担 当 教 員	職名：兼任教授 氏名：梅 宮 れいか		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし			
社会貢献としての委員会・職等	日本学校心理士会福島支部会長、日本臨床発達心理士会研修委員			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東海大学大学院文学研究科博士課程(文学修士) 健康医学会、健康心理学会 学校心理士スーパーバイザー、臨床発達心理士スーパーバイザー			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目 3・4年次は専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは、火曜日午後、宮代キャンパス研究室にて メールアドレス：umemiya.reika@fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>この授業は、ストレスと人体、社会生活との関係を理解し、ストレスマネジメントの方略について学びます。</p> <p>授業は前半6回をストレスについての基礎知識、後半8回を癒しの手法についてとりあげます。各回の授業内容と、そのつど提示するテーマを図書館を活用して調べ、二方向から学修を発展させるアクティブラーニングで、癒しの基礎を身につける授業とします。</p> <p>予習では必ずテーマを解決し、全員にレビューを授業開始時に提出してもらいます。授業冒頭で提出されたレビューを担当教員が概読、質問に答えるとともに、冒頭のディスカッションの材料とします。レビューを作るのに、2～3時間程度の時間を想定しています。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	○	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
ストレスに関する正確な知識を身に付ける。	目標	A
ストレスマネジメントの初歩的な方略を身に付ける。	目標	B
まごころを持って、癒しを提供できるセンスを磨く。	目標	H

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	現代人とストレス	授業の進め方の説明をします。	必ずB5版以上のノートを持参してください。
2	～ストレスがまねく うつ	予習のレビューで、有用なものをディスカッションテーマとし、授業の導入とします。 DVD「病の起源 うつ」16分	予習：レビューテーマ「朝食抜きと学力不振の関係について」400字

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	ストレスと自律神経 ～ストレスが生まれるシステム	予習レビューの授業導入活用 DVD「ストレスの最新治療」 12分	予習：レビューテーマ 「寒い朝に恋の告白は成功するか？」 400字
4	ストレスと生活習慣病 ～ストレスが生活習慣病を作り出す	予習レビューの授業導入活用 DVD「ストレスと生活習慣病」 17分	予習：レビューテーマ 「生活習慣病とは何か？」 400字
5	ストレスと老化 ～ストレスホルモンと老化、がんの関係	予習レビューの授業導入活用 DVD「キラーストレス」 16分	予習：レビューテーマ 「がんの免疫療法とは？」 400字
6	ストレスと健康格差 ～経済力と健康について	予習レビューの授業導入活用 DVD「現代人とストレス」 12分	予習：レビューテーマ 「アメリカ国内の経済格差とは？」 400字
7	アロマセラピー 1 ～アロマセラピーの歴史、香料の抽出方法	予習レビューの授業導入活用 DVD「精油物語」 16分	予習：レビューテーマ 「クリスマスの香料について」 400字
8	アロマセラピー 2 ～芳香浴、室内環境での活用法	予習レビューの授業導入活用 実際に精油を使って、ケモタイプを含むピュアナチュラル、偽和、ネイチャーアイデンティカルの違いを体験します。	予習：レビューテーマ 「東洋医学と西洋医学の違い」 400字
9	リフレクソロジー事故の問題 ～危険な慰安産業の実態	予習レビューの授業導入活用 DVD「クローズアップ現代、リフレクソロジー事故の実態」 30分	予習：レビューテーマ 「リフレクソロジーの定義」 400字
10	ユマニチュード ～最新のストレス対処法 1	予習レビューの授業導入活用 DVD「Humanitude」 20分	予習：レビューテーマ 「激怒する老人の実態」 400字
11	PTSDとEMDR ～最新のストレス対処法 2	予習レビューの授業導入活用 DVD「ストレスの最新治療」 23分	予習：レビューテーマ 「津波のストレスについて」 400字
12	マインドフルネス ～最新のストレス対処法 3	予習レビューの授業導入活用 DVD「ストレスと現代の癒し」 26分	予習：レビューテーマ 「マインドワンダリングとは？」 400字
13	痛みと癒し	予習レビューの授業導入活用 DVD「がんの痛みからの解放」 33分	予習：レビューテーマ 「疼痛の3分類について」 400字
14	死と癒し	予習レビューの授業導入活用 DVD「ひとの生病老死、尊厳死」 37分	予習：レビューテーマ 「死の受容の5段階について」 400字
15	総ディスカッション テーマ「現代社会にもとめられる癒しと『真心』の接点とは？」	ディスカッションはテーマにいたるまで、レポートに関する複数の質問をします。	予習：総ディスカッションの準備としてレポートの提出を求めます。
期末試験	期末試験期間に行います	論述題 3問	

期末試験の講評	
<p>希望者には、総ディスカッション準備レポート、期末試験の講評をオフィスアワーで行います。メールでアポイントのこと。</p>	
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）	
<p>目標A・B：期末試験（各30点の平均値） 目標H：総ディスカッションの発言20点満点、準備レポート20点満点 目標A・B・H：レビュー40点満点、出席：15点満点、総計125点満点で評価 （100点を超えたものは一律100点とする）。 ほか、評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行います。</p>	
教科書	参考書
<p>使用しない。</p>	<p>書名：ストレスの生物学（絶版） 著者名：室伏きみ子 発行所：オーム社</p> <p>書名：ニールズヤード式アロマテラピーレッスン 著者名：ニールズヤード スクール オブ ナチュラルメ ディスンズ 発行所：河出書房新社；改訂新版</p>
その他補足事項	
<p>全員に毎回、レビューテーマの小レポートの提出を求めます。ネットで調べたような内容ではなく、図書館で文献にあたって調べたものを高く評価します。総ディスカッションは、発言した者のみ加点の対象となります。</p>	

授 業 科 目 名	食生活と健康		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：客員准教授 氏名：中 村 啓 子		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	実務経験40年			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県健康ふくしま21推進協議会委員、福島市健康づくり推進協議会委員			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	資格・免許 管理栄養士 所属学会 日本栄養改善学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
現代社会において健康維持・増進に抗う複雑で困難な問題が表出している。本講義では、栄養を受け摂る人体のしくみや何をどれだけ摂ればよいか等の基本的課題、さらに、食べることを様々な角度から捉え、新しい健康づくりが必要とされる日常生活の中での栄養と健康、栄養と疾病について解説する。	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
生命維持に必要な栄養素の機能について理解し、日々、摂取している職の内容が適切なものとなっているか判断でき、自分の健康を守るための正しい食行動を実践できるようになる。	目標	A・K
得られた知識を自らの能動的な学びで発展させ、社会の広い場面で健康維持・増進、疾病予防のために応用・実践できるようになる。	目標	A・D・I・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と到達目標(授業内容) 評価方法・授業の進め方と留意点 第一章 健康と栄養 栄養とは 栄養の歴史	授業計画 DVD視聴(生体エネルギー32分) 教科書、パワーポイントを用い説明する	
2	第一章 健康と栄養 健康の概念 健康の三大原則	教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書 p13-20を一読する 復習：練習問題
3	第二章 食品の成分と機能1 炭水化物、脂質、タンパク質	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書 p21-29を一読する 復習：練習問題

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	第二章 食品の成分と機能2 ビタミン、ミネラル 水	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書 p 80-35 を一読する 復習：練習問題
5	第二章 食品の成分と機能3 一次機能 二次機能 三次機能	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書 p 36-38 を一読する 復習：練習問題
6	第三章 からだのしくみと栄養素1 細胞、組織器官、ホルモン、酵素 食欲とその調節	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書 p 39-44 を一読する 復習：練習問題
7	第三章 からだのしくみと栄養素2 消化器の機能 消化液の分泌	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書 p 44-46 を一読する 復習：練習問題
8	第三章 からだのしくみと栄養素3 栄養素の消化・吸収 栄養素の輸送・代謝 エネルギー代謝、食品のエネルギー量	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	復習：各回の練習問題を 十分理解して小テストに 備える勉強
9	第五章 栄養状態の評価1 食事調査、生活習慣状況 身体測定、臨床検査	小テスト(範囲：1-8回) 学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：小テストに備える 勉強 復習：練習問題
10	第五章 栄養状態の評価2 日本人の食事摂取基準 食事バランスガイド 健康づくりのための身体活動指針	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書 p 55-62 を一読する 復習：練習問題
11	第六章 ライフステージと栄養 胎児から成長期の栄養 成人期の栄養 高齢期の栄養	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	復習：各回の練習問題を 十分理解して小テストに 備える勉強
12	第七章 日常生活と栄養 ストレスと栄養 免疫と栄養	小テスト(範囲：9-11回) 学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：小テストに備える 勉強 復習：練習問題
13	第八章 生活習慣病と栄養1 生活習慣病の概要 肥満、糖尿病、脂質異常症	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書 p 107-112 を一読する 復習：練習問題
14	第八章 生活習慣病と栄養2 高血圧、動脈硬化 生活習慣病の予防と食生活	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書 p 112-116 を一読する 復習：練習問題
15	第九章 現代社会の食と栄養 食品の安全性 食生活の多様化 まとめ 1-15回の学習内容を振り返る	学生による復習発表 教科書、パワーポイント 練習問題と解説	予習：教科書 p 117-128 を一読する 復習：練習問題
期末 試験	1-15回で学習した総合試験		期末試験に向け十分に勉 強する

期末試験の講評

期末試験終了後、模範解答を公表します。

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標 A・D：筆記試験 記述方式の前期末試験70点満点

目標 A・D：小テスト 2回（15点満点×2）30点満点

目標 I・K：学生による復習発表の充実度によって、上記テスト成績に加点・減点を行う。

その他、評価方法・基準に関する詳細は初回授業時に説明する。

教科書

書名：健康づくりの栄養学

著者名：小林修平 編著

発行所：建帛社

価格：2,200円（税別）

その他補足事項

授業内容は進行状況により変更することがある。

授 業 科 目 名	英 会 話 I		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：サインブヤン オドバヤル (本務先：リングイスト語学スクール)		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間		特記事項なし		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		特記事項なし		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		特記事項なし		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業		教 養 教 育 科 目	選 択 必 修	
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	30 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		オ フ ィ ス ア ワ ー に つ い て は 初 回 授 業 時 に 説 明 す る		

詳細は別紙で配付する。

授 業 科 目 名	英 会 話 Ⅱ		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職 名 : 兼 任 講 師 オカンボ メリッサ ブラザ 氏 名 : Ocampo Merissa Braza		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間		特 記 事 項 な し		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		— 留 学 研 修 指 導 シンガポール 平成29年 — 現 在		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		博 士 (北 海 道 大 学) 教 育 学 部、教 師 認 可 試 験 (フ ィ リ ピ ン) 衛 生 検 査 官 国 家 委 員 会 の 検 査 (フ ィ リ ピ ン)、 英 語 教 授 法 資 格 (日 本)、言 語 学 習 の 国 際 心 理 学 会 員、 日 本 大 学 英 語 教 育 学 会 (ジ ャ セ ー ト) 会 員 全 国 語 学 教 育 学 会 (ジ ャ ー ル ト) 会 員 Mind, Brain, and Education JALT SIG		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業		教 養 教 育 科 目	選 択 必 修	
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		オ フ ィ ス ア ワ ー は 初 回 授 業 時 説 明 し ます。 メ ー ル ア ド レ ス : ocampo.merissa@fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>アメリカの心理学者、ジェームズ・Wによれば、「ストレスに対する最大の武器は、ある考えを別の考えよりも選ぶ能力です」。選択がいっぱいの最近の世界では、明らかに私たち全員が不安やストレスを抱えがちです。このコースは学習者自身の精神的健康のケアをする手助けをします。彼らは自分の頭脳の力をどのように高めるかを学びます。前向きで、幸せで、他人や自分自身への思いやりのある人になるということです。</p> <p>実践的心理学についての理解を英語で深めるために、ポジティブ心理学に関する小セミナーを開催する予定です。英語でポジティブ心理学を学ぶことの重要性について、参加、処理、議論の分析、概念の現実への適用を生徒に奨励することを目的としています。家族環境モード（アットホームな雰囲気）アプローチ（FEMA）により、生徒は間違いを積極的に受け入れることができ、教室でストレスフリーになります。</p> <p>— 2020年のオリンピックに備えて、英語のクラスはEnglish Zone Only (EZO) という英語のグループを形成します。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	K 課題対処力	
	○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
英語での実践的心理学は、学生を育成することを目的としています。英語で心理学に興味を持ち、最近の問題を国際的に理解するための知識を評価する。	目 標	A
他の学生やメンタルヘルスの専門家とのコラボレーションを通じて、自己慈悲や前向きな心理学的活動など、さまざまな研究や自己啓発活動を行う能力。	目 標	I・L
実践的なテクニックを使って心理的理解、調査結果、議論そして結論を伝える能力。	目 標	I
社会的、文化的理解を深めるために必要な心理的知識の評価。	目 標	L

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	第1学期 オリエンテーション ・一年分の授業の進め方、評価の方法、英会話の習得のコツ Lesson 1 : Never Fail : Achieving Your Goals レッスン 1 : 怠らない : 目標を達成する	テキスト・CD グループリーディング、リスニングと話し合い (CD)	Unit 1.1 (p. 1 - 2) 予習 : 自分か他の人に対して守れた約束と守れなかった約束を二つ書いて下さい。なぜ守れたのかと守れなかったのかという理由をレポート用紙に書いてくる。
2	Lesson 2 : Achieving your goals : Motivation レッスン 2 : あなたの目標を達成する : 動機付け	テキスト・CD 批判的思考と自己反省 (質問のリスト)	Unit 1.2 (p. 3 - 4) 復習 : 目標を達成するためになぜ「意志の力」が必要なのでしょう。
3	Lesson 3 : FYI : Cyberpsychology レッスン 3 : 参考までに : サイバー心理	テキスト・CD グループディスカッション (CD)	Unit 2.a (p. 5 - 6) 予習 : サイバー心理学とは何ですか?
4	Lesson 4 : Social Media Anxiety Disorder (SMAD) レッスン 4 : ソーシャルメディア不安障害	プリント使用 シンクーパーシェア	Unit 2.b (p. 7 - 8) 復習 : ソーシャルメディアの長所と短所を書きます。
5	Lesson 5 : Kick it! Addictions Old and New レッスン 5 : もうやめよう! 昔と今の依存症	テキスト・CD プリント使用 新しい習慣と古い習慣についてクラスの生徒にインタビューする	Unit 3.a (p. 9 - 10) 予習 : あなたがやめられない習慣を書きなさい、そして、なぜ?
6	Lesson 6 : Activity about past, present, and future-self レッスン 6 : 過去・現在・未来に関する活動 - 自己	プリント使用 問題をベースとした学習 — 福島市での国際イベントへの参加を奨励する	Unit 3.b (p. 11 - 12) 復習 : インターネットの乱用障害とは何ですか?
7	Lesson 7 : Mind Over Matter : Boosting Brain Power レッスン 7 : 問題を克服する頭脳 : 脳の力を高める	テキスト・CD プリント使用 協力的なケース (小グループがシナリオベースの問題解決活動に参加し、リストからの質問/問題に取り組む)	Unit 4. (p. 13 - 16) 予習 : 「心を浪費するのはひどいことです」についてあなたは何を理解していますか?
8	Lesson 8 : Growth mindset and Fixed mindset レッスン 8 : 成長マインドと固定マインド	プリント使用 成長と固定観念の長所と短所についての議論	予習 : あなたはあなたの脳が成長すると信じていますか?
9	Lesson 9 : The Artist in You : Fostering Creativity レッスン 9 : あなたの中の芸術家 : 創造力を育てる	テキスト・CD プリント使用 金魚鉢 (3 ~ 4人のグループが教室の前に座り、割り当てられたトピックについて教室全体に聞こえるように話し合う)	Unit 5. (p. 17 - 20) 復習 : 校外の環境も含めて、福島学院駅前キャンパスをどのように改善するかというアイデアを考えてください。
10	Lesson 10 : Neuro-linguistic Programming activity レッスン 10 : 神経言語プログラミング活動	プリント使用 シミュレーションロールプレイ 神経言語プログラミングに関するミニカンファレンスにスピーカーを招待する (可能であれば)	予習 : 考え方を育てるには?

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
11	Lesson 11 : Don't worry! Handling Stress and Anxiety レッスン 11 : 心配無用! ストレスと不安に対処する	テキスト・CD プリント使用 ピアティーチング	Unit 6. (p .21-24) 予習 : ストレスや不安にどう対処しますか。
12	Lesson 12 : Activity (FLCAS) and Necomimi to check stress and anxiety in learning English レッスン 12 : 英語学習におけるストレスと不安をチェックする活動 (FLCAS) とネコミミ	プリント使用 ネコミミ感情検出器マシン 問題をベースとした学習	予習 : 脳のどの部分が、恐怖、幸福、ストレスなどの感情を支配していますか?
13	Lesson 13 : Best Behavior : A better, Nicer You レッスン 13 : 最高の振る舞い : より素晴らしく、ステキなあなたへ	テキスト・CD 協力的なケース (小グループはリストからの質問/問題に取り組むためにシナリオベースの問題解決活動に取り組む。)	Unit 7. (p .25-28) 予習 : あなたは「赤い羽」、「赤十字」などのような慈善団体に募金しますか? なぜ?
14	Lesson 14 : Compassion activities レッスン 14 : 哀れみと同情のある活動	プリント使用 生徒の理解度を評価するための形成的クイズ/アンケート	復習 : 哀れみと同情の重要性
15	Lesson 15 : About Face : Appearance and Personality レッスン 15 : 顔について : 外見と人格	テキスト・CD プリント使用 外見と人格の重要性についての議論	Unit 8. (p .29-32) 予習 : この有名なことわざをどのように理解しますか。「表紙で本を判断しないでください」
期末試験	前期末試験 1. Research group Presentation : Option : either debate, research, meditation technique or role-playing. 2. Written test 研究グループ発表 : 選択肢 : 討論、研究、瞑想のテクニック、またはロールプレイング。 筆記テスト		
16	Lesson 16 : Mars or Venus : Gender and Mental Health レッスン 16 : 火星か金星 : ジェンダーと精神的健康	テキスト・CD プリント使用 協力的なケース (小グループはリストからの質問/問題に取り組むためにシナリオベースの問題解決活動に従事する) と議論。	Unit 9. (p .33-36) 予習 : 「男性は女性より強いです。」についてあなたの意見は?
17	Lesson 17 : For the Children's Sake : Effective Parenting レッスン 17 : 子供のために : 効果的な子育て	テキスト・CD 協力的なケース (小グループはリストからの質問/問題に取り組むためにシナリオベースの問題解決活動に従事する) と議論する。	Unit 15. (p .57-60) 予習 : 私たちが好きな仕事を選ばなければならないのはなぜですか?
18	Lesson 18 : Good Job : Practical Psychology at Work レッスン 18 : いいぞ! : 実践心理学	テキスト・CD プリント使用 考察と結論	Unit 10. (p .37-40) 復習 : あなたは簡単にあなたの夢を追求するのをやめますか?

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	Lesson 19 : It's All Good : Happiness and Positive Psychology レッスン 19 : 本当に素晴らしい : 幸福と前向きな心	テキスト・CD プリント使用 ピアスマールトーク : 生徒たちが批判的に考え、より多くの人々と関わり合い、幸福についてより深く理解するように促します。	Unit 16. (p.61-64) 予習 : どうやって自分を幸せにしますか?
20	Lesson 20 : Activities and workshop about happiness and positive psychology レッスン 20 : 幸福と前向きな心理学に関する活動とワークショップ	プリント使用 協力的なケース (小グループはリストからの質問/問題に取り組むためにシナリオベースの問題解決活動に取り組む。)	復習 : ワークショップを30分で見直す。
21	Lesson 21 : Seminar about Positive Psychology in Learning English (invite a speaker) レッスン 21 : 英語学習におけるポジティブ心理学に関するセミナー (講演者を招待)	プリント使用 招待講演者によるセミナー 生徒にトーク中に学んだことを理解し、分析し、評価させる。	予習 : 講義を聞いて、その話についてのあなたの印象や意見を書いてください。
22	Lesson 22 : Self-Compassion レッスン 22 : 自己慈悲、哀れみと同情	プリント使用 ピアスマールトーク : 生徒たちに、より批判的に、より積極的に考え、より深い理解をもたらすよう促す。	予習 : 自己慈悲と自尊心を区別する?
23	Lesson 23 : Self-compassion workshop レッスン 23 : 自己哀れみと同情ワークショップ	プリント使用 自己受容とピアワークショップ (グループで練習して練習スキルを習得。)	予習 : 私は自分自身に同情することができますか?
24	Lesson 24 : Your relationship with yourself レッスン 24 : あなたとあなたの関係	プリント使用 自己ピア形成的評価	予習 : 自己哀れみの方法の使い方は?
25	Lesson 25 : The map to self-compassion レッスン 25 : 自己哀れみと同情への方法	プリント使用 ピアティーチング : 自己慈悲評価調査	復習 : 自己哀れみの方法のジャーナルシート
26	Lesson 26 : Natural Compassion レッスン 26 : 当然な哀れみと同情	プリント使用 自己受容とピアワークショップ	復習 : 自己哀れみの方法のジャーナルシート
27	Lesson 27 : So Sad : Depression in Japan レッスン 27 : とても悲しい : 日本の鬱	テキスト・CD プリント使用 自己ピア形成的評価	Unit 13. (p.49-52) 予習 : 体と心を大切にすることとは?
28	Lesson 28 : Cultivating Joy レッスン 28 : 喜びを育てる	プリント使用 自己ピア形成的評価	予習 : 私たちは苦しみをどのように抱えられるか?
29	Lesson 29 : Color Blind : Overcoming Prejudice レッスン 29 : 人種差別をなくす : 偏見を克服する	テキスト・CD プリント使用 協力的なケース (小グループはリストからの質問/問題に取り組むためにシナリオベースの問題解決活動に取り組んでいます。)	Unit 14. (p.53-56) 復習 : 喜びを増やすためのやり方と他の代替の方法とは?

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
30	Lesson 30 : Case study research Pre-presentation レッスン 30 : ケーススタディ 研究発表会	プリント使用 自己ピア形成的評価	復習 : 生活における実践的心理学の重要性
期末試験	Workshop application Test 1. Receiving compassion from someone else 2. Sending compassion to yourself 3. Healing the past Practice ワークショップアプリケーションテスト 1. 他人から思いやりを受け取る 2. 思いやりを自分に送る 3. 過去の行動を癒す		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>目標 A : 前期・後期末試験 (各50%) 目標 I・L : 授業への貢献、態度、提出物など (50%) ※成績評価への補足的対応措置により減点などを行う。 ※英検の対策は英語学習への動機づけの一つとして行う。</p>			
教科書			
書名 : Practical Psychology 著者名 : Jim Knudsen 発行所 : Nan'un-do 価格 : 1,800円 (税別)			
その他補足事項			
1. 授業には英和辞典を持参すること。(電子辞書可) 2. 状況によって、授業進度や内容が変わることがある。			

授 業 科 目 名	国 際 理 解 論		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職名：客員教授 氏名：坂本恒夫		開 講 期	前 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	社外取締役（2000－2003年、2003－2006年）			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	日本中小企業ベンチャービジネスコンソーシアム 会長			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	明治大学大学院博士後期課程（経営学博士） 日本経営学会、日本経営財務研究学会、証券経済学会、日本経営分析学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	教 養 教 育 科 目	必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	授 業 終 了 後、研 究 室 で 説 明 す る。			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>本科目では、個別の国の概要について具体的に説明していきます。最初に、歴史を説明し、その国の現状を解説した後、抱えている課題について詳しく述べていきます。</p> <p>特に、日本との関係およびその交流の歴史について勉強します。</p>	○ A	知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)
国際的な現状の理解を深め、多様性、応用力を身に着けます。	目 標	A・J
各国の抱えている課題を説明し、今、世界で何が起きているかを理解します。	目 標	A・K
日本との関係を深く分析し、その国に対しての日本の付き合い方について考えます。	目 標	A・I

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び、授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意点	講義 配付資料	
2	第1章 イギリス (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
3	第2章 フランス (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む

回数		授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	第3章 オーストラリア (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
5	第4章 ニュージーランド (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
6	第5章 アメリカ (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
7	第6章 アジア諸国 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
8	第7章 中国 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
9	第8章 台湾 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
10	第9章 香港 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
11	第10章 韓国 (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
12	第11章 マレーシア (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
13	第12章 タイ (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
14	第13章 シンガポール (1) 概要 (2) 特徴 (3) 日本との関係性	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
15	第14章 まとめとディスカッション	講義 配付資料	配付資料を事前に読む
期末試験	前期末試験 (レポート形式)		

期末試験の講評
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）
目標A・J・K：レポート50点 目標A・I：ディスカッションの参加度50点
教科書
使用しない。

授 業 科 目 名	国際理解演習 (シンガポール)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	1～4年次
担 当 教 員	職名：兼任教授 氏名：中丸一志		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	株式会社ナカノフドー建設 建築施工管理10年、建築設計及び工事監理24年			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	日本大学工学部 工学士、一級建築士、設備設計一級建築士、 一級建築施工管理技士、宅地建物取引主任者、建築学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは金曜日午前中です。 メールアドレス：nakamaru.kazushi fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>「体験を通しての国際理解」</p> <p>国際理解演習「シンガポール研修旅行」を実施し、実地研修を行います。</p> <p>事前授業では、シンガポールの歴史や文化について学ぶほか、各自が設定したテーマに基づき調査研究します。また、それについての個別指導を行います。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	○	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
旅行を通じ、集団行動に関するマナーの取得、旅行計画の立案等を学習できる。	目標	A・L
ホスピタリティとインバウンドの在り方、イノベーションを学ぶことができる。	目標	A・H
各自の興味ある分野を事前調査し、現地体験することによって理解を深める。	目標	A

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業の進め方・評価方法他) 研修旅行の意義・目的 シンガポールの歴史 (歴史・人種・言語)	授業計画 配付資料 インターネット検索	シンガポールへの興味・ 感心を確認 シンガポールの調査
2	シンガポールの地理・気候・経済・産業 (貿易・観光)	配付資料 インターネット検索	シンガポールの調査
3	シンガポールの街並みと建築、交通事情	配付資料 インターネット検索	シンガポールの調査
4	シンガポールの食文化 入国手続きほか事前準備・現地の法律について	配付資料 インターネット検索	シンガポールの調査

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	現地での行動について(渡航前の最終確認) 各グループの旅程プレゼンテーション	配付資料 インターネット検索	海外旅行の調査
6	現地体験(1)／1コマ 飛行機、空港、ホテル内のマナー等の注意事項確認(移動バス内で実施)・飛行機搭乗(羽田=シンガポール)	シンガポール海外研修の実施 2020年2月23日～28日6日間予定、全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
7	現地体験(2)／1コマ ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、マーライオンパーク他	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
8 ┆ 9	現地体験(3)／2コマ 幼稚園視察、現地日本人社員との懇談会	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
10 ┆ 11	現地体験(4)／2コマ ニューウォータービクターセンター視察 各自のテーマによる自主研修	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
12 ┆ 13	現地体験(5)／2コマ 各自のテーマによる自主研修①	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
14 ┆ 15	現地体験(6)／2コマ 各自のテーマによる自主研修②	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
期末 試験	最終レポート発表	プレゼンテーションの 評価・指導	プレゼンテーションの 練習
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標A・H: 事前レポート20点、最終レポート40点で評価します。 目標H・L: 団体行動・グループ行動の在り方を40点で評価します。 ※海外研修における所定の全プログラムに出席してください。ただし、体調不良もしくは病気・怪我等で所定のプログラム(オプションプログラムを除く。)に出席できなかった場合は、1プログラムごとに5点の減点として成績の評価を行います。</p>			
教科書			
使用しません。			
その他補足事項			
<ol style="list-style-type: none"> プリント資料を適宜配付し、各自の研究テーマに沿って指導します。 シンガポール渡航費用、海外での食事代・交通費、海外旅行保険費用が必要となります。 その他 <ol style="list-style-type: none"> 最少催行人数10名、最高催行人数は15名とします。なお、履修者が10名に達しない場合、または、履修放棄などによって、履修者が10名を割り込んだ場合は、学期の途中であっても休講となる場合があります。 履修登録は後期履修登録時とし、事前授業は10月下旬より指導開始とします。 単位の認定が3月末となるため、卒業年次生は卒業単位数に含めないでください。 			

授 業 科 目 名	国際理解演習 (バリ島) バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：兼任教授 氏名：佐藤敦子	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	福島学院大学認定こども園園長 (平成28年2月～現在)		
社会貢献としての委員会・職 等	日本音楽療法学会東北支部福島県代表		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	国立音楽大学教育音楽学科 芸術学士、幼稚園教諭一種免許状 明星大学大学院修了修士(教育学)、幼稚園教諭専修免許状 日本音楽療法学会認定音楽療法士、日本音楽教育学会、日本音楽療法学会、 日本保育学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	教養教育科目	選択	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワー・メールアドレスは初回授業時に説明します。		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
1. バリ島研修(8月25日～8月30日)の6日間に参加することを条件として、授業は6月から行います。授業の履修届は5月31日(金)17:00までとし、他学科の履修者「国際理解演習(バリ島研修)」を含め、10名以上の履修者で開講します。バリ島研修日程の詳細及び研修費用は、関心のある方に別途配付します。 2. 本授業は、研修旅行前にバリ島の歴史、文化、芸術等を学び、かつ現地での交流のための準備を行います。 3. 研修終了後はレポートを提出し、反省会を行います。 *渡航手続き等は、時間外に行うことがあります。	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	○ F	感性及び感動表現力
	○ G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
バリ島の伝統芸術・文化に触れながら、日本との比較研究を行い、国際感覚を身につける。	目標	J
友人と協力しながら、バリ島幼稚園や村の子どもたちとの交歓交流を通して、表現力向上、協調性、思いやりを身につける。	目標	F・G
バリ島に関する文化、芸術、生活、歴史、宗教、教育の中からテーマを一つ選び研究を行いレポートにまとめる。	目標	J

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション(授業の進め方・評価方法他) バリ島研修の目的、意義、概要について ・現地の子どもたちとの交歓交流の内容 ・訪問先の具体的な説明	授業計画 資料配付	バリ島の宗教・歴史・芸術・文化・気候風土などを事前に調べておく
2	バリ島について (宗教・歴史・芸術・文化・気候風土・人々の生活の様子・現地の治安など) バリ島研修のDVD鑑賞	資料配付 DVD「バリ島研修旅行」 60分	バリ島の宗教・歴史・芸術・文化・気候風土などをまとめ、研究テーマを考えておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	研究テーマとレポート作成について (研究テーマの決定) 渡航手続きの説明 交流の練習(1) 交流の選曲	資料配付 ダンスの練習	研究テーマについて事前に調べ学習しておく
4	交流の練習(2) ダンスの振り付け	ダンスの練習	研究テーマについて事前に調べ学習しておく 交流の曲を考えておく
5	交流の練習(3) ダンスの振り付け・衣装の選定	ダンスの練習	交流の曲に合わせてダンスの練習をしておく
—	研修旅行の実施(1日目) ・飛行機、空港、ホテル内のマナー等の注意事項確認(移動バス内で実施) ・飛行機搭乗(成田=バリ島)	バリ島海外研修の実施 2019年8月25日~30日 [4泊6日] 予定 全体および個別指導	現地での学習・研究(記録)
6 ┆ 8	研修旅行の実施(2日目) / 3コマ ・ハラパン幼稚園での歓迎式典、園児との交歓交流、自分たちのパフォーマンス、幼稚園・小学校見学 ・現地での文化施設の視察(美術館、寺院見学)	実地研修	現地での学習・研究(記録)
9 ┆ 11	研修旅行の実施(3日目) / 3コマ ・タガス村での歓迎式典、子どもたちとの交歓交流、自分たちのパフォーマンス、ガムラン楽器体験 ・タガス村でのバリダンスレッスン受講、ケチャックダンス鑑賞	実地研修	現地での学習・研究(記録)
12 ┆ 13	研修旅行の実施(4日目) / 2コマ ・ケランビタン宮殿での子どもたちとの交歓交流、自分たちのパフォーマンス ・ケランビタン宮殿でのバリダンスレッスン受講 ・ケランビタン宮殿でのバリ衣装体験	実地研修	現地での学習・研究(記録)
14	研修旅行の実施(5日目) / 1コマ ・デブダンショーを鑑賞	実地研修	現地での学習・研究(記録)
—	研修旅行の実施(6日目) 日本への帰国準備、バリ島からの出国準備 空港・飛行機でのマナー(ホテル・移動バス内で実施)	実地研修	研究テーマに沿ったレポートを作成する
15	事後指導 反省会・レポート提出について		研究テーマに沿ったレポートを作成する
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標F・G・J：現地での公式プログラム参加(50点) (真剣に参加したか、交流の仕上がりはどうか、友人と協調していたか、子どもたちと積極的に交流していたか、交流先でのマナーは良かったか、健康管理は保たれていたかなど)</p> <p>目標F・G：交流のためのダンスレッスン参加(20点) (積極的に参加していたか、アイデアは出していたか、お互いに協力し合っていたかなど) *1回欠席につき3点減点</p> <p>目標G：事前指導への参加態度(10点) (積極的に参加していたか、注意事項を聞いていたか、持参品をきちんと準備できていたか、書類の提出はなされていたかなど)*1回欠席につき3点減点</p> <p>目標J：最終レポートの内容(20点) (1,000字以上1,200字以内)</p> <p>※海外研修における現地研修・公式プログラムについては、体調不調もしくは病気・怪我等で所定のプログラムに参加できなかった場合は、1プログラムごとに5点の減点とします。</p>			

その他補足事項

1. 履修届は指示された日時までに行ってください。
 2. 渡航手続き、交歓交流の練習等は、授業時間外に実施します。*夏期休業期間に実施する場合があります。
 3. 全学科合同のダンス練習については、6月以降、毎週2～3回程度行います。
 4. 現地での活動に備えて、体力や精神力を鍛えておいてください。
(現地の食べ物や気候風土に対し、適応能力があることが望ましい)
 5. 現地での健康状態を把握する上で、健康チェックの用紙を提出していただきます。
 6. 研修旅行中、常備薬や医師からの薬が必要な場合は、各自の責任において薬を持参してください。
 7. 現地での体調管理については、最大限のサポートをしますが、自己管理、自己責任とします。
 8. 団体で行動するので協調性を身につけておいてください。
(現地での単独行動は、治安上の観点から禁止とします)
 9. 海外旅行保険の付保が必要となります。また、ご家族からの「承諾書」も提出していただきます。
 10. ご家族に対しても研修旅行の説明会を開催します。旅行中緊急事態が発生した場合、ご家族の協力を要請する場合があります。
 11. 最少催行人数は10名、最高催行人数は16名とします。
- ※海外研修の実施にあたり、自然災害、国際情勢（テロ等）等によって、十分な安全を確保できないと判断した場合は、海外研修の実施を中止、または延期する場合があります。

授 業 科 目 名	体 育 実 技 (トレッキング&ウォーキング)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：すぎ 浦 ひろ ゆき 杉 浦 広 幸		開 講 期	通年
			授 業 回 数	20回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間		新潟県山岳協会所属新潟山岳会（1993年5月～2011年6月）		
社会貢献としての委員会・職 等		全農福島県特定栽培農産物評議委員（委員長）		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		岐阜大学大学院連合農学研究科博士後期課程修了 博士（農学） 農業改良普及員、毒物劇物取扱い主任者（一般用） 日本放射線安全管理学会、園芸学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	5時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは火曜日昼宮代キャンパス研究室にて行います。 メールアドレス：sugiura.hiroyuki fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>本授業におけるテーマは、学生生活を送る上での体力作りと心身の健康維持のため、自然や町の中を歩く。また、起点となるキャンパスから近隣の町や自然に触れることで、季節の移り変わりや、人々や町や自然の変化に触れ、様々な感覚を養う。さらに、歩く中で読図力を向上し、地図が理解できるように努める。</p> <p>なお、悪天候（雨天など）の場合、屋内での活動に変更する場合がある。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
トレッキングに必要な知識を得る。	目標	A
自然や町の中で歩くための技能を取得する。	目標	B
皆と一緒に目標とする場所へ行き、無事戻ってくる。	目標	G

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション、 (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 身近な場所を歩いてみる。	手製資料 キャンパスと周囲の見学	予習：キャンパス近隣の史跡やランドマークを調べておく。
2	春を探しながら歩こう	地図配付 メモ帳	予習：行き先を調べておく。
3	春季集中 I（4月21日(日)午前中前半を予定…信夫山へ遠征予定)	詳細は別紙（計画書）にて説明(要トレッキング装備)	予習：装備を準備し、体調を整えておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	春季集中Ⅱ（4月21日(日)午前中後半を予定…信夫山へ遠征予定)	詳細は別紙（計画書）にて説明(要トレッキング装備)	予習：装備を準備し、体調を整えておく。
5	春季集中Ⅲ（4月21日(日)午後を予定…信夫山へ遠征予定)	詳細は別紙（計画書）にて説明(要トレッキング装備)	予習：装備を準備し、体調を整えておく。
6	1時間半で行って帰るのにいい場所を探そうⅠ（東）	地図、メモ帳	予習：行き先を調べておく。
7	1時間半で行って帰るのにいい場所を探そうⅡ（西）	地図、メモ帳	予習：行き先を調べておく。
8	1時間半で行って帰るのにいい場所を探そうⅢ（南）	地図、メモ帳	予習：行き先を調べておく。
9	1時間半で行って帰るのにいい場所を探そうⅣ（北）	地図、メモ帳	予習：行き先を調べておく。
10	川へ行こうⅠ	地図、メモ帳	予習：行き先を調べておく。
11	夏季集中Ⅰ（6月3日(日)午前中前半を予定…吾妻山もしくは安達太良山方面遠征予定)	詳細は別紙（計画書）にて説明(要トレッキング装備)	予習：装備を準備し、体調を整えておく。
12	夏季集中Ⅱ（6月3日(日)午前中後半を予定…吾妻山もしくは安達太良山方面遠征予定)	詳細は別紙（計画書）にて説明(要トレッキング装備)	予習：装備を準備し、体調を整えておく。
13	夏季集中Ⅲ（6月3日(日)午後前半を予定…吾妻山もしくは安達太良山方面へ遠征予定)	詳細は別紙（計画書）にて説明(要トレッキング装備)	予習：装備を準備し、体調を整えておく。
14	夏季集中Ⅳ（6月3日(日)午後後半を予定…吾妻山もしくは安達太良山方面へ遠征予定)	詳細は別紙（計画書）にて説明(要トレッキング装備)	予習：装備を準備し、体調を整えておく。
15	公園へ行こうⅠ	地図、メモ帳	予習：行き先を調べておく。
16	寺に行こうⅠ	地図、メモ帳	予習：行き先を調べておく。
17	神社に行こうⅠ	地図、メモ帳	予習：行き先を調べておく。
18	史跡を見つけよう	地図、メモ帳	予習：行き先を調べておく。
19	町を調べよう（家を見てみよう）	地図、メモ帳	予習：行き先を調べておく。
20	自分の変化を調べよう（春の頃とどう変わった？）	地図、メモ帳	予習：行き先を調べておく。
期末試験	試験実施（レポート形式）	持込可	復習：今までの実施内容を整理しておく。
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標A：期末テスト20%。 目標B・G：トレッキング&ウォーキングへの参加各4%（B：2%+G：2%）で×20回で80%。 ※欠席は1回につき3点減点、遅刻・早退は1回につき1点減点（遅刻・早退3回は欠席1回とみなして3点減点）とする。ただし、実習、就職面接、自然災害、公共交通の遅れ等、正当な理由と判断される欠席（届出のあるもの）は除く。また、授業への取り組みに積極性が評価できる場合は3点加点、授業中の問題行動は1件につき1点減点とする。</p>			
その他補足事項			
<p>歩きやすい服装と靴を用意のこと。必要に応じ、携帯のGPSや万歩計アプリを準備する。春季集中Ⅰ～Ⅲは飯坂線美術館図書館前駅集合。 期間中、休日に2回の集中授業（阿武隈山地および吾妻山方面へ遠征あり；4/21、6/3を予定しているが、状況により変更あり）を実施し、その場合は山歩きの装備・服装を用意すること。遠征では、移動の関係上集合場所は宮代キャンパスとなり、第1回遠征は8:00集合、第2回遠征は朝7:00集合になる。また、遠征での昼食は自炊するので、食材費（300円程度）が必要になる。安達太良山方面への遠征の場合、片道分のゴンドラ代金（1,000円）が必要になる。</p>			

授 業 科 目 名	体 育 実 技 (ジャズダンス)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：佐藤 香 (本務先：発達支援事業所 キッズスペースキャン 職名：理事長/キャン ダンススタジオ 職名：代表/フィジカルムーブメント専門学校 職名：校長)		開 講 期	通年
			授 業 回 数	20回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	キャンダンススタジオを開設、指導（平成元年～現在に至る）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県生涯学習審議会委員（平成16年～平成18年）			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	福島ドレスメーカー学院 デザイナー科卒業 健康運動指導士 肥満予防健康管理士			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	教養教育科目	選択必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス 福島駅前キャンパス(まちなか宝生園)	授業時間以外の必要な学修時間	5時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>前半はダンスを踊るための基本である体づくりや、リズムによって踊るためのリズムトレーニングなど基礎技術の習得を図る。また、体を上手に使うための骨格への意識（アライメント）や呼吸と動きなどの理解も深める。</p> <p>後半はそれを元に、フレーズから徐々に、一連の流れのある動きをマスターし、パートナーワークやグループワークを通し自分たちで創作できるようにする。</p>	○	A 知識 B 技術・技能 C 論理的思考力 D 文章表現力 E 表情及び身体表現力 F 感性及び感動表現力 G 協働能力 H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力 I 積極的発言力及びプレゼンテーション力 J 多様性への理解力、応用力 K 課題対処力 L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	
	自分の体への意識やそのコントロールの仕方を身につける	目標 B
	それぞれが音楽に合わせて楽しく踊り、表現できる事を目標とする。	目標 E
	課題曲に対して表現がマッチしているか、みんなで協力し取り組んでいるかを目標とする。	目標 L

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・授業内容や成績評価等に関する説明		
2	体を動かす準備をしようⅠ ・セルフアライメントチェック (自分の姿勢を確認しよう) ・ストレッチ	現在の自分の姿勢をデジカメやビデオを使いチェックします。	
3	体を動かす準備をしようⅡ ・ストレッチ ・筋トレ など	グループワーク	正しいアライメント法を身体で表現出来るよう復習してくる。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	正しい身体の動かし方を学ぶⅠ ・ 上肢の動き ・ 下肢の動き	グループワーク	正しい身体の動かし方の手順を覚えてくる。
5	正しい身体の動かし方を学ぶⅡ ・ ダイナミックな動き ・ スムーズな動き	グループワーク	正しい姿勢、正しい身体の動かし方を復習してくる。
6	リズムの取り方を学ぶ(4ビート) (伝える、合わせる、感じる) ・ Upのリズム ・ ダウンのリズム	グループワーク	Upのリズム、ダウンのリズムを理解、復習してくる。
7	リズムの取り方を学ぶ(8ビート) ・ Upのリズム ・ ダウンのリズム	グループワーク	8ビートの取り方を復習してくる。
8	基本となるステップを学ぶⅠ ・ 下肢を中心としたステップ	グループワーク	各種ステップの名称と動きを覚えてくる。
9	基本となるステップを学ぶⅡ ・ 下肢と上肢の動きの組み合わせ	グループワーク	
10	基本となる下肢、上肢の組み合わせ ・ 音楽に合わせた動き	グループワーク	上肢と下肢の基本動作を復習してくる。
11	ステップのコンビネーションを学ぶⅠ ・ 基本的なコンビネーション	グループワーク	ステップのコンビネーションを復習しておくこと。
12	ステップのコンビネーションを学ぶⅡ ・ 基本的なコンビネーション	グループワーク	
13	ステップのコンビネーションを学ぶⅢ ・ まとめ	グループワーク	
14	動きを構成してみよう ・ 自分で動きを作る リズムに合わせて表現する事の楽しさを体感する ・ リズムに合わせて踊ってみよう	グループワーク	自分で構成した動きを復習してくる。音楽に合わせて正しいステップを踏めるようにしておくこと
15	リズムに合わせて表現する事の楽しさを体感する ・ 即興で踊ってみよう	グループワーク	
16	ジャズの基本&応用 ・ アイソレーション ・ クロスフロアー	グループワーク	スムーズに動けるようにしておくこと。
17	振付を覚えようⅠ ・ 課題曲を覚える	グループワーク	
18	振付を覚えようⅡ ・ 課題曲を覚える ・ 発表	グループワーク	
19	グループで課題曲を作る ・ 位置や構成も含める	グループワーク	
20	グループで課題曲を完成させる ・ 位置や構成も含めしっかり覚える	グループワーク	実技試験の練習をしておくこと
期末試験	実技試験 グループでの作品発表		

期末試験の講評	
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。	
授業の到達目標に依る到達度の評価（評価方法・基準）	
目標B：技能・知識の習得度	60点
目標E：授業への参加態度	30点
目標L：授業参加への意欲	10点
教科書	
使用しない。	
その他補足事項	
上履き（厚底でないもの）	上下動きやすい服装 ヨガマットまたはバスタオルなど

授 業 科 目 名	体 育 実 技 (バスケットボール)		授 業 形 態 ・ 単 位 数	実 技 ・ 1 単 位
			開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：入 澤 裕 樹 (本務先：仙台大学 職名：講師)		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	20 回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間		特 記 事 項 な し		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		特 記 事 項 な し		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		筑波大学大学院 (体育学修士) 日本体育学会、保健科教育学会 コーチング学会		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業		教 養 教 育 科 目	選 択 必 修	
開 講 キャンパス	宮 代 キャンパス		授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	5 時 間
オ フィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		授 業 終 了 後 に 質 問 等 へ の 対 応 を 行 い ま す。		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>主に試合形式を中心に実施します。試合内においてシュートやドリブル、パスワークについての基本的技能を身につけていきます。また、戦術やルールについても簡易ゲームを用いながら理解を深めていきます。</p> <p>試合における審判の方法やトーナメント方式やリーグ戦方式などの運営についても理解を深め、スポーツ活動を自らが行える実践力を習得します。</p> <p>また、試合を通じ仲間とのコミュニケーションを積極的に図ることにより、協調性や対人関係についての能力の向上に繋げることができるようになります。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)
ゲームを通じ、実戦に用いられる基本的技能を習得する。	目 標	B
ゲームを通じ、戦術的な理解を深める。	目 標	A・B
ゲームを楽しみ、チームワークやコミュニケーション能力を養う。	目 標	G
ゲームを通じ、ルールや審判法、運営について学ぶ。	目 標	A

授 業 計 画			
回 数	授 業 テーマ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予 習 ・ 復 習】
1	オリエンテーション 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明、グループ分け	講義 授業計画	授業計画を熟読しておくこと
2	基礎技術(1) ボールコントロール、ハンドリング、パッシング	グループワーク	用語やルールについて予習すること
3	基礎技術(2) シューティング ドリブルとレイアップシュート	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
4	基礎技術(3) シューティング ジャンプシュートとリバウンド	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	基礎技術(4) パッシングとドリブル シューティングとの組み合わせ	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
6	基礎技術の総合練習 ドリブル ドリブルターン レイアップシュート ジャンプシュートの連続した組み合わせを体得	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
7	ゲーム (簡易化) 5対5のゲーム (シュートなし、ラインゴール形式)	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
8	ゲーム アウトナンバーのゲーム 基本技能①ドリブルの基本技能について	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
9	ゲーム アウトナンバーのゲーム 基本技能②ドリブルの基本技能について	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
10	ゲーム アウトナンバーのゲーム 基本技能③パスワークの基本的な技能について	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
11	バスケットボールの戦術やルールの理解	視聴覚教材「バスケットボール指導の最新モデル！ Disc 5」60分	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
12	ゲーム 5対5による攻防の実践 マンツーマンディフェンスについて	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
13	ゲーム 5対5による攻防の実践 3点シュートによる展開	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
14	ゲーム 5対5による攻防の実践 リバウンドの影響について	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
15	ゲーム 5対5による攻防の実践 リーグ戦形式による①	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
16	ゲーム 5対5による攻防の実践 リーグ戦形式による②	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
17	ゲーム 5対5による攻防の実践 リーグ戦形式による③	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
18	ゲーム 5対5による攻防の実践 リーグ戦形式による④	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
19	オフェンス技術のまとめ オフェンスプレイに必要な基本的技術の総合練習	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
20	技能チェックと評価 (ドリブルチェンジ クロスオーバーシュート ゴールシュートまでのコンビネーションプレイ) まとめのゲーム	実技試験	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標B : 技能テスト 30点
目標A : 試合中の観察評価（ルール・戦術理解）30点
目標G : 授業への意欲態度 30点
目標A・B・G : 特記事項 10点
※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価します。
（例）・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。
・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。
以上、合計100点満点で評価します。

教科書

使用しません。

その他補足事項

服装はスポーツウェア上下、バスケットシューズ（屋内用スポーツシューズであれば可）を着用してください。着用していない場合は出席を認めない場合があります。

授 業 科 目 名	体 育 実 技 (バレーボール)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：兼担准教授 氏名：島 田 貴 広 <small>しま だ たか ひろ</small>		開 講 期	通年
			授 業 回 数	20回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等		特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		東海大学体育学部体育学科 体育学士 日本女子体育大学大学院スポーツ科学研究科 修士 (スポーツ科学) 中学・高等学校教諭専修免許状 保健体育 日本スポーツ協会公認バレーボール指導員 日本体育学会 日本スポーツ運動学会 日本バレーボール学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	5時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。 メールアドレス：shimada.takahiro fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>前半はバレーボールのルールを理解と、パス、サーブ、レシーブ、スパイク、ブロックなど基本技能の獲得に重点を置く。並行してゲームを行うが、公式ルールに拘らず、技能レベルに合わせた簡易ゲームとし、学生相互のコミュニケーションを重視した内容とする。</p> <p>後半はゲーム中心に展開する中で、集団技能としてのコンビネーションプレーやレシーブフォーメーションなどの戦術を理解し、チームワークの形成とチームビルディングについて実践を通じて学ぶ。同時に、試合運営の方法や審判法について学習し、自立してスポーツ活動を行うための実践力を習得する。</p>	○	A 知識 B 技術・技能 C 論理的思考力 D 文章表現力 E 表情及び身体表現力 F 感性及び感動表現力 G 協働能力 H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力 I 積極的発言力及びプレゼンテーション力 J 多様性への理解力、応用力 K 課題対処力 L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
	バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本技能を獲得する。	目標 B
	コンビネーションやフォーメーションなどの戦術的理解を深める。	目標 K
	チームづくりやチームワークを学ぶ。	目標 G
	バレーボールのルールやコートマナーを学ぶ。	目標 B

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	講義 授業計画(シラバス)持参	バレーボールの用語を予習しておく。
2	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ・ストレッチ 基本技能①サーブとレシーブ (サーブを中心に)	グループワーク	6人制バレーボールのルールについて予習しておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	ボールを使ったウォーミングアップ・ボール慣れ・ストレッチ 基本技能② サーブとレシーブ（レシーブを中心に）	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
4	基本技能③ パスの技術と動き（オーバーハンドパスを中心に）簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
5	基本技能④ パスの技術と動き（アンダーハンドパスを中心に）簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
6	基本技能⑤ ボールコントロール（ボールヒット）とスパイクの動き（ミートを中心に）簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
7	基本技能⑥ ボールコントロール（ボールヒット）とスパイクの動き（ステップを中心に）簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
8	基本技能⑦ スパイクとレシーブのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
9	基本技能⑧ スパイクとブロックのドリル 簡易ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
10	基本の戦術① チーム編成と各プレイヤーの役割（ローテーションの理解） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
11	基本の戦術② チーム編成と各プレイヤーの役割（ポジションの理解） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
12	ディフェンスの戦術① サーブレシーブフォーメーション（5人でのレシーブ） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
13	ディフェンスの戦術② サーブレシーブフォーメーション（3～4人でのレシーブ） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
14	ディフェンスの戦術③ ブロックとレシーブフォーメーション（マンアップフォーメーションの理解） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
15	ディフェンスの戦術④ ブロックとレシーブフォーメーション（マウンドフォーメーションの理解） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
16	オフェンスの戦術① スパイクのコンビネーション（クイックを絡めたコンビネーション） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
17	オフェンスの戦術② スパイクのコンビネーション（移動を加えたコンビネーション） 6人制の練習ゲーム	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
18	公式戦の運営（リーグ戦）と審判法①	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
19	公式戦の運営（リーグ戦）と審判法②	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
20	技能チェックと評価（ボールヒット、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス） まとめのゲーム	実技試験	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。

期末試験の講評

期末試験終了後、希望者には試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標 B : 技能テスト 30点

目標 K : 試合中の観察評価（ルール・戦術理解）30点

目標 G : 授業参加時の態度
（コートマナー・スポーツマンシップ・コート設営や片付けなどへの参加状況）30点

目標 B・G・K : 特記事項 10点

※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。

（例）・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。

・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。

以上、合計100点で評価する。

その他補足事項

服装はスポーツウェア上下、バレーボールシューズ（体育館用のスポーツシューズであれば可）

授 業 科 目 名	体 育 実 技 (卓 球)		授 業 形 態 ・ 単 位 数	実 技 ・ 1 単 位
			開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職 名 : 非 常 勤 講 師 氏 名 : 入 澤 裕 樹 (本 務 先 : 仙 台 大 学 職 名 : 講 師)		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	20 回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間		特 記 事 項 な し		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		特 記 事 項 な し		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		筑 波 大 学 大 学 院 (体 育 学 修 士) 日 本 体 育 学 会 、 保 健 科 教 育 学 会 コ ー チ ン グ 学 会		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業		教 養 教 育 科 目	選 択 必 修	
開 講 キ ャ ン パ ス	宮 代 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	5 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		授 業 終 了 後 に 質 問 等 へ の 対 応 を 行 い ま す 。		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>主に試合形式を中心に実施する。前半では基本技術の習得やルールなどについて内容を展開していきます。</p> <p>試合における審判の方法やトーナメント方式やリーグ戦方式などの運営についても理解を深め、スポーツ活動を自らが行える実践力を習得します。</p> <p>また、試合を通じ仲間とのコミュニケーションを積極的に図ることにより、協調性や対人関係についての能力の向上に繋げることができるようになります。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)
実戦に用いられる基本的技能を習得する。	目 標	B
ゲームを通じ、戦術的な理解を深める。	目 標	A・B
ゲームを楽しみ、チームワークやコミュニケーション能力を養う。	目 標	G
ゲームを通じ、ルールや審判法、運営について学ぶ。	目 標	A

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 、 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明、 グループ分け	講義 授業計画	授業計画を熟読しておくこと
2	基礎技術(1) 各打法の紹介、ラケットの握り方、簡易ゲームの実施	グループワーク	用語やルールについて予習すること
3	基礎技術(2) 打球時の基本姿勢、フォアハンド、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
4	基礎技術(3) バックハンド、バックショート、裏面打法、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	基礎技術(4) フットワーク、前後左右への動き、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
6	基礎技術(5) 各種サーブとそのレシーブの紹介1、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
7	基礎技術(6) 各種サーブとそのレシーブの紹介2、簡易ゲームの実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
8	ゲームの方法 シングルス(1) シングルの試合運営ならびにルールについて解説し、受講生同士で試合を行えるようにする	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
9	ゲームの方法 シングルス(2) 正規のルールによる審判法を解説し、受講生同士で試合を行えるようにする	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
10	ゲームの方法 ダブルス(1) ダブルスのフォーメーションについて解説し、受講生同士で試合を行えるようにする	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
11	ゲームの方法 ダブルス(2) ダブルスの試合運営ならびにルールについて解説し、受講生同士で試合を行えるようにする	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
12	競技としての卓球の戦術やルールの理解	視聴覚教材 「初心者からの“戦型別”卓球コーチング」60分	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
13	ゲーム トーナメント形式による①	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
14	ゲーム トーナメント形式による②	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
15	ゲーム トーナメント形式による③	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
16	ゲーム リーグ戦形式による①	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
17	ゲーム リーグ戦形式による②	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
18	ゲーム リーグ戦形式による③	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
19	まとめ 基本的技術の総合練習	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
20	技能チェックと評価 (サーブ レシーブ 各打法) まとめのゲーム	実技試験	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標B : 技能テスト 30点
目標A : 試合中の観察評価（ルール・戦術理解）30点
目標G : 授業への意欲態度 30点
目標A・B・G : 特記事項 10点
※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価します。
（例）・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。
・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。
以上、合計100点満点で評価します。

教科書

使用しません。

その他補足事項

服装はスポーツウェア上下、屋内用スポーツシューズを着用してください。着用していない場合は出席を認めない場合があります。卓球用ラケットについては毎時、貸し出す予定です。

授 業 科 目 名	体 育 実 技 (ボディ・コンディショニング)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：兼担准教授 氏名：島 田 貴 広		開 講 期	通年
			授 業 回 数	20回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等		特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		東海大学体育学部体育学科 体育学士 日本女子体育大学大学院スポーツ科学研究科 修士(スポーツ科学) 中学・高等学校教諭専修免許状 保健体育 日本体育学会 日本スポーツ運動学会 日本コーチング学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	5時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：shimada.takahiro fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>レジスタンストレーニングでは主としてダンベルやチューブを利用したトレーニング種目、有酸素運動としてはジョギングやウォーキングを実施し、その正しい運動方法や適切な運動強度設定について学習する。</p> <p>また、自らの目的に応じた運動プログラムを立てて実践すると同時に、達成感を得たり、効果がない場合はプログラムを見直したりするため、定期的に運動効果の測定と評価を行う。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
個人の目的に応じた運動プログラムが計画できるようになる。	目標	A・K
合目的且つ効果的な運動方法や補助法を学び実践できる。	目標	B・G

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 今後の日程と授業展開・内容や成績評価等に関する説明 グループ分け	講義 授業計画(シラバス)持参	
2	身体測定と評価、個人目標の設定と運動処方基礎知識 ウォーミングアップの方法(ストレッチング)	グループワーク 体重体脂肪計 ストレッチマット使用	
3	レジスタンストレーニング(大筋群のトレーニング) ・スクワット ・レッグランジ ・クラッチ ・プッシュアップ ・バックエクステンション ・ダンベルプレス ・ベントオーバーローイング	グループワーク 体重体脂肪計 ダンベル、フラットベンチ ストレッチマット使用	ストレッチや基礎体力作り など日常的に実践する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	レジスタンストレーニング(大筋群のトレーニング) <ul style="list-style-type: none"> • ダンベルフライ • ワンハンドダンベルローイング • プルオーバー • オーバーヘッドプレス • サイドレイズ • アップライトローイング 	グループワーク 体重体脂肪計 ダンベル、フラットベンチ ストレッチマット使用	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
5	レジスタンストレーニング(小筋群のトレーニング) <ul style="list-style-type: none"> • アームカール • フレンチプレス • リストカール • サイドベント • カーフレイズ 	グループワーク 体重体脂肪計 ダンベル、フラットベンチ ストレッチマット使用	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
6	レジスタンストレーニング(チューブトレーニング)	グループワーク 体重体脂肪計 チューブ ストレッチマット使用	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
7	コンディショニングメニューとトレーニングレコードの作成(レジスタンストレーニングで)	グループワーク 体重体脂肪計 ダンベル、チューブ、フラットベンチ ストレッチマット使用	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
8	ウォーキング(3km)ペースと目標心拍数の設定(カルボーネン法) スライドボードトレーニング	グループワーク 体重体脂肪計、腕時計 スライドボード ストレッチマット使用	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
9	ウォーキング(3km)自分のペースで実施 スライドボードトレーニング	グループワーク 体重体脂肪計、腕時計 スライドボード ストレッチマット使用	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
10	ジョギング(3km)ペースと目標心拍数の設定(カルボーネン法) スライドボードトレーニング	グループワーク 体重体脂肪計、腕時計 スライドボード ストレッチマット使用	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
11	ジョギング(3km)自分のペースで実施 スライドボードトレーニング	グループワーク 体重体脂肪計、腕時計 スライドボード ストレッチマット使用	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
12	コンディショニングメニューとトレーニングレコードの作成(有酸素運動を含めて)	グループワーク 体重体脂肪計、腕時計 ストレッチマット 各種トレーニング器具使用	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
13	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク 体重体脂肪計、腕時計 ストレッチマット 各種トレーニング器具使用	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
14	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク 体重体脂肪計、腕時計 ストレッチマット 各種トレーニング器具使用	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク 体重体脂肪計、腕時計 ストレッチマット 各種トレーニング器具使用	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
16	測定評価とプログラムの見直し (体重、体脂肪率、BMI、基礎代謝について)	グループワーク 体重体脂肪計、腕時計 ストレッチマット 各種トレーニング器具使用	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
17	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク 体重体脂肪計、腕時計 ストレッチマット 各種トレーニング器具使用	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
18	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク 体重体脂肪計、腕時計 ストレッチマット 各種トレーニング器具使用	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
19	個別メニューに従って、プログラムを実施	グループワーク 体重体脂肪計、腕時計 ストレッチマット 各種トレーニング器具使用	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する。
20	まとめ 測定評価と反省 トレーニングレコードのチェック、提出	グループワーク 体重体脂肪計、腕時計 ストレッチマット 各種トレーニング器具使用	
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>目標 A・K : ・トレーニングの実施状況 (トレーニングレコードの記入、提出を含む) 30点</p> <p>目標 B・K : ・トレーニング方法の理解と実践について、観察評価を行う。 30点</p> <p>目標 G : ・授業参加時の態度 (トレーニング時のマナー・トレーニング器具の準備、片付けなどへの参加状況) 30点</p> <p>目標 A・B・G・K : ・特記事項 10点</p> <p>※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。</p> <p>(例) ・指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。</p> <p>・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。</p>			
その他補足事項			
<p>・服装はスポーツウェア上下、屋内と屋外両方のスポーツシューズを用意すること。</p>			

福祉学部 福祉心理学科 授業計画

2019年度

授業科目名	英会話		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：非常勤講師 ふりがな 氏名：サインブヤン オドバヤル (本務先：リングイスト語学スクール 職名：代表)	開講期	前期	
		授業回数	30	
		期末試験の実施	有	
授業に関する主な実務経験と期間		リングイスト語学スクール 代表 (2017～現在)		
社会貢献としての委員会・職等				
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		福島大学大学院経済学研究科 修士		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	1時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		linguist-info●protonmail.com 授業開始前または授業後に質問に対応する。		

【授業の概要】 皆が楽しんで勉強ができるようグループワークや自主的な課題、国際交流などが多い授業です。 英語や海外のことが好きになるような授業です。世界50以内に入るオーストラリアのクイーンズランド大学で強烈な人気を集めている手法で授業を行います。 異文化交流、グループワーク、言語学、海外の音楽、映像、ゲスト講師、プレゼンテーション、スピーチなどを含めた授業となります。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
1 外国語をとっても簡単に習得できるコツを習います。		目標	A
2 海外の人と友達になれるぐらいの英会話力を身につけます。		目標	B
3 世界のことを知り、日本人以外の76億人に興味を持つようになります。		目標	J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	英語を簡単に身に付ける為には	PPT、オンライン対戦ゲーム、	スマホなど、ネット対戦できる端末、筆記用具
2	初対面の海外の人とする会話	グループワーク	筆記用具 作る、覚える、話す
3	本物の英語の発音とリスニング力を身に付けよう	今はやりの洋楽を使うオンラインゲーム	スマホなどのネット環境のある端末
4	1時間で英単語100個覚えられる人間の脳のハッキング	PPT、オンライン対戦、ことばのゲーム	スマホなどのネット環境のある端末

5	中学校で習う文法があれば会話に困らない	グループワーク、オンライン課題	宿題ショート作文
6	海外の友達ができた時の英会話	ペアワーク	宿題ショート作文
7	外国人の友達を作りましょう	外国人のゲスト達と交流	宿題ショート作文
8	海外行った時に絶対に役立つ最低限の英会話	ペアワーク、	宿題ショート作文
9	海外の文化を知ろう、	PPT、動画、映画のシーン、	宿題ショート作文
10	海外のネット友を作ろう	アプリ	スマホ、ネット環境のある端末
11	マイナーの国の文化を知る	PPT、動画、	プレゼン準備
12	プレゼンテーション、各グループで	Slideshow	宿題ショート作文
13	日常の中で勉強できる英語	映画、ドラマ、アニメ、歌	宿題ショート作文
14	日常の各場面で出てくる英語	PPT	宿題ショート作文
15	国際交流	外国人のゲスト達と交流	
期末試験	Speaking and QA		
16	前期の総復習	オンラインクイズ対戦	宿題作文
17	ネイティブ並みの発音をゲットしよう	PPT	メモリー課題
18	圧倒的に語彙が増やすコツ ことばの分類と語源	PPT グループワーク	ショート作文
19	現代の若者が使う英語 スラング	PPT グループワーク	ショート作文
20	ゲームを通して語彙をゲット	パソコンやスマホ	ショート作文
21	英語の美しさに触れる ことわざ 言い伝え	PPT グループワーク	ショート作文
22	プレゼンテーション1 音楽	プレゼン	プレゼン準備
23	外国人と交流しよう	グループワーク	語彙準備
24	Vocabulary Championship	対戦	ショート作文

25	和製英語、ネイティブはどう表現しているの？	PPT、クイズ	プレゼン準備
26	日本語にはあまりない英語の重要単語類	PPT、オンライン課題	図書準備
27	BIBLIO BATTLE	対戦	ショート作文
28	困っている外国人を助ける英語	グループワーク	プレゼン準備
29	プレゼンテーション2 映画	プレゼン	
30	総復習	クイズ	
期末試験	Speaking and QA		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】

1. 宿題ショート作文、1,3,4,5,11,18,20,26 回目の受講態度（30点）
 2. 前・後期末試験（50点）
 3. プレゼンテーション（3回予定）、7,9,10,11,12,15 21,22,23,28,29 回目の受講態度（20点）
- 以上の合計 100 点で評価する

【教科書】書名：

著者名：

発行所：

価格： 円(税別)

【参考書】書名：

著者名：

発行所：

価格： 円(税別)

【図書館購入・本人購入の別】

- 1 図書館購入（ 冊）
- 2 本人購入（ 冊）

【その他補足事項】

*受講する学生のレベルや習熟度に合わせて授業内容を変更する場合があります。

福祉学部 福祉心理学科 授 業 計 画

2019年度

授業科目名	体育実技 (バドミントン)		授業形態・単位数	実技・1単位
			開講年次	1年次
担当教員	職名：兼担准教授 ふりがな ふじもと かなめ 氏名：藤本 要	開講期	通年	
		授業回数	20回	
		期末試験の有無	無	
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし			
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	日本体育大学体育学部健康学科卒業 体育学士 日本体育大学体育専攻科修了(高等学校教諭一級免許状取得) 中学・高等学校教諭一級免許状 保健体育、衛生管理者証 日本応用心理学会、日本ブリーフセラピー協会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業要件	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	5時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは初回授業時に説明します。 メールアドレス：fujimoto.kaname●fukushima-college.ac.jp			

【授業の概要】 バドミントン種目における技術や知識を獲得し、健康・体力の維持向上を図りながら、継続してスポーツに親しむ習慣や態度を身に付けることをねらいとします。 また実施に当たっては個人競技種目における技能レベルの差を考慮し、初心者と経験者を能力別に編成し、経験者には試合を多く取り入れた授業展開を行うことで授業への参加意欲を高めるようにします。 5つのフライングの種類と特性およびフォーメーションを理解し、最終的には試合の中で使用できるように戦術・戦略面での理解も深めていきます。	【授業の概要及び到達目標との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
①バドミントンのルールを理解し、ゲームを楽しむことができる	目標	B		
①ドライブ、ハイクリア、サービスなどの基本技能ができる	目標	B		
②戦術を工夫し、試合で生かすことができる	目標	K		
③トーナメントやリーグ戦などの組み立てができ、仲間と試合を楽しめる	目標	G		
	目標			

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・今後の日程と授業展開・内容	講義 授業計画持参	授業計画を熟読しておくこと
2	班編成 ・バドミントンの運動特性に応じた準備運動 ・基本技術(グリップ、ラケットの握り方)		バドミントンの用語を予習してくる

3	<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントンの運動特性に応じた準備運動 ・基本技術（グリップ、ラケットの握り方） 		ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・ダブルスのルールを理解する 	グループワーク	ダブルスのルールを予習してくる
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜オーバーヘッドストローク＞ 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜オーバーヘッドストローク＞ 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜オーバーヘッドストローク＞ 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜アンダーハンドストローク＞ 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜アンダーハンドストローク＞ 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜アンダーハンドストローク＞ 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜アンダーハンドストローク＞ 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜サイドアームストローク＞ 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスの試合を中心に実施 ・基本技術＜サイドアームストローク＞ 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
14	<ul style="list-style-type: none"> ・試合に勝つためのダブルスの戦術・戦略 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
15	<ul style="list-style-type: none"> ・シングルのルールを理解する ・審判法 	グループワーク	シングルのルールを予習してくる
16	<ul style="list-style-type: none"> ・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
17	<ul style="list-style-type: none"> ・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
18	<ul style="list-style-type: none"> ・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施 	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する

19	・シングルス及びダブルスの試合を中心に実施 ・リーグ戦及びトーナメント戦にて試合を実施	グループワーク	ストレッチや基礎体力作りなど日常的に実践する
20	技能テスト		課題としている技能を練習しておく
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。</p>			
<p>【授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）】 [目標①]B : 技能テスト 30点 [目標②]K : 試合中の観察評価（ルール・戦術理解）30点 [目標③]G : 授業参加時の態度 （コートマナー・スポーツマンシップ・コート設営や片付けなどへの参加状況）30点 [目標①②③]B,G,K : 特記事項 10点 ※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価します。 （例）・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の模範となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。 ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。</p> <p>以上、合計100点満点で評価します。</p>			
<p>【教科書】 使用しない。</p>			
<p>【参考書】 特に指定しない。</p>			
<p>【その他補足事項】 ・服装はスポーツウェア上下、バドミントンシューズ（屋内用スポーツシューズであれば可）を用意してください。</p>			

授 業 科 目 名	福祉心理学 I		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：星 野 仁 彦		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	精神科専門医として46年間の経験			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市を含む県北地区の学校精神科医			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	精神保健指定医、精神科専門医、日本精神神経学会会員			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
公認心理師	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては、初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
精神保健福祉士、社会福祉士、公認心理師などの資格取得に必要な、人の正常な発達と発達障害、機能不全家族・歪んだ親子関係と虐待、反応性愛着障害、人間の脳と障害の関係などについてと、福祉学と心理学の基礎について学ぶ。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
公認心理師、精神保健福祉士などの国家資格をめざして、発達障害児・者などの心理的ケアと福祉的ケアに必要な福祉心理学の基礎を学ぶ。	目標	A・H・J・L

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	正常児の発育と発達 (その1)	資料 (レジюме) とテキストと人形を用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
2	正常児の発育と発達 (その2)	資料 (レジюме) とテキストと人形を用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
3	言葉と社会性の発達の遅れの8つの原因	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
4	子どもの発達の遅れを見分けるポイント	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
5	子どもと大人の自閉症スペクトラム障害 (ASD)	資料 (レジюме) とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	子どもと大人のアスペルガー症候群	資料（レジюме）とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
7	子どもと大人のADHD（注意欠陥多動性障害）	資料（レジюме）とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
8	学習障害（LD）	資料（レジюме）とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
9	反応性愛着障害（被虐待児症候群）	資料（レジюме）とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
10	反応性愛着障害と発達障害との関連	資料（レジюме）とテキストを用いて DVD：虐待と発達障害 60分	次回のレクチャーの内容について調べる
11	てんかん	資料（レジюме）とテキストを用いて DVD：てんかんの症状と対応 60分	次回のレクチャーの内容について調べる
12	人間の脳と障害の関係（その1）	資料（レジюме）とテキストと脳の模型を用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
13	人間の脳と障害の関係（その2）	資料（レジюме）とテキストを用いて DVD：人間の脳と精神障害 60分	次回のレクチャーの内容について調べる
14	障害児・者の療育指導と家族療法	資料（レジюме）とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
15	障害児・者の心理・社会的治療と福祉的援助	資料（レジюме）とテキストを用いて	次回のレクチャーの内容について調べる
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標A・H・J・L：期末テストの成績（40%）と各回の豆テストの成績（20%）と課題（レポート・20%）			
教科書			
書名：機能不全家族 著者名：星野仁彦 発行所：アートヴィレッジ 価格：1,600円（税別）			

授 業 科 目 名	福 祉 心 理 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 4 単 位
			開 講 年 次	3 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 茂 木 積 雄	職 名 : 教 授 氏 名 : 藤 原 正 子	開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間		茂木：福島県立医科大学・日本大学医学部・カリフォルニア大学デビス校・国立福島病院・JCHO二本松病院・等（39年） 藤原：英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・葵橋ファミリークリニック・京都市児童福祉センター総合療育部・福島県精神保健福祉センター、上田保健所等（18年6ヶ月）		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		茂木：「福島県社会保険診療請求書審査委員会学識経験者審査委員選考協議会」委員、環境省福島地方環境事務所健康管理医 藤原：福島県精神保健福祉士会理事		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		茂木：福島県立医科大学・医学博士 医師・産業医・認定内科医・産業医・日本内科学会・日本肝臓学会・日本リウマチ学会 藤原：同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程・文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士、英国hcpc登録ソーシャルワーカー、CAP（子どもへの暴力防止教育プログラム）スペシャリスト、メリデン版ファミリーワーク基礎研修修了 日本社会福祉学会、日本子ども虐待防止学会、日本精神保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会他		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業		専 門 教 育 科 目	必 修	
公 認 心 理 師		専 門 教 育 科 目	選 択	
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間		120 時 間
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail : moteki.sekio fukushima-college.ac.jp fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
WHOは「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」と定義している。健康でその人らしく満たされた生き方について様々な社会的課題（ストレス、子育て、職場のメンタルヘルス、アディクション、障害、疾病、認知症、虐待、貧困、社会参加等）、その治療・予防・生活の質と希望・心理支援について学ぶ。 我が国の社会福祉の歴史と現在の制度の概要を学び、福祉対象者への心理支援の必要性とあり方を学ぶ。 各福祉分野における心理支援の重要性と課題を学ぶ。 福祉心理学的心理支援の実際を学ぶ。	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)
健康でその人らしく満たされた生き方について様々な社会的課題、その治療・予防・生活の質と希望について学び、各福祉分野における心理支援の重要性と課題についての理解を深める。	目 標	A・D・K
我が国の社会福祉の歴史と現在の制度の概要を学び、福祉対象者への心理支援の必要性とあり方を理解する。	目 標	A
福祉心理学的心理支援の実際を理解する。	目 標	K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要と目標 ・評価方法、授業の進め方の留意点 ・医療食(福祉職、他)に求められるもの	資料1 (パワーポイント使用)	医療・福祉に関する情報の収集 (新聞記事、等)
2	職場のメンタルヘルス対策(総論) ・働く人の命を奪う過労死と過労自殺	資料2 (パワーポイント使用)	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
3	今、職場で起こっていること(1) ・ストレスを感じている労働者の増加 ・新卒者の高い離職率 ・働き方改革	資料3 (パワーポイント使用)	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
4	今職場で起こっていること(2) ・各種のハラスメント(パワハラ・セクハラ等)の実態と対策 ・育児と仕事の両立、女性の社会進出 ・「イクボス宣言」	資料4 (パワーポイント使用)	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
5	過剰なストレスが及ぼす心身への影響 ・働き盛りに多い自殺 ・職場のストレスとストレス対策	資料5 DVD視聴(45分)「自殺とその予防」(映像視聴)	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
6	依存症(総論) ・最近の動向と背景(社会的要因、他) ・薬物依存症と行動依存 ・衝動性障害と強迫性障害、脳内報酬系	資料6 (パワーポイント使用)	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
7	アルコール依存症 ・精神依存と身体依存 ・治療と支援の阻害要因	資料7 DVD視聴(30分)「治療・支援への長い道のり」	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
8	薬物依存 ・治療と支援 ・社会復帰への道	資料8 DVD視聴(30分)「薬物依存～回復への道」	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
9	知的障害者と精神障害者の就労支援 ・障害者雇用の現状と課題 ・社会的および福祉の支援 ・犯罪が繰り返される背景	資料9 DVD視聴(30分)「居場所があれば立ち直れる～再犯を繰り返す受刑者たち」	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
10	医療と介護の現場が抱える課題(総論) ・高齢者医療 ・終末期の医療 ・介護離職、多重介護	資料10 (パワーポイント使用)	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
11	医療現場における認知症患者の身体拘束 ・現状と課題及び防止対策 ・認知症の理解 ・高齢者虐待	資料11 DVD視聴(30分)「認知症への理解」	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
12	介護人材不足の現状と課題 ・子育て介護職と働き方改革	資料12 DVD視聴(30分)「介護人材不足解消のヒント」	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
13	がん患者の医療と社会的支援 ・がん患者が抱える苦痛と課題 ・緩和ケア ・ガンサバイバークラブ(GSC)の活動	資料13 DVD視聴(30分)「がんになっても自分らしく生きる～最新医療と暮らしを考える」	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	先天性難聴者の現状と課題 ・先天性難聴の原因と予防対策 ・社会的支援と就労	資料14 DVD視聴(30分)「先天性難聴～手話の世界」	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
15	児童虐待の現状と課題 ・虐待(死)に至った事例の検討 ・虐待が心身の成長に及ぼす影響 ・子育て支援とゼロ歳児からの虐待防止対策	資料15 DVD視聴(45分)「〇〇、18歳 児童虐待」	配付資料の理解。医療・福祉に関する情報の収集
16	後期オリエンテーション 福祉の心	配付資料	配付資料を理解しまとめる。
17	社会福祉の展開と心理支援	教科書pp.11-22	学習チェック表を基にまとめる
18	総論：生活を支える心理支援	教科書pp.23-38	学習チェック表を基にまとめる
19	暴力被害者への心理支援	教科書pp.39-50	学習チェック表を基にまとめる
20	高齢者への心理支援	教科書pp.51-66	学習チェック表を基にまとめる
21	障害・疾病のある人への心理支援	教科書pp.67-82	学習チェック表を基にまとめる
22	生活困窮・貧困者への心理支援	教科書pp.83-96	学習チェック表を基にまとめる
23	児童虐待への心理支援の実際	教科書pp.99-112	学習チェック表を基にまとめる
24	子どもと親への心理支援の実際	教科書pp.113-127	学習チェック表を基にまとめる
25	認知症高齢者の心理支援の実際	教科書pp.128-139	学習チェック表を基にまとめる
26	ひきこもり・自殺予防の心理支援の実際	教科書pp.140-152	学習チェック表を基にまとめる
27	精神障害者への心理支援の実際	教科書pp.153-167	学習チェック表を基にまとめる
28	家族・職員への心理支援の実際	教科書pp.168-180	学習チェック表を基にまとめる
29	福祉・介護分野での多職種協働(IPW)と心理職の位置づけ	教科書pp.181-192	学習チェック表を基にまとめる
30	IPW実践事例報告	教科書pp.193-204	学習チェック表を基にまとめる
授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標K : レポート レポートは前期・後期各25点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、興味関心をもった領域に関して各自で課題を設定する方式とする。</p> <p>目標A・D : その他小テスト等 前期：授業内容の理解度を確認するために記述式の小テストを数回実施する(25点満点)。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。 後期：毎回振り返りシートを作成し、翌週に再確認する資料とする(25点満点)。 (※評価方法の詳細に関しては初回授業時に説明しますが、事前に、「成績評価への補足的対応措置」を熟読しておいてください。)</p>			
教科書		参考書	
後期：書名：福祉心理学 著者名：中島健一 発行所：遠見書房 価格：2,600円(税別)		書名：職場のメンタルヘルス対策最前線 著者名：中村 純 発行所：昭和同 価格：1,700円(税別)	
		書名：福祉心理学を愉しむ(第3版) 著者名：宮原和子・宮原英種 発行所：ナカニシヤ出版 価格：2,200円(税別)	
その他補足事項			
授業の進捗程度・等により、授業内容を変更する場合があります。			

授 業 科 目 名	福祉キャリア研究		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：茂木 積雄	職名：教授 氏名：日下 輝美	開 講 期	通年
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	茂木：福島県立医科大学・日本大学医学部・カリフォルニア大学デイビス校・国立福島病院・JCHO二本松病院・等（39年） 日下：柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	茂木：「福島県社会保険診療請求書審査委員会学識経験者審査委員選考協議会」委員、環境省福島地方環境事務所健康管理医 日下：福島県社会福祉協議会評議員 福島県子ども・子育て会議副会長、柴田町教育委員会委員			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	茂木：福島県立医科大学 医学博士 日下：東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻修了（修士（経営学）日本地域福祉学会、日本社会福祉学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 茂木積雄 moteki.seki@fukushima-college.ac.jp 日下輝美 kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>「社会福祉士」、「精神保健福祉士」、「公認心理師」の職業及び、資格とその取得方法についての理解を深め、学生がいずれかの専門職に就いたとき、多職種と必要な連携をスムーズにとれるよう、実際に現場で活躍する専門家を招聘して話を聴きます。</p> <p>また、学生個人がより主体的に自分の興味や関心にあった進路選択をできるよう支援していきます。</p> <p>キャリア・ポートフォリオを各自が自宅や授業内で作成したレポートを1年間の学びとして蓄積し、最後に振り返り、自分の1年間の変化、成長を確認します。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	○ H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
キャリア・ポートフォリオを活用し、マイゴールや社会人基礎力に対する自己評価ができる。	目標	H
図書館を活用し、身近な課題や問題（社会問題等も含め）調べる力を身につける。	目標	J
各自が授業内で作成したレポートを1年間の学びとして蓄積し、最後に振り返り、自己分析を行いプレゼンテーションができるようになる。	目標	I

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 福祉学部で目指すことのできる資格について キャリアデザインを考える(1) 今現在、自分はどんな仕事をしたいと考えているのか	担当：日下 キャリア・ポートフォリオ A-1とA-4記入	必ずキャリア・ポートフォリオを持参してください
2	国家資格を目指すための学修度チェック 科目名「医学一般」、「心理学」小テスト・解説	担当：茂木 小テストと解説を行った後、学習計画(目標)を各自立てる	予習:「医学一般」、「心理学」の復習
3	対人援助職として求められる人材像とは ～地域福祉の仕事と求められる人材～ 今回のフィールドワークの連絡	担当：日下 キャリア・ポートフォリオ A-6を作成。A-5提出	予習:キャリア・ポートフォリオA-5記入
4	社会福祉施設訪問 社会福祉施設の社会的役割と相談職・介護職員の仕事を知る「社会福祉法人まちなか宝生園」	担当：日下 フィールドワーク	予習：まちなか宝生園について調べる
5	フィールドワークの発表 社会福祉施設の社会的役割と相談職・介護職員の仕事について	担当：日下 フィールドワークの発表 課題レポートの提出	予習：課題レポート作成
6	キャリアデザインを考える(2) 社会福祉士について 社会福祉士の職域、資格の説明、受験、過去の就職の状況について	担当：日下 DVD「社会福祉士の仕事」 (30分) レポート提出	予習：社会福祉士についてレポート作成
7	キャリアデザインを考える(3) 精神保健福祉士について 精神保健福祉士の職域、資格の説明、受験、過去の就職の状況について	担当：日下 DVD「精神保健福祉士の仕事」 (30分) レポート提出	予習：精神保健福祉士についてレポート作成
8	職場で働く専門家の話を聞く① 精神保健福祉士が活躍する医療・福祉の現場を理解する	担当：茂木 本学教員(精神保健福祉士)による講話	予習：レポートの完成
9	図書館を活用し、身近な課題や問題(社会問題等も含め)調べる力を身につける。① (図書館司書の協力を得る)	担当：茂木 ラーニングcommons	予習：課題や問題を調べてくる
10	図書館を活用し、身近な課題や問題(社会問題等も含め)調べる力を身につける。②	担当：茂木 ラーニングcommons	予習：振り返り発表のレジメ作成
11	9・10で学んだ、ラーニングcommonsで学んだ課題についてプレゼンテーションを行う①	担当：茂木	予習：成果発表
12	9・10で学んだ、ラーニングcommonsで学んだ課題についてプレゼンテーションを行う②	担当：茂木	予習：成果発表
13	キャリアデザインを考える(4) 公務員の仕事について 職域、資格の説明、進学、過去の就職の状況について	担当：茂木 公務員(福祉職) ゲストスピーカー招聘	予習：職場について調べるレポート作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
14	キャリアデザインを考える(5) 社会人基礎力とは	担当：日下 一般企業人を招聘 キャリア・ポートフォリオ C-2 記入・提出	予習：キャリア・ポートフォリオ A-5 記入
15	まとめ 自分のキャリアと向き合って考えること	担当：日下 キャリア・ポートフォリオ 提出	予習：キャリア・ポートフォリオ未記入を記述
期末試験	後期期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標H・J : 期末試験（各30点、平均値） 目標I : ディスカッションの発言20点満点、キャリア・ポートフォリオの記述内容20点 目標H・J・I : レビュー30点満点、総計100点。 本科目は点数ではなく「認定の可否」で評価を行います。総計が59点未満は「不認定」となりますがGPAには反映されません。			
教科書			
使用しない。			
その他補足事項			
本科目は、原則としてクラスセミナーと交互に開講します。ただし、クラスセミナーは、事務局各課の連絡や行事も入るため、本科目の開講週が変わることを予め断わっておきます。			

授 業 科 目 名	アカデミック・スキル演習		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：遠 藤 寿 海		開 講 期	通年
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	特別養護老人ホーム 介護職員（平成11年9月～平成13年4月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市地域包括支援センター運営協議会 委員 福島市地域生活支援協議会 会長 福島市社会保障審議会 副会長			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院人間総合科学研究科 ヒューマンケア科学修士 介護福祉士 日本老年社会学会、日本老年行動科学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：endo.toshimi fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>大学での学びは、自ら課題や問題を見出し、根拠となる資料を基に自ら整理し、考えて、答えを導き出していく力を身につけていくことが求められている。</p> <p>学生の主体的な学びを進めていくための基礎となる文章の書き方、プレゼンテーションの方法、情報の探し方、研究テーマの決め方等について学ぶとともに、グループワークを通して、チームの中で役割を果たすことができる力を涵養する。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	<input type="radio"/> C	論理的思考力
	<input type="radio"/> D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/> G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/> I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
① 大学での学び方を理解する。	目標	C
② 基本的なレポートの書き方を身につけ、テーマに沿った内容で書きあげることができるようになる。	目標	C・D
③ チームでの活動を通して、メンバーの一人として目的達成のために行動できるようになる。	目標	C・G・I

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 自己紹介	グループワーク	教科書第1章を読む
2	自己理解と他者理解	グループワーク	
3	大学での講義の受け方、ノートを取り方	講義 グループワーク	教科書第2章を読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	情報の調べ方 図書館の活用(グループ1)	グループワーク 感想レポート提出	教科書第3章を読む
5	情報の調べ方 図書館の活用(グループ2)	グループワーク 感想レポート提出	教科書第3章を読む
6	情報に対する態度 研究の倫理、コンプライアンス	グループワーク	教科書第3章を読む
7	本を読むということ	講義 グループワーク	教科書第4章を読む
8	レジュメ、レポートの作り方	講義 ワークシート	教科書第5章～第7章を読む
9	レポートの書き方①	講義 ワークシート	教科書第5章～第7章を読む
10	レポートの書き方②	講義 ワークシート	教科書第5章～第7章を読む
11	卒業研究に向けて 研究テーマの決め方	講義 ワークシート	教科書第5章・第6章を読む
12	グループ発表①	プレゼンテーション コメントシートの作成	グループごとに発表準備をしておく
13	グループ発表②	プレゼンテーション コメントシートの作成	グループごとに発表準備をしておく
14	グループ発表③	プレゼンテーション コメントシートの作成	グループごとに発表準備をしておく
15	まとめと振り返り 課題レポートの提出		教科書第8章を読む
期末 試験	なし		
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標C・D：課題レポートの提出と内容の適切性：50% 目標G・I：グループ発表の充実度と積極的参加：40% 目標D：感想レポートの提出：10% 上記の方法で評価する他、授業への参加態度等も含めて総合的に評価する。</p>			
教科書			
<p>書名：アカデミック・スキルズ 第2版 著者名：佐藤望・編著 ほか 発行所：慶應義塾大学出版会 価格：1,000円(税別)</p>			
その他補足事項			
<p>本科目は、1年次クラスセミナーと交互に開講される。詳細な日程に関しては、初回授業またはクラスセミナー時に周知する。 グループワークを中心とした授業を行うため、グループメンバーに迷惑をかけない行動を心がけること。</p>			

授 業 科 目 名	人体の構造と機能及び疾病		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：茂 木 積 雄		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	福島県立医科大学第2内科・日本大学臨床病理学教室・カリフォルニア大学デビス校臨床免疫学教室・国立福島病院内科・他（39年）			
社会貢献としての委員会・職 等	「福島県社会保険診療請求書審査委員会学識経験者審査委員選考協議会」委員			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	福島県立医科大学・医学博士 医師・産業医・認定内科医・日本内科学会・日本肝臓学会・日本リウマチ学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
公認心理師	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
社会福祉士、精神保健福祉士および心理関係専門職として医療・保健・福祉・教育および産業保健などの種々の現場で就業する際に、チーム医療の一員として専門性を如何なく発揮し、患者・家族・等を心理学的側面からの確で効果的に支援する上で必須となる、ヒトの体と医学的知識に関する概要の理解に努める。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
・医療の現場で比較的高頻度に見られる疾患の種類、原因および病像について自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A
・社会的に問題となっている医学や医療の状況についての原因や対策などを考える上で必須となる知識を習得する。	目標	C
・疾病に関する理解を深めることにより、疾病を抱える患者および家族が直面している様々な問題点を系統的小および論理的に把握するための基礎を習得する。	目標	J

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方と留意点	授業計画	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	第1章 人の成長・発達と老化 身体の成長・発達 精神の成長・発達 老化	教科書補足資料1	教科書P1～24を事前に読む。
3	第2章 身体構造と心身の機能(1) 身体部位の名称 各器官の構造と機能(1)	教科書補足資料2-1	教科書P25～33を事前に読む。
4	第2章 身体構造と心身の機能(2) 各器官の構造と機能(2)	教科書補足資料2-2	教科書P34～52を事前に読む。
5	第3章 疾病の概要(1) 生活習慣病と未病 悪性腫瘍	DVD視聴「メタボリック症候群」(映像利用)	教科書P53～60を事前に読む。
6	第3章 疾病の概要(2) 脳血管疾患	DVD視聴「脳梗塞」(映像利用)	教科書P61～65を事前に読む。
7	第3章 疾病の概要(3) 心疾患 高血圧	DVD視聴「心筋梗塞」(映像利用)	教科書P66～71を事前に読む。
8	第3章 疾病の概要(4) 糖尿病と内分泌疾患	DVD視聴「糖尿病の最新治療」(映像利用)	教科書P72～75を事前に読む。
9	第3章 疾病の概要(5) 呼吸器疾患 消化器疾患	DVD視聴「慢性閉塞性肺疾患」(映像利用)	教科書P76～79を事前に読む。
10	第3章 疾病の概要(6) 消化器疾患	DVD視聴「出血性胃潰瘍の内視鏡的治療」(映像利用)	教科書P80～83を事前に読む。
11	第3章 疾病の概要(7) 血液疾患と膠原病	教科書補足資料3	教科書P84～86を事前に読む。
12	第3章 疾病の概要(8) 腎臓疾患	教科書補足資料4	教科書P87～90を事前に読む。
13	第3章 疾病の概要(9) 泌尿器疾患	DVD視聴「尿失禁」(映像利用)	教科書P91～94を事前に読む。
14	第3章 疾病の概要(10) 骨・関節疾患 目・耳の疾患	DVD視聴「白内障と緑内障」(映像利用)	教科書P95～102を事前に読む。
15	第3章 疾病の概要(11) 感染症	DVD視聴「インフルエンザ」(映像利用)	教科書P103～106を事前に読む。
16	第3章 疾病の概要(12) 神経疾患と難病 先天性疾患	DVD視聴「ALS(筋委縮性側索硬化症)」(映像利用)	教科書P107～116を事前に読む。
17	第3章 疾病の概要(13) その他の高齢者に多い疾患	DVD視聴「摂食嚥下障害」(映像利用)	教科書P117～128を事前に読む。
18	第4章 障害の概要(1) 視覚障害 聴覚障害	DVD視聴「障害者ランナー・リオへの道」(映像利用)	教科書P129～136を事前に読む。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	第4章 障害の概要(2) 平衡機能障害 肢体不自由	教科書補足資料5	教科書P137～145を事前に読む。
20	第4章 障害の概要(3) 内部障害 知的障害	教科書補足資料6	教科書P146～151を事前に読む。
21	第4章 障害の概要(4) 発達障害	DVD視聴「発達障害」 (映像利用)	教科書P152～155を事前に読む。
22	第4章 障害の概要(5) 認知症	DVD視聴「アルツハイマー病」 (映像利用)	教科書P156～161を事前に読む。
23	第4章 障害の概要(6) 高次機能障害 精神障害	DVD視聴「脳血管障害」 (映像利用)	教科書P162～172を事前に読む。
24	第5章 リハビリテーションの概要(1) リハビリテーションとは リハビリテーションにおける障害評価	教科書補足資料7	教科書P173～182を事前に読む。
25	第5章 リハビリテーションの概要(2) リハビリテーションの諸段階 リハビリテーションにかかわる専門職 リハビリテーションの4つの側面	教科書補足資料8	教科書P183～192を事前に読む。
26	第6章 国際生活機能分類の基本的考え方と概要 国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)への変遷 心身機能と身体構造・活動・参加の概念 背景因子 健康状態と生活機能低下の概念	教科書補足資料9	教科書P193～203を事前に読む。
27	第7章 健康のとりえ方(1) 健康の概念とプライマリヘルスケア 日本の人口統計 人口の高齢化と家族	教科書補足資料10	教科書P204～217を事前に読む。
28	第7章 健康のとりえ方(2) 国民健康づくり対策 感染症対策	教科書補足資料11	教科書P218～224を事前に読む。
29	第7章 健康のとりえ方(3) 産業保健 歯科保健	DVD視聴「うつ病の治療」 (映像利用)	教科書P225～231を事前に読む。
30	まとめ	教科書補足資料12	教科書既習内容ポイントを再確認
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

A・B・J：

- (1) 筆記試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施
- (2) レポート レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、興味関心をもった領域に関して各自で課題を設定する方式とする。
- (3) その他 授業内容の理解度を確認するために2回～3回、小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。

教科書

書名：新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病
著者名：社会福祉士養成講座編集委員会
発行所：中央法規
価格：2,200円（税別）

その他補足事項

授業の進捗程度、等により、授業内容を変更する場合があります。

授 業 科 目 名	精神疾患とその治療		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：星 野 仁 彦		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	精神科専門医として46年間の経験			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市を含む県北地区の学校精神科医			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	精神保健指定医、精神科専門医、日本精神神経学会会員			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
公認心理師	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目			
精神医学全般と様々な精神疾患・精神障害者の概念、診断、治療についての理解を深める。	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)		
精神医学・精神医療の歴史を理解する。	目標	A・C・H・L		
脳および神経の生理・解剖の基礎を理解する。	目標	A・C・H・L		
精神医学の概念について理解する。	目標	A・C・H・L		
精神医学診断の基本的な方法について理解する。	目標	A・C・H・L		
代表的な精神障害について理解する。	目標	A・C・H・L		
治療の概要について理解する。	目標	A・C・H・L		
病院精神医学および地域精神医学について理解する。	目標	A・C・H・L		

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	精神医学・精神医療の歴史	資料、レジュメ	次週予定のテキスト予習 当日レクチャーの復習
2	脳および神経の生理・解剖	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 1～p. 7予習 当日レクチャーの復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	精神医学の概念、精神障害の原因と分類	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 9～p.18予習 当日レクチャーの復習
4	診断の手順と方法、精神症状と状態像のとらえ方	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.19～p.25予習 当日レクチャーの復習
5	心理検査（知能検査、性格検査、身体的検査）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.27～p.43予習 当日レクチャーの復習
6	認知症その他の器質性精神障害（脳血管性認知症、アルツハイマー型認知症）	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p.59～p.71予習 当日レクチャーの復習
7	統合失調症（精神分裂病）	ビデオ供覧『統合失調症を理解する』（30分）	次週予定のテキスト p.86～p.100予習 当日レクチャーの復習
8	気分（感情）障害、うつ病、躁うつ病、季節性うつ病、仮面うつ病	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.100～p.110予習 当日レクチャーの復習
9	神経症（不安障害）、不安神経症（パニック障害）、強迫神経症、対人恐怖症、離人神経症	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.110～p.127予習 当日レクチャーの復習
10	ストレス関連障害、PTSD（心的外傷後ストレス障害）	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p.110～p.127予習 当日レクチャーの復習
11	身体表現性障害、心身症、心気症、ヒステリー、心因性疼痛	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.123～p.126予習 当日レクチャーの復習
12	パーソナリティ障害（境界性、自己愛性、反社会性、演技性パーソナリティ障害）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.137～p.150予習 当日レクチャーの復習
13	知的障害（精神遅滞）、自閉症、アスペルガー症候群	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.150～p.164予習 当日レクチャーの復習
14	ADHD（注意欠陥・多動性障害）、LD（学習障害）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.165～p.172予習 当日レクチャーの復習
15	不登校、ひきこもり、家庭内暴力	資料、レジュメ ケーススタディ	配付資料で予習 当日レクチャーの復習
期末試験	前期末試験		
16	摂食障害（拒食症と過食症）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.127～p.132予習 当日レクチャーの復習
17	性同一性障害、異常性愛（性的倒錯）、ED（勃起障害）	資料、レジュメ ケーススタディ	配付資料で予習 当日レクチャーの復習
18	各種依存症、嗜癖行動（ギャンブル依存、買物依存、恋愛依存）	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.71～p.86予習 当日レクチャーの復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	多重人格、解離性障害、憑依(つきもの)状態、自己催眠後遺症	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.120～p.123予習 当日レクチャーの復習
20	児童虐待、被虐待児症候群	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p.168～p.171予習 当日レクチャーの復習
21	睡眠障害(睡眠覚醒リズム障害、ナルコレプシー、睡眠発作、不眠症、過眠症、睡眠時無呼吸症候群)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.132～p.137予習 当日レクチャーの復習
22	非行、性非行、犯罪精神医学	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.168予習 当日レクチャーの復習
23	アダルトチルドレン(機能不全家族に育った人)、共依存症	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.168～p.171予習 当日レクチャーの復習
24	てんかん、その他の神経系疾患	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p.173～p.186予習 当日レクチャーの復習
25	精神科救急医療、自殺の予防と対応	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.250～p.265予習 当日レクチャーの復習
26	薬物乱用と薬物依存(覚せい剤、シンナー、マリファナ、コカインなど)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.71～p.86予習 当日レクチャーの復習
27	夫婦間暴力(ドメスティック・バイオレンス)、老人虐待、ストーカー	資料、レジュメ	配付資料で予習 当日レクチャーの復習
28	精神科リハビリテーション、デイケア、SST、家族療法、環境調整療法	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.214～p.230予習 当日レクチャーの復習
29	精神科薬物療法、電気ショック療法 地域精神医療と病院精神医学	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.187～p.205予習 当日レクチャーの復習
30	精神医学に関する各種法令	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.295～p.318予習 当日レクチャーの復習
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
目標A・C・H・L:毎回の豆テスト40%、期末試験60% 詳しくは初回時に説明する。			
教科書			
書名:精神疾患とその治療 第6版 著者名:精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 発行所:へるす出版 価格:2,800円(税別)			

授 業 科 目 名	精神医学 (旧カリ)		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	3年次以上
担 当 教 員	職名：教授 氏名：星 野 仁 彦		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	精神科専門医として46年間の経験			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市を含む県北地区の学校精神科医			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	精神保健指定医、精神科専門医、日本精神神経学会会員			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
公認心理師	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目			
精神医学全般と様々な精神疾患・精神障害者の概念、診断、治療についての理解を深める。	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)		
精神医学・精神医療の歴史を理解する。	目標	A・C・H・L		
脳および神経の生理・解剖の基礎を理解する。	目標	A・C・H・L		
精神医学の概念について理解する。	目標	A・C・H・L		
精神医学診断の基本的な方法について理解する。	目標	A・C・H・L		
代表的な精神障害について理解する。	目標	A・C・H・L		
治療の概要について理解する。	目標	A・C・H・L		
病院精神医学および地域精神医学について理解する。	目標	A・C・H・L		

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	精神医学・精神医療の歴史	資料、レジュメ	次週予定のテキスト予習 当日レクチャーの復習
2	脳および神経の生理・解剖	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 1～p. 7予習 当日レクチャーの復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	精神医学の概念、精神障害の原因と分類	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 9～p.18予習 当日レクチャーの復習
4	診断の手順と方法、精神症状と状態像のとらえ方	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.19～p.25予習 当日レクチャーの復習
5	心理検査(知能検査、性格検査、身体的検査)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.27～p.43予習 当日レクチャーの復習
6	認知症その他の器質性精神障害(脳血管性認知症、アルツハイマー型認知症)	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p.59～p.71予習 当日レクチャーの復習
7	統合失調症(精神分裂病)	ビデオ供覧『統合失調症を理解する』(30分)	次週予定のテキスト p.86～p.100予習 当日レクチャーの復習
8	気分(感情)障害、うつ病、躁うつ病、季節性うつ病、仮面うつ病	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.100～p.110予習 当日レクチャーの復習
9	神経症(不安障害)、不安神経症(パニック障害)、強迫神経症、対人恐怖症、離人神経症	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.110～p.127予習 当日レクチャーの復習
10	ストレス関連障害、PTSD(心的外傷後ストレス障害)	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p.110～p.127予習 当日レクチャーの復習
11	身体表現性障害、心身症、心気症、ヒステリー、心因性疼痛	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.123～p.126予習 当日レクチャーの復習
12	パーソナリティ障害(境界性、自己愛性、反社会性、演技性パーソナリティ障害)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.137～p.150予習 当日レクチャーの復習
13	知的障害(精神遅滞)、自閉症、アスペルガー症候群	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.150～p.164予習 当日レクチャーの復習
14	ADHD(注意欠陥・多動性障害)、LD(学習障害)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.165～p.172予習 当日レクチャーの復習
15	不登校、ひきこもり、家庭内暴力	資料、レジュメ ケーススタディ	配付資料で予習 当日レクチャーの復習
期末試験	前期末試験		
16	摂食障害(拒食症と過食症)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.127～p.132予習 当日レクチャーの復習
17	性同一性障害、異常性愛(性的倒錯)、ED(勃起障害)	資料、レジュメ ケーススタディ	配付資料で予習 当日レクチャーの復習
18	各種依存症、嗜癖行動(ギャンブル依存、買物依存、恋愛依存)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.71～p.86予習 当日レクチャーの復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	多重人格、解離性障害、憑依(つきもの)状態、自己催眠後遺症	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.120～p.123予習 当日レクチャーの復習
20	児童虐待、被虐待児症候群	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p.168～p.171予習 当日レクチャーの復習
21	睡眠障害(睡眠覚醒リズム障害、ナルコレプシー、睡眠発作、不眠症、過眠症、睡眠時無呼吸症候群)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.132～p.137予習 当日レクチャーの復習
22	非行、性非行、犯罪精神医学	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.168予習 当日レクチャーの復習
23	アダルトチルドレン(機能不全家族に育った人)、共依存症	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.168～p.171予習 当日レクチャーの復習
24	てんかん、その他の神経系疾患	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p.173～p.186予習 当日レクチャーの復習
25	精神科救急医療、自殺の予防と対応	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.250～p.265予習 当日レクチャーの復習
26	薬物乱用と薬物依存(覚せい剤、シンナー、マリファナ、コカインなど)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.71～p.86予習 当日レクチャーの復習
27	夫婦間暴力(ドメスティック・バイオレンス)、老人虐待、ストーカー	資料、レジュメ	配付資料で予習 当日レクチャーの復習
28	精神科リハビリテーション、デイケア、SST、家族療法、環境調整療法	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.214～p.230予習 当日レクチャーの復習
29	精神科薬物療法、電気ショック療法 地域精神医療と病院精神医学	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.187～p.205予習 当日レクチャーの復習
30	精神医学に関する各種法令	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.295～p.318予習 当日レクチャーの復習
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
目標A・C・H・L:毎回の豆テスト40%、期末試験60%による。詳しくは初回時に説明する。			
教科書			
書名:精神疾患とその治療 第6版 著者名:精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 発行所:へるす出版 価格:2,800円(税別)			

授 業 科 目 名	発 達 心 理 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 渡 邊 勉	わた なべ つとむ	開 講 期	前 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間		聖マリアンナ医科大学病院神経精神科心理技術員・臨床心理士（昭和57年1月～平成14年3月） 目白大学カウンセリングセンター相談員（平成14年4月～平成30年3月）		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		福島市自殺対策ネットワーク会議議長、日本心理臨床学会代議員		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程修了、文学修士 博士（医学）聖マリアンナ医科大学、臨床心理士 日本精神分析学会認定心理療法士、公認心理師、日本心理臨床学会 日本森田療法学会		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒業		専門教育科目	必修	
公認心理師		専門教育科目	必修	
認定心理士		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間		60 時 間
オ フィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		オ フィ ス ア ワ ー : 水 曜 日 午 後 : 福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス 研 究 室 (4 0 1) メ ー ル ア ド レ ス : tsutomu.watanabe fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
「赤子泣かすな来た道じゃ、年寄り泣かすな行く道じゃ」とは昔から言われてきたが、この真理を今日どれだけの人が切実に感じているだろうか。誰でも理屈では分かっている、しみじみと感じて実際に自分の行動で示すことは難しいだろう。発達心理学の授業では、誰もが通ってきた道を振り返り、これから行く道を前もって少し眺めることによって、生涯にわたって成長を続けていく（そうあるべき）人間について理解を深めたい。	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
生涯発達心理学の幅広い領域を概観できる。	目標	A
人間の発達を幅広い視点・複数の理論から理解できる。	目標	J
実感を通して乳幼児・子育て・高齢者介護の諸問題に対処できる。	目標	K

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	発達心理学の学び方・「ヒトとして生まれ、人として生きていく」	レジメ配付	
2	§ 1 「発達するとはどういうことか」：生涯における心身の発達	レジメ配付	§ 1 を 復 習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	§ 2 「生命の芽生えから誕生まで」	レジメ配付・DVD視聴 「生後1年間の驚くべき能力」(20分)・討論	§ 2を復習
4	§ 3 「見て・さわって・感じる」	レジメ配付・DVD視聴 「生後1年間の驚くべき能力」(20分)・討論	§ 3を復習
5	§ 4 「他者との関係性を築く」	レジメ配付・DVD視聴 「生後1年間の驚くべき能力」(20分)・討論	§ 4を復習
6	§ 5 「いま・ここをこえて」	レジメ配付・DVD視聴 「言語」(20分)・討論	§ 5を復習
7	§ 6 「自分を知り、自分らしさを築く」: 自己と他者の関係の在り方と心理的発達①	レジメ配付	§ 6を復習
8	§ 7 「関わりあって育つ」: 自己と他者の関係の在り方と心理的発達②	レジメ配付・DVD視聴 「社会性」(20分)・討論	§ 7を復習
9	§ 8 「思考の深まり」: 認知機能の発達	レジメ配付・DVD視聴 「認知」(20分)・討論	§ 8を復習
10	§ 9 「子どもからの卒業」: 感情・社会性の発達①	レジメ配付	§ 9を復習
11	§ 10 「大人になるために」: 感情・社会性の発達②	レジメ配付	§ 10を復習
12	§ 11 「関わりの中で成熟する」: 感情・社会性の発達③	レジメ配付	§ 11を復習
13	§ 12 「人生を振りかえる」: 高齢者の心理	レジメ配付	§ 12を復習
14	§ 13 「発達は十人十色」: 発達障害等非定型発達	レジメ配付	§ 13を復習
15	総合ディスカッション	発達心理学のテーマを選び全体ディスカッション後、レポートにまとめる	レポートの提出を求めます
期末試験	期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
目標A・J : 期末試験 (60点) 目標L : 課題レポート (40点)			
教科書			
書名: 問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学 著者名: 坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子 発行所: 有斐閣 価格: 1,800円 (税別)			
その他補足事項			
教員が配付する資料を整理するファイル(A4)を用意してください。 授業中にミニ・レポートを求め、期末試験および課題レポートの評価に加えます。			

授 業 科 目 名	発達心理学 (旧カリ)		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	3年次以上
担 当 教 員	職名：教授 氏名：渡 邊 勉	わた なべ つとむ	開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間		聖マリアンナ医科大学病院神経精神科心理技術員・臨床心理士（昭和57年1月～平成14年3月） 目白大学カウンセリングセンター相談員（平成14年4月～平成30年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		福島市自殺対策ネットワーク会議議長、日本心理臨床学会代議員		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程修了、文学修士 博士(医学) 聖マリアンナ医科大学、臨床心理士 日本精神分析学会認定心理療法士、公認心理師、日本心理臨床学会 日本森田療法学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
公認心理師		専門教育科目	選択	
認定心理士		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー：水曜日午後：福島駅前キャンパス研究室（401） メールアドレス：tsutomu.watanabe fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
「赤子泣かすな来た道じゃ、年寄り泣かすな行く道じゃ」とは昔から言われてきたが、この真理を今日どれだけの人が切実に感じているだろうか。誰でも理屈では分かっている、しみじみと感じて実際に自分の行動で示すことは難しいだろう。発達心理学の授業では、誰もが通ってきた道を振り返り、これから行く道を前もって少し眺めることによって、生涯にわたって成長を続けていく（そうあるべき）人間について理解を深めたい。	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
生涯発達心理学の幅広い領域を概観できる。	目標	A
人間の発達を幅広い視点・複数の理論から理解できる。	目標	J
実感を通して乳幼児・子育て・高齢者介護の諸問題に対処できる。	目標	K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	発達心理学の学び方・「ヒトとして生まれ、人として生きていく」	レジメ配付	
2	§ 1 「発達するとはどういうことか」：生涯における心身の発達	レジメ配付	§ 1 を復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	§ 2 「生命の芽生えから誕生まで」	レジメ配付・DVD視聴 「生後1年間の驚くべき能力」(20分)・討論	§ 2を復習
4	§ 3 「見て・さわって・感じる」	レジメ配付・DVD視聴 「生後1年間の驚くべき能力」(20分)・討論	§ 3を復習
5	§ 4 「他者との関係性を築く」	レジメ配付・DVD視聴 「生後1年間の驚くべき能力」(20分)・討論	§ 4を復習
6	§ 5 「いま・ここをこえて」	レジメ配付・DVD視聴 「言語」(20分)・討論	§ 5を復習
7	§ 6 「自分を知り、自分らしさを築く」：自己と他者の関係の在り方と心理的発達①	レジメ配付	§ 6を復習
8	§ 7 「関わりあって育つ」：自己と他者の関係の在り方と心理的発達②	レジメ配付・DVD視聴 「社会性」(20分)・討論	§ 7を復習
9	§ 8 「思考の深まり」：認知機能の発達	レジメ配付・DVD視聴 「認知」(20分)・討論	§ 8を復習
10	§ 9 「子どもからの卒業」：感情・社会性の発達①	レジメ配付	§ 9を復習
11	§ 10 「大人になるために」：感情・社会性の発達②	レジメ配付	§ 10を復習
12	§ 11 「関わりの中で成熟する」：感情・社会性の発達③	レジメ配付	§ 11を復習
13	§ 12 「人生を振りかえる」：高齢者の心理	レジメ配付	§ 12を復習
14	§ 13 「発達は十人十色」：発達障害等非定型発達	レジメ配付	§ 13を復習
15	総合ディスカッション (前期)：夏休み課題図書の提示	発達心理学のテーマを選び全体ディスカッション後、レポートにまとめる	レポートの提出を求めます
期末試験	前期末試験		
16	『人間はどこまで動物か』を読んで：全体発表	レジメ配付	復習
17	母体という環境・胎児	レジメ配付	復習
18	「母性・父性について考える」	レジメ配付	復習
19	エディプス・コンプレックスというもの	レジメ配付	復習
20	家族・家族樹(家系図)から考える	レジメ配付	復習
21	思春期・青年期の課題	レジメ配付	復習
22	アイデンティティというもの	レジメ配付	復習
23	アイデンティティ拡散症候群をめぐって	レジメ配付	復習
24	キャリアの選択・働くということ	レジメ配付	復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
25	恋愛・結婚	レジメ配付	復習
26	親になること・親にならないこと	レジメ配付	復習
27	「中年クライシス」	レジメ配付	復習
28	「サクセスフル・エイジングの条件」	レジメ配付	復習
29	老親介護の諸問題・1年間のまとめ(課題提示)	レジメ配付	復習
30	課題レポート発表・総合ディスカッション(後期)	課題レポート提出を求めます	
期末試験の講評			
前期末試験終了後、希望者には前期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
前期 目標A・J : 期末試験(60点) 目標L : 課題レポート(40点) 後期 目標A・J・L : 課題レポート(100点) 前期と後期の結果を総合して評価します。			
教科書			
書名: 問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学 著者名: 坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子 発行所: 有斐閣 価格: 1,800円(税別)			
その他補足事項			
後期は、旧カリ受講者のための講義でディスカッションを中心とします。 教員が配付する資料を整理するファイル(A4)を用意してください。 授業中にミニ・レポートを求め、期末試験および課題レポートの評価に加えます。			

授 業 科 目 名	臨床心理学概論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：渡 邊 勉	わた なべ つとむ	開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間		聖マリアンナ医科大学病院神経精神科心理技術員・臨床心理士（昭和57年1月～平成14年3月） 目白大学カウンセリングセンター相談員（平成14年4月～平成30年3月）		
社会貢献としての委員会・職等		福島市自殺対策ネットワーク会議議長、日本心理臨床学会代議員		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等		上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程修了、文学修士 博士（医学）聖マリアンナ医科大学、臨床心理士 日本精神分析学会認定心理療法士、公認心理師、日本心理臨床学会 日本森田療法学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
公認心理師		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワー：水曜日午後：福島駅前キャンパス研究室（401） メールアドレス：tsutomu.watanabe@fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
臨床心理学の根本問題つまり「人間が生きていくうえで直面するさまざまな悩みにどう立ち向かうか」、また「どう立ち向かってきたか」を概観する。本講義のテキストは公認心理師を養成するためのカリキュラムに即した内容と構成になっているが、初学者・大学新入生に必ずしもふさわしいとはいえない。しかし、最初に臨床心理学の領域の広大さと手ごわさ・難解さをあじわうのは意味があるだろう。授業では、臨床心理学への入門を意識して進めたい。	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
臨床心理学が包括する幅広い領域を概観できる。	目標	A
人間を特定の理論や価値観に偏らない立場から理解できる。	目標	J
結論を急がずにしたたかに生きていく。	目標	L

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	§ 1 「日本の臨床心理学」：臨床心理学の学び方	レジメ配付	§ 1 を復習
2	§ 2 「世界の臨床心理学」	レジメ配付	§ 2 を復習
3	§ 3 「臨床心理学の定義・理念・体系」	レジメ配付	§ 3 を復習
4	§ 4 臨床心理学の代表的な理論：「精神分析的アプローチ」	レジメ配付	§ 4 を復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	§ 5 臨床心理学の代表的な理論： 「分析心理学的アプローチ」	レジメ配付	§ 5を復習
6	§ 6 臨床心理学の代表的な理論： 「行動論・認知論的アプローチ」	レジメ配付	§ 6を復習
7	§ 7 臨床心理学の代表的な理論： 「ヒューマニスティック・アプローチ」	レジメ配付	§ 7を復習
8	§ 8 臨床心理学の代表的な理論： 「システミック・アプローチ」	レジメ配付	§ 8を復習
9	§ 9 臨床心理学の代表的な理論： 「グループ・アプローチ」	レジメ配付	§ 9を復習
10	§ 10 臨床心理学の代表的な理論： 「コミュニティー・アプローチ」	レジメ配付	§ 10を復習
11	§ 11 臨床心理学の代表的な理論： 「ナラティブ・アプローチ」	レジメ配付	§ 11を復習
12	§ 12 臨床心理学の代表的な理論： 「非言語的アプローチ」	レジメ配付	§ 12を復習
13	§ 13 臨床心理学の代表的な理論： 「統合的アプローチ」	レジメ配付	§ 13を復習
14	映画から学ぶ（前半）	DVD『普通の人々』（1980） 前半（70分）視聴	家族・親子・カウンセリングの意味を考える
15	映画から学ぶ（後半）・家族力動と変化の可能性をディスカッションし、レポートにまとめる	DVD『普通の人々』（1980） 後半（50分）視聴	レポートの提出を求めます
期末試験	期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標A・J：期末試験（60点） 目標L：15回目の授業後の課題レポート（40点） 上記の点数を総合して成績を評価する			
教科書			
書名：臨床心理学概論 著者名：野島一彦・岡村達也 発行所：遠見書房 価格：2,400円（税別）			
その他補足事項			
教員が配付する資料を整理するファイル（A4）を用意してください。 授業中にミニ・レポートを求め、期末試験および課題レポートの評価に加えます。			

授 業 科 目 名	心理学研究法		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	H30以降入学 2年次 H29以前入学 3・4年次
担 当 教 員	職名：客員教授		開 講 期	前期
	氏名：阿 部 恒 之 (本務先：東北大学 職名：教授・副研究科長)		授 業 回 数	30回(2コマ連続)
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし			
社会貢献としての委員会・職 等	日本学会連携委員会、(社)美容の価値を考える会理事長等			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院文学研究科博士課程修了、博士(文学) 日本心理学会、日本感情心理学会、日本顔学会、日本生理心理学会等			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	2年次：必修、3・4年次：選択		
認定心理士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	メールアドレス：abe7t@tohoku.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
以下の内容をアクティブラーニングによって修得する。 ① 心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究) ② データを用いた実証的な思考方法 ③ 研究における倫理	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	○ G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
心理学の研究を遂行するために必要な基本的な方法論を身につける。	目標	K
心理学的謎を見つけ、研究課題として立てることができるようになる。	目標	K
心理学の研究を実際に行えるようになる。	目標	G・I・K
グループでの討議を通じて討議能力を身につける。	目標	G・I
自ら行った研究をわかりやすく発表できるようになる。	目標	G・I

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス	(全ての授業で資料を投影しながら進める)	
2	授業内容の全体概説		
3	文献調査法 1	班編成	これ以降、大研究のテーマを班毎に随時討議のこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	文献調査法 2	班別討議	これ以降、大研究のテーマを班毎に随時討議のこと
5	文献調査法発表、面接法 1	小研究発表 1	班毎に小研究をまとめて参加のこと
6	面接法 2	班別討議	
7	面接法発表、観察法 1	小研究発表 2	班毎に小研究をまとめて参加のこと
8	観察法 2	ビデオを用いた観察法実習	
9	観察法 3	ビデオを用いた観察法実習、班別討議	
10	観察法発表 1、観察法 4	小研究発表 3、班別討議	班毎に小研究をまとめて参加のこと
11	観察法 5	フィールドワーク(現実場面における観察実習)	
12	観察法 6	フィールドワークの続き	
13	観察法発表 2	小研究発表 4	班毎に小研究をまとめて参加のこと
14	プレゼンテーションスキル	コンピュータ実習	
15	中間試験	試験による定着学修	ここまでの習得内容をよく復習しておくこと
16	中間試験の解答解説	試験の解答確認を通じた振り返り	
17	質問紙調査法 1	ゲストスピーカー招聘	ゲストスピーカーの講義復習
18	質問紙調査法 2	班別討議	
19	質問紙調査法発表 1	小研究発表 5	班毎に小研究をまとめて参加のこと
20	質問紙調査法 3	班別討議	
21	質問紙調査法発表 2、実験法 1	小研究発表 6	班毎に小研究をまとめて参加のこと
22	実験法 2	班別討議	
23	実験法 3	班別討議	班毎に小研究をまとめて参加のこと
24	実験法発表、検査法 1	小研究発表 7	
25	検査法 2	班別討議	班毎に小研究をまとめて参加のこと
26	検査法発表	小研究発表 8	
27	大研究の班別実習 1	班別討議による総仕上げ	十分な討議を行うこと
28	大研究の班別実習 2	班別討議による総仕上げ	
29	大研究発表	発表	全員が発表に貢献するよう役割を分担すること
30	大研究発表・講評	相互評価(各人が他班の発表と自班のメンバーの貢献を評価)	
期末試験	前期末試験		

期末試験の講評
期末試験終了後、希望者には解題を行う。
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）
目標G・I：授業中の活動（小・大研究発表、班別討議への参加） 40% 目標K　　：中間試験 30% 目標K　　：期末試験 30% 以上の配分に基づき、総合的に評価する。
教科書
使用しない。
その他補足事項
<p>授業は2コマ連続で行う。班を編成し、ほぼ毎回、指定されたテーマに関する実習（小研究）を行い、授業時間外も活用してまとめてもらう。また、各班で自主的に決めたテーマについて、授業で修得した技法を用いて研究し（大研究）、最後の授業回で発表してもらう。</p> <p>データ解析・プレゼンテーションなどでコンピュータを多用するので、各自、事前にエクセル・パワーポイントの習熟につとめて欲しい。</p> <p>得るものは多いと思われるが、小研究・大研究に関わる授業時間外の学修負担は大きい。授業への不参加、小・大研究分担の不履行は、自分のみならず班員への迷惑になるので、履修する場合は相応の覚悟をして、欠席しないよう努めること。</p>

授 業 科 目 名	感情・人格心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：兼担教授 氏名：田 辺 稔	みのる	開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市子ども子育て会議 会長（2018. 3まで） 福島市児童福祉専門部会 会長（2018. 4より現在に至る）			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	玉川大学大学院文学研究科修士課程（教育学専攻）修了 文学修士 日本応用心理学会・日本社会心理学科・日本カウンセリング学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	必修		
認定心理士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは初回授業時に説明します。 メールアドレス：tanabe.minoru_fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
人格（性格）の諸理論に関する全般的な理解をテーマに、 人格研究の歴史的な経緯から、各理論の基本的な着眼点、 研究方法を学んでいく。また各研究や各理論相互の結び つきや誕生の経緯、各理論が果たしてきた役割に注目し、 人格（性格）の理解をキーワードに心理学全体の流れを 把握できる知識を獲得していく。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
人格研究に関する流れ（歴史）を習得し説明できる。	目標	A・C
各理論相互の誕生の経緯を説明できる。	目標	A・C
各理論相互の関連・結びつきを把握し説明できる。	目標	A・C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの 方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション： 年間授業の流れと留意点。講義課題、授業の進め 方、評価方法に関するガイダンス	「人格心理学」（3・4年次開講） と前期同時開講であることの説 明。	
2	人格に関する一般的とらえ方： 受講者がとらえるパーソナリティを題材に日常的 な「表出行動」と「対処的行動」の相違点から「行 動」のとらえ方について学ぶ	体系的な学びの前に、受講者各 人がとらえる人格（性格・パー ソナリティ・個性）について議 論していく。 (履修者数によりグループディ スカッションとする場合もある)	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	感情とパーソナリティ 感情の発達・感情と行動の関係性	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	心理学概論 — 心理学の歴史を復習のこと 教科書 p 1～11
4	人格の理論：帰属理論① 行動の認知と原因の解釈	資料提示はパワーポイントを使用予定	配付資料を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
5	人格の理論：帰属理論② 帰属理論から見たパーソナリティ 原因帰属のモデル 外的帰属と内的帰属 帰属の個人差	資料提示はパワーポイントを使用予定	配付資料を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
6	人格の理論：類型論① 類型の意味ととらえ方。クレッチマーの気質類型論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 48～57を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
7	人格の理論：類型論② 類型の意味ととらえ方。ユング・シェルドンの類型論。類型論の問題点と可能性	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 57～63を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
8	人格の理論：特性論① 特性の意味ととらえ方。尺度、因子分析の研究	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 64～67を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
9	人格の理論：特性論② 特性の意味ととらえ方。オールポートの理論、キャッテル、ギルホードの理論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 67～79を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
10	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ① フロイトのパーソナリティ。構造体としてのパーソナリティ理論と精神分析	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 14～16を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
11	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ② フロイトのパーソナリティ。パーソナリティの発達	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 16～18を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
12	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ③ ユングのパーソナリティ。精神分析と分析心理学	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 57～59、p 99～101を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
13	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ④ ユングのパーソナリティ・タイプ論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 57～59、p 99～101を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
14	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ⑤ フロイト以降の力動論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 57～59、p 99～101を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
15	まとめ 各人格論に関する知識を前提に改めて、人格研究の流れを復習する。	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 1～11、p 48～57、p 58～99、p 101のまとめ。
期末試験	前期末試験		

期末試験の講評	
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。	
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）	
目標A・C：筆記試験	70点満点とする記述方式のテストを学期末に実施。
目標A・C：レポート	期末に課題レポートを提出。レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に添い、興味関心を持った領域に関して課題を各自で設定する方式とする。
目標A：その他	授業内容の理解度あるいは授業項目展開上必要とされる事前の知識等の確認のため、2回から3回程度小テストを実施する。小テストの採点は授業内で答え合わせの形式で行い、不足していると思われる事項を直ぐに授業で反映出来るよう計画していく。
教科書	
書名：性格心理学への招待【改訂版】 著者名：詫間武俊・鈴木乙史 他 発行所：サイエンス社 価格：2,100円（税別）	
その他補足事項	
本科目では、コンピュータを用いたスライド（パワーポイント）を中心に展開していく。実習等で欠席の場合は、ファイル形式あるいはプリント資料にて配付できるので申し出ること。	

授 業 科 目 名	人 格 心 理 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 4 単 位
			開 講 年 次	3 ・ 4 年 次
担 当 教 員	職 名 : 兼 担 教 授 氏 名 : 田 辺 稔	み の る	開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間		特 記 事 項 な し		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		福 島 市 子 ども 子 育 て 会 議 会 長 (2018. 3 まで) 福 島 市 児 童 福 祉 専 門 部 会 会 長 (2018. 4 より 現 在 に 至 る)		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		玉 川 大 学 大 学 院 文 学 研 究 科 修 士 課 程 (教 育 学 専 攻) 修 了 文 学 修 士 日 本 応 用 心 理 学 会 ・ 日 本 社 会 心 理 学 科 ・ 日 本 カ ウ ン セ リ ン グ 学 会		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業		専 門 教 育 科 目	選 択	
公 認 心 理 師		専 門 教 育 科 目	選 択	
認 定 心 理 士		専 門 教 育 科 目	選 択	
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間		60 時 間
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		オ フ ィ ス ア ワ ー は、初 回 授 業 時 に 説 明 し ま す。 メ ー ル ア ド レ ス : tanabe.minoru_fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
人 格 (性 格) の 諸 理 論 に 関 す る 全 般 的 な 理 解 を テ ー マ に、 人 格 研 究 の 歴 史 的 な 経 緯 か ら、各 理 論 の 基 本 的 な 着 眼 点、 研 究 方 法 を 学 ん で い く。ま た 各 研 究 や 各 理 論 相 互 の 結 び つ き や 誕 生 の 経 緯、各 理 論 が 果 た し て き た 役 割 に 注 目 し、 人 格 (性 格) の 理 解 を キ ー ワ ー ド に 心 理 学 全 体 の 流 れ を 把 握 で き る 知 識 を 獲 得 し て い く。	○	A 知 識
		B 技 術 ・ 技 能
	○	C 論 理 的 思 考 力
		D 文 章 表 現 力
		E 表 情 及 び 身 体 表 現 力
		F 感 性 及 び 感 動 表 現 力
		G 協 働 能 力
		H ま ご こ ろ、思 い や り の 発 現 力 と 夢 や 希 望 の 発 信 力
		I 積 極 的 発 言 力 及 び プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 力
		J 多 様 性 へ の 理 解 力、応 用 力
		K 課 題 対 処 力
		L 人 間 関 係、対 人 関 係 構 築 力 及 び 対 話 力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)
人 格 研 究 に 関 す る 流 れ (歴 史) を 習 得 し 説 明 で き る。	目 標	A ・ C
各 理 論 相 互 の 誕 生 の 経 緯 を 説 明 で き る。	目 標	A ・ C
各 理 論 相 互 の 関 連 ・ 結 び つ き を 把 握 し 説 明 で き る。	目 標	A ・ C

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び、授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン : 年 間 授 業 の 流 れ と 留 意 点。講 義 課 題、授 業 の 進 め 方、評 価 方 法 に 関 す る ガ イ ダ ン ス	「 感 情 ・ 人 格 心 理 学 」 (2 年 次 開 講) と 前 期 同 時 開 講 で あ る こ と の 説 明。	
2	人 格 に 関 す る 一 般 的 と ら え 方 : 受 講 者 が と ら え る パ ー ソ ナ リ テ ィ を 題 材 に 日 常 的 な 「 表 出 行 動 」 と 「 対 処 的 行 動 」 の 相 違 点 か ら 「 行 動 」 の と ら え 方 に つ い て 学 ぶ	体 系 的 な 学 び の 前 に、受 講 者 各 人 が と ら え る 人 格 (性 格 ・ パ ー ソ ナ リ テ ィ ・ 個 性) に つ い て 議 論 し て い く。 (履 修 者 数 に よ り グ ル ー プ デ ィ ス カ ュ シ ョ ン と す る 場 合 も あ る)	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	感情とパーソナリティ 感情の発達・感情と行動の関係性	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	心理学概論 — 心理学の歴史を復習のこと 教科書 p 1～11
4	人格研の理論：帰属理論① 行動の認知と原因の解釈	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	配付資料を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
5	人格研の理論：帰属理論② 帰属理論から見たパーソナリティ 原因帰属のモデル 外的帰属と内的帰属 帰属の個人差	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	配付資料を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
6	人格の理論：類型論① 類型の意味ととらえ方。クレッチマーの気質類型論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 48～57を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
7	人格の理論：類型論② 類型の意味ととらえ方。ユング・シェルドンの類型論。類型論の問題点と可能性	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 57～63を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
8	人格の理論：特性論① 特性の意味ととらえ方。尺度、因子分析の研究	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 64～67を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
9	人格の理論：特性論② 特性の意味ととらえ方。オールポートの理論、キャッテル、ギルホードの理論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 67～79を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
10	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ① フロイトのパーソナリティ。構造体としてのパーソナリティ理論と精神分析	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 14～16を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
11	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ② フロイトのパーソナリティ。パーソナリティの発達	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 16～18を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
12	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ③ ユングのパーソナリティ。精神分析と分析心理学	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 57～59、p 99～101を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
13	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ④ ユングのパーソナリティ・タイプ論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 57～59、p 99～101を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
14	人格の理論：力動論 フロイトからの流れ⑤ フロイト以降の力動論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 57～59、p 99～101を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
15	前期部分のまとめ 前期の各人格論に関する知識を前提に改めて、人格研究の流れを復習する。	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 1～11、p 48～57、p 58～99、p 101のまとめ。
期末試験	中間試験		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	1. 前期分の復習と「感情・人格心理学」(2年次開講)以降に取り上げていく領域に関するガイダンス。 2. 人格の測定: 人格の測定 I 類型論・特性論によって構築された代表的性格テストを実際に用いて、改めて各理論の特徴を学ぶ	使用可能な性格検査は授業内で紹介。 記入作業・採点作業、評価作業の実際を学ぶ機会とする。	人格の理論:力動論 フロイトからの流れ④ ユングのパーソナリティ・タイプ論
17	人格の測定 II 類型論・特性論によって構築された代表的性格テストを実際に用いて、改めて各理論の特徴を学ぶ	使用可能な性格検査は授業内で紹介。 記入作業・採点作業、評価作業の実際を学ぶ機会とする。	事前配付資料を用いる。 その他資料提示はパワーポイントを使用予定
18	人格の理論:フロイトからの流れ⑥ エリック・バーンによる交流分析 ゲーム分析、脚本分析など	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	事前配付資料を用いる。 その他資料提示はパワーポイントを使用予定
19	人格の理論:学習理論① 行動主義とパーソナリティ I 行動の獲得と学習。学習の基本的なメカニズムの理解 ワトソンとレイナーの理論	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	事前配付資料を用いる。 その他資料提示はパワーポイントを使用予定
20	人格の理論:学習理論② 新行動主義とパーソナリティ II。 行動の獲得と学習。学習メカニズムの理解 ミラーの行動獲得過程	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	事前配付資料を用いる。 その他資料提示はパワーポイントを使用予定
21	人格の理論:学習理論③ 新行動主義とパーソナリティ III。 スキナーの理解。随伴性行動	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	事前配付資料を用いる。 その他資料提示はパワーポイントを使用予定
22	人格の理論:学習理論④ 新行動主義とパーソナリティ III。 学習理論的パーソナリティ理解の問題点と可能性	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	事前配付資料を用いる。 その他資料提示はパワーポイントを使用予定
23	人格の理論:学習理論③ 行動主義とパーソナリティ III。 学習理論的パーソナリティ理解の問題点と可能性	事前配付資料を用いる。その他資料提示はパワーポイントを使用予定	事前配付資料を用いる。 その他資料提示はパワーポイントを使用予定
24	人格の理論:現象学的人格論① 現象学・実存哲学の影響と人格論	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 27~30を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
25	人格の理論:現象学的人格論② 現象学的パーソナリティ理論。 ロジャーズの人間理解	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 27~30を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
26	人格の理解:状況論① 状況論:改めてパーソナリティの有無に関する観点を理解	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 30~32を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
27	人格の理解:状況論② 状況論:改めてパーソナリティの有無に関する観点を理解	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 30~32を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。
28	人格の理解:状況論③ 状況論を踏まえて、5因子研究の問題点と展望を理解	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 30~ p 32を事前に読み、疑問点などを明確にしておく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
29	総括：全体の振り返り① 個人差を如何に理解するのか	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	
30	総括：全体の振り返り② 個人差を如何に理解するのか	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に依る到達度の評価（評価方法・基準）			
目標 A・C：筆記試験	中間試験20%期末80%の比率で70点満点とする記述方式のテストを学期末に実施。		
目標 A・C：レポート	期末に課題レポートを提出。レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に添い、興味関心を持った領域に関して課題を各自で設定する方式とする。		
目標 A：その他	授業内容の理解度あるいは授業項目展開上必要とされる事前の知識等の確認のため、2回から3回程度小テストを実施する。小テストの採点は授業内で答え合わせの形式で行い、不足していると思われる事項を直ぐに授業で反映出来るよう計画していく。		
教科書			
書名：性格心理学への招待【改訂版】 著者名：詫間武俊・鈴木乙史 他 発行所：サイエンス社 価格：2,100円（税別）			
その他補足事項			
本科目では、コンピュータを用いたスライド（パワーポイント）を中心に展開していく。実習等で欠席の場合は、ファイル形式あるいはプリント資料にて配付できるので申し出ること。			

授 業 科 目 名	知覚・認知心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：和田裕一 (本務先：東北大学 職名：准教授)		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	東北大学大学院情報科学研究科准教授（平成19年10月～現在）			
社会貢献としての委員会・職等	日本心理学会教育研究委員会委員、日本人間工学会東北支部幹事			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程終了、博士（情報科学）			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	必修		
認定心理士	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：yuwada cog.is.tohoku.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
われわれは自己をとりまく環境の情報をどのようにして認識し、そこから新しい知識を獲得し、適応的な行動へとつなげているのであろうか。こういった「知のしくみ」を研究する心理学の一分野が認知心理学である。本講義では、人間の認知機能について、以下のトピックを中心に概説する。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
認知心理学の代表的な研究テーマに関する研究成果を体系的に学習し、われわれの「知」の仕組みの特性について自分の視点で論じることができるようになる。	目標	A・C・D・J
心理実験のデモンストレーションを体験し、それが何を意味するかについて自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A・C・D
人間の認知機能に関する諸現象とその機序を理解し、われわれの生活とどのように関連するかについての洞察を得る。	目標	A・C・D

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	イントロダクション — 認知心理学とは —	簡単なアンケートを予定	
2	脳の構造と機能 — 大脳の基本構造・機能局在・大脳半球の機能差 —	資料映像(幻肢痛)、簡易実験	確認テストのための復習
3	視知覚のメカニズムと基本的特性 — 網膜レベルの処理 —	フラッシュ教材(網膜のしくみ)、簡易実験	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	視知覚のメカニズムと基本的特性 — 視覚情報処理経路 —	資料映像(視覚情報処理)	確認テストのための復習
5	知覚の統合作用 — その1 —	実験デモ(錯視)	
6	知覚の統合作用 — その2 —	実験デモ(錯視)	
7	知覚の統合作用 — その3 —	実験デモ(錯視)	確認テストのための復習
8	情報の符号化と記憶 — 感覚記憶、注意による情報選択その1 —	簡易実験(感覚記憶)、 実験デモ(変化盲)	
9	情報の符号化と記憶 — 注意による情報選択その2 —	簡易実験(注意のスポット ライト)	確認テストのための復習
10	情報の符号化と記憶 — 短期記憶と情報の符号化 —	簡易実験(処理水準)	
11	情報の符号化と記憶 — ワーキングメモリ —	実験デモ(メモリスパン テスト)	確認テストのための復習
12	情報の符号化と記憶 — エピソード記憶 —	資料映像(目撃証言)	
13	情報の符号化と記憶 — 検索と忘却 —	実験デモ(TOT現象)	
14	情報の符号化と記憶 — 意味記憶 その1 —	簡易実験(意味的プライ ミング)	確認テストのための復習
15	まとめ		詳細に関して試験の約 1ヶ月前に告知するの で、試験当日までに各自 そのための準備を進めて おくことが求められる。
期末 試験			
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標A・C・D・J：筆記試験 最終的な成績評価には、筆記試験結果に課題の提出状況や授業時の積極的な発言、発表等への参加態度などが加味される。 試験の形式等の詳細については、第1回目の授業時に説明する。</p>			
教科書		参考書	
使用しない。代替教材として講義毎に資料プリントを配付する。		適宜紹介する。	
その他補足事項			
<p>授業は原則としてパワーポイントによるプレゼン形式で行う。教科書は用いず、毎回、講義資料を配付する。資料映像等のAV教材も利用するが、その内容は授業進度に応じて変わることが予想されるため、授業内容で示した資料名や確認テストの日程等に変更されることがある。また、授業中、その日の授業内容に関連する簡易実験やデモンストレーションを行う場合があるので、積極的な参加・協力をお願いしたい。</p>			

授 業 科 目 名	認 知 心 理 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 4 単 位
			開 講 年 次	3 ・ 4 年 次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：和田裕一 (本務先：東北大学 職名：准教授)		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	東北大学大学院情報科学研究科准教授 (平成19年10月～現在)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	日本心理学会教育研究委員会委員、日本人間工学会東北支部幹事			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程終了、博士 (情報科学)			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	選択		
認定心理士	専門教育科目	選択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	120 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：yuwada cog.is.tohoku.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
われわれは自己をとりまく環境の情報をどのようにして認識し、そこから新しい知識を獲得し、適応的な行動へとつなげているのであろうか。こういった「知のしくみ」を研究する心理学の一分野が認知心理学である。本講義では、人間の認知機能について、以下のトピックを中心に概説する。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)
認知心理学の代表的な研究テーマに関する研究成果を体系的に学習し、われわれの「知」の仕組みの特性について自分の視点で論じることができるようになる。	目標	A・C・D・J
心理実験のデモンストレーションを体験し、それが何を意味するかについて自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A・C・D
人間の認知機能に関する諸現象とその機序を理解し、われわれの生活とどのように関連するかについての洞察を得る。	目標	A・C・D

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	イントロダクション — 認知心理学とは —	簡単なアンケートを予定	
2	脳の構造と機能 — 大脳の基本構造・機能局在 —	資料映像 (幻肢痛)	
3	脳の構造と機能 — 大脳半球の機能差 —	簡易実験	確認テストのための復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	視知覚のメカニズムと基本的特性 — 網膜レベルの処理 —	フラッシュ教材 (網膜のしくみ)	
5	視知覚のメカニズムと基本的特性 — 視覚情報処理経路 —	資料映像 (視覚情報処理)	
6	知覚の統合作用 — 時間的統合作用 —	実験デモ (錯視)	
7	知覚の統合作用 — 空間的統合作用その1 —	実験デモ (錯視)	
8	知覚の統合作用 — 空間的統合作用その2 —	実験デモ (錯視)	確認テストのための復習
9	情報の符号化と記憶 — 感覚記憶 —	簡易実験 (感覚記憶)	
10	情報の符号化と記憶 — 注意による情報選択その1 —	実験デモ (変化盲)	
11	情報の符号化と記憶 — 注意による情報選択その2 —	簡易実験 (注意のスポットライト)	
12	情報の符号化と記憶 — 短期記憶と情報の符号化 —	簡易実験 (処理水準)	
13	情報の符号化と記憶 — ワーキングメモリ —	実験デモ (メモリスパンテスト)	
14	情報の符号化と記憶 — エピソード記憶 —	資料映像 (目撃証言)	確認テストのための復習
15	前期まとめ		
期末 試験	前期末試験		詳細に関して試験の約1ヶ月前に告知するので、試験当日までに各自そのための準備を進めておくことが求められる。
16	情報の符号化と記憶 — 意味記憶 その1 —	簡易実験 (意味的プライミング)	
17	情報の符号化と記憶 — 意味記憶 その2 —	簡易実験 (潜在記憶)	
18	情報の符号化と記憶 — 検索と忘却 —	実験デモ (TOT現象)	確認テストのための復習
19	高次の認知機能 — 心的イメージ —	簡易実験 (心的回転)	
20	高次の認知機能 — 思考：古典的な思考研究 —	思考クイズ	
21	高次の認知機能 — 思考：認知心理学的アプローチ —	実験デモ (ハノイの塔の問題空間)	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	高次の認知機能 — 思考：推論と類推 —	実験デモ（確率推論）	確認テストのための復習
23	高次の認知機能 — 知能：知能の定義と知能検査 —		
24	高次の認知機能 — 知能：遺伝か環境か —	資料映像（知能テスト）	
25	高次の認知機能 — 知能と創造性の関係 —	簡易実験（創造性を測る）	確認テストのための復習
26	高次の認知機能 — 言語の脳内基盤 —		
27	高次の認知機能 — 言語の獲得：その1 —	資料映像(言葉を話すチンパンジー)	
28	高次の認知機能 — 言語の獲得：その2 —	資料映像（ことばの不思議）	確認テストのための復習
29	高次の認知機能 — 認知と感情 —	簡易実験（情動プライミング）	
30	これまでの総括とディスカッション		
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標 A・C・D・J：筆記試験（前期末試験50%・後期末試験50%） 最終的な成績評価には、筆記試験結果に課題の提出状況や授業時の積極的な発言、発表等への参加態度などが加味される。 試験の形式等の詳細については、第1回目の授業時に説明する。</p>			
教科書		参考書	
使用しない。代替教材として講義毎に資料プリントを配付する。		適宜紹介する。	
その他補足事項			
<p>授業は原則としてパワーポイントによるプレゼン形式で行う。教科書は用いず、毎回、講義資料を配付する。資料映像等のAV教材も利用するが、その内容は授業進度に応じて変わることが予想されるため、授業内容で示した資料名や確認テストの日程等に変更されることがある。また、授業中、その日の授業内容に関連する簡易実験やデモンストレーションを行う場合があるので、積極的な参加・協力をお願いしたい。</p>			

授 業 科 目 名	子どもの心理		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	3年次以上
担 当 教 員	職名：教授 氏名：すぎやま まさ ひこ 杉 山 雅 彦		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員（平成23年4月～平成27年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県いじめ問題対策委員会・委員長 認知行動療法学会、常任編集委員、編集委員会副委員長			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院博士課程心身障害学研究科 修了（教育学博士） 臨床心理士（臨床心理士資格認定協会）専門行動療法士（認知・行動療法学会） 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	選択		
認定心理士	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：sugiyama.masahiko fukushima-college.ac.jp.			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
「子ども」という存在に関して心理学の観点から明確にイメージを持ち、子どもの発達・学習に関して環境が大きな影響を与えることを理解する。その上で子どもが所属集団の意味を理解し、そこで生じる様々な刺激あるいは関係が大きな影響を与えることについて理解を深める。そして子どもの示す様々な行動問題に関してその基本的概要や知識を深めていく。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
心理学の枠組みから子どもを理解する。	目標	A
子どもにとって環境が大きく影響することを、そしてそのことが行動問題に関与していることを検討する枠組みを持つ。	目標	A・C
学校が子どもにとってどう機能するかを理解できる。	目標	A・J

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 授業の進め方の留意点	授業計画	子どもとはどんな存在かに関する学習
2	子どもとは1 子どもとはどのような存在であるのかの討議	グループでの議論 全体発表 資料配付	子どもに関して再学習 配付資料の学習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	子どもとは2 子どもとは環境にどのような影響を受けるかどのように行動するかについての討議	グループでの議論 全体発表 資料配付	子どもの環境に関して 再学習 配付資料の学習
4	子どもと家庭 子どもにとって家庭あるいは親とは？ストレスとの関連から検討する	子どものストレスに関する議論 資料配付	子どもにとってのテストレスに関する学習 母性剥奪の学習
5	母性剥奪 子どもにとっての家庭を理解するため母性剥奪に関して学習し家庭の重要性を認識する	母性剥奪に関する講義 子どもへの影響に関する質疑	授業内容の再学習 配付資料の学習
6	集団という問題 集団のメリットデメリットに関して分析する	集団に関する講義 集団の影響に関する質疑	授業内容の再学習 配付資料の学習
7	幼児期の集団 親から離れるという問題、また関連して母子分離不安に関する検討	親と集団に関する講義と、 質疑応答	授業内容の再学習 配付資料の学習
8	学校とは？ 学校に関する討議	グループでの議論 全体発表 資料配付	学校とは何であるかの 学習 配付資料の学習
9	教師の存在 教師が学校の中でどのように機能するかを検討	グループでの議論 全体発表 資料配付	授業内容の再学習 配付資料の学習
10	小学校の機能と子どもの発達 小学校が子どもにどのような影響を与えるのかを年齢を分けて検討する	小学校に関する講義 小学校の中での子どもの行動に関する質疑応答 資料配付	授業内容の再学習 配付資料の学習
11	いじめと学級崩壊 学校の中で生じる問題に関して特にいじめと学級崩壊を取り上げ検討する	いじめと学級崩壊に関する講義、および質疑応答 資料配付	授業内容の再学習 配付資料の学習
12	中学校の機能と子どもの発達 中学校が子どもにどのような影響を与えるのかを年齢を分けて検討する	中学校に関する講義 中学校の中での子どもの行動に関する質疑応答	授業内容の再学習 不登校の学習
13	不登校 学校の中で生じる問題に関して特に不登校を取り上げ検討する	グループでの議論 全体発表 講義 資料配付	授業内容の再学習 粗暴行為の学習
14	粗暴行為 学校の中で生じる問題に関して特に粗暴行為を取り上げ検討する	グループでの議論 全体発表 講義 資料配付	授業内容の再学習
15	子どもとは？まとめ これまでの授業内容を踏まえて、子どもに関してまとめを行う	まとめの講義および質疑 応答	授業内容の再学習
期末試験	期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標A・C：筆記試験 80点満点の筆記試験を学年末に実施する。 目標J：授業中に行うグループワークや質疑応答に関して役割をとれたこと、発表の論理性があること、多様な発達の形態があり得ることを理解していることに関して加点を行い、合計点、最大20点を筆記試験に加点する。			
教科書			
使用しない。			

授 業 科 目 名	青 年 の 心 理		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	3 ・ 4 年 次
担 当 教 員	職 名 : 兼 担 講 師 氏 名 : 八 木 孝 憲		開 講 期	前 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	静 岡 県 スク ー ル カウ ン セ ラ ー (平 成 21 年 4 月 ~ 平 成 26 年 3 月)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	東 海 心 理 療 法 研 究 会 幹 事			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	慶 應 義 塾 大 学 大 学 院 社 会 学 研 究 科 後 期 博 士 課 程、修 士 (臨 床 心 理 学) 臨 床 心 理 士、専 門 社 会 調 査 士、公 認 心 理 師、日 本 保 育 学 会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
認 定 心 理 士	専 門 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー に つ い て は 初 回 授 業 時 に 説 明 す る。 メ ー ル ア ド レ ス : yagi.takanori fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
青年期は人間の生涯発達の中でも、身体的にも精神的にも著しい変化が生じる時期です。子どもから大人へと移行する境界的な時期であり、様々な経験を通してアイデンティティを達成することが青年期の心理発達の課題とされています。青年期に関連する研究をいくつかのテーマに分けて概観し、『青年とは何か?』ひいては『自分とは何か?』を考えていきたいと思えます。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		<input type="radio"/> J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
青年期の身体的・心理的な特徴について理解する。	目 標	A ・ J
生涯発達の視点を踏まえて、青年期の社会的・心理的諸問題についての基礎的な知識を身につける。	目 標	A ・ J

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び、授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション 第 1 回 青年期が生涯発達の中で持つ意味	授 業 計 画 配 付 資 料	授 業 専 用 の フ ァ イ ル を 用 意 す る。
2	第 2 回 青年期の身体的成熟	配 付 資 料	事 前 配 付 資 料 を 読 む
3	第 3 回 青年期の思考と感情	ワ ー ク : E Q テ ス ト で 自 己 理 解 を 深 め る。	事 前 配 付 資 料 を 読 む
4	第 4 回 自己意識・アイデンティティ	DVD 「エリクソンの心理社会的発達理論」12分	事 前 配 付 資 料 を 読 む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	第5回 青年の親子関係	配付資料	予習：レビューレポート「自身の親子関係について」400字
6	第6回 青年のきょうだい関係	グループワーク：きょうだい関係についてディスカッション	事前配付資料を読む
7	第7回 青年の友人関係	配付資料	事前配付資料を読む
8	第8回 青年の異性関係	DVD「アタッチメント(愛着)」15分	事前配付資料を読む
9	第9回 青年の進路と職業選択	ワーク：エゴグラムで自己理解を深める。	予習：レビューレポート「自身の職業選択について」400字
10	第10回 青年と社会・政治	グループワーク：各政策についてディスカッション	予習：政党と主な経済政策についてまとめる。300字
11	第11回 青年と価値観・文化	DVD「価値観の正体」7分	事前配付資料を読む
12	第12回 青年期の心理臨床的問題①	DVD「新型うつ病」14分	事前配付事例を読む
13	第13回 青年期の心理臨床的問題②	DVD「境界性パーソナリティ障害」28分	事前配付事例を読む
14	第14回 精神分析的発達理論の基礎	配付資料	事前配付資料を読む
15	第15回 まとめと事例検討	精神疾患に関する資料	事前配付資料を読む
期末試験	期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
目標A・J：筆記試験 語句選択方式のテストを学期末に実施する。30% 目標A・J：授業への参加態度・授業ごとのリアクションペーパーによる。40% 目標A・J：レポート 課題については授業時に説明する。30%			
教科書			
使用しない。(適宜資料を配付する)			

授 業 科 目 名	職 場 の 心 理		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	3 ・ 4 年 次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名： ^{わた なべ あつ こ} 渡 部 敦 子 (本務先：尚綱学院大学 職名：准教授)		開 講 期	前 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	特記事項なし			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	特記事項なし			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	東北大学大学院教育学研究科博士課程後期修士 (教育学) 社会心理学会、グループ・ダイナミクス学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
公 認 心 理 師	専 門 教 育 科 目	選 択		
認 定 心 理 士	専 門 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	授 業 終 了 後 、 質 問 等 に 対 応 し ま す 。			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
本授業では、産業領域の心理学について、労働者の心理、組織・集団心理、消費者心理などの観点から概説する。	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
産業領域の心理学とはどのようなものか理解する。	目標	A
組織・集団における人間行動の特色を理解する。	目標	A・J
労働にまつわる心理的健康問題と支援の在り方について理解する。	目標	A・J

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 、 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション 職場の心理 (参照・組織心理学) とは何か	シラバス 配付資料 ミニッツペーパーによる フィードバック	配付資料を読む
2	労働の心理：ワークモチベーションなど	配付資料 ミニッツペーパーによる フィードバック	配付資料を読む 小テストの予習
3	人事管理：採用面接、人事評価など	配付資料 ミニッツペーパーによる フィードバック	配付資料を読む 小テストの予習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	職業心理：キャリア発達、職業発達、職業選択など	配付資料 ミニッツペーパーによる フィードバック	配付資料を読む 小テストの予習
5	職場の人間関係(1)	配付資料 ミニッツペーパーによる フィードバック	配付資料を読む 小テストの予習
6	職場の人間関係(2)	配付資料 ミニッツペーパーによる フィードバック	配付資料を読む 小テストの予習
7	組織心理学(1)：コミュニケーション	配付資料 ミニッツペーパーによる フィードバック	配付資料を読む 小テストの予習
8	組織心理学(2)：リーダーシップ、チームワーク	配付資料 ミニッツペーパーによる フィードバック	配付資料を読む 小テストの予習
9	マーケティングの心理：広告、販売	配付資料 ミニッツペーパーによる フィードバック	配付資料を読む 小テストの予習
10	消費者心理：意思決定など	配付資料 ミニッツペーパーによる フィードバック	配付資料を読む 小テストの予習
11	安全・リスク管理	配付資料 ミニッツペーパーによる フィードバック	配付資料を読む 小テストの予習
12	職場のメンタルヘルス(1)：ストレスとストレスマネジメント	配付資料 ミニッツペーパーによる フィードバック	配付資料を読む 小テストの予習
13	職場のメンタルヘルス(2)：心理的支援	配付資料 ミニッツペーパーによる フィードバック	配付資料を読む 小テストの予習
14	職場のメンタルヘルス(3)：ワークライフバランス	配付資料 ミニッツペーパーによる フィードバック	配付資料を読む 小テストの予習
15	振り返りとまとめ	配付資料 ミニッツペーパーによる フィードバック	配付資料を読む
期末 試験	期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、メール等で説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標A・J：期末試験 70% 目標A・J：小テスト 15% その他、授業への参加態度 15%			
教科書		参考書	
使用しない。		書名：よくわかる産業・組織心理学 著者名：山口裕幸・金井篤子 編 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,600円（税別）	

授 業 科 目 名	心理診断法実習		授業形態・単位数	実習・2単位
			開 講 年 次	3年次以上
担 当 教 員	職名：講師 氏名：木 村 泰 博		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	茨城西南医療センター病院臨床心理士（平成24年4月～平成27年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	茨城県境町教育支援委員会教育支援委員（平成25年10月～平成27年3月）			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了、修士（人間科学） 公認心理師、臨床心理士、認定行動療法士、日本認知・行動療法学会、日本行動医学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	必修		
認定心理士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは初回授業時に説明します。 メールアドレス：kimura.yasuhiro fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>本授業では、心理診断・心理査定の意味、心理的問題を理解する観点と方法について学ぶ。具体的な方法論では各検査の実施法について体験的に学習することはもちろんのこと、解釈とその活用について実践的に学習する。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
心理診断・心理査定の意味を理解する。	目標	A
心理検査の各種方法を学ぶ。	目標	B

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意点		
2	心理アセスメントの目的及び倫理	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
3	異常心理学	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
4	心理的アセスメントの観点及び展開	パワーポイントを使用した講義	復習) 授業内容の振り返り
5	認知機能検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	レポート作成の方法 認知機能検査レポート作成	講義、レポート作成	レポートを仕上げる
7	知能検査 キャッテルCFIT	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
8	知能検査 WAIS-R	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
9	知能検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
10	知能検査レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
11	質問紙法 QOL、SCI、SRS-18	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
12	質問紙法 SDS、STAI、GHQ-60	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
13	質問紙法 TEG	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
14	質問紙法 YG性格検査	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
15	YG検査レポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
16	投影法 SCT①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
17	投影法 SCT②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
18	SCTレポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
19	投影法 バウムテスト	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
20	投影法 風景構成法	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
21	投影法 P-Fスタディ①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
22	投影法 P-Fスタディ②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
23	P-Fスタディレポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
24	投影法 ロールシャッハテスト①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
25	投影法 ロールシャッハテスト②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
26	ロールシャッハレポート作成	レポート作成	レポートを仕上げる
27	内田クレペリン検査①	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
28	内田クレペリン検査②	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
29	面接法	検査実習	復習) 授業内容の振り返り
30	まとめと振り返り		復習) 授業内容の振り返り

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標A：毎授業ごとのコメントシート 30点
目標B：レポート 60点、検査解釈手続きの正確さ 10点

教科書

使用しない。

授 業 科 目 名	心 理 統 計 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	3 ・ 4 年 次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：和田裕一 (本務先：東北大学 職名：准教授)		開 講 期	前 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	東北大学大学院情報科学研究科准教授 (平成19年10月～現在)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	日本心理学会教育研究委員会委員、日本人間工学会東北支部幹事			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程終了、博士 (情報科学)			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	選択		
認定心理士	専門教育科目	必修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：yuwada cog.is.tohoku.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
心理学を学ぶ上で必要となる統計的手法に関する基礎知識と主要な統計技法について概説する。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
心理学で用いる統計学の基礎知識とその原理について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。	目標	A・C
心理学実験や調査で扱う種々のデータの解析方法を会得し、データ解析を実践できるようになる。	目標	A・B・C
表計算ソフトを用いた基本的な統計処理を会得する。	目標	B・I

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 、 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	イントロダクション — 心理統計学とは —	エクセル実習 (エクセル入門)	
2	データを表現する方法 — 記述統計・尺度水準 —	エクセル実習 (数値計算)	
3	データを表現する方法 — 図表化 —	エクセル実習 (グラフ)	授業時間内に実習課題が終わらなかった受講生は、次回までに各自完成させておくこと (以下同様)。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	データを要約する方法 — 代表値 —	エクセル実習 (基本的な関数)	
5	データを要約する方法 — 散布度と標準化 —	エクセル実習 (分散・標準偏差)	
6	2つの変数の関係を求める — 散布図 —	エクセル実習 (散布図)	相関に関する練習問題のプリント
7	2つの変数の関係を求める — 相関 —	エクセル実習 (相関係数)	ここまでの範囲の確認テストを実施する予定。
8	標本から母集団を推定する — 推測統計とは —	エクセル実習 (不偏分散)	
9	標本から母集団を推定する — 標本統計量 —	エクセル実習 (標準誤差)	
10	統計学的仮説検定の考え方 — そのロジックとは —		
11	統計学的仮説検定の考え方 — 有意水準 —		
12	平均を比較する — 平均の差の検定その1 —	エクセル実習 (母平均と標本平均)	平均の検定に関する練習問題のプリントその1
13	平均を比較する — 平均の差の検定その2 —	エクセル実習 (t検定)	平均の検定に関する練習問題のプリントその2
14	いろいろな統計手法	エクセル実習 (種々の統計関数を概観する)	
15	これまでの総括 — 要点の整理と総復習 —		
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>目標 A・B・C・I：筆記試験 (前期末試験100%) 筆記試験の点数 (100%) を基本とするが、最終的な成績評価は学期中に何回か課されるレポートの提出状況や授業への積極的参加態度等を加味して決定する。 なお受講者の人数や状況によっては、評価方法に変更を加える場合がある。 詳しくは第1回目の授業時に説明する。</p>			
教科書		参考書	
使用しない。		書名：完全独習 統計学入門 著者名：小島寛之 発行所：ダイヤモンド社 価格：1,800円 (税別)	
その他補足事項			
<p>本授業は原則としてパワーポイントによるプレゼン形式で行う。教科書は用いず、毎回、講義資料を配付する。各回の授業内容は、進度や状況に応じて変更される場合がある。講義の一部は、表計算ソフト (Excel等) を用いた実習形式で行うことを予定している。PCは大学に準備されているものを使用するが、必要なソフトウェアがインストールされていれば個人所有のノートPCを使用してもよい。受講生は基本的なPC操作 (文字入力に困らない程度) が身につけていることが望ましいが、PC操作のスキルを学習する意欲があれば初学者も歓迎する。</p>			

授 業 科 目 名	心理学的支援法		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：杉 山 雅 彦		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員（平成23年4月～平成27年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県いじめ問題対策委員会・委員長 認知行動療法学会、常任編集委員、編集委員会副委員長			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院博士課程心身障害学研究科 修了（教育学博士）臨床心理士 （臨床心理士資格認定協会）専門行動療法士（認知・行動療法学会） 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 sugiyama.masahiko fukushima-college.ac.jp.			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
心理学的支援を学ぶための基礎を及び基本姿勢を学び、そこに必要な倫理を身につけていく。その上で基本技術の習得を目指す。援助する上で重要な人間理解の視点を、自己理解と他者理解の側面から（社会的な相互作用という点から）身に付ける。心理学的支援の対象者である人間を多面的に理解する視点を身に付けることを目指す。	○	A 知識
	○	B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
心理学的な人間理解に関する視点と知識を持つ。	目標	A
カウンセリングの基礎的な技術を模擬的な状況で使うことができる。	目標	B
カウンセリングの意義や目的方法に関して理解し、社会的相互作用に関して知識を持った上で理解する。	目標	C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 授業進め方の留意点	授業計画	配付資料 (次回授業) の学習
2	コミュニケーションと相互作用 相互作用に関する検討と (資料に関する) 討議	良好な関係を作るための相互作用の試行その検討	配付資料の学習 授業のまとめ
3	精神分析的心理療法	スーパーエゴに関する討論	配付資料の学習 授業のまとめ

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	クライアント中心療法	内部的照合枠に関する討論	配付資料の学習 授業のまとめ
5	認知行動療法	思考と評価に関する討論	配付資料の学習 授業のまとめ
6	地域および関係者に関する支援	支援の意味に関する討論	配付資料の学習 授業のまとめ
7	カウンセリングの必要性 (1) カウンセリングの意味 クライアントから見て何が見えるのか	カウンセリングの意味の討議	配付資料の学習 カウンセリングに関して まとめる
8	受容 (1) なぜ受容が必要か (2) 受容がどう機能するか	受容の討議(自分にとって受容とは)	配付資料の学習 受容に関してまとめる
9	共感 (1) 共感とは「何をする」ことか (2) 人間関係の重要性	共感の実施、および共感とは何かの討議	配付資料の学習 共感に関してまとめる
10	傾聴 (1) 傾聴とは何か (2) どうしたら傾聴をしたことになるのか	傾聴の実施、何をすることが傾聴なのかの討議	傾聴に関してまとめる
11	ビデオ視聴 グロリアと3人のセラピスト	カウンセリングの場面で何が起こっていたのかの討論	カウンセリングとは何かの印象をまとめる
12	カウンセリングの方法 質問と肯定	質問や肯定に関する討議	模擬カウンセリングのためのまとめ
13	模擬カウンセリング(1) 3人一組でカウンセリング場面を設定し記録をとる	模擬カウンセリング	記録の整理、分析
14	模擬カウンセリング(2) 3人一組でカウンセリング場面を設定し記録をとる カウンセリングの意味と限界	模擬カウンセリング	配付資料の学習 記録の整理、分析 レポート作成
15	まとめに代えて 不安とコンフリクト	不安に関する討議	授業のまとめ
期末試験	模擬カウンセリングのレポート提出 および筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>下記の双方がなされていることが評価の前提となる</p> <p>目標A・B・C：筆記試験 40点満点の筆記試験を学年末に実施する</p> <p>目標A・B・C：レポート 模擬カウンセリングに関して記録と分析をレポートとして提出する。カウンセリングに関する討議を含めて40点満点で採点する</p> <p>その他、授業内での討論および議論に関して、主として論理性的の観点から20点満点で採点する</p>			
教科書			
使用しない。			

授 業 科 目 名	カウんセリング概論		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	3年次以上
担 当 教 員	職名：教授 氏名： <small>すぎ やま まさ ひこ</small> 杉 山 雅 彦		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員（平成23年4月～平成27年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県いじめ問題対策委員会・委員長 認知行動療法学会、常任編集委員、編集委員会副委員長			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院博士課程心身障害学研究科 修了（教育学博士） 臨床心理士（臨床心理士資格認定協会）専門行動療法士（認知・行動療法学会 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウンセリング学会）			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	選択		
認定心理士	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 sugiyama.masahiko fukushima-college.ac.jp.			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
カウんセリングを学ぶための基礎及び基本姿勢を学び、そこに必要な倫理を身につけていく。援助する上で重要な人間理解の視点を、自己理解と他者理解の側面から（社会的な相互作用という点から）身に付ける。カウんセリングの対象者である人間を多面的に理解する視点を身に付けることを目指す。	<input type="radio"/> A	知識
	<input type="radio"/> B	技術・技能
	<input type="radio"/> C	論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
心理学的な人間理解に関する視点と知識を持つ。	目標	A
カウんセリングの意義や目的方法に関して理解し、社会的相互作用に関して知識を持った上で理解する。	目標	C
カウんセリングの基礎的な技術を模擬的な状況で使うことができる。	目標	B

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 授業進め方の留意点	授業計画	配付資料(次回授業)の学習
2	コミュニケーションと相互作用 相互作用に関する検討と(資料に関する)討議	会話という相互作用の実施とその検討	配付資料の学習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	話すことと聞くこと (1) 話すことの実習 話すことの困難さ	話をすることを実施し、その困難性に関する検討	配付資料の学習 話すことの問題点の検討
4	カウンセリングの必要性 (1) カウンセリングの意味 クライアントから見て何が見えるのか	カウンセリングの意味の討議	配付資料の学習
5	カウンセリングとは カウンセリングの基礎としての受容と共感	受容と共感の討議	配付資料の学習 自分にとって受容、共感とは?の検討
6	受容 (1) なぜ受容が必要か (2) 受容がどう機能するか	受容の討議(自分にとって受容とは)	配付資料の学習 受容に関してまとめる
7	共感 (1) 共感とは「何をする」ことか (2) 人間関係の重要性	共感の実施、および共感とは何かの討議	配付資料の学習 共感に関してまとめる
8	傾聴 (1) 傾聴とは何か (2) どうしたら傾聴をしたことになるのか	傾聴の実施、何をすることが傾聴なのかの討議	傾聴に関してまとめる
9	ビデオ視聴 グロリアと3人のセラピスト	カウンセリングの場面で何が起こっていたのかの討論	カウンセリングとは何かの印象をまとめる
10	記録をとる カウンセリング場面の記録をとる(文字にする)	3人一組でのカウンセリング場面の設定	記録の整理
11	心理臨床相談センター見学 院生との討論	見学 院生とカウンセリングに関して討論、質疑応答	見学のまとめと院生との討論に関する整理
12	模擬カウンセリング(1) 3人一組でカウンセリング場面を設定し記録をとる	模擬カウンセリング	記録の整理、分析
13	模擬カウンセリング(2) 3人一組でカウンセリング場面を設定し記録をとる カウンセリングの意味と限界	模擬カウンセリング	配付資料の学習 記録の整理、分析 レポート作成
14	カウンセリングの方法(1) カウンセリングにおける質問	質問に関する討議	配付資料の学習
15	カウンセリングの方法(2) カウンセリングにおける肯定	肯定の意味とは?の討議	配付資料の学習
期末試験	模擬カウンセリングのレポート提出		
16	変化することのカウンセリング 変化することの意味	変化とは何かの討議	配付資料の学習
17	困ったことを持つ人の心理	困ったことを持つ人が陥る心理のグループワーク	まとめ 配付資料の学習
18	援助をするということ、地域の貢献、その人にとって援助になるという事	クライアントから見て何が援助になるかのグループワーク	まとめ 配付資料の学習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	動機づけのカウンセリング カウンセリングを通して変化に動機づけられる過程の検討	動機づけに関する討議	配付資料の学習 カウンセリングを受けることに関するまとめ
20	OARS(1) (1) 開かれた質問 (2) 賞賛	方法がどのように機能するかの討議	配付資料の学習
21	OARS(2) (1) 振り返り (2) 要約	方法がどのように機能するかの討議	配付資料の学習
22	うつの人へのカウンセリング	カウンセリングプロセスに関する討議	配付資料の学習 カウンセリングプロセスのまとめ
23	不安が強い人へのカウンセリング	カウンセリングプロセスに関する討議	カウンセリングプロセスのまとめ
24	問題への接近としてのカウンセリング	問題を中核に、カウンセリングプロセスの検討	問題を中核としてカウンセリングプロセスのまとめ
25	変化のためのカウンセリングを維持するために 質問や反応の整理	カウンセリングを維持する要因の討論	維持するための方法のまとめ 模擬カウンセリングの準備
26	変化のための模擬カウンセリング(1)	模擬カウンセリング	模擬カウンセリングの記録の整理と分析
27	変化のための模擬カウンセリング(2)	模擬カウンセリング	配付資料の学習 模擬カウンセリングの記録の整理と分析
28	初期カウンセリングと変化のためのカウンセリング(1) 初回から問題解決までのプロセスを検討する	出会いからのカウンセリングに関する討論	配付資料の学習 カウンセリングの過程のまとめ
29	初期カウンセリングと変化のためのカウンセリング(2) 変化のためのサポートとして何が必要か検討する	変化のための条件に関する討論	サポートに関するまとめ
30	まとめ	カウンセリングの意味についての討論	まとめ
期末試験	期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に必ず到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>下記の双方がなされていることが評価の前提となる</p> <p>目標A・B・C：筆記試験 40点満点の筆記試験を学年末に実施する</p> <p>目標A・B・C：レポート 前期の模擬カウンセリング、後期の変化のための模擬カウンセリングに関して記録と分析をレポートとして提出する。カウンセリングに関する討議を含めて各30点満点で採点する。</p> <p>その他、授業内での討論および議論に関して、主として論理性の観点から20点満点で採点する。</p>			
教科書			
使用しない。			

授 業 科 目 名	カウセリング演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：すぎやま まさ ひこ 杉 山 雅 彦		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	あかつき心理相談研究所 顧問・指導相談員（平成23年4月～平成27年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県いじめ問題対策委員会・委員長 認知行動療法学会、常任編集委員、編集委員会副委員長			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院博士課程心身障害学研究科 修了（教育学博士） 臨床心理士（臨床心理士資格認定協会）専門行動療法士（認知・行動療法学会） 認知・行動療法学会、行動分析学会、カウセリング学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	選択		
認定心理士	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します メールアドレス：sugiyama.masahiko fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
カウセリングあるいは心理的サポートに関して理解を深めていく。授業前半ではカウセリングに関して基本的理解と、カウセリングを進めていくための考え方（理論も含む）や方法そしてその適用に関して検討を進めていく。後半では、カウセリングを中核に、認知行動療法に関して様々な問題に関しての適応を中心として学習していき、心理的な支援とは何か、またクライアントさんから見て支援はどう見えているのかに関して理解を深めていく。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
カウセリングが「困ったこと」を抱えている人をサポートするものであることを理解し、そのために何が行われるか（方法）どんなことを目指して行われるか（目的）を理解する。	目標	A
模擬カウセリングの場面において、カウセリングの基礎を理解の上、方法を用いることが出来る。	目標	B
問題に関して自ら学習し、それを発表しあるいは傾聴し、質疑応答をする中で、理解を深め、心理学の応用を身につけていく。	目標	J

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標（授業内容） (2) 授業の進め方の留意点	授業計画	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	初期カウンセリング (1) 関係の形成 (2) 関係の形成のための条件	カウンセリングを希望する方の特徴に関して討論	配付資料の学習 授業のまとめ
3	受容と共感 (1) 受容の意味 (2) 共感の意味	受容と共感とは何か、討論	受容と共感をイメージ化する
4	受容と共感のワーク	グループで受容と共感を相互作用内で実施、それに関する討論	配付資料の学習受容と共感、そして討論のまとめ
5	傾聴 傾聴の意味	傾聴とは何か、討論	傾聴をイメージ化する
6	傾聴のワーク	グループで受容と共感を相互作用内で実施、それに関する討論	配付資料の学習 傾聴、そしてその討論のまとめ
7	初期カウンセリングに関する模擬カウンセリング(1)	グループ内で模擬カウンセリング、その記録と討論	記録の整理と分析
8	初期カウンセリングに関する模擬カウンセリング(2)	グループ内で模擬カウンセリング、その記録と討論	配付資料の学習記録の整理と分析、レポート作成
9	変化に向かう方法としての動機づけカウンセリング (1) 変化に向かうことの難しさ	変化に関する討論	配付資料の学習
10	動機づけカウンセリングの方法 (1) 反応の拡大と質問 クライアントの努力とサポート、賞賛	クライアントをサポートするとはどういうことか、討論	配付資料の学習サポートに関するまとめ
11	動機づけカウンセリングの方法から変化へ (1) 振り返る 要約	クライアントが決断に至るとはどのような過程か討論	配付資料の学習 変化への動機づけの分析
12	変化へのサポートと決断 決断への方法	変化する事への抵抗の討論	変化の分析とまとめ
13	変化への模擬カウンセリング(1)	グループ内で模擬カウンセリング、その記録と討論	記録の整理と分析
14	変化への模擬カウンセリング(2)	グループ内で模擬カウンセリング、その記録と討論	記録の整理と分析 レポート作成
15	クライアントをサポートするとは？ 認知行動療法の基礎	サポートするとはどういう機能かの討論	カウンセリングに関するまとめ
期末試験	模擬カウンセリングに関するレポート提出		
16	問題が改善するとは	18回以降の発表に関する分担決定	発表の準備
17	問題が改善するための基本アプローチ (1) 行動の改善 カウンセリングと認知行動療法	変化するとはどういうことかの討論	発表の準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	状況別の変化へ ― 発表(1)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
19	状況別の変化へ ― 発表(2)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
20	状況別の変化へ ― 発表(3)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
21	状況別の変化へ ― 発表(4)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
22	状況別の変化へ ― 発表(5)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
23	状況別の変化へ ― 発表(6)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
24	状況別の変化へ ― 発表(7)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
25	状況別の変化へ ― 発表(8)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
26	状況別の変化へ ― 発表(9)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
27	状況別の変化へ ― 発表(10)	発表とそれに関する討論	発表の準備、レポートの準備、まとめ
28	カウンセリングが出来ること カウンセリングおよび認知行動療法の機能の分析	カウンセリングの機能に関する討論	まとめ
29	認知行動療法が考えなければならないこと 機能するための方法	方法に関する討論	まとめ 配付資料の学習
30	まとめとして～ケーススタディ	ケースに関する討論	カウンセリングが役に立つためにどう考えれば良いかのまとめ
期末試験	発表に関するレポート提出		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標A・B : レポート 前期の模擬カウンセリングに関して記録と分析をレポートする。また後期の発表に関して、そこでの討論を含めてレポートする。二つのレポートをそれぞれ各40点で評価する。</p> <p>目標A・B・J : 発表 後期の発表に関して、その内容および質疑の応答に関して評価する。発表したものに関して理解できているか（質問された際に答えることが出来るか）、説明は明瞭であったか、参考文献の提示は適切であったかに関して、および質問等の議論に関して20点満点での評価を行う。</p>			
教科書			
使用しない。			

授業科目名	心理学実験		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	3・4年次
担当教員	職名：助教 氏名：渡 邊 宏 周		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし			
社会貢献としての委員会・職等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	福島学院大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻、修士(臨床心理学) 臨床心理士、公認心理師			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	選択		
認定心理士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは初回授業時に説明します。 メールアドレス：watanabe.hirochika fukushima-college.ac.jp			

授業の概要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>この授業では、実験実習を通して心理学で用いられている実験に関する知識を身につけ実行できるようになることに加え、得られたデータを科学的に記述しまとめることができるようになることを主たる目的としています。実験後には毎回レポートの作成と提出を求めます。レポートを重ね、科学的な考え方や記述の仕方を身につける授業です。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
古典的な心理学実験について理解する。	目標	A
手続きやデータ集、分析といった実験に関する作法を身につける。	目標	A・C
レポート作成により、論理的・科学的な記述方法を身につける。	目標	C・D

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意		
2	心理学実験の基本的な知識 因果関係と独立変数、従属変数	講義	教科書P.3-10
3	統計手法と科学的表記法	講義	教科書P.107-112
4	レポートの書き方・心理学実験の倫理	講義	教科書P.39-46

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	ミューラーリアーの錯視① 実験の説明	講義	教科書P.17-28
6	ミューラーリアーの錯視② 実験の実施	グループワーク 実験の実施	教科書P.17-28
7	実験結果を基にレポートを作成する	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポートの作成
8	レポートの作成と提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポート提出①
9	触二点閾① 実験の説明	講義	教科書P.29-38
10	触二点閾② 実験の実施	グループワーク 実験の実施	教科書P.29-38
11	実験結果を基にレポートを作成する	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポートの作成
12	レポートの作成と提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポート提出②
13	記憶に関する実験①	講義	教科書P.47-64
14	記憶に関する実験②	グループワーク 実験の実施	教科書P.47-64
15	実験結果を基にレポートを作成する	レポート作成	レポート作成
期末 試験	記憶に関する実験のレポート	期末レポート	レポート提出③
16	視覚探索課題①	講義	配付資料を読む
17	視覚探索課題②	グループワーク 実験の実施	配付資料を読む
18	レポートの作成と提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポート提出④
19	両側性転移①	講義	教科書P.65-80
20	両側性転移②	グループワーク 実験の実施	教科書P.65-80
21	レポートの作成と提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポート提出⑤
22	パーソナルスペースの実験①	講義	教科書P.81-106
23	パーソナルスペースの実験②	グループワーク 実験の実施	教科書P.81-106
24	レポートの作成と提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポート提出⑥
25	知能検査①	講義	配付資料を読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	知能検査②	グループワーク 実験の実施	配付資料を読む
27	レポートの作成と提出	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポート提出⑦
28	SD法①	講義	配付資料を読む
29	SD法②	グループワーク 実験の実施	配付資料を読む
30	まとめ・実験結果を基にレポートを作成する	図書館を使った調べ学習 レポートの個人添削	レポート作成
期末試験	SD法のレポート	期末レポート	レポート提出⑧
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標A・C：グループワーク中の取り組み方や、リアクションペーパーにより評価します（20点満点）。 目標C・D：レポートの完成度で評価します（10点満点×8回）。			
教科書		参考書	
書名：「心理学実験法・レポートの書き方」 著者名：西口利文・松浦均 編集 発行所：ナカニシヤ出版 価格：2,200円（税別）		必要に応じて適時お知らせします。	
その他補足事項			
心理学には、目的に応じて様々な実験方法があります。様々な実験を通して計画力や問題解決能力を養いましょう。また、心理学の実験レポートの作成方法を学ぶことによって、文章力、論理的・科学的な思考力を身につけていきます。前期ではレポート提出までの時間を十分にとり書き方の指導を密に行います。後期では前期と比較してレポート提出までの期間を短縮しますので、自主的・率先的な学習態度が重要となります。			

授 業 科 目 名	社会・集団・家族心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：渡部敦子 (本務先：尚絅学院大学 職名：准教授)		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院教育学研究科博士課程後期修士(教育学) 社会心理学会、グループ・ダイナミクス学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	必修		
認定心理士	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後、質問等に対応します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
社会心理学とは、人間の社会的行動について、個人的要因と状況的要因に着目しつつ、その法則を見出そうとする学問である。本講義では、社会心理学の基本的な考え方と主な理論について、個人の認知過程から集団の影響過程に渡り概説する。さらに、家族心理学の基本的な課題と理解法についても説明する。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
社会心理学、家族心理学とはどのような学問か説明できる。	目標	A
社会心理学における主な理論と概念について理解する。	目標	A・J
社会における様々な事象を、社会心理学の概念を用いて考察できる。	目標	A・C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 社会心理学とはどのような学問か	シラバス 配付資料 ミニッツペーパー	シラバスを読む
2	対人認知(1) 印象形成と認知の歪み	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
3	心理学における血液型性格論の理解	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	対人認知(2) ステレオタイプ	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
5	社会的推論 帰属理論	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
6	態度 認知的一貫性、説得的コミュニケーション	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
7	感情 様々な感情とその機能	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
8	対人行動(1) 自己開示、自己呈示	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
9	対人行動(2) 援助行動	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
10	対人行動(3) 攻撃	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
11	対人行動(4) 排斥と受容	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
12	集団と個人(1) 集団アイデンティティ、他者存在の影響	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
13	集団と個人(2) 意思決定、ダイナミックス	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
14	家族心理学(1) 現代の家族の様相	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
15	家族心理学(2) 家族理解の方法	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
期末試験	筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、メール等で説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標 A・C：期末試験 60% 目標 A・J：グループワークについての小レポート 15% 目標 A・C：小テスト（随時） 10% その他、授業への参加態度 15%			
教科書		参考書	
使用しない。		書名：よくわかる社会心理学 著者名：山田一成・結城雅樹・北村英哉 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,700円（税別）	

授 業 科 目 名	社 会 心 理 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 4 単 位
			開 講 年 次	3 ・ 4 年 次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名：渡部敦子 (本務先：尚絅学院大学 職名：准教授)		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	特記事項なし			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	特記事項なし			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	東北大学大学院教育学研究科博士課程後期修士 (教育学) 社会心理学会、グループ・ダイナミクス学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒業	専門教育科目	選択		
公認心理師	専門教育科目	選択		
認定心理士	専門教育科目	選択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	120 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	授業終了後、質問等に対応します。			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
社会心理学とは、人間の社会的行動について、個人的要因と状況的要因に着目しつつ、その法則を見出そうとする学問である。本講義では、社会心理学の基本的な考え方と主な理論について、個人の認知過程から集団の影響過程に渡り概説する。さらに、家族心理学の基本的な課題と理解法についても説明する。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
社会心理学、家族心理学とはどのような学問か説明できる。	目標	A
社会心理学における主な理論と概念について理解する。	目標	A・J
社会における様々な事象を、社会心理学の概念を用いて考察できる。	目標	A・C

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 、 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 社会心理学とはどのような学問か	シラバス 配付資料 ミニッツペーパー	シラバスを読む
2	対人認知(1) 印象形成と認知の歪み	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
3	心理学における血液型性格論の理解	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	対人認知(2) ステレオタイプ	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
5	社会的推論 帰属理論	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
6	態度 認知的一貫性、説得的コミュニケーション	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
7	感情 様々な感情とその機能	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
8	対人行動(1) 自己開示、自己呈示	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
9	対人行動(2) 援助行動	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
10	対人行動(3) 攻撃	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
11	対人行動(4) 排斥と受容	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
12	集団と個人(1) 集団アイデンティティ、他者存在の影響	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
13	集団と個人(2) 意思決定、ダイナミックス	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
14	家族心理学(1) 現代の家族の様相	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
15	家族心理学(2) 家族理解の方法	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
期末 試験	筆記試験		
16	自己認知 アイデンティティ	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
17	自己評価と自尊感情 社会的比較	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
18	自己と動機付け	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
19	さまざまな自己 マインドコントロール、自己愛	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	人間関係(1) 親密な関係の形成と維持	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
21	人間関係(2) 対人葛藤、対人ストレス	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
22	人間関係(3) 透明性の錯覚	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
23	対人コミュニケーション(1) 言語・非言語コミュニケーション	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
24	対人コミュニケーション(2) ソーシャルスキル	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
25	対人コミュニケーション(3) さまざまなコミュニケーション	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
26	集団と個人(3) チームワーク、リーダーシップ	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
27	集団と個人(4) 集団間葛藤	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
28	文化と人間 集団主義と個人主義、異文化適応	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
29	環境行動	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
30	まとめと振り返り	配付資料 グループワーク ミニッツペーパー	配付資料を事前に読む
期末試験	筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
目標A・C：期末試験 60% 目標A・J：グループワークについて的小レポート 15% 目標A・C：小テスト(随時) 15% その他、授業への参加態度 15%			
教科書		参考書	
使用しない。		書名：よくわかる社会心理学 著者名：山田一成、結城雅樹、北村英哉 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,700円(税別)	

授 業 科 目 名	障害者・障害児心理学	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：助教 氏名：渡 邊 宏 周	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	福島学院大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻、修士（臨床心理学） 臨床心理士、公認心理師		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
公認心理師	専門教育科目	必修	
認定心理士	専門教育科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは初回授業時に説明します。 メールアドレス：watanabe.hirochika fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
本科目では、様々な障害のある人に心理的なアプローチを提供するにあたり、その行動特徴や原因などをはじめ、必要となる基本的な知識を概説します。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
障害の概念や分類について基礎的なことを理解する。	目標	A
障害児・者の援助について基礎的な知識を得る。	目標	A・C
障害児・障害者を援助する際の心構えや、その方法論について説明できる。	目標	C・J

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要、到達目標、評価方法の説明 障害(児・者)の概念	配付資料	配付資料を読む
2	身体障害 視覚障害、聴覚障害など	配付資料	配付資料を読む
3	知的障害	配付資料	配付資料を読む
4	精神障害① 定義と分類	配付資料	配付資料を読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	精神障害② 不安症関連	配付資料 グループワークではペアになって不安に関するアプローチのための基本的なアセスメントを練習します	配付資料を読む グループワークに関するレポートの準備
6	精神障害③ うつ病関連	配付資料 グループワークではペアになってうつに関するアプローチのための基本的なアセスメントを練習します	配付資料を読む グループワークに関するレポートの準備
7	精神障害④ 精神病性障害	配付資料	配付資料を読む
8	精神障害⑤ その他の精神障害	配付資料	配付資料を読む
9	神経発達症 発達障害	配付資料 動画視聴（発達障害の理解と支援～わかり合うって、素敵だね！～） 45分	配付資料を読む
10	障害の生物・心理・社会モデル	配付資料	配付資料を読む
11	障害受容過程	配付資料	配付資料を読む
12	精神障害の心理学的メカニズム（異常心理学）の理論 心理学的介入	配付資料	配付資料を読む
13	医療分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援	配付資料	配付資料を読む
14	教育分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援	配付資料	配付資料を読む
15	福祉分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援	配付資料	配付資料を読む
期末試験	期末試験（ペーパーテスト）		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標A・J：期末試験 70点満点 テストを学期末に実施して成績を評価します。 目標C・J：リアクションペーパー 15点満点 授業ごとに提出を求め評価します。 目標C・J：レポート 15点満点 総計100点満点で評価します。			
教科書		参考書	
使用しない。		必要に応じ紹介。	

授 業 科 目 名	障 害 児 ・ 者 へ の 心 理 援 助		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	3 ・ 4 年 次
担 当 教 員	職名：助教 氏名：わた なべ ひろ ちか 渡 邊 宏 周		開 講 期	後 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	特 記 事 項 な し			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	特 記 事 項 な し			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	福 島 学 院 大 学 大 学 院 心 理 学 研 究 科 臨 床 心 理 学 専 攻 ・ 修 士 (臨 床 心 理 学) 臨 床 心 理 士 ・ 公 認 心 理 師			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
公 認 心 理 師	専 門 教 育 科 目	選 択		
認 定 心 理 士	専 門 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー は 初 回 授 業 時 に 説 明 し ま す 。 メ ー ル ア ド レ ス : watanabe.hirochika fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
本 科 目 で は 、 様 々 な 障 害 の あ る 人 に 心 理 的 な ア プ ロ ー チ を 提 供 す る に あ た り 、 そ の 行 動 特 徴 や 原 因 な ど を は じ め 、 必 要 と な る 基 本 的 な 知 識 を 概 説 し ま す 。	○	A 知 識
		B 技 術 ・ 技 能
	○	C 論 理 的 思 考 力
		D 文 章 表 現 力
		E 表 情 及 び 身 体 表 現 力
		F 感 性 及 び 感 動 表 現 力
		G 協 働 能 力
		H ま ご こ ろ 、 思 い や り の 発 現 力 と 夢 や 希 望 の 発 信 力
		I 積 極 的 発 言 力 及 び プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 力
	○	J 多 様 性 へ の 理 解 力 、 応 用 力
		K 課 題 対 処 力
		L 人 間 関 係 、 対 人 関 係 構 築 力 及 び 対 話 力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)
障 害 の 概 念 や 分 類 に つ い て 基 礎 的 な こ と を 理 解 す る 。	目 標	A
障 害 児 ・ 者 の 援 助 に つ い て 基 礎 的 な 知 識 を 得 る 。	目 標	A ・ C
障 害 児 ・ 障 害 者 を 援 助 す る 際 の 心 構 え や 、 そ の 方 法 論 に つ い て 説 明 で き る 。	目 標	C ・ J

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 、 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン 授 業 の 概 要 、 到 達 目 標 、 評 価 方 法 の 説 明 障 害 (児 ・ 者) の 概 念	配 付 資 料	配 付 資 料 を 読 む
2	身 体 障 害 視 覚 障 害 、 聴 覚 障 害 な ど	配 付 資 料	配 付 資 料 を 読 む
3	知 的 障 害	配 付 資 料	配 付 資 料 を 読 む
4	精 神 障 害 ① 定 義 と 分 類	配 付 資 料	配 付 資 料 を 読 む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	精神障害② 不安症関連	配付資料 グループワークではペアになって不安に関するアプローチのための基本的なアセスメントを練習します	配付資料を読む グループワークに関するレポートの準備
6	精神障害③ うつ病関連	配付資料 グループワークではペアになってうつに関するアプローチのための基本的なアセスメントを練習します	配付資料を読む グループワークに関するレポートの準備
7	精神障害④ 精神病性障害	配付資料	配付資料を読む
8	精神障害⑤ その他の精神障害	配付資料	配付資料を読む
9	神経発達症 発達障害	配付資料 動画視聴（発達障害の理解と支援～わかり合うって、素敵だね！～） 45分	配付資料を読む
10	障害の生物・心理・社会モデル	配付資料	配付資料を読む
11	障害受容過程	配付資料	配付資料を読む
12	精神障害の心理学的メカニズム（異常心理学）の理論 心理学的介入	配付資料	配付資料を読む
13	医療分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援	配付資料	配付資料を読む
14	教育分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援	配付資料	配付資料を読む
15	福祉分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援	配付資料	配付資料を読む
期末試験	期末試験（ペーパーテスト）		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標A・J：期末試験 70点満点 テストを学期末に実施して成績を評価します。 目標C・J：リアクションペーパー 15点満点 授業ごとに提出を求め評価します。 目標C・J：レポート 15点満点 総計100点満点で評価します。			
教科書		参考書	
使用しない。		必要に応じ紹介。	

授 業 科 目 名	司 法 ・ 犯 罪 心 理 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職名：非常勤講師		開 講 期	後 期
	氏名：生 島 浩 <small>しょうじま ひろし</small>		授 業 回 数	15 回
	(本務先：福島大学 職名：教授)		期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間		法務省保護観察官 (昭和54年4月～平成13年3月)		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		ふくしま被害者支援センター理事長、更生保護法人至道会理事など		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		東北大学大学院文学研究科人間科学専攻博士課程修了、博士 (文学)、公認心理師 (第5931号)、臨床心理士 日本更生保護学会、犯罪心理学会、家族療法学会など		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業		専 門 教 育 科 目	選 択	
公 認 心 理 師		専 門 教 育 科 目	必 修	
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		授 業 終 了 後 に 質 問 等 で 対 応。 E-mail : shojima educ.fukushima-u.ac.jp		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>この授業は、公認心理師のカリキュラムに則り、犯罪や非行をした者について、その原因や心理の分析、再犯のリスク評価、矯正・更生保護のための指導・助言、処遇プログラムについて学びます。また、家庭内紛争における当事者や子どもへの専門的関与、さらには、犯罪被害者等に対する相談援助について、その基本を修得する授業とします。</p> <p>予習では、教科書を精読して、司法犯罪・分野の制度、各専門職の職域、実践について概要を把握し、授業のなかで不明点を解消できるよう質疑応答に努めてください。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)
① 司法・犯罪分野に関する支援システムの概要を理解する。	目 標	A
② 非行・犯罪領域の心理的支援について基本を説明できる。	目 標	B
③ 司法・犯罪領域に必須な多機関多職種協働について基本を学ぶ。	目 標	G

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	司法・犯罪心理学とは何か～公認心理師カリキュラムとして求められるもの～	授業の進め方を説明します。 NHK「クローズアップ現代」 視聴で講師紹介。	教科書：監修者・編者まえがきの予習・復習
2	司法・犯罪分野の概要(1)：特徴と留意点	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。犯罪白書。	教科書：18-19ページの予習・復習
3	司法・犯罪分野の概要(2)：非行臨床について	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。犯罪白書。	教科書：20-26ページの予習・復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	司法・犯罪分野の概要(3)：犯罪臨床について	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。犯罪白書。	教科書：27-32ページの予習・復習
5	家族臨床（家事事件）：システムの概要	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書：38-43ページの予習・復習
6	非行臨床（少年事件）：制度・法規と公認心理師の位置づけ	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書：46-52ページの予習・復習
7	非行臨床（少年事件）：専門機関・専門職の概要	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。NHKBSドキュメンタリー「再出発の町」	教科書：72-75、88-91ページの予習・復習
8	非行臨床（少年事件）：専門機関・専門職の事例紹介	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書：110-111ページの予習・復習
9	犯罪臨床（成人事件）：制度・法規と公認心理師の位置づけ	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書：51-52ページの予習・復習
10	犯罪臨床（成人事件）：専門機関・専門職の概要	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書：92-95ページの予習・復習
11	犯罪臨床（成人事件）：専門機関・専門職の事例紹介	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書：121ページの予習・復習
12	犯罪被害者支援：制度・機関・専門職の概要	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書：33-37ページの予習・復習
13	児童・社会福祉との連携：児童相談所等の心理専門職	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。	教科書：53-54、96-99、123ページの予習・復習
14	触法障害者の地域生活支援：医療観察制度における心理専門職	予習により把握した疑問点を授業で発表し、質疑応答で解消する。NHKETV「居場所があれば立ち直れる」	教科書：55-59、100-105、116ページの予習・復習
15	まとめと総ディスカッション：立ち直り支援として心理職が出来ること	授業全体のまとめを兼ねてテーマについて質疑応答	ディスカッションの準備として質疑をまとめる
期末試験	後期末試験（小論文形式）		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標A・B：期末試験（小論文） 70点 目標G：総ディスカッション 30点 ほか、評価に関する共通理解に則る加点・減点を行います。			

教科書	参考書
書名：公認心理師分野別テキスト 司法・犯罪分野 著者名：生島浩 編著 発行所：創元社 価格：2,400円（税別）	書名：非行臨床における家族支援 著者名：生島浩 発行所：遠見書房 価格：2,800円（税別） 著者割引になります
その他補足事項	
<p>新聞等により非行・犯罪に関わる事件に関心を抱いて授業に臨んでください。また、犯罪白書を図書館や法務省のHPで参照して、予習や復習を含めた学習に活用するスキルを身につけることが肝要です。</p>	

授 業 科 目 名	心 理 療 法		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：星 野 仁 彦		開 講 期	前 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	精神科専門医として46年間の経験			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福島市を含む県北地区の学校精神科医			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	精神保健指定医、精神科専門医、日本精神神経学会会員			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー に つ い て は 、 初 回 授 業 時 に 説 明 し ま す 。			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
各種の精神障がい、特に児童・思春期・青年期の心理療法と発達障害の心理療法、「広義の心理療法」としての家族療法、行動療法、集団心理療法などについても教授。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)
児童・思春期・青年期の心理療法を学ぶ。	目標	A・B・H・L
家族療法と家族の療育指導を学ぶ。	目標	A・B・H・L
行動療法・認知行動療法を学ぶ。	目標	A・B・H・L
集団心理療法、集団家族療法を学ぶ。	目標	A・B・H・L

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 、 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	行動療法 (オペラント、系統的脱感作、モデリングなど)	資料とレジュメ	豆テストを実施するので 毎回授業内容を復習して おくこと。 テストの範囲については 授業以内に指示する。
2	認知 (ものの考え方) の歪みと認知療法	資料とレジュメ	
3	家族療法の原則とシステムズアプローチ	資料とレジュメ	
4	不登校の家族療法	資料とレジュメ	
5	摂食障害の家族療法	資料とレジュメ ケーススタディ	
6	夫婦療法 (マリタルセラピー)	資料とレジュメ ケーススタディ	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】	
7	発達障害（ADHD、LD、自閉症など）児の家族指導	資料とレジュメ	豆テストを実施するので毎回授業内容を復習しておくこと。 テストの範囲については授業以内に指示する。	
8	集団心理療法（グループサイコセラピー）	資料とレジュメ		
9	集団家族療法（グループファミリーセラピー）	資料とレジュメ		
10	各種のセルフサポート（自助）グループ	資料とレジュメ		
11	発達障害（ADHD、LD、自閉症など）児のSSTソーシャルスキルズ・トレーニング	資料とレジュメ ケーススタディ		
12	発達障害児の指導における構造化とTEACCHプログラム	資料とレジュメ ケーススタディ		
13	学校の教師と心理・福祉・医療医のチームアプローチ	資料とレジュメ		
14	学校・職場の環境調整療法（ミリュー・セラピー）	資料とレジュメ		
15	障害児の家族の悩みとカウンセリング	資料とレジュメ		
期末試験	前期末試験			
期末試験の講評				
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。				
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）				
目標A・B・H・L：毎回の豆テスト40%、期末試験60%による。詳しくは初回時に説明する。				
教科書				
書名：機能不全家族 著者名：星野仁彦 発行所：アートヴィレッジ 価格：1,600円（税別）				

授 業 科 目 名	学 習 ・ 言 語 心 理 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 4 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職 名 : 兼 担 教 授 氏 名 : 田 辺 稔	み の る	開 講 期	後 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	特 記 事 項 な し			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福 島 市 子 ども 子 育 て 会 議 会 長 (2018. 3 まで) 福 島 市 児 童 福 祉 専 門 部 会 会 長 (2018. 4 より 現 在 に 至 る)			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	玉 川 大 学 大 学 院 文 学 研 究 科 修 士 課 程 (教 育 学 専 攻) 修 了 文 学 修 士 日 本 応 用 心 理 学 会 ・ 日 本 社 会 心 理 学 科 ・ 日 本 カ ウ ン セ リ ン グ 学 会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	教 養 教 育 科 目	選 択		
公 認 心 理 師	教 養 教 育 科 目	必 修		
認 定 心 理 士	教 養 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー は 初 回 授 業 時 に 説 明 し ま す 。 メ ー ル ア ド レ ス : tanabe.minoru_fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
① 人 の 行 動 が 変 化 す る 過 程 と ② 言 語 の 習 得 に お け る 機 序 を 学 ぶ 。 学 習 で は 学 習 ・ 行 動 領 域 の 心 理 学 と し て 学 習 ・ 行 動 研 究 の 歴 史 、 考 え 方 、 他 領 域 と の 接 続 を 念 頭 に 条 件 反 射 、 試 行 錯 誤 学 習 ・ 効 果 の 法 則 、 古 典 的 行 動 主 義 、 恐 怖 条 件 づ け 、 新 行 動 主 義 、 徹 底 的 行 動 主 義 認 知 主 義 の 流 れ を 理 解 し て い く 。	○	A 知 識
		B 技 術 ・ 技 能
	○	C 論 理 的 思 考 力
		D 文 章 表 現 力
		E 表 情 及 び 身 体 表 現 力
		F 感 性 及 び 感 動 表 現 力
		G 協 働 能 力
		H ま ご こ ろ 、 思 い や り の 発 現 力 と 夢 や 希 望 の 発 信 力
		I 積 極 的 発 言 力 及 び プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 力
		J 多 様 性 へ の 理 解 力 、 応 用 力
		K 課 題 対 処 力
		L 人 間 関 係 、 対 人 関 係 構 築 力 及 び 対 話 力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)
人 の 行 動 が 変 化 す る 過 程 を 習 得 し 説 明 で き る 。	目 標	A ・ C
学 習 ・ 行 動 研 究 の 歴 史 を 説 明 で き る 。	目 標	A ・ C

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン : 授 業 の 流 れ と 留 意 点 。 講 義 課 題 、 授 業 の 進 め 方 、 評 価 方 法 に 関 す る ガ イ ダ ン ス		
2	学 習 の 基 礎 : 受 講 者 が と ら え る 「 学 習 」 を 題 材 に 日 常 的 な 「 行 動 」 の と ら え 方 に つ い て 学 ぶ	体 系 的 な 学 び の 前 に 、 受 講 者 各 人 が と ら え る 学 習 観 に つ い て 議 論 し て い く 。 (履 修 者 数 に よ り グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と す る 場 合 も あ る)	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	「赤ちゃんはどのように知識・言葉を獲得するのか」 ピアジェの発達理論 言葉の学習	資料を別途配付。	心理学概論 ― 心理学の歴史を復習のこと
4	言葉の学習 語彙の獲得過程を考える 喃語 初語 一語発話 二語発話 概念カテゴリー 理解語	資料を別途配付。	
5	単語の意味の推論と学習 改めて「学習」とは何かを考える 単元2の受講者がとらえる「学習」を題材に再度意見を交わしていく。	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用(履修者数によりグループディスカッションとする場合もある)	教科書 p 2～p 14を事前に読み用語をチェックする
6	レスポネント(古典的)条件づけ① パブロフの実験から得られた知見	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用	教科書 p 32～p 38を事前に読み用語をチェックする
7	レスポネント(古典的)条件づけ② ワトソン(古典的行動主義 恐怖条件づけ) 自分たちの行動にみられる条件づけを挙げてみる 「あなたは何が怖いのか」	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用(履修者数によりグループディスカッションとする場合もある)	教科書 p 33～p 53を事前に読み用語をチェックする
8	オペラント条件づけ② ソーナダイク(試行錯誤学習・効果の法則)	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用	教科書 p 84～p 89を事前に読み用語をチェックする
9	新行動主義① トールマン(認知地図 仲介変数)	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 84～p 89を事前に読み用語をチェックする
10	新行動主義② スキナー(オペラント条件づけ) 自分たちの行動にみられる条件づけを挙げてみる	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 90～p 99を事前に読み用語をチェックする
11	新行動主義③ スキナー(徹底的行動主義) 強化・弱化 強化子・弱化子、消去・消去抵抗	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 90～p 99を事前に読み用語をチェックする
12	新行動主義④ スキナー(三項随伴性)	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 64・p 94～p 98 p 106を事前に読み用語をチェックする
13	新行動主義⑤ スキナー(三項随伴性とABC分析)	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 64・p 94～p 98 p 106を事前に読み用語をチェックする
14	新行動主義と認知心理学の台頭	資料を別途配付。	
15	学びの振り返り	教科書を用い、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 2以降を振り返る
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）	
目標 A・C：筆記試験	70点満点とする記述方式のテストを学期末に実施。
目標 A・C：レポート	12コマ目（もしくは12月の最終にあたる講義）に課題レポートを提出。レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に添い、興味関心を持った領域に関して課題を各自で設定する方式とする。
目標 A：その他	授業内容の理解度あるいは授業項目展開上必要とされる事前の知識等の確認のため、2回から3回程度小テストを実施する。小テストの採点は授業内で答え合わせの形式で行い、不足していると思われる事項を直ぐに授業で反映出来るよう計画していく。
教科書	
書名：学習の心理	
著者名：実森正子・中島定彦	
発行所：サイエンス社	
価格：1,500円（税別）	
その他補足事項	
本科目では、コンピュータを用いたスライド（パワーポイント）を中心に展開していく。実習等で欠席の場合は、ファイル形式あるいはプリント資料にて配付できるので申し出ること。	

授 業 科 目 名	神 経 ・ 生 理 心 理 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職 名 : 非 常 勤 講 師		開 講 期	後 期
	氏 名 : 角 田 裕 (すみたひろし)		授 業 回 数	15 回
	(本務先: あずま脳神経外科病院 職名: 医師)		期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間		福島県立医科大学にて医学生、総合衛生学院看護学生を対象に講義・実習指導を行う(約20年間) その後も非常勤講師として講義を不定期にて行う。		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		福島県介護保険審査員		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		福島県立医科大学医学部昭和48年卒業、医学博士取得 日本神経学会認定医、日本内科学会認定医、リハビリテーション学会所属い ずれも40年以上		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒業		専 門 教 育 科 目	選 択	
公認心理師		専 門 教 育 科 目	必 修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ ー フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		授 業 終 了 後 に 教 室 で 対 応		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
神経内科部門では解剖、専門知識だけでも膨大なものとなるので、重要かつ必要性の高いものをコンパクトにまとめ、用語や考え方は、記憶しやすいように講義のなかで繰り返し用いる。知識は論理的思考に必要であり、授業の機会あるごとに判りやすく解説する。さらに発展して多様な要素の多い心理学への応用力を期待する。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
実用的な知識を中心にコンパクトに記憶してもらう。	目 標	A
知識を元に長く使える論理的思考を習得する。	目 標	C
新しい事象への正しい対応力を養う。	目 標	J

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	中枢神経系の解剖と機能	レジュメを用意します	配付レジュメを読む
2	自律神経系、末梢神経の解剖と機能	レジュメを用意します	配付レジュメを読む
3	神経系に関わる体の解剖と機能	① 解剖・機能についてレポート (レジュメを参考とする)	配付レジュメを読む
4	神経症候学 — 高次機能	レジュメを用意します	配付レジュメを読む
5	神経症候学 — 運動(錐体路系、外路系)	レジュメを用意します	配付レジュメを読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	神経症候学 ― 知覚、感覚系	レジュメを用意します	配付レジュメを読む
7	神経症候学 ― 自律神経系、他	② 神経症候学についてレポート(レジュメを参考とする)	配付レジュメを読む
8	脳卒中①	レジュメを用意します	配付レジュメを読む
9	脳卒中②	③ 脳卒中についてレポート(レジュメを参考とする)	配付レジュメを読む
10	認知症と周辺疾患	「認知症とは」ディスカッションする	配付レジュメを読む
11	神経疾患各論①	レジュメを用意します	配付レジュメを読む
12	神経疾患各論②	レジュメを用意します	配付レジュメを読む
13	神経疾患各論③ 脳神経系の検査①	④ 神経疾患各論で興味をもった疾患についてレポート	配付レジュメを読む
14	脳神経系の検査②	レジュメを用意します 画像が多く入ります	配付レジュメを読む
15	総合的観点からみた脳神経系	レジュメを用意します ディスカッションが入ります	配付レジュメを読む
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
目標A・C・J：期末試験 (60点) 目標C：課題レポート (40点)			
教科書			
使用しない。			
その他補足事項			
教科書は使用しないが、毎回レジュメを用意して講義を行う。			

授 業 科 目 名	社会福祉原論		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：准教授 氏名：齊 藤 隆 之		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	社会福祉法人あいのわ福祉会 足立あかしあ園 支援員 (平成17年4月～平成21年3月)			
社会貢献としての委員会・職 等	日総研出版 社会福祉士国家試験対策講座 講師			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士課程 博士(医療福祉学)			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	必修		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>現代社会は多くの社会問題・社会変動が起き、それに伴って生活問題の発生、生活(福祉)ニーズの多様化や高度化が進んでいる。このような背景の中、社会福祉に携わる者に求められるものもまた多様化し、高度化しているといえる。本講義では、テキスト等で学べる知識にとどまらず、実際の生活や社会といった「現場」の実践を意識した現代社会と福祉についての多角的理解と考察を通して、社会福祉への関心と理解を深める。また、多様化・高度化する福祉問題の解決の基礎を身につけ、福祉的な視点をベースに豊かな心と広い視野をもつことを図るものである。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
	K 課題対処力	
○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 現代社会と福祉制度・福祉政策の関係について理解する。	目標	A
② 社会福祉の意義・基本原理と思想・形成過程を理解する。	目標	A・J
③ 相談援助と福祉政策の関係について理解する。	目標	A・I・J
④ 今後社会福祉を学んでいく上での基礎的知識を身につける。	目標	A・J・L

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 福祉を学ぶ意義とソーシャルワーカー	PPT. レジユメ配付、対話	講義時に指示
2	現代社会における福祉制度と福祉政策 I	PPT. レジユメ配付、対話	ノート整理と発展学修 次回への準備
3	現代社会における福祉制度と福祉政策 II	PPT. レジユメ配付、対話	ノート整理とディスカッションへの準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	現代社会における福祉制度と福祉政策Ⅲ	ディスカッション ディスカッションシートの提出	ディスカッションの振り返りと内省
5	福祉の原理をめぐる理論と哲学Ⅰ	PPT. レジユメ配付、対話	講義時に指示
6	福祉の原理をめぐる理論と哲学Ⅱ	ディスカッション ディスカッションシートの提出	講義時に指示
7	福祉制度の発達過程Ⅰ	PPT. レジユメ配付、対話	ノート整理と発展学修
8	福祉制度の発達過程Ⅱ	VTR鑑賞 映画「シッコ」(60分 ※全体の一部を視聴)、対話	VTR視聴シートの作成
9	福祉制度の発達過程Ⅲ	ディスカッション ディスカッションシートの提出	ディスカッションの振り返りと内省
10	子育て支援と児童福祉の歴史	VTR鑑賞「ハートネットTV戦後70年児童福祉」(30分)、対話	VTR視聴シートの作成
11	福祉政策におけるニーズと資源Ⅰ	PPT. レジユメ配付、対話	ノート整理と発展学修
12	福祉政策におけるニーズと資源Ⅱ	ディスカッション ディスカッションシートの提出	ディスカッションの振り返りと内省
13	福祉政策の課題Ⅰ	PPT. レジユメ配付、対話	ノート整理と発展学修
14	福祉政策の課題Ⅱ	ディスカッション ディスカッションシートの提出	ディスカッションの振り返りと内省
15	前期のまとめ	レジユメ配付、対話	これまでのまとめと期末試験の準備
期末試験	前期末試験		
16	福祉政策の構成要素Ⅰ (気候等に応じてⅡ・Ⅲと順番の入れ替えあり)	PPT. レジユメ配付、対話	講義時に指示
17	福祉政策の構成要素Ⅱ (近隣のリサーチから「福祉」を探す)	リサーチ (グループワーク)	リサーチ結果の要約
18	福祉政策の構成要素Ⅲ	リサーチ結果のまとめ (グループワーク)	次回発表の準備
19	福祉政策の構成要素Ⅳ	リサーチ結果の発表 (課題点①)	他グループ発表をふまえた内省。福祉に関する法律の確認
20	法律を作ってみようⅠ	これまでの資料、作作用紙	個人作業からグループワークへの準備、グループでの発表準備
21			
22	法律を作ってみようⅡ	発表・解説 (課題点②)	発表の振り返り
23	戦後日本の福祉①	VTR鑑賞「ハートネットTV戦後70年障害者福祉」(30分)、対話	VTR視聴シートの作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	戦後日本の福祉②	VTR鑑賞「ハートネットTV戦後70年高齢者福祉」(30分)、対話	ディスカッションへの準備
25	これからの福祉を考える	ディスカッション	講義時に指示
26	これからの社会福祉を担う者としてⅠ(福祉に関する作品の紹介)	個人シート作成→グループワーク	講義時に指示
27	これからの社会福祉を担う者としてⅡ(福祉に関する作品の紹介)	グループワーク	発表準備
28	これからの社会福祉を担う者としてⅢ(福祉に関する作品の紹介)	発表・解説(課題点③)	発表準備
29	これからの社会福祉を担う者としてⅣ(福祉に関する作品の紹介)	発表・解説(課題点③)	
30	まとめ 福祉の原点とは	ディスカッション	既習内容の振り返り
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標 A・J : <基礎点>定期試験80点(前期40点、後期40点)(a)</p> <p>目標 J・I・L : <加算点>発言点+GoodQP(上限15点)(b)、課題点(最高5点×3回)(c)</p> <p><評価>(a)+(b)+(c)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。</p> <p>※遅刻、途中退席等については学生受講規定に基づく。</p> <p>※詳細については初回講義時に説明をする</p>			
教科書		参考書	
使用しない。		<p>書名：チャレンジ現代社会と福祉</p> <p>著者名：久塚純一・森田慎二郎・金川めぐみ</p> <p>発行所：法律文化社</p> <p>価格：2,700円(税別)</p>	

授業科目名	医療福祉論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	3・4年次
担当教員	職名：非常勤講師 氏名：本田ルミ子 (本務先：芦ノ牧温泉病院 職名：ソーシャルワーカー)		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	竹田総合病院・芦ノ牧温泉病院・エミネンス芦ノ牧でソーシャルワーカー(昭和56年4月～現在)			
社会貢献としての委員会・職等	福島県医療ソーシャルワーカー協会会長・会津社会事業会理事			
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	東北福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業 社会福祉士・精神保健福祉士・中学高校社会科及び特別支援教員			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業の終了後、行います。			

授業の概要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
本授業は保健医療サービスの制度の理解の上に、今日の変化を踏まえて、保健医療機関でのソーシャルワークを展開する留意点を学ぶ。また、自らの価値観を再吟味する。	○ A	知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
① 医療と福祉の関係について理解する。	目標	A
② 保健医療機関でのソーシャルワーク実践の方法及び留意点を理解する。	目標	A
③ 生命、健康、生活、人生に対する倫理、価値について考える。	目標	A・I・J・L

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	医療と社会福祉について	資料配付・レポート	新聞やニュースをチェックしておくこと 復習
2	医療ソーシャルワーカーの業務指針	資料配付・講義	新聞やニュースをチェックしておくこと 復習
3	保健医療機関における援助方法の実際①	資料配付・講義	社会福祉援助技術論の復習
4	保健医療機関における援助方法の実際②	資料配付・講義	社会福祉援助技術論の復習
5	ライフステージ(こども)と医療福祉	資料配付・講義	新聞やニュースをチェックしておくこと 復習(こども福祉)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	ライフステージ（成人期）と医療福祉	資料配付・講義	新聞やニュースをチェックしておくこと 復習
7	ライフステージ（高齢期）と医療福祉	資料配付・講義	新聞やニュースをチェックしておくこと 復習
8	ライフステージ（障がい①）と医療福祉	資料配付・講義	新聞やニュースをチェックしておくこと 復習
9	ライフステージ（障がい②）と医療福祉	視覚教材・講義	新聞やニュースをチェックしておくこと 復習
10	貧困と医療と福祉	資料配付・講義	新聞やニュースをチェックしておくこと 復習
11	医療の発展と福祉	資料配付・講義	新聞やニュースをチェックしておくこと 復習
12	生命・医療・福祉（生活）について考える①	視覚教材 グループワーク	新聞やニュースをチェックしておくこと 復習
13	生命・医療・福祉（生活）について考える②	グループワーク・講義	新聞やニュースをチェックしておくこと 復習
14	倫理綱領	資料配付・講義	新聞やニュースをチェックしておくこと 復習
15	まとめ 医療と社会福祉	資料配付・講義	半期のまとめ 復習
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
到達目標 A・J : 期末試験（記述方式）で理解度を確認します（70点） 到達目標 A・I・J・L : 授業の中での発言、態度等（30点）			
教科書			
使用しない。			

授 業 科 目 名	社 会 調 査 法		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	3 年 次
担 当 教 員	職名：准教授 氏名：齊 藤 隆 之		開 講 期	前 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	社会福祉法人あいのわ福祉会 足立あかしあ園 支援員 (平成17年4月～平成21年3月)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	日総研出版 社会福祉士国家試験対策講座 講師			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士課程 博士 (医療福祉学)			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ ー フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	詳しくは初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
本講義では、社会調査に関する基本的知識を総務省統計局による動画視聴や講義、実践練習を通して、ソーシャルワーカーとして不可欠な情報収集の基礎となる社会調査技法を身につける他、現代社会において必要となる個人情報保護やIT活用についても理解する事ができる。	<input type="radio"/> A	知識
	<input type="radio"/> B	技術・技能
	<input type="radio"/> C	論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)
社会調査 (調査の倫理・量的調査・質的調査) の基本を身につけ、利用者理解の力を高める。	目標	A・B
情報収集力を身につけ、客観的に情報を見る力をつける。	目標	A・B・C
個人情報の保護から守秘義務について学ぶ。	目標	A・B

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション 社会調査とはなにか		教科書全体の通読 (特に目次に目を通す)
2	量的調査の手順と調査技術 I	教科書、PPT、レジюме 該当箇所がある場合、適宜「総務省統計局の動画」の視聴を行う。また、単元の終わりには練習問題を行う	講義時に指示したページの振り返り学習および指示をした「総務省統計局の動画」の予習視聴を行う ※統計については、簡単な算数・数学の知識が必要となるため、不安な場合はこちらについての事前学習も行うこと。不明な場合は担当教員に要相談。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】		
3	量的調査の手順と調査技術Ⅱ	教科書、PPT、レジюме 該当箇所がある場合、適宜「総務省統計局の動画」の視聴を行う。また、単元の終わりには練習問題を行う	講義時に指示したページの振り返り学習および指示をした「総務省統計局の動画」の予習視聴を行う ※統計については、簡単な算数・数学の知識が必要となるため、不安な場合はこちらについての事前学習も行うこと。不明な場合は担当教員に要相談。		
4	質的調査の調査技術Ⅰ				
5	質的調査の調査技術Ⅱ				
6	社会福祉における量的社会調査の実際Ⅰ				
7	社会福祉における量的社会調査の実際Ⅱ				
8	社会福祉における質的調査の実際Ⅰ				
9	社会福祉における質的調査の実際Ⅱ				
10	社会調査におけるIT活用				
11	社会調査にチャレンジしようⅠ (テーマと方法を定める)			グループワーク	フィールドワークの準備
12	社会調査にチャレンジしようⅡ (調査)			フィールドワーク	調査結果の整理
13	社会調査にチャレンジしようⅢ (分析と考察)	グループワーク	次回発表の準備		
14	調査結果の発表	プレゼンテーション (ポスター発表)	プレゼン結果の内省		
15	まとめ 社会科学としての社会福祉	教科書 PPT レジюме 配付	総括学修		
期末試験	前期末試験				
期末試験の講評					
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。					
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)					
<p>目標A・B：＜基礎点＞定期試験100点(a) 目標C：＜加算点＞発言点+GoodQP（上限15点）(b)、課題点（社会調査への取り組み15点）(c) ＜評価＞(a)+(b)+(c)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。 ※遅刻、途中退席等については学生受講規定に基づく。 ※詳細については初回講義時に説明をする</p>					
教科書					
<p>書名：社会調査の基礎 第4版 著者名：福祉臨床シリーズ編集委員会 発行所：弘文堂 価格：2,500円（税別）</p>					

授 業 科 目 名	相談援助の基盤と専門職		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	1年次
担 当 教 員	職名：准教授 氏名：齊 藤 隆 之		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	社会福祉法人あいのわ福祉会 足立あかしあ園 支援員 (平成17年4月～平成21年3月)			
社会貢献としての委員会・職 等	日総研出版 社会福祉士国家試験対策講座 講師			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士課程 博士(医療福祉学)			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>相談援助の専門性に係る倫理や定義、およびその形成過程についてのベーシックな理解を図ると共に、今後専門職者として学習を進めるうえで必要な素養を身に着ける。特に講義内では、各単元について実践事例を交えながら社会福祉士の視点について学ぶものである。</p>	<input type="radio"/> A	知識
	<input type="radio"/> B	技術・技能
	<input type="radio"/> C	論理的思考力
	<input type="radio"/> D	文章表現力
	<input type="radio"/> E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/> F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/> G	協働能力
	<input type="radio"/> H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/> I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/> K	課題対処力
	<input type="radio"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
相談援助専門職の役割と意義について理解すると共に倫理・範囲および理念について理解する。	目標	A・B
ソーシャルワーク形成過程を理解する。	目標	A・B
総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。	目標	A・J・K
講義を通じてソーシャルワーカーとしての社会福祉士像を具体的に持つことができ、資格取得をはじめとして実践者としての研鑽の姿勢の必要性を理解することができる。	目標	A・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	社会福祉士の役割と意義・現代社会と地域生活	PPT レジュメの配付	復習：講義資料に記載
2	ソーシャルワークの概念	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第2章1」確認 復習：講義時に指示
3	ソーシャルワークの構成要素	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第2章2」確認 復習：講義時に指示

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	ソーシャルワークの形成過程：源流	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第3章1」確認 復習：講義時に指示
5	ソーシャルワークの形成過程：基礎確立期・発展期	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第3章2、第4章1」確認 復習：講義時に指示
6	ソーシャルワークの形成過程：展開期・統合化	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第4章2・3」確認 復習：講義時に指示
7	ソーシャルワークの形成過程：日本	PPT. 教科書 レジュメの配付	復習：講義時に指示
8	ソーシャルワーカーと価値・ソーシャルワーク実践と価値	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第5章1・2」確認 復習：講義時に指示
9	ソーシャルワーク実践と権利擁護	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第5章3」確認 復習：講義時に指示
10	クライアントの尊厳と自己決定	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第6章1」確認 復習：講義時に指示
11	ノーマライゼーションと社会的包摂	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第6章2」確認 復習：講義時に指示
12	専門職倫理	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第7章1」確認 復習：講義時に指示
13	倫理綱領の内容と歴史	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第7章2」確認 復習：講義時に指示
14	倫理的ジレンマ	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第7章3」確認 復習：講義時に指示
15	前期の総括	対話による振り返り	期末試験へ向けての総括学修
期末試験	前期末試験		
16	総合的かつ包括的な相談援助の動向とその背景	ケーススタディ PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第8章1」確認 復習：講義時に指示
17	地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座	ケーススタディ PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第8章2」確認 復習：講義時に指示
18	地域を基盤としたソーシャルワークの8機能	PPT. 教科書 レジュメの配付 ディスカッション	予習：教科書「第8章3」確認 復習：講義時に指示
19	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第9章1」確認 復習：講義時に指示
20	ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第9章2」確認 復習：講義時に指示

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	相談援助専門職の概念	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第10章1」確認 復習：講義時に指示
22	相談援助専門職の範囲 諸外国の動向	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「教科書第10章2・3」確認 復習：講義時に指示
23	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(1) 予防機能	PPT. 教科書 レジュメの配付 ディスカッション	予習：教科書「第11章」確認 復習：講義時に指示
24	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(2) 新しいニーズへの対応	PPT. 教科書 レジュメの配付 ディスカッション	予習：教科書「第11章」確認 復習：講義時に指示
25	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(3) 総合的支援機能	PPT. 教科書 レジュメの配付 ディスカッション	予習：教科書「第11章」確認 復習：講義時に指示
26	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(4) 権利擁護機能	PPT. 教科書 レジュメの配付 ディスカッション	予習：教科書「第11章」確認 復習：講義時に指示
27	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(5) 社会資源開発機能	PPT. 教科書 レジュメの配付 ディスカッション	予習：教科書「第11章」確認 復習：講義時に指示
28	事例研究	グループワーク	プレゼンテーションの準備
29	事例研究	グループワーク	プレゼンテーションの振り返り
30	総括		定期試験に向けた総括学修
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標 A・B：＜基礎点＞定期試験80点（前期40点、後期40点）(a) 目標 J・K：＜加算点＞発言点+GoodQP（上限30点）(b)、課題点 ＜評価＞(a)+(b)+(c)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。 ※遅刻、途中退席等については学生受講規定に基づく。 ※詳細については初回講義時に説明をする。</p>			
教科書			
<p>書名：新・社会福祉士養成講座 相談援助の基盤と専門職 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 発行所：中央法規出版 価格：2,600円（税別）</p>			

授 業 科 目 名	社会福祉援助技術論 I	授業形態・単位数	講義・4単位
		開 講 年 次	H30以降入学 2年次 H29以前入学 3年次
担 当 教 員	職名：准教授 氏名：齊 藤 隆 之 <small>さい とう たか ゆき</small>	開 講 期	通年
		授 業 回 数	30回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	社会福祉法人あいのわ福祉会 足立あかしあ園 支援員 (平成17年4月～平成21年3月)		
社会貢献としての委員会・職等	日経研出版 社会福祉士国家試験対策講座 講師		
最終卒業(修了)学校及び学位等 資格・免許及び所属学会等	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士課程 博士(医療福祉学)		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	専門教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>本講義では、ソーシャルワークにおける諸理論や基本的アプローチについての学びを深めるとともに、支援者として基本的視点の醸成を図る。加えて、単なる相談援助にとどまらない社会福祉援助の本来的意義についても理解を図るものである。本講義では、現場での実践を念頭に置き、理論の実践現場での具体的活用方法や理論と実践の矛盾、葛藤、ジレンマ等について、実務の例を挙げる等して理解を深める。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
ソーシャルワーク専門職としての視点を醸成する。	目標	A・B
ソーシャルワーク専門職としての知識、技術を理解し、活用できる。	目標	A・B
ソーシャルワーク専門職として「心に寄りそった」実践力を身につける。	目標	B・K・L

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ソーシャルワークとは何か	PPT ディスカッション	復習：ディスカッションの振り返り
2	ソーシャルワークの構成要素	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書にない箇所のため別途指示 復習：講義時に指示
3	ソーシャルワークの構造と機能	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書にない箇所のため別途指示 復習：講義時に指示

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	ソーシャルワークの機能	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書にない箇所のため別途指示 復習：講義時に指示
5	ソーシャルワークにおけるニーズ	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「P.18」確認 復習：講義時に指示
6	ソーシャルワークにおける対象	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第1章の3」確認 復習：講義時に指示
7	人と環境の交互作用	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第2章の1」確認 復習：講義時に指示
8	ソーシャルワークにおける実践モデル	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第3章の1・2」 確認 復習：講義時に指示
9	ソーシャルワークにおける価値の創造①	グループディスカッション プレゼン準備	次回プレゼンの準備
10	ソーシャルワークにおける価値の創造②	プレゼンテーション (課題①)	プレゼンテーションの振り返り
11	ソーシャルワークのアプローチ①	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第3章の3」確認 復習：講義時に指示
12	ソーシャルワークのアプローチ②	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第3章の3」確認 復習：講義時に指示
13	ソーシャルワークのアプローチ③	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第3章の3」確認 復習：講義時に指示
14	ソーシャルワークのアプローチ④	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第3章の3」確認 復習：講義時に指示
15	まとめ・事例の確認(ケーススタディ)	グループワーク	課題の次回までの完成
期末 試験	前期末試験		
16	理想の施設を考える①	個人用シートの作成	個人用シートの完成
17	理想の施設を考える②	グループディスカッション	発表準備
18	理想の施設を考える③	プレゼンテーション (課題②)	プレゼンの振り返り
19	ソーシャルワークのプロセス①	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第5章、第6章」 確認 復習：講義時に指示
20	ソーシャルワークのプロセス②	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第7章」確認 復習：講義時に指示
21	ソーシャルワークのプロセス③	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第8章」確認 復習：講義時に指示

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	ソーシャルワークのプロセス④	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第9章」確認
23	事例を作ろう①(作成)	事例作成用プリント配付	予習：プロセス部分の確認 復習：不要
24	事例を作ろう②(作成・提出)	事例作成用プリント配付	事例検討の準備
25	事例を作ろう③(事例検討)	検討用事例プリント配付 ディスカッション	復習：講義時未使用の事例を確認しておく
26	ソーシャルワークのあり方	VTR鑑賞	VTR視聴シートの作成
27		「ボブという名の猫」(103分※前後半に分けて視聴) ディスカッション	
28	まとめの課題	グループワーク	プレゼンテーションの準備
29	まとめの課題	プレゼンテーション (課題③)	プレゼンテーションの振り返り
30	総括 ソーシャルワーカーのあり方	対話による振り返り	定期試験に向けた総括学修
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標A : <基礎点>定期試験80点(前期40点、後期40点)(a)</p> <p>目標B・K・L : <加算点>発言点+GoodQP(上限15点)(b)、課題点(最高5点×3回)(c)</p> <p><評価>(a)+(b)+(c)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。</p> <p>※遅刻、途中退席等については学生受講規定に基づく。</p> <p>※詳細については初回講義時に説明をする。</p>			
教科書			
<p>書名：ソーシャルワークの理論と方法 I</p> <p>著者名：相澤譲治 他</p> <p>発行所：(株)みらい</p> <p>価格：2,000円(税別)</p>			

授 業 科 目 名	社会福祉援助技術論Ⅱ		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名：准教授 氏名：齊 藤 隆 之		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	社会福祉法人あいのわ福祉会 足立あかしあ園 支援員 (平成17年4月～平成21年3月)			
社会貢献としての委員会・職 等	日総研出版 社会福祉士国家試験対策講座 講師			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士課程 博士(医療福祉学)			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>本講義では、これまでに「相談援助の基盤と専門職」「社会福祉援助技術論Ⅰ」でソーシャルワークにおける諸理論や基本的アプローチについての学び等を元に、より派生的な内容となるネットワーキングやICTの活用等、支援者として深化した視点の醸成を図る。これにより、知識と感性を備えたソーシャルワーカーとしての素養を身につける。加えて、本講義では、現場での実践を念頭に置き、理論の実践現場での具体的活用方法や理論と実践の矛盾、葛藤、ジレンマ等についても実務の例を挙げる等して理解を深める。</p>	<input type="radio"/> A	知識
	<input type="radio"/> B	技術・技能
	<input type="radio"/> C	論理的思考力
	<input type="radio"/> D	文章表現力
	<input type="radio"/> E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/> F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/> G	協働能力
	<input type="radio"/> H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/> I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/> J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/> K	課題対処力
<input type="radio"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
ソーシャルワークにおける面接技術、記録について理解する。	目標	A・B
グループワークについて理解する。	目標	A・B
ICTの活用、社会資源の調整、ネットワーキングについて理解する。	目標	A・B・G
スーパービジョンについて理解をする。	目標	A・B
ソーシャルワークの全体像を理解する。	目標	A・B・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション これまでの学びの振り返り	ディスカッション	復習：ディスカッションの振り返り
2	ソーシャルワークにおける知識と学問知Ⅰ	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第1章」確認 復習：講義時に指示
3	ソーシャルワークにおける知識と学問知Ⅱ	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第1章」確認 復習：講義時に指示

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	ソーシャルワークにおけるコミュニケーション技術①	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第2章」確認 復習：講義時に指示
5	ソーシャルワークにおけるコミュニケーション技術②	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第2章」確認 復習：講義時に指示
6	ソーシャルワークと面接技術Ⅰ	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第3章」確認 復習：講義時に指示
7	ソーシャルワークと面接技術Ⅱ	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第3章」確認 復習：講義時に指示
8	ソーシャルワークと面接技術Ⅲ	VTRの視聴 「ケースの心をとらえる面接」(45分) ディスカッション	ディスカッションの振り返り
9	ソーシャルワークにおける記録の意味と方法Ⅰ	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第4章」確認 復習：講義時に指示
10	ソーシャルワークにおける記録の意味と方法Ⅱ	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第4章」確認 復習：講義時に指示
11	ソーシャルワークとICT技術の活用Ⅰ	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第5・6章」 確認 復習：講義時に指示
12	ソーシャルワークとICT技術の活用Ⅱ	事例等による実践例の確認 グループディスカッション	ディスカッションのまとめ
13	これからのICT技術の活用 (これからのソーシャルワークにおいてどのようなICT技術が想像できるだろうか)	プレゼンテーション準備	プレゼン準備
14	これからのICT技術の活用 (これからのソーシャルワークにおいてどのようなICT技術が想像できるだろうか)	プレゼンテーション (課題①)	プレゼンの振り返り
15	前期のまとめ	対話による振り返り	レジュメのまとめと発展的学修
期末 試験	前期末試験		
16	ソーシャルワークにおけるグループワークの活用①	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第7章」確認 復習：講義時に指示
17	ソーシャルワークにおけるグループワークの活用②	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第7章」確認 復習：講義時に指示
18	ソーシャルワークにおけるグループワークの活用③	事例によるケーススタディ	事例のまとめ
19	ソーシャルワークと社会資源の活用・調整・開発Ⅰ	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第8章」確認 復習：講義時に指示
20	ソーシャルワークと社会資源の活用・調整・開発Ⅱ	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第8章」確認 復習：講義時に指示

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	ソーシャルワークにおけるネットワーキングⅠ	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第9章」確認 復習：講義時に指示
22	ソーシャルワークにおけるネットワーキングⅡ	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第9章」確認 復習：講義時に指示
23	ケアマネジメントの方法Ⅰ	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第10章」確認 復習：講義時に指示
24	ケアマネジメントの方法Ⅱ	ケーススタディ、実践での活用を考える	
25	スーパービジョン方法Ⅰ	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第11章」確認 復習：講義時に指示
26	事例研究の方法	PPT. 教科書 レジュメの配付	予習：教科書「第12章1」確認 復習：講義時に指示
27	事例検討（自己決定、権利擁護）	教科書	予習：教科書「第12章2・3」確認 復習：講義時に指示
28	事例検討（自立支援、尊厳の回復）	教科書	予習：教科書「第12章4・5」確認 復習：これまでの総括学修
29	連携を考える（模擬事例をつかって）	模擬事例 ネットワーキング案の作成（課題②）	模擬事例の振り返り
30	総括	対話による振り返り	定期試験に向けた総括学修
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標A・B：＜基礎点＞定期試験80点（前期40点、後期40点）(a) 目標G・K：＜加算点＞発言点+GoodQP（上限15点）(b)、課題点（最高5点×2回）(c) ＜評価＞(a)+(b)+(c)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。 ※遅刻、途中退席等については学生受講規定に基づく。 ※詳細については初回講義時に説明をする。</p>			
その他補足事項			
<p>書名：ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 著者名：相澤譲治 他 発行所：株みらい 価格：2,300円（税別）</p>			

授 業 科 目 名	地 域 福 祉 論		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：くさか てるみ 日 下 輝 美		開 講 期	前 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間		柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月）		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		福島県子ども・子育て会議副会長、柴田町教育委員会委員 福島県社会福祉協議会評議員、日本地域福祉学会福島県地方委員		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了（修士（経営学）） 日本地域福祉学会、日本社会福祉学会		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒業		専門教育科目	選択	
社会福祉士		専門教育科目	必修	
精神保健福祉士		専門教育科目	必修	
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	60 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kusaka.terumi_fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
地方分権化、社会サービスシステム、コミュニティワーク、住民参加の視点から地域福祉をとらえ、その理念、対象、政策展開、構成要件、財源、主体、推進方法等の観点から、今日の地域福祉の基本的な論点を整理しながら、近未来の社会変動（経済・地域社会・家族関係）を視野に入れた地域福祉の体系と展開の方法について学習します。	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
地域福祉の歴史的展開（法律、制度等）過程に焦点を当てながら、新たな地域福祉の展開について自分の視点で理論化ができるようになる。	目標	A
地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について具体的な事例等を使い自分の言葉で説明できるようになる。	目標	I
ソーシャルサポートネットワークの考え方、NPO法人等のアソシエーション型組織や住民参加のあり方の事例からコミュニティソーシャルの実践能力を養う。	目標	K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 現代の地域生活と地域福祉 1) 現代社会における生活上の問題 2) 地域社会とコミュニティの問題 3) 地域福祉の基本的な考え方	講義・教科書	復習：現代の地域生活と地域福祉の整理
2	地域福祉の思想と理論 1) 地域福祉の思想 2) 地域福祉の理論 3) 現代における地域福祉の思想と理論の課題	講義・教科書	予習：教科書pp.10～23を読む 復習：地域福祉の思想と理論の整理
3	地域福祉の形成と発展 1) 「地域福祉」成立期以前の流れ 2) 海外における地域福祉の歩み 3) わが国における地域福祉の歩み	講義・教科書	予習：教科書pp.24～32を読む 復習：地域福祉の形成と発展の整理
4	地域福祉の法律と組織 1) 地域福祉の法律 2) 地域福祉の組織	講義・教科書 グループワーク	予習：教科書pp.33～44を読む 復習：地域福祉の法律と組織の整理
5	地域福祉における社会福祉協議会の役割 1) 社会福祉協議会の沿革と法的規定 2) 社会福祉協議会の組織と事業活動 3) 地域福祉における社会福祉協議会の役割と課題	講義・教科書	予習：教科書pp.45～51を読む 復習：社会福祉協議会の整理
6	地域福祉の主体と対象 1) 地域福祉における主体の考え方 2) 地域福祉における対象の考え方 3) 社会福祉法における地域福祉の主体と対象	講義・教科書 課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	復習：地域福祉の主体と対象の整理
7	地域福祉の専門職 1) 地域福祉を推進する専門職 2) 専門職間の連携と協働 3) 専門職と地域住民・当事者とのネットワーキング	講義・教科書	予習：教科書pp.52～59を読む 復習：地域福祉の専門職の整理
8	地域福祉における社会資源 1) 社会資源の活用 2) 社会資源の調整 3) 社会資源の開発	講義・教科書 小テスト	予習：教科書pp.60～67を読む 復習：福祉に関連する社会資源の整理
9	地域福祉における福祉ニーズの把握方法 1) 福祉ニーズの考え方 2) 量的福祉ニーズの把握の方法 3) 質的福祉ニーズの把握の方法	講義・教科書	予習：教科書pp.68～76を読む 復習：福祉ニーズの把握方法について整理
10	地域トータルケアシステムの構築 1) 地域トータルケアシステムの考え方 2) 地域トータルケアシステムの実際 3) 地域トータルケアシステムの構築方法	講義・教科書 グループワーク	予習：教科書pp.77～83を読む 復習：地域トータルケアシステムの整理
11	地域福祉における福祉サービスの評価方法 1) 地域福祉における福祉サービスの評価の考え方 2) 地域福祉における福祉サービスの評価の実際 3) 地域福祉における福祉サービスの評価の方法	講義・教科書	予習：教科書pp.84～92を読む 復習：福祉サービスの評価方法について整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	地域福祉と福祉計画 1) 社会福祉基礎構造改革と地域福祉計画 2) 地域福祉における福祉計画の実際 3) 地域福祉における福祉計画の課題	講義・教科書 課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	予習：教科書pp.93～100を読む 復習：社会福祉計画について整理
13	域福祉と福祉教育 1) 福祉教育の考え方 2) 福祉教育の実際 3) 福祉教育の課題	講義・教科書	予習：教科書 pp.101～108を読む 復習：福祉教育の整理
14	地域福祉とNPO・ボランティア活動 1) 地域福祉とNPO 2) 地域福祉とボランティア活動 3) 地域福祉とNPO・ボランティア活動課題	講義・教科書 課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	予習：教科書 pp.119～125を読む 復習：地域福祉とNPO・ボランティア活動課題の整理
15	地域福祉の財源基盤 1) 地域福祉推進のための公的な財源 2) 地域福祉推進のための民間の財源 3) 地域福祉の財源基盤の確立に向けて	講義・教科書 グループワーク	予習：教科書 pp.126～135を読む 復習：地域福祉推進のための財源基盤の整理
期末試験	前期期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
目標 A・K：期末試験 (各30点・平均点) 目標 I : ディスカッションの発言20点満点 授業時間以外の必要な学修のノート提出：30点			
教科書		参考書	
書名：地域福祉の原理と方法 第3版 著者名：井村圭壯 編著 発行所：学文社 価格：2,200円(税別)		書名：地域福祉の理論と実際 著者名：都築光一 監修 発行所：建帛社 価格：2,520円(税別)	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> • B5版以上のノートを準備してください。「授業時間以外の必要な学修」を各回予習してください。 • 教科書補助資料として、「社会福祉の動向2017」、「厚生白書」、「福祉新聞」等を用います。 • 補足資料及び、グループワーク資料として、国家試験過去問題をカバーする資料を作成し配付します。 			

授 業 科 目 名	コミュニティソーシャルワーク	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：くさ か てる み 日 下 輝 美	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月）		
社会貢献としての委員会・職 等	福島県子ども・子育て会議副会長、柴田町教育委員会委員 福島県社会福祉協議会評議員、日本地域福祉学会福島県地方委員		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了(修士(経営学)) 日本地域福祉学会、日本社会福祉学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	専門教育科目	必修	
精神保健福祉士	専門教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kusaka.terumi_fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>コミュニティソーシャルワークの役割と機能について理解し、事例を通してその実践方法・展開過程についての知見を得る。</p> <p>それらによって、社会福祉におけるコミュニティソーシャルワークの重要性および実用性について理解することを目的とします。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	○ C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
コミュニティソーシャルワークの特徴を理解するため、身近な地域に焦点を当てながら、「地域包括ケアシステム」の視点で説明できるようになる。	目標	C
地域における社会資源を把握し、事例を基にその活用・調整・開発の重要性について自分の視点で論じることができる。	目標	J
地域における福祉ニーズの把握の方法について、身近な地域に焦点を当てながら、自分の視点で説明できるようになる。	目標	K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 第1章 地域福祉とは何か	授業計画 教科書補助資料1	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	第2章 地域福祉のあゆみ 1. デンマーク 2. イギリス 3. アメリカ 4. 日本における地域福祉の歴史①	教科書補助資料2-1	教科書P28~40を事前に読む
3	第2章 地域福祉のあゆみ 1. 日本における地域福祉の歴史② 2. 今日における地域福祉の課題	教科書補助資料2-2	教科書P40~46を事前に読む 課題(宿題)レポート
4	第3章 地域福祉の展開における役割と実際 1. 社会福祉協議会 2. 民生委員・児童委員	教科書補助資料3 小テスト・グループワーク	教科書P48~66を事前に読む
5	第3章 地域福祉の展開における役割と実際 1. 各種福祉関係団体 2. ボランティア・NPO組織	課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	教科書P67~89を事前に読む 課題(宿題)レポート
6	第4章 住民による地域福祉活動 1. 地域福祉活動計画 2. 地域福祉活動プログラム	教科書補助資料4	教科書P102~127を事前に読む
7	第4章 住民による地域福祉活動 住民による地域福祉活動の課題	教科書補助資料5	教科書P127~130を事前に読む
8	第5章 専門機関による地域福祉の取り組み 1. 専門機関および専門職による相談支援の実際と地域福祉	教科書補助資料6 ゲストスピーカー招聘	教科書P136~146を事前に読む
9	第5章 専門機関による地域福祉の取り組み 地域における福祉ニーズの把握の方法①	教科書補助資料7	教科書P146~162を事前に読む
10	第5章 専門機関による地域福祉の取り組み 地域における福祉ニーズの把握の方法②	教科書補助資料8 課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	配付資料を読む 課題(宿題)レポート
11	第5章 専門機関による地域福祉の取り組み 1. 地域トータルケアシステムの実例 2. 福祉教育 3. 福祉サービスの提供と評価	教科書補助資料9 小テスト・グループワーク	教科書P162~191を事前に読む
12	第6章 地域福祉の財源 1. 地域福祉推進の基盤に関する財源措置	教科書補助資料10	教科書P200~217を事前に読む
13	第7章 これからの地域福祉に向けて 地域福祉と社会福祉に関する統計指標	教科書補助資料11 課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	教科書P218~225を事前に読む
14	第7章 これからの地域福祉に向けて 東日本大震災と地域福祉	教科書補助資料12 小テスト・グループワーク	配付資料を読む
15	第7章 これからの地域福祉に向けて 現代社会と地域福祉の現状と課題	教科書補助資料13	配付資料を読む
期末試験	後期期末試験		

期末試験の講評

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

- (1) 目標C・J・K：期末試験（各20点 60点満点）
- (2) レポート レポートは3回各10点満点の採点とする。課題(宿題)は授業で配付された資料や図書館等で調べレポートを作成し指定された期日まで提出すること。
- (3) その他
 - ・授業内容の理解度を確認するため3回小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とするため、評価点には含めない。
 - ・ゲストスピーカー講義の課題：10点

教科書

書名：地域福祉の理論と実際
著者名：都築光一編集
発行所：建帛社
価格：2,400円（税別）

その他補足事項

- ・教科書補助資料として、「社会福祉の動向2017」、「厚生労働白書」、「福祉新聞」等を用います。
- ・補足資料及び、グループワーク資料として、国家試験過去問題をカバーする資料を作成し配付します。

授 業 科 目 名	福祉行財政と福祉計画	授業形態・単位数	演習・2単位
		開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：くさか てるみ 日 下 輝 美	開 講 期	後期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月）		
社会貢献としての委員会・職 等	福島県子ども・子育て会議副会長、柴田町教育委員会委員 福島県社会福祉協議会評議員、日本地域福祉学会福島県地方委員		
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了（修士（経営学）） 日本地域福祉学会、日本社会福祉学会		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
社会福祉士	専門教育科目	必修	
精神保健福祉士	専門教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kusaka.terumi_fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>福祉行政には、福祉事務所や児童相談所をはじめとして各種の相談機関があり、私たち国民の生活を支えている。また、国や自治体の財政の現状においては、社会保障・社会福祉関連の予算が大きな比重を占めています。</p> <p>さらに90年代頃から、高齢者・障がい者・児童をはじめとして福祉計画の策定がすすみ、計画的で中長期的な福祉政策が期待されています。</p> <p>そこで、この授業では福祉行財政および福祉計画を中心に、その現状と課題を学びます。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		○ I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		○ J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について理解する。	目標	A
福祉行財政の実際について理解し、自分の言葉で他者に説明することができる。	目標	I
福祉計画の意義や目的、地域ニーズの把握・評価方法を理解する。	目標	J

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と目標 (授業内容) (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 第1章 福祉行財政と福祉計画① 1. 福祉と制度 2. 福祉の法制度の展開	授業計画 教科書補助資料 1	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	第1章 福祉行政と福祉計画② 3. 福祉計画の概要 第2章 福祉行政① 1. 行政の骨格	教科書補助資料2	教科書P 2～41を事前に読む
3	第2章 福祉行政② 2. 社会福祉と法制度 3. 福祉行政の組織 4. 社会福祉基礎構造	教科書補助資料3	教科書P42～64を事前に読む 課題(宿題)レポート作成
4	第3章 福祉財政① 1. 財政と社会福祉 2. 一般会計予算と社会保障関係費の動向 3. 地方自治体の財政と民生費の動向	教科書補助資料4 小テスト・グループワーク	教科書P66～77を事前に読む
5	第3章 福祉財政② 4. 民間社会福祉事業の財源 5. 福祉サービスの利用と費用負担	教科書補助資料5	教科書P78～80を事前に読む 課題(宿題)レポート作成
6	第4章 福祉行財政の組織・団体と専門職の役割① 1. 社会福祉基礎構造改革 2. 相談過程 3. 相談体制 4. 専門諸機関	課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	教科書P82～95を事前に読む
7	第4章 福祉行財政の組織・団体と専門職の役割② 5. 地域の相談システム 6. 専門職	教科書補助資料6 小テスト・グループワーク	教科書P96～105を事前に読む
8	第5章 福祉計画の目的と意義① 1. 福祉計画の目的・意義	ゲストスピーカーの招聘	教科書P108～110を事前に読む
9	第5章 福祉計画の目的と意義② 2. 福祉援助の現場から福祉計画へ 3. 計画のサイクルと福祉援助の現場	教科書補助資料7	教科書P111～120を事前に読む
10	第6章 福祉計画の理論と技法① 1. 福祉計画の基本的視点 2. 福祉計画の課程と留意点	教科書補助資料8 課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	教科書P122～139を事前に読む
11	第6章 福祉計画の理論と技法② 3. 福祉計画におけるニーズ把握	教科書補助資料9	教科書P140～147を事前に読む
12	第6章 福祉計画の理論と技法③ 4. 福祉計画における評価 5. 福祉計画における住民参加	教科書補助資料10	教科書P148～161を事前に読む 課題(宿題)レポート作成
13	第7章 福祉計画の実際① 1. 福祉計画の事例研究の視点 2. 老人福祉計画・介護保険事業計画	教科書補助資料11 小テスト・グループワーク	教科書P164～184を事前に読む
14	第7章 福祉計画の実際② 3. 障害者計画・障害福祉計画 4. 次世代育成支援行動計画	教科書補助資料12	教科書P195～244を事前に読む
15	第7章 福祉計画の実際③ 5. 地域福祉計画	教科書補助資料13	教科書P245～256を事前に読む
期末試験	前期期末試験		

期末試験の講評

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標 A・J：期末試験（各30点60点満点）

目標 I：ディスカッションの発言20点満点

レポート：レポートは20点満点の採点とする。課題（宿題）は授業で配付された資料や図書館等で調べレポートを作成し指定された期日まで提出すること。

その他：授業内容の理解度を確保するため3回小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。

教科書

書名：福祉行財政と福祉計画

著者名：（編集）社会福祉士養成講座編集委員会

発行所：中央法規

価格：2,200円（税別）

書名：社会福祉士シリーズ 福祉行財政と福祉計画 第3版

著者名：福祉臨床シリーズ編集委員会編

発行所：弘文堂

価格：2,500円（税別）

その他補足事項

- 教科書補助資料として、「社会福祉の動向2017」、「厚生白書」、「福祉新聞」等を用います。
- 補足資料及び、グループワーク資料として、国家試験過去問題をカバーする資料を作成し配付します。

授 業 科 目 名	社会福祉運営管理		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：遠 藤 寿 海		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特別養護老人ホーム 介護職員（平成11年9月～平成13年4月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市地域包括支援センター運営協議会 委員 福島市地域生活支援協議会 会長 福島市社会保障審議会 副会長			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院人間総合科学研究科 ヒューマンケア科学修士 介護福祉士 日本老年社会学会、日本老年行動科学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：endo.toshimi fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>措置から契約へ移行したことにより、社会福祉施設には「経営」の考え方が導入され、利用者の人権尊重とその人らしい生活の実現に向けて、より良質なサービスの提供に基づく運営の継続性が求められるようになっている。そのため、サービス提供を行う組織や団体は、適切なサービス提供体制を確保するために、明確なビジョンに基づく組織運営、人材確保・人材育成、働きやすい環境づくり等に組織全体として取り組まなければならない。</p> <p>社会福祉士は、サービス利用者のより良い生活の実現のために、福祉を取り巻く現代的課題に敏感になるとともに、事業計画等の立案、苦情対応、リスクマネジメント、OJT、連携（チームアプローチ）の調整などを通して組織づくりに関与することがある。本講義では、福祉サービス利用者にとって有益な福祉サービス組織のあり方をイメージでき、現場におけるサービスマネジメントの基礎を理解することを目指す。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
① 福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。	目標	A・C・G・K
② 福祉サービスの経営管理とリスクマネジメントを含む運営マネジメントの基礎を理解する。	目標	A・C・G・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 福祉サービスにおける組織と経営	講義 教材：授業計画、教科書	教科書 p.1～p.17を読んでおくこと
2	法人の概念 コンプライアンスとガバナンス 社会福祉法人の概要、理事会・評議員会の役割	講義 教材：教科書	教科書 p.19～p.47を読んでおくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
3	福祉サービスに係る組織や団体① 社会福祉法人制度・定義、役割、税制、実際、その他	講義 教材：教科書	教科書 p.33～p.47を再読しておくこと
4	福祉サービスに係る組織や団体② 特定非営利活動法人制度・定義、役割、税制、実際、その他	講義 教材：教科書	教科書 p.48～p.62を読んでおくこと
5	福祉サービスに係る組織や団体③ その他の組織や団体：医療法人、公益法人、営利法人、市民団体、自治会、その他	講義 教材：教科書	教科書 p.63～p.75を読んでおくこと
6	福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論① 1) 経営戦略や事業計画に関する基礎理論 2) 組織に関する基礎理論	講義 教材：教科書	教科書 p.76～p.98を読んでおくこと
7	福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論② 3) 管理運営に関する基礎理論 4) 集団の力学に関する基礎理論	講義 教材：教科書	教科書 p.98～p.113を読んでおくこと
8	福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論③ 5) リーダーシップに関する基礎理論	講義 教材：教科書	教科書 p.114～p.119を読んでおくこと
9	福祉サービスの管理運営の方法① 1) サービスマネジメント	講義 教材：教科書	教科書 p.120～p.137を読んでおくこと
10	福祉サービスの管理運営の方法② 2) サービスの質の評価 3) 福祉サービス第三者評価	講義 教材：教科書、配付資料	教科書 p.138～p.152を読んでおくこと
11	福祉サービスの管理運営の方法③ 4) 苦情対応と苦情解決システム 5) リスクマネジメント 6) サービス管理の課題と方向性	講義 教材：教科書、配付資料	教科書 p.153～p.174を読んでおくこと
12	福祉サービス提供組織の経営と実際 ～社会福祉法人運営管理者による講話～	ゲストスピーカーによる 講義 質疑応答	レポート提出
13	福祉サービスの管理運営の方法④ 7) 人事・労務管理 8) 人材育成と定着へ向けて	講義 教材：教科書	教科書 p.175～p.222を読んでおくこと
14	福祉サービスの管理運営の方法⑤ 9) 働きやすい労働環境の整備	講義 教材：教科書	教科書 p.175～p.222を再読しておくこと
15	福祉サービスの管理運営の方法⑥ 1) 会計管理 2) 財務管理 3) 情報管理 4) 戦略的広報 まとめ	講義 教材：教科書	教科書 p.223～p.276を読んでおくこと
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

下記の方法で総合的に評価する。

目標 A・C・K：筆記試験 70%

目標 C・G：レポート 30%

教科書

書名：福祉サービスの組織と経営 第5版
 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会・編集
 発行所：中央法規出版
 価格：2,200円（税別）

参考書

書名：社会福祉学習双書2017 社会福祉概論Ⅱ
 著者名：社会福祉学習双書編集委員会・編集
 発行所：全国社会福祉協議会
 価格：2,400円（税別）

授 業 科 目 名	社 会 保 障		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 4 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 遠 藤 寿 海		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	特別養護老人ホーム 介護職員 (平成11年9月～平成13年4月)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福島市地域包括支援センター運営協議会 委員 福島市地域生活支援協議会 会長 福島市社会保障審議会 副会長			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	筑波大学大学院人間総合科学研究科 ヒューマンケア科学修士 介護福祉士 日本老年社会学会、日本老年行動科学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	120 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス : endo.toshimi fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
社会福祉士、精神保健福祉士国家試験指定科目「社会保障」の出題基準と出題傾向を勘案しながら、社会保障5制度の具体的内容を理解できることを目的とする。さらに、社会保障の概念と理念、社会保障の歴史、各国の制度比較、社会保障の財源と費用等については統計資料、政府資料等を参照しながら学び、制度の変遷や今後の課題等を考えていくことができるようになることを目指すとともに、現代社会における社会保障の役割への理解を深めていく。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 日本における社会保障制度について理解する。	目標	A・C・J
② 現代社会における社会保障制度の役割と課題を理解できるようになる。	目標	A・C・J
③ 外国の社会保障制度について学び、日本の制度との違い、共通点を知る。	目標	A・J

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 1. 社会保障制度の概要	授業計画 教科書補足プリント	教科書 p.42～p.60を事前に読む プリントで復習
2	2-1. 医療保険 医療保険制度の概要 国民皆保険の意義	教科書補足プリント	教科書 p.126～p.135を事前に読む プリントで復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	2-2. 医療保険 国民健康保険のしくみ	教科書補足プリント	教科書 p.141～p.146を 事前に読む プリントで復習
4	2-3. 医療保険 健康保険のしくみ 小テスト	教科書補足プリント	教科書 p.136～p.140を 事前に読む プリントで復習
5	2-4. 医療保険 後期高齢者医療制度のしくみ	教科書補足プリント	教科書 p.147～p.150を 事前に読む プリントで復習
6	2-5. 医療保険 診療報酬と医療供給	教科書補足プリント	教科書 p.151～p.160を 事前に読む プリントで復習
7	2-6. 医療保険 近年の医療保険制度の概要	教科書補足プリント	プリントで復習
8	3-1. 介護保険 介護保険制度の概要	教科書補足プリント	教科書 p.162～p.169を 事前に読む プリントで復習
9	3-2. 介護保険 要介護認定とケアマネジメント	教科書補足プリント	教科書 p.170～p.182を 事前に読む プリントで復習
10	3-3. 介護保険 介護保険のサービス内容と今後の課題 小テスト	教科書補足プリント	教科書 p.183～p.185を 事前に読む プリントで復習
11	4-1. 雇用保険 雇用保険制度の概要	教科書補足プリント	教科書 p.188～p.190及 び p.201～p.210を事前 に読む プリントで復習
12	4-2. 雇用保険 雇用保険二事業と今後の課題	教科書補足プリント	教科書 p.201～p.210を 事前に読む プリントで復習
13	5-1. 労災保険 労働基準法の全体像 労災保険制度の概要	教科書補足プリント	教科書 p.191～p.201を 事前に読む プリントで復習
14	5-2. 労災保険 労災保険の給付 労災保険の費用負担	教科書補足プリント	教科書 p.191～p.201を 事前に読む プリントで復習
15	6. 労働保険の動向	教科書補足プリント	教科書 p.211～p.213を 事前に読む プリントで復習
期末 試験	前期末期末試験		
16	オリエンテーション 7-1. 年金制度 年金制度の概要	授業計画 教科書補足プリント	教科書 p.86～p.98を事 前に読む プリントで復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	7-2. 年金制度 老齢給付	教科書補足プリント	教科書 p.99～p.116を 事前に読む プリントで復習
18	7-3. 年金制度 障害給付、遺族給付	教科書補足プリント	教科書 p.102～p.103を 事前に読む プリントで復習
19	7-4. 年金制度 年金財政のしくみ	教科書補足プリント	プリントで復習
20	7-5. 年金制度 年金改革の歴史 2004年改革とその後	教科書補足プリント	教科書 p.117～p.124を 事前に読む プリントで復習
21	7-6. 年金制度 3階建て構造と企業年金の基礎	教科書補足プリント	プリントで復習
22	7-7. 年金制度 社会保険の理論 小テスト	教科書補足プリント	プリントで復習
23	8-1. 歴史と今後の展望 社会保障の歴史(世界)	教科書補足プリント	教科書 p.18～p.24を事 前に読む プリントで復習
24	8-2. 歴史と今後の展望 社会保障の歴史(日本)	教科書補足プリント	教科書 p.25～p.40を事 前に読む プリントで復習
25	9-1. 社会保障の理念 諸外国における社会保障制度の概要	教科書補足プリント	グループワーク 教科書 p.296～p.322を 事前に読む
26	9-2. 社会保障の理念 諸外国における社会保障制度の概要 小テスト	教科書補足プリント	グループワーク 教科書 p.296～p.322を 事前に読む
27	9-3. 「諸外国における社会保障制度の概要」グループ まとめの発表		他グループの発表内容を 復習
28	10. 社会保障給付費の財政 日本の社会保障給付費の現状と特徴	教科書補足プリント	教科書 p.62～p.83を事 前に読む プリントで復習
29	11. 社会福祉制度と社会保障 社会保障とは 社会保障の理念と機能 社会保障の課題	教科書補足プリント	教科書 p.4～p.16を事 前に読む プリントで復習
30	授業全体のまとめ	課題プリント	教科書既習内容の確認 プリントで学習
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

下記の方法で総合的に評価する。

目標 A : 筆記試験 100点満点の筆記試験を前期末および後期末に実施。

目標 A・C・J : レポート 授業内容に沿い、興味関心をもった領域について、各自で課題を設定する方式とする。
(冬期休業期間)

目標 A : 小テスト 授業内容の理解度を確認するため、数回の小テストを実施する。授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。

評価割合は、筆記試験60%、レポート課題30%、小テスト結果10%。

教科書

書名：社会保障 第6版
著者名：社会福祉士養成講座編集委員会・編
発行所：中央法規出版
価格：2,600円（税別）

参考書

書名：社会保障入門2019
著者名：社会保障入門編集委員会・編集
発行所：中央法規出版
価格：2,400円（税別）

書名：よくわかる社会保障 [第5版]
(やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)
著者名：坂口正之・岡田忠克（編集）
発行所：ミネルヴァ書房
価格：2,600円（税別）

その他補足事項

配付資料が多いので、各自ファイルを準備すること。

授 業 科 目 名	高 齢 者 に 対 す る 支 援 と 介 護 保 険 制 度	授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 4 単 位
		開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 遠 藤 寿 海	開 講 期	通 年
		授 業 回 数	30 回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	特 別 養 護 老 人 ホ ム 介 護 職 員 (平 成 11 年 9 月 ~ 平 成 13 年 4 月)		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福 島 市 地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー 運 営 協 議 会 委 員 福 島 市 地 域 生 活 支 援 協 議 会 会 長 福 島 市 社 会 保 障 審 議 会 副 会 長		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	筑 波 大 学 大 学 院 人 間 総 合 科 学 研 究 科 ヒ ュ ー マ ン ケ ア 科 学 修 士 介 護 福 祉 士 日 本 老 年 社 会 学 会 、 日 本 老 年 行 動 科 学 会		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択	
社 会 福 祉 士	専 門 教 育 科 目	必 修	
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	120 時 間
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー に つ い て は 初 回 授 業 時 に 説 明 し ま す 。 メ ー ル ア ド レ ス : endo.toshimi fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目		
<p>超 高 齢 社 会 と な っ た 我 が 国 に お い て は 、 介 護 需 要 に 応 える だ け で は な く 、 介 護 予 防 の 視 点 を 重 視 し た 幅 広 い 高 齢 者 福 祉 実 践 に 関 す る 理 解 が 求 め ら れ て い る 。 中 核 と な る 介 護 保 険 制 度 は 、 制 度 開 始 以 降 改 正 が 重 ね ら れ 、 近 年 は 、 地 域 包 括 ケ ア シ ス テ ム の 構 築 と 認 知 症 対 策 を 中 心 に し つ つ 、 2017 年 の 介 護 保 険 法 改 正 で は 、 新 た に 共 生 型 サ ー ビ ス が 制 度 化 さ れ 、 分 野 を 超 え た 連 携 が 求 め ら れ て き て い る 。 本 講 義 で は 、 高 齢 者 お よ び 高 齢 者 福 祉 を 取 り 巻 く 社 会 状 況 、 諸 制 度 や 関 連 機 関 、 高 齢 者 分 野 に お け る ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 実 践 活 動 に 必 要 な 知 識 ・ 技 術 等 に 関 す る 理 解 を 深 め 、 社 会 に 出 た 際 に 十 分 対 応 で き る 多 様 な 専 門 知 識 の 修 得 を 図 っ て い く 。</p>	○	A 知 識	
			B 技 術 ・ 技 能
			C 論 理 的 思 考 力
		○	D 文 章 表 現 力
			E 表 情 及 び 身 体 表 現 力
			F 感 性 及 び 感 動 表 現 力
		○	G 協 働 能 力
			H ま ご こ ろ 、 思 い や り の 発 現 力 と 夢 や 希 望 の 発 信 力
		○	I 積 極 的 発 言 力 及 び プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 力
			J 多 様 性 へ の 理 解 力 、 応 用 力
			K 課 題 対 処 力
			L 人 間 関 係 、 対 人 関 係 構 築 力 及 び 対 話 力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)		
① 高 齢 者 の 生 活 実 態 、 高 齢 者 を 取 り 巻 く 社 会 情 勢 、 福 祉 ・ 介 護 需 要 に つ い て 理 解 で き る よ う に な る 。	目 標	A ・ D ・ G ・ I	
② 介 護 保 険 制 度 の 全 体 像 を 把 握 し 、 具 体 的 な 支 援 機 関 と そ の 役 割 に つ い て 理 解 で き る よ う に な る 。	目 標	A	
③ 高 齢 者 の 福 祉 ・ 介 護 に 係 る 様 々 な 法 制 度 に つ い て 理 解 で き る よ う に な る 。	目 標	A	
④ 高 齢 者 虐 待 防 止 を 含 む 、 高 齢 者 の 権 利 擁 護 に つ い て 理 解 で き る よ う に な る 。	目 標	A	
⑤ 高 齢 者 自 身 が 望 む 生 活 ス タ イ ル に 合 わ せ た 支 援 の あ り 方 に つ い て 考 え ら れ る よ う に な る 。	目 標	A ・ D ・ G	
⑥ 介 護 の 概 念 や 対 象 、 及 び そ の 理 念 等 に つ い て 理 解 で き る よ う に な る 。	目 標	A	
⑦ 介 護 過 程 に お け る 介 護 の 技 法 や 介 護 予 防 の 基 本 的 な 考 え 方 に つ い て 理 解 で き る よ う に な る 。	目 標	A	

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業概要と評価方法、授業の進め方等の説明 高齢者の特性①	オリエンテーション 講義 (配付資料)	配付資料を読む
2	高齢者の特性②	講義 (配付資料)	配付資料を読む
3	少子高齢化と高齢者① ・高齢者の生活実態と社会情勢	講義 (配付資料)	配付資料を読む
4	少子高齢化と高齢者② ・高齢者の福祉需要・介護需要	講義 (配付資料)	配付資料を読む
5	高齢者の保健福祉の発展① ・高齢者保健福祉の起源と生成	講義 (配付資料)	配付資料を読む
6	高齢者保健福祉の発展② ・高齢者保健福祉制度の発展 ・法改正等の最近の動向	講義 (配付資料)	配付資料を読む
7	高齢者支援の関係法規① ・高齢者保健福祉の法体系 ・老人福祉法①	講義 (配付資料)	配付資料を読む
8	高齢者支援の関係法規② ・老人福祉法②	講義 (配付資料)	配付資料を読む
9	高齢者支援の関係法規③ ・高齢者の医療の確保に関する法律	講義 (配付資料) グループ課題の提示	配付資料を読む グループ課題のまとめ
10	高齢者支援の関係法規④ ・バリアフリー法 ・高齢者住まい法	講義 (配付資料)	配付資料を読む グループ課題のまとめ
11	高齢者支援の関係法規⑤ ・高齢者虐待防止法①	講義 (配付資料)	配付資料を読む グループ課題のまとめ
12	高齢者支援の関係法規⑥ ・高齢者虐待防止法②	講義 (配付資料)	配付資料を読む グループ課題のまとめ
13	高齢者支援の関係法規⑦ ・成年後見制度と日常生活自立支援事業	講義 (配付資料)	配付資料を読む グループ課題のまとめ
14	グループ課題プレゼンテーション①	グループ発表 (資料・PPT) 質疑応答	
15	グループ課題プレゼンテーション② 夏期休暇中課題の提示	グループ発表 (資料・PPT) 質疑応答	
期末 試験	前期末期末試験		
16	夏期休暇中課題のプレゼンテーション	グループ発表 (資料)	
17	介護保険法① ・介護保険制度の概要、基本的枠組み、制度の目的	講義 (配付資料)	配付資料を読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	介護保険法② ・介護保険制度の仕組みとサービス体系① (保険者と被保険者、保険料、財源等)	講義 (配付資料)	配付資料を読む
19	介護保険法③ ・介護保険制度の仕組みとサービス体系② (介護給付、予防給付、地域支援事業の概要)	講義 (配付資料)	配付資料を読む
20	介護保険法④ ・介護保険制度の仕組みとサービス体系③ (財政安定化基金、介護報酬等)	講義 (配付資料)	配付資料を読む
21	介護保険法⑤ ・介護保険制度の運営と行政機関の役割 ・各種組織及び団体の役割 (国保連、社協等)	講義 (配付資料)	配付資料を読む
22	介護保険法⑥ ・地域包括支援センターの役割と実際 (組織体系、活動、ネットワーキング)	講義 (配付資料)	配付資料を読む
23	高齢者福祉における専門職の役割と実際① ・介護支援専門員とケアマネジメント ・ケアプランの種類	講義 (配付資料)	配付資料を読む
24	高齢者福祉における専門職の役割と実際② ・社会福祉士とその他の専門職 ・高齢者支援における連携とネットワーキング	講義 (配付資料)	配付資料を読む 事例課題①配付 (25回授業時間に演習実施)
25	高齢者福祉において社会福祉士に求められる支援の視点 (事例検討)	グループディスカッション	配付資料を読む 事例課題②配付(復習課題)
26	介護の概念および介護の対象	講義 (配付資料)	配付資料を読む
27	介護の方法	講義 (配付資料)	配付資料を読む
28	介護過程とケアマネジメントとの関係	講義 (配付資料)	配付資料を読む
29	認知症とそのケア 終末期ケア	講義 (配付資料)	配付資料を読む
30	福祉用具の活用、住環境整備 まとめ	講義 (配付資料)	配付資料を読む
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>下記の方法で総合的に評価する。</p> <p>目標A : 前期、後期各1回実施する100点満点の筆記試験 40%</p> <p>目標G・I : 前期、後期各1回実施するグループ課題への取組とプレゼンテーション 40%</p> <p>目標D : レポート課題 20%</p>			

教科書	参考書
<p>使用しない。毎回、資料を配付する。</p>	<p>書名：高齢者に対する支援と介護保険制度 第6版 (2019年1月発行) 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会・編集 発行所：中央法規出版 価格：2,600円(税別)</p> <p>書名：介護保険制度とは？ 著者名：東京都社会福祉協議会・編集 発行所：東京都社会福祉協議会 価格：400円(税別)</p>
その他補足事項	
<p>介護保険制度は改正が多く、教科書の内容も随時変わっていくため、参考書として挙げた「高齢者に対する支援と介護保険制度 第6版」をベースにして、配付資料により授業を実施する。2019年1月に改訂されているので、参考にしたい者は購入しても良い。4年次の国家試験受験の際に必要な者は、新しい版がでているかどうか確認の上で購入すること。</p>	

授 業 科 目 名	障害者に対する支援と 障害者自立支援制度		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：准教授 氏名：齊 藤 隆 之		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	社会福祉法人あいのわ福祉会 足立あかしあ園 支援員 (平成17年4月～平成21年3月)			
社会貢献としての委員会・職 等	日総研出版 社会福祉士国家試験対策講座 講師			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士課程 博士(医療福祉学)			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	詳しくは初回授業時に説明します。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
障害者福祉は近年大きな制度的変革の波にさらされている。一方で、その歴史的変遷に源流を置く基本理念や概念は、揺らぐことない共通基盤として、障害者福祉を理解しようとする者に、代えがたい示唆を与えてくれる。本講義では、障害者福祉の歴史的展開、基本理念、諸概念への理解を深めた上で、法制度の実態とその課題を学ぶことで、障害者ソーシャルワークの射程である「障害者の生活」について現場の実例も交えながら実践的視座を身につけるものである。	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
(全体)「障害者の生活を支援すること」について、その本来の意味をソーシャルワークの視点で理解し、実践的視座を養う。	目標	A・G・J
① 障害者福祉の歴史的展開からその理念、諸概念の本質を理解する。	目標	A
② 障害者福祉を取り巻く法制度、サービス、各種組織、専門職等について理解する。	目標	A・B・J
③ 障害者ソーシャルワークの視点を醸成し、その生活を支援することについて考察する。	目標	B・G・J

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 障害者福祉の視点	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書目次およびプロローグの確認。 復習：講義時に指示
2	障害者福祉の歴史的展開と社会情勢	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第3章」の確認。 復習：講義時に指示

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	障害者福祉の基本理念	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第2章」の確認。 復習：講義時に指示
4	障害の概念と障害者の定義	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第1章」の確認。 復習：講義時に指示
5	障害者の基本的理解と法体系①	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第4章」の確認。 復習：講義時に指示
6	障害者の基本的理解と法体系②	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第6章」の確認。 復習：講義時に指示
7	障害者総合支援法によるサービス体系①	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第7章～第9章」の確認。 復習：講義時に指示
8	障害者総合支援法によるサービス体系②	教科書、PPT、レジュメ配付 映像資料ハートネットTV「障害者総合支援法」(30分)	予習：教科書「第7章～第9章」の確認。 復習：講義時に指示
9	障害者の権利擁護	教科書、映像資料	予習：教科書「第12章」の確認。課題シートの作成
10	障害者をささえる人々	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第10章～第12章」の確認。 復習：講義時に指示
11	映像作品の中の障害者	教科書、PPT、レジュメ配付 映像資料「最強のふたり」or「シンプルシモン」(映画の一部視聴75分)	課題シートの作成
12	障害者福祉を支える人々	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第13章～第17章」の確認。事例も含む。 復習：講義時に指示
13	障害者のケアマネジメントとニーズ	教科書、PPT、レジュメ配付	予習：教科書「第5章」の確認。 復習：講義時に指示
14	個別支援計画を作ってみよう！	プリント グループワーク	個別支援計画の作成準備
15	まとめ 「生活する」ということ	ディスカッション	総括学修
期末試験	前期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標 A・J：＜基礎点＞定期試験80点（a）
＜加算点＞発言点 + GoodQP（上限15点）（b）
目標 B・G：＜加算点＞課題点（最高5点×3回）（c）
＜評価＞(a)+(b)+(c)の総計で大学の規定に沿って素点評価を行う。
※遅刻、途中退席等については学生受講規定に基づく。
※詳細については初回講義時に説明をする

教科書

書名：新・初めて学ぶ社会福祉3 障害者福祉論
著者名：杉本敏夫 他
発行所：ミネルヴァ書房
価格：2,400円（税別）

授 業 科 目 名	児 童 ・ 家 庭 福 祉		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 4 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名： ^{あん} ^べ ^{いく} ^こ 安 部 郁 子 (本務先：福島大学 職名：特任教授)		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	福島県立矢吹病院、福島県心身障害児総合療育センター、福島県しゃくなげ寮、福島県中央児童相談所、福島県浜児童相談所、福島県会津児童相談所、福島県女性のための相談支援センター 計38年			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	現在、福島県臨床心理士会会長 (～H2年3月) 西白河郡就学指導審議会委員 (～20年3月) 福島市就学指導審議会委員 平成24年度性暴力被害者等支援強化のための研修及び広報事業報告書(内閣府・福島県)、福島県男女共生センター相談室スーパーバイザー、厚生労働省「婦人保護施設の役割と機能に関する調査 検討」検討会委員、全国婦人保護施設等連絡協議会「売春防止法改正に向けたプロジェクトチーム」委員 職歴は同上			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	福島大学教育学部 教育学士 臨床心理士、日本箱庭療法学会、日本家族療法学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
社 会 福 祉 士	専 門 教 育 科 目	必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	120 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	初回授業時に説明する。 E-mailは初回授業時に提示する。			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>本授業では、効果的な援助活動を展開するために必要な児童・家庭福祉の基本的内容を習得していく。</p> <p>そのために、子ども・家庭をめぐる社会情勢等について概説し、子ども・家庭福祉の状況、具体的課題を理解したうえで、子ども・家庭福祉の理念、法体系、実施体制、支援制度について理解し、考察を深める。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
	○	G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
子ども、家庭をめぐる社会情勢について焦点を当て、子ども・家庭福祉の状況、具体的課題を説明できるようになる。	目 標	A・C
子ども観や子どもの権利の観点から、子ども・家庭福祉の理念について自分の視点で論じることができるようになる。	目 標	A・C・J
援助活動を展開するために必要な法体系、実施体制、支援制度がわかり、実践に備えることが出来るようになる。	目 標	A・C・G・J

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と目標(授業の内容)・評価方法 自己紹介と授業で学びたい事	授業計画 教科書の紹介 補足資料 振り返りレポート	自己紹介・授業で学びたいことをまとめておく
2	児童福祉の歴史	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 19～24を読んでおくこと
3	現代社会と子ども家庭の状況 ① 少子高齢化社会と子育てをめぐる現状	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 31～38を読んでおくこと
4	② 現代社会と子ども家庭の問題	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 38～44を読んでおくこと
5	③ 子どもの育ち、子育てのニーズ	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 45～51を読んでおくこと
6	子ども家庭福祉とは 子ども家庭の福祉の理念・原理	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 2～10を読んでおくこと
7	子どもと家庭の権利保障	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 11～18を読んでおくこと
8	外国の子ども家庭福祉の歴史	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 24～30を読んでおくこと
9	子ども・子育て制度の歴史	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 54～65を読んでおくこと
10	子ども家庭福祉にかかわる法体系 ① 児童福祉法	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 70～74を読んでおくこと
11	② 関連法	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 74～80を読んでおくこと
12	子ども家庭福祉の実施体制 ① 行政機関・関連機関	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 81～91を読んでおくこと
13	② 関連機関・福祉機関	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 91～96を読んでおくこと
14	③ 子ども家庭福祉の財政	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 97～101を読んでおくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
15	④ 子ども家庭福祉の専門職 夏期休暇中グループ課題の提示	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 102～111を読んでおくこと
期末 試験	前期末試験		教科書 P 1～111 補足資料
16	夏期休暇中グループ課題の発表 ⑤ 苦情解決と権利擁護	グループ発表 教科書 補足資料 振り返りレポート	P 112～116を読んでおくこと
17	子ども家庭・福祉に関わる福祉・保健 ① 母子保健	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 118～133を読んでおくこと
18	② 障害児と家族への支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 134～148を読んでおくこと
19	③ 児童健全育成	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 149～157を読んでおくこと
20	④ 保育	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 158～175を読んでおくこと
21	⑤ 子育て支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 176～186を読んでおくこと
22	⑥ ひとり親家庭への支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 187～198を読んでおくこと
23	⑦-1 社会的養護	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 199～219を読んでおくこと
24	⑦-2 社会的養護	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 199～219を読んでおくこと
25	⑧ 児童虐待対策	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 232～246を読んでおくこと
26	⑨ 非行・情緒障害児への支援	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 220～231を読んでおくこと
27	⑩ 女性の福祉	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 247～254を読んでおくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
28	デートDV	教科書 補足資料 振り返りレポート	補足資料を読んでおくこと
29	子ども・家庭福祉援助活動	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 255～265を読んでおくこと
30	施設ケアと子ども・家庭福祉の援助活動	教科書 補足資料 振り返りレポート	P 266～275を読んでおくこと
期末試験	後期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標：A・C・J　　：筆記試験　100点満点の記述式試験を2回実施。 目標：A・C・G・J：グループ課題レポート及び振り返りレポート　30点満点の採点とする。			
教科書			
書名：新・社会福祉士養成講座 15「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会編集 発行所：中央法規 価格：2,200円（税別）			
その他補足事項			
グループ・ワークも適宜実施する。			

授 業 科 目 名	低所得者に対する支援と生活保護制度		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：くさ か てる み 日 下 輝 美		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	柴田町社会福祉協議会（昭和60年7月～平成19年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県子ども・子育て会議副会長、柴田町教育委員会委員 福島県社会福祉協議会評議員、日本地域福祉学会福島県地方委員			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了(修士(経営学)) 日本地域福祉学会、日本社会福祉学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：kusaka.terumi_fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>授業では、憲法第25条の国民の「生存権」を保障するものであるところの生活保護を中心とする公的扶助について学びます。</p> <p>現代社会が生み出す貧困・低所得者問題に対処する社会保障制度体系における公的扶助の概念、対象および歴史を概説し、わが国の低所得者の生活実態、福祉需要とその背景を明らかにします。</p> <p>わが国の救貧制度の中心をなす生活保護の目的・対象・方法及び生活保護行政、保護の動向等低所得者の支援の実態について取りあげる。自立支援プログラム、ソーシャルワーカーの役割、就労自立支援対策の実際を紹介します。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		○ I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		○ J 多様性への理解力、応用力
		○ K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
低所得者の支援に関する制度についての知識を身につける。	目標	A
生活保護の目的と原理・原則を理解し説明できる。	目標	I
自立支援プログラムについて理解する。	目標	J
福祉専門職として必要な知識を習得する。	目標	K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 第1章 公的扶助の概念 第1節 公的扶助の概念と範囲 第2節 公的扶助の意義と役割	授業計画 教科書補助資料1	予習：教科書P2～15を事前に読む
2	第2章 貧困・低所得者問題と社会的排除 第1節 貧困・低所得とは何か 第2節 貧困と社会的排除 第3節 貧困低所得者問題の現代的課題	教科書補助資料2	予習：教科書P18～31を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	第3章 公的扶助の歴史 第1節 海外の歴史 第2節 日本の歴史	教科書補助資料3	予習：教科書P34～48を事前に読む
4	第3章 第3節 貧困・低所得者対策の動向	課題について図書館で調べディスカッションを行う(ラーニングコモンズ)	予習：教科書P49～58を事前に読む 復習：課題レポート作成
5	第4章 生活保護制度の仕組み 第1節 生活保護法の構成 第2節 生活保護法の目的と原理、原則 第3節 保護の種類と内容および方法	個別ワーク：生活扶助基準の設定方法の変遷をまとめる	予習：教科書P60～84を事前に読む 復習：個別ワークをノートにまとめる
6	第4章 生活保護制度の仕組み 第4節 保護施設 第5節 被保護者の権利および義務 第6章 不正・不適正受給対策	地元新聞を活用し、貧困・低所得に関する事件や事故の記事を探し、グループディスカッションを行う	予習：教科書P85～92を事前に読む 復習：話し合った事項をノートにまとめる
7	第4章 生活保護制度の仕組み 第7節 不服申し立てと訴訟 第8章 生活保護の財源・予算	グループディスカッションの発表	予習：教科書P93～99を事前に読む
8	第5章 最低生活保障水準と生活保護基準 第1節 最低生活保障水準の考え方 第2節 生活保護基準の考え方 第3節 生活保護基準額の実際	個別ワーク：最低生活保障水準(月額)を試算する	予習：教科書P102～117を事前に読む 復習：個別ワークをノートにまとめる
9	第5章 最低生活保障水準と生活保護基準 第4節 最低生活保障水準の実際	ゲストスピーカー招聘	予習：教科書P118～121を事前に読む 復習：課題レポートの作成
10	第6章 生活保護の動向 第1節 被保護人員および被保護世帯数 第2節 保護の開始・廃止の動向 第3節 医療扶助・介護扶助の動向	課題について図書館で調べディスカッションを行う(図書館におけるラーニングコモンズ)	予習：教科書P124～148を事前に読む 復習：課題レポート作成
11	第7章 低所得者対策の概要 第1節 生活困窮者自立支援法 第2節 生活福祉資金貸付制度 第3節 社会手当制度	個別ワーク：低所得者の対策をまとめる	予習：教科書P150～170を事前に読む 復習：個別ワークをノートにまとめる
12	第7章 低所得者対策の概要 第4節 ホームレス対策 第5節 その他の低所得者対策	グループワーク	予習：教科書P171～182を事前に読む 復習：話し合った事項をノートにまとめる
13	第8章 生活保護の運営実施体制と関係機関・団体 第1節 国・都道府県・市町村の役割 第2節 福祉事務所の役割 第3節 福祉事務所専門職の役割	地元新聞を活用し、キーワード「貧困・低所得者」や「生活保護」等の記事を探し、グループディスカッションを行う	予習：教科書P183～197を事前に読む 復習：話し合った事項をノートにまとめる
14	第9章 貧困・低所得者に対する相談援助活動 第1節 生活保護制度における相談援助活動 第2節 貧困・低所得者に対する相談援助活動の実際 第3節 他機関・多職種との連携・協働	グループディスカッションの発表	予習：教科書P200～225を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	第10章 生活保護における自立支援 第1節 自立とは何か 第2節 自立支援プログラムの位置づけ 第3節 自立支援プログラムの策定および実施	グループワーク	予習：教科書P 228～246を事前に読む 復習：話し合った事項をノートにまとめる
期末試験	後期期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
(1) 目標A・J・K：期末試験（各20点・平均点） (2) 目標I：グループディスカッションの発表 20点 (3) レポート レポートは20点満点の採点とする。課題（宿題）は授業で配付された資料や図書館等で調べレポートを作成し指定された期日まで提出してください。			
教科書			
書名：低所得者に対する支援と生活保護制度 第4版 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会（編） 発行所：中央法規 価格：2,200円（税別）			

授 業 科 目 名	保健医療サービス		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：非常勤講師 氏名： ^{ほん} ^だ ^こ 本 田 ルミ子 (本務先：芦ノ牧温泉病院 職名：ソーシャルワーカー)		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	竹田総合病院・芦ノ牧温泉病院・エミネンス芦ノ牧でソーシャルワーカー(昭和56年4月～現在)			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県医療ソーシャルワーカー協会会長・会津社会事業会理事			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	東北福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業 社会福祉士・精神保健福祉士・中学高校社会科及び特別支援教員			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業の終了後、行います。			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>本講義は保健医療の制度の成り立ちと構造を理解するとともに、目まぐるしく変わる制度の現状と課題を学ぶことを目的とする。また、保健医療における社会福祉専門職の役割を学び、医療における多職種連携、協働、チームアプローチの理論と実践を学ぶ。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 我が国における保健医療制度の歴史と現状を理解し、今日的課題を考えることができる。	目標	A・C
② その中でのソーシャルワーカーの役割を理解する。	目標	A・J
③ 保健医療機関における様々な専門職について理解し、更にチームアプローチについて理解する。	目標	A・J

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	医療と福祉について	レジュメ	
2	保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割①	教科書	P 1～P 9 必読
3	保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割②	教科書	P 20～P 38 必読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	保健医療サービスを提供する施設とシステム①	教科書・資料配付	P 39～P 62 必読
5	保健医療サービスを提供する施設とシステム②	教科書	P 63～P 80 必読
6	保健医療サービスを提供する施設とシステム③	教科書	P 81～P 90 必読
7	保健医療サービスにおけるソーシャルワーカーの役割①	教科書・資料配付	P 91～P 112 必読
8	保健医療サービスにおけるソーシャルワーカーの役割②	教科書	P 113～P 130 必読
9	保健医療サービスにおける専門職の役割	教科書	P 131～P 162 必読
10	保健医療サービスの提供と経済的保障	教科書	P 163～P 196 必読
11	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践①	教科書	P 197～P 204 必読
12	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践②	教科書	P 205～P 231 必読
13	保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践①	教科書	P 233～P 268 必読
14	保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践②	教科書	P 233～P 268 必読
15	まとめ 保健医療サービスの現状と課題	教科書	P 1～P 268 必読
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
到達目標 A・C : 期末試験（記述方式）で理解度を確認します（80点） 到達目標 A・C・J : 授業の中での発言、態度等（20点）			
教科書			
書名：新・社会福祉士養成講座 17. 保健医療サービス 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 発行所：中央法規 価格：2,200円（税別）			

授 業 科 目 名	就 労 支 援		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 1 単 位
			開 講 年 次	3 ・ 4 年 次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：北 本 明日香 <small>きた もと あすか</small>		開 講 期	後 期
			授 業 回 数	8 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
社 会 福 祉 士	専 門 教 育 科 目	選 択 必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	30 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail：kitamoto.asuka fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>本講義は、雇用・就労の動向と労働施策の概要を踏まえ、障害者・低所得者の就労支援の現状と課題について理解することを目的とします。</p> <p>【講義内容】</p> <p>① 相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について学びます。</p> <p>② 就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解を深めます。</p> <p>③ 就労支援分野との連携について学びます。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
わが国における就労支援にかかる諸制度について説明することができる。	目標	A
障害者・低所得者の就労支援の現状と課題について論じることができる。	目標	A・C・K
就労支援を担う専門職の役割と連携の意義を述べるることができる。	目標	A・C

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバスを使用し、授業の進め方等を説明します。 教科書 教科書補足資料	
2	雇用・就労の動向と施策	教科書 教科書補足資料	教科書 p 10～32を事前に読む
3	障害者と就労支援①	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料	教科書 p 32～56を事前に読む 予習のテーマ：「障害者の就労支援について」400字

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	障害者と就労支援②	「ジョブコーチ入門」DVD 視聴 (30分) 教科書 教科書補足資料	教科書 p 57～88を事前に読む 復習：感想文を作成する
5	低所得者と就労支援①	新聞記事等を使用しペア ワークを行います。 教科書 教科書補足資料	教科書 p 90～110を事前に読む
6	低所得者と就労支援②	教科書 教科書補足資料	教科書 p 111～136を事前に読む
7	専門職の役割と実際	DVD視聴「農福連携」(30 分)(映像利用) 教科書 教科書補足資料	教科書 p 138～156を事前に読む 復習：感想文を作成する
8	就労支援の連携と実際 まとめ	教科書 教科書補足資料	教科書 p 158～166を事前に読む
期末 試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標A・C・K：レポート(50%) レポート課題は授業内容に沿って設定します。</p> <p>目標A・C：筆記試験(50%) 後期末に記述方式のテストを実施します。</p> <p>*ただし、最終的な成績評価は、課題の提出状況や授業の積極的な参加等、総合的に評価します。詳しくは、第1回目の授業時に説明します。</p>			
教科書			
<p>書名：就労支援サービス第4版 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会編 発行所：中央法規 価格：1,600円(税別)</p>			
その他補足事項			
授業内容の理解度を確認するため2回～3回、小テストを実施します。授業内で答え合わせを行い、理解不足の個所を各自確認する資料とします。			

授 業 科 目 名	権利擁護と成年後見制度		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：非常勤講師		開 講 期	後期
	氏名：中 ^{なか} 里 ^{さと} 真 ^{まこと}		授 業 回 数	15回
	(本務先：福島大学 職名：准教授)		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特記事項なし			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県立医科大学臨床研究委員会委員、福島県公有財産審議会会長 福島県消費生活審議会会長、福島市民の消費生活を守る対策会議会長			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	日本私法学会、日本消費者法学会、日本観光学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	授業終了後に教室で質問等に対応。電子メール対応も可。 nakazato ads.fukushima-u.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
本講義は、「社会福祉士」「精神保健福祉士」の試験科目におおよそ対応した内容で授業を構成します。特に試験分野の授業科目名と対応する分野のうち、①相談援助活動と法の関わり、②成年後見制度の項目について知識習得と内容理解を図ることが狙いです。	○ A	知識
		B 技術・技能
	○ C	論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 社会福祉士、精神保健福祉士に関連する法の内容を理解する。	目標	A・J・K
② 法的な思考方法を養う。	目標	C・K
③ 実務でも必要となる法的知識を身に着ける。	目標	A・J・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	ガイダンス 相談援助活動において想定される法律問題	授業計画案内 問題認識の確認と応答	シラバスの内容確認
2	相談援助活動と法の関わり 日本国憲法の性質	レジュメ配付	出題課題の解答
3	相談援助活動と法の関わり 日本国憲法の基本原理(社会権)の理解	レジュメ配付	出題課題の解答
4	相談援助と法の関わり 民報の理解(日本民法典の構成とその内容)	レジュメ配付	出題課題の解答

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	相談援助と法の関わり 民法の理解(不法行為の基礎①)	レジュメ配付	出題課題の解答
6	相談援助と法の関わり 民法の理解(不法行為の基礎②)	レジュメ配付	出題課題の解答
7	相談援助と法の関わり 行政法の理解(行政行為)	レジュメ配付	出題課題の解答
8	相談援助と法の関わり 行政法の理解(行政事件手続き)	レジュメ配付	出題課題の解答
9	相談援助と法の関わり 民法の理解(権利の担い手と客体としての物権)	レジュメ配付	出題課題の解答
10	相談援助と法の関わり 民法の理解(契約法の基礎)	レジュメ配付	出題課題の解答
11	相談援助と法の関わり 民法の理解(消費者問題への対応)	レジュメ配付	出題課題の解答
12	相談援助と法の関わり 民法の理解(家族法の基礎)	DVD視聴 「自分らしい明日のために」 30分	出題課題の解答
13	成年後見制度 制度の概要、成年後見・保佐・補助	レジュメ配付	出題課題の解答
14	成年後見制度 任意後見制度	DVD視聴 「伝えたい、実現したい自分の生き方」30分 レジュメ・資料の配付 資料読み取り	出題課題の解答
15	成年後見制度の最近の動向	レジュメ・資料の配付 資料読み取り	ここまでの授業内容を復習する
期末試験	筆記試験(選択問題)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
各授業・最終講義時の課題で成績判定を行う。基準は上記「到達目標」①②③に照らして、下記の通りとする。 80点以上：全ての項目がきわめて高い水準に達している 79～70点：すべての項目が高い水準に足している 69～60点：全体的に望ましい水準に達している 59点以下：不合格			
教科書		参考書	
書名：権利擁護と成年後見制度(新・社会福祉士養成講座) 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会(編集) 発行所：中央法規出版 価格：2,200円(税別)		書名：ポケット六法 平成31年度版 著者名：山下友信、宇賀克也(編集代表) 発行所：有斐閣 価格：1,852円(税別)	
その他補足事項			
授業中、条文に触れる機会があるため、参考書に挙げたポケット六法(有斐閣)やデイリー六法(三省堂)など小型の六法を用意することが望ましい。また、教室を巡回し、条文の読みあげをしてもらうことがあるほか、上記に示した回以外にも指名して意見を挙げてもらうことがある。受講者はその準備をしておくこと。			

授 業 科 目 名	更生保護制度		授業形態・単位数	講義・1単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：北 本 明日香 <small>きた もと あすか</small>		開 講 期	前期
			授 業 回 数	8回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	選択必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail：kitamoto.asuka fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>高齢・障害受刑者の再犯防止施策では、社会福祉、医療、教育、雇用等の各領域との連携が求められています。社会福祉専門職は、罪を犯した人の社会復帰支援を行う上で、更生保護領域について理解を深めることが必要となります。</p> <p>【講義内容】</p> <p>① わが国における罪を犯した者や非行のある少年の状況、刑事司法手続きの流れについて学びます。</p> <p>② 更生保護制度の概要とその担い手である保護観察官、保護司、民間協力者等について理解を深めます。</p> <p>③ 医療観察制度の概要とその担い手である社会復帰調整官の役割について学びます。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
更生保護制度の概要とその担い手について説明することができる。	目標	A
更生保護制度における関係機関・団体との連携について理解し、その意義について述べるができる。	目標	A・J
医療観察制度の概要について理解し、社会復帰調整官の役割を論じることができる。	目標	A・C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバスを使用し、授業の進め方等を説明します。 教科書 教科書補足資料	
2	更生保護制度の概要①	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料	教科書 p 20～43を事前に読む 予習のテーマ：「罪を犯す人の背景について」400字

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	更生保護制度の概要②	教科書 教科書補足資料	教科書 p 43～60を事前に読む
4	更生保護制度の担い手	DVD視聴「相次ぐ少年事件問われる保護観察」(30分) 教科書 教科書補足資料	教科書 p 72～87を事前に読む 復習：感想文を作成する
5	更生保護制度における関係機関・団体との連携	DVD視聴「罪を犯した発達障害者の再出発」(30分) 教科書 教科書補足資料	教科書 p 92～104、121～127を事前に読む 復習：感想文を作成する
6	医療観察制度の概要①	新聞記事等を使用しペアワークを行います。 教科書 教科書補足資料	教科書 p 132～144を事前に読む
7	医療観察制度の概要②	教科書 教科書補足資料	教科書 p 144～170を事前に読む
8	まとめ	教科書 教科書補足資料	教科書既修内容ポイントを再確認
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標A・C・J：レポート（50%） レポート課題は授業内容に沿って設定します。</p> <p>目標A・C：筆記試験（50%） 前期末に記述方式のテストを実施します。</p> <p>*ただし、最終的な成績評価は、課題の提出状況や授業の積極的な参加等、総合的に評価します。詳しくは、第1回目の授業時に説明します。</p>			
教科書			
<p>書名：更生保護制度〔第3版〕— 司法福祉 著者名：森長秀編 発行所：弘文堂 価格：2,400円（税別）</p>			
その他補足事項			
授業内容の理解度を確認するため2回～3回、小テストを実施します。授業内で答え合わせを行い、理解不足の個所を各自確認する資料とします。			

授 業 科 目 名	相 談 援 助 演 習 I		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 1 単 位
			開 講 年 次	2 年 次
担 当 教 員	職 名 : 准 教 授 氏 名 : 齊 藤 隆 之		開 講 期	後 期
			授 業 回 数	15 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	社会福祉法人あいのわ福祉会 足立あかしあ園 支援員 (平成17年4月～平成21年3月)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	日総研出版 社会福祉士国家試験対策講座 講師			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 博士課程 博士 (医療福祉学)			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
社 会 福 祉 士	専 門 教 育 科 目	必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	15 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	詳 しくは 初 回 授 業 時 に 説 明 し ます。			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>1 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り入れる。</p> <p>2 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により授業を行う。</p> <p>※実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキングについての内容を含める。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
ソーシャルワークにおける支援者としての視点や態度、倫理や価値などにかかわる基礎的な知識、技術を理解する。	目 標	A・E・L
ソーシャルワークとは何かについて考え、支援者に求められる価値・知識・技術の本来の意義とは何かに気づく。	目 標	A・J
福祉課題を抱えた者からの相談への対応や、総合的かつ包括的な援助についての視点および基礎的技術を身につける。	目 標	A・J・L

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	オリエンテーション アイスブレイキング	講義 グループ演習	振り返りシートの作成
2	自己覚知の理解		振り返りシートの作成
3	自己開示と他者理解	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	価値観の相違 人権（権利擁護）と尊厳	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
5	平等と個性の尊重 社会正義とはなにか	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
6	自己決定の尊重とクライアントの利益 自己実現と自立生活	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
7	ソーシャルワーカーの倫理的責任	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
8	倫理的ジレンマとその対応	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
9	相談援助における面接の意義とその特性	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
10	様々なコミュニケーション技法	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
11	コミュニケーション技術の習得	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
12	面接における基本的応答技法Ⅰ	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
13	面接における基本的応答技法Ⅱ	グループ演習 個人ワーク	振り返りシートの作成
14	ロールプレイと模擬面接	ロールプレイ	振り返りシートの作成
15	まとめ	講義	レポート作成準備
期末試験	前期末試験（最終課題レポート）		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標 A・E・J・L：参加態度および課題提出（60%）、意見交換や質問など発言（40%）を含め、総合的に評価する。 演習科目であることを鑑み、不参加等は他者へ多大な影響を与えることから正当な理由なき欠席はマイナス3点、正当な理由なき遅刻、途中退席等については、マイナス1点とする。 ※詳細については初回講義時に説明をする</p>			
教科書			
使用しない。			

授 業 科 目 名	相 談 援 助 演 習 Ⅱ		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	3 年 次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：遠 藤 寿 海		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	特別養護老人ホーム 介護職員（平成11年9月～平成13年4月）			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福島市地域包括支援センター運営協議会 委員 福島市地域生活支援協議会 会長 福島市社会保障審議会 副会長			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	筑波大学大学院人間総合科学研究科 ヒューマンケア科学修士 介護福祉士 日本老年社会学会、日本老年行動科学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福島駅前キャンパス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	30 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：endo.toshimi fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>① 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り入れる。</p> <p>② 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により授業を実施する。</p> <p>③ ②の実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキングについての内容を含める。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	○ G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
○ K	課題対処力	
○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 相談援助の過程（インテーク、アセスメント、エンゲージメント、プランニング、インターベンション、モニタリング、効果測定、終結とアフターケア等）において、社会福祉士に求められる基本的な援助技術を身につける。	目標	G・J・K・L
② 相談絵所事例（グループに対する援助事例を含む）課題への取り組み及びロールプレイング等を通して、総合的かつ包括的な援助方法を理解する。	目標	G・J・K・L
③ 社会福祉士に求められているアウトリーチやソーシャルアクション等の活動について学び、実践につなげられるようになる。	目標	G・J・K・L

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 1-1 相談援助演習Ⅰのふりかえり ・援助の原則(自己覚知等) ・ソーシャルワーカーの価値と倫理 ・基本的な面接技法(バイステックの7原則を含む) 1-2 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	
2	記録技法① 2-1 記録の種類と方法 2-2 面接場面での記録 2-3 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	予習:教科書p.67-p.71を読んでおく。
3	記録技法② 3-1 ケース記録の作成 3-2 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	予習:教科書p.72-p.77を読んでおく。
4	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)① 課題の把握とニーズの確定 4-1 インテークとエンゲージメント 4-2 倫理的配慮とアカウンタビリティ 4-3 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	予習:個別援助の展開過程について振り返っておく。
5	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)② アセスメント(1) 5-1 アセスメント面接の意味 5-2 アセスメント面接ロールプレいの準備 5-3 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	予習:教科書p.79-p.82を読んでおく。
6	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)③ アセスメント(2) 6-1 アセスメント面接ロールプレイ① 6-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	
7	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)④ アセスメント(3) 7-1 アセスメント面接ロールプレイ② 7-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	
8	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑤ プランニング(1) 8-1 プランニング演習 8-2 ふりかえりとまとめ	支援計画作成演習 個別ワーク グループ演習	予習:教科書p.83-p.87を読んでおく。
9	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑥ プランニング(2) 9-1 プランニング演習 9-2 ふりかえりとまとめ	支援計画作成演習 個別ワーク グループ演習	
10	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑦ プランニング(3) 10-1 プランニング演習 10-2 ふりかえりとまとめ	支援計画作成演習 個別ワーク グループ演習	
11	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑧ ケースカンファレンス 11-1 模擬ケースカンファレンス体験 11-2 チームアプローチの理解 11-3 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習 ロールプレイ	予習:教科書p.89-p.94を読んでおく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑨ 評価と効果測定(モニタリング)(1) 12-1 効果測定演習(利用者満足度) 12-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習 ロールプレイ	予習:教科書 p.95 - p.104 を読んでおく。
13	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑩ 評価と効果測定(モニタリング)(2) 13-1 効果測定演習(支援内容評価)① 13-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	予習:教科書 p.95 - p.104 を再読しておく。
14	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑪ 評価と効果測定(3) 14-1 効果測定演習(支援内容評価)② 14-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	予習:教科書 p.95 - p.104 を再読しておく。
15	相談援助の展開過程と個別援助(ケースワーク)⑫ 再アセスメントと支援の強化、終結とアフターケア 15-1 再アセスメントの視点と支援の変更 15-2 終結の判断、アフターケア 15-3 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	
16	集団援助(グループワーク)① 16-1 グループ(集団)への援助方法 16-2 グループワークと社会福祉士の関わり事例① 16-3 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習 配付資料	
17	集団援助(グループワーク)② 17-1 グループワークと社会福祉士の関わり事例② 17-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習 配付資料	
18	コミュニティワークのプロセス① 18-1 地域の福祉ニーズ(課題)の明確化の方法 18-2 福祉ニーズの分析方法 18-3 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	予習:教科書 p.105 - p.119 を読んでおく。
19	コミュニティワークのプロセス② 19-1 地域社会の社会資源 19-2 サービスの開発と地域への働きかけ 19-3 地域活動プログラムの立案体験(1)	講義 グループ演習	予習:教科書 p.105 - p.119 を再読しておく。
20	コミュニティワークのプロセス③ 20-1 地域活動プログラムの立案体験(2) 20-2 策定したプログラムの発表 20-3 ふりかえりとまとめ	グループ演習 プレゼンテーション	
21	ソーシャルアクション 21-1 福祉計画の策定とソーシャルワーク 21-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習 配付資料	
22	事例研究の意味と方法 事例研究① ソーシャルワーカーの倫理と組織の業務 方針の間で 22-1 倫理的ジレンマとは 22-2 ふりかえりとまとめ	講義 個別ワーク グループ演習	予習:教科書 p.121 - p.129 を読んでおく。
23	事例研究② 認知症高齢者への生活支援 23-1 権利擁護と自己決定を支える 23-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	予習:教科書 p.130 - p.135 を読んでおく。
24	事例研究③ 利用者のできる力を支える支援 24-1 利用者と職員の関係性と自立支援 24-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	予習:教科書 p.136 - p.140 を読んでおく。

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
25	事例研究④ 知的障害者の自立生活支援 25-1 短期・長期目標に沿った継続的支援 25-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書 p.141 - p.147 を読んでおく。
26	事例研究⑤ 障害児をもつ母親への支援 26-1 ソーシャルサポートネットワークの構築 26-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書 p.148 - p.154 を読んでおく。
27	事例研究⑥ 子どもの自己決定を支える 27-1 自己決定を支えるソーシャルワーカーの態度 27-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習 ロールプレイ	予習：教科書 p.155 - p.160 を読んでおく。
28	事例研究⑦ 地域住民の主体形成を目指して(1) 28-1 地域組織化(ネットワーキング)の方法 28-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書 p.161 - p.166 を読んでおく。
29	事例研究⑧ 地域住民の主体形成を目指して(2) 29-1 小地域福祉活動とは 29-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書 p.161 - p.166 を再読しておく。
30	相談援助演習Ⅱのふりかえり 30-1 ソーシャルワーカーの倫理綱領 30-2 バイステックの7原則 30-3 まとめ	講義 配付資料	
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>下記により、総合的に評価する。</p> <p>目標G・J・K・L：演習中の参加態度(自主的発言、意欲的取り組み、グループワークへの貢献、演習課題への取り組み状況等)により評価 60%</p> <p>目標J・K：レポート課題(GWや長期休暇中の宿題、予習課題等)の完成度と提出期限の遵守により評価 40%</p>			
教科書		参考書	
<p>書名：ソーシャルワーク演習ワークブック【第2版】 著者名：ソーシャルワーク演習教材開発研究会・編集 発行所：(株)みらい 価格：2,200円(税別) ※平成29年度「相談援助演習Ⅰ」の教科書を引き続き使用する。</p>		<p>書名：社会福祉士相談援助演習 著者名：福祉士養成講座編集委員会・編集 発行所：中央法規出版 価格：2,500円(税別)</p> <p>書名：支援者が成長するための50の原則 あなたの心と力を築く物語 著者名：川村隆彦 発行所：中央法規出版 価格：2,600円(税別)</p> <p>書名：社会福祉士シリーズ21 相談援助演習 [第2版] 著者名：福祉臨床シリーズ編集委員会・編集 発行所：弘文堂 価格：2,500円(税別)</p>	
その他補足事項			
<p>ロールプレイングを含む演習は、参加・時間厳守・守秘義務を大切にこそ成立する授業である。 遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重しあうことに十分留意されたい。</p>			

授 業 科 目 名	相談援助演習Ⅲ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：遠 藤 寿 海		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特別養護老人ホーム 介護職員（平成11年9月～平成13年4月）		
社会貢献としての委員会・職 等		福島市地域包括支援センター運営協議会 委員 福島市地域生活支援協議会 会長 福島市社会保障審議会 副会長		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		筑波大学大学院人間総合科学研究科 ヒューマンケア科学修士 介護福祉士 日本老年社会学会、日本老年行動科学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
社会福祉士		専門教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 メールアドレス：endo.toshimi fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>① 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り入れる。</p> <p>② 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により授業を実施する。</p> <p>③ ②の実技指導に当たっては、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキングについての内容を含める。</p> <p>④ 後期（16～30回）は、相談援助実習体験を踏まえて、より良い援助観の涵養を目指していく。</p>	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
○	K 課題対処力	
○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 具体的な事例や援助場面を想定し、社会福祉援助技術に関する講義と現場実習とを関連づけながら、観察力、理解力、分析・応用力、理論化する力を身につける。	目標	B・K
② 計画・企画力、判断力、行動力を駆使できる高い自律性を身につけるとともに、主体的に行動する態度を身につける。	目標	B・K・L
③ 人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。	目標	B・J・K・L

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 相談援助実習Ⅲの位置づけ (2) 相談援助実習との関係	講義	予習：相談援助の技術の体系を整理しておく。 復習：ノート整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	相談援助における価値と倫理① 2-1 ソーシャルワーカーの倫理綱領 2-2 バイステックの7原則	グループ演習	予習：ソーシャルワーカーの倫理綱領を呼んでおく。 復習：ノート整理
3	相談援助における価値と倫理② 3-1 実践場面での活用 3-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：ソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の行動規範を読んでおく。 復習：ソーシャルワークの価値とは何か、まとめる。
4	事例からソーシャルワークの意味を知る① 4-1 人権 4-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
5	事例からソーシャルワークの意味を知る② 5-1 差別・偏見 5-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
6	事例からソーシャルワークの意味を知る③ 6-1 自立支援 6-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
7	事例からソーシャルワークの意味を知る④ 7-1 クライアントの利益の最優先 7-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
8	事例からソーシャルワークの意味を知る⑤ 8-1 倫理的ジレンマ 8-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
9	相談援助場面での実践① 9-1 アウトリーチ 9-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：アウトリーチについて調べる。 復習：ノート整理
10	相談援助場面での実践② 10-1 チームアプローチ 10-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：チームアプローチについて調べる。 復習：ノート整理
11	相談援助場面での実践③ 11-1 ネットワーキング 11-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：ネットワーキングについて調べる。 復習：ノート整理
12	相談援助場面での実践④ 12-1 社会資源の活用・調整・開発 12-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：社会資源について調べる。 復習：ノート整理
13	相談援助場面での実践⑤ 13-1 記録について(1) 13-2 ふりかえりとまとめ	配付資料 グループ演習	予習：相談援助場面でもとめられる記録の種類をまとめる。 復習：「記録を書く上での留意点」を整理する。
14	相談援助場面での実践⑥ 14-1 記録について(2) 14-2 ふりかえりとまとめ	配付資料 グループ演習	予習：前回授業内容を振り返る。 復習：「すぐれた記録」の条件についてまとめる。
15	ソーシャルワークのプロセスを理解する① 15-1 認知症の夫を介護する妻への支援事例 15-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	ソーシャルワークのプロセスを理解する② 16-1 知的障害者の地域生活移行支援事例 16-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
17	ソーシャルワークのプロセスを理解する③ 17-1 リハビリテーション病棟での退院支援事例 17-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
18	ソーシャルワークのプロセスを理解する④ 18-1 非行の相談を受けた児童相談所が行う家族支援の事例 18-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
19	ソーシャルワークのプロセスを理解する⑤ 19-1 生活保護を受給している一人親世帯の自立支援の事例 19-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
20	地域福祉活動を理解する① 20-1 地域福祉計画・地域福祉活動計画を行政と社会福祉協議会とで協働して作成する事例(1) 20-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
21	地域福祉活動を理解する② 21-1 地域福祉計画・地域福祉活動計画を行政と社会福祉協議会とで協働して作成する事例(2) 21-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
22	地域福祉活動を理解する③ 22-1 災害時の要援護者ネットワークづくりのための小地域福祉計画策定の事例(1) 22-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
23	地域福祉活動を理解する④ 23-1 災害時の要援護者ネットワークづくりのための小地域福祉計画策定の事例(2) 23-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習	予習：教科書の該当部分を読んでおく。 復習：ノート整理
24	ケアマネジメントの過程を理解する① 24-1 支援計画作成演習(1) 24-2 ふりかえりとまとめ	配付資料によるグループ演習 (高齢者または障害者の事例をグループで選択)	予習：高齢者ケアマネジメントの過程と、障害者の計画相談支援についてまとめておく。 宿題：グループ活動によるプラン作成。
25	ケアマネジメントの過程を理解する② 25-1 支援計画作成演習(2) 25-2 ふりかえりとまとめ	配付資料によるグループ演習	宿題：グループ活動によるプランの完成。
26	支援計画プレゼンテーション 26-1 模擬カンファレンス体験 26-2 ふりかえりとまとめ	グループ演習 (カンファレンス形式によるグループで作成したプランの検討)	予習：カンファレンスの意義と目的をまとめておく。
27	サービス評価について理解する① 27-1 サービスの質を評価するしくみ 27-2 ふりかえりとまとめ	配付資料によるグループ演習	予習：第三者委員制度、QC活動等について調べておく。 復習：ノート整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
28	サービス評価について理解する② 28-1 福祉サービスの自己評価・第三者評価 28-2 ふりかえりとまとめ	配付資料によるグループ演習	予習：事例課題に取り組む。 復習：ノート整理
29	相談援助演習Ⅲのまとめ① 29-1 ソーシャルワークとは何か 29-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	
30	相談援助演習Ⅲのまとめ② 30-1 実習及び演習での体験の振り返り 30-2 ふりかえりとまとめ	講義 グループ演習	
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>下記により、総合的に評価する。</p> <p>目標B・J・K・L：演習中の参加態度（自主的発言、意欲的取り組み、グループワークへの貢献、演習課題への取り組み状況等）により評価 80%</p> <p>目標J・K：レポート課題（GWや長期休暇中の宿題、予習課題等）の完成度と提出期限の遵守により評価 20%</p>			
教科書		参考書	
<p>書名：ソーシャルワーク演習ケースブック 著者名：ソーシャルワーク研究教材開発研究会・編集 発行所：(株)みらい 価格：2,200円（税別）</p>		<p>書名：ソーシャルワーク演習のための88事例 実践につなぐ理論と方法を学ぶ 著者名：田中英樹・中野伸彦・編集 発行所：中央法規出版 価格：2,600円（税別）</p> <p>書名：社会福祉士シリーズ21 相談援助演習 [第2版] 著者名：福祉臨床シリーズ編集委員会・編集 発行所：弘文堂 価格：2,500円（税別）</p>	
その他補足事項			
<p>ロールプレイングを含む演習は、参加・時間厳守・守秘義務を大切にこそ成立する授業である。 遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重しあうことに十分留意されたい。</p>			

授 業 科 目 名	相談援助実習指導		授業形態・単位数	演習・3単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：遠 藤 寿 海		開 講 期	通年
			授 業 回 数	45回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	特別養護老人ホーム 介護職員（平成11年9月～平成13年4月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市地域包括支援センター運営協議会 委員 福島市地域生活支援協議会 会長 福島市社会保障審議会 副会長			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	筑波大学大学院人間総合科学研究科 ヒューマンケア科学修士 介護福祉士 日本老年社会学会、日本老年行動科学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
社会福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	45時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては、初回授業時に設営します。 E-mail：endo.toshimi fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>実習前には、実習の意義と目的及び方法、実習施設や分野の理解、実習に向けての対人援助技術の再確認、実習課題の設定と「実習計画書」の作成、実習の心構えと諸注意を学ぶ。</p> <p>実習後には、「実習日誌」「実習全体のまとめ」をもとに実習体験の振り返りと共有を行った後、実習反省会の開催、「実習報告書」の作成及び実習報告書のまとめを行う。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	○ C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	○ G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 相談援助実習の意義について理解する。	目標	J
② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。	目標	C・G・I
③ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等への理解を深め、自己に求められる課題を把握して、実習に臨むことができるようになる。	目標	C・G・I・J
④ 具体的な実習体験や援助活動を、専門的技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる。	目標	G・I・J

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 社会福祉士の役割と実習の目標と内容 実習全中後の流れ(全体像)と指導体制 他の科目との関連説明 実習契約構造の説明と実習の意義、実習生の権利	配付資料 教科書「相談援助実習の手引き」	予習:実習への動機と抱負整理 復習:実習先に関する資料収集
2	実習先の理解 実習の意義と目的 実習プログラム例 実習課題	教科書	予習:実習機関分析の下書き 復習:実習課題の整理
3	人とかかわるとは 自己覚知ワーク① 自己コンピテンスアセスメントシートの記入	教科書 自己コンピテンスアセスメントシート	予習:課題レポート作成 復習:課題レポートの修正
4	日本社会福祉士会の倫理綱領 社会福祉士の行動規範	教科書	予習:倫理綱領・行動規範の一読 復習:授業の整理
5	実習受け入れ施設・機関の理解① 機関分析(法的根拠・保健医療福祉制度)	配付資料 グループ学習	予習:実習先の情報収集 復習:授業の整理
6	事前訪問の意義と事前準備 「実習生プロフィール」の作成方法	教科書	予習:実習先の情報整理 復習:生活教養の復習、電話のかけ方の確認
7	実習受け入れ施設・機関の理解② 機関分析(業務の整理)	配付資料 グループ学習	予習:実習先の概要整理 復習:授業の整理
8	実習受け入れ施設・機関の理解③ 機関分析(利用者の理解)	配付資料 グループ学習	予習:学習成果発表会発表内容の企画・整理
9	実習受け入れ施設・機関の理解④ 機関分析(実習先の地域性・地域特性・社会資源)	配付資料 グループ学習	予習:社会資源を調べる
10	レジュメ「実習分野と施設・機関の理解」の作成 誓約書・健康診断書・細菌検査(検便)について	教科書 グループ学習	予習:「実習生プロフィール」の作成 復習:学習成果発表会準備
11	「実習分野と施設・機関の理解」の完成 「実習生プロフィール」(下書き)の提出	グループ学習	予習:学習成果発表会準備
12	実習分野別の学修成果発表会 テーマ「実習分野と施設・機関の理解」	グループ発表	予習・復習:学習成果発表会の整理
13	誓約書・実習生プロフィールの提出 「実習計画書」の書き方① 実習テーマ・課題の視点と立案の仕方	教科書 配付資料	予習:実習先地域の歴史や現状を調べる 復習:実習テーマの決定
14	「実習計画書」の書き方② 実習目標と課題の明確化	教科書 配付資料	予習:実習課題の探求 復習:目標と課題の整理
15	「実習計画書」(案)の確認①	個別指導	予習:「実習計画書」の下書き 復習:「実習計画書」の修正
16	「実習計画書」(案)の確認② 実習施設・機関の社会的役割と今後の課題等、グループまとめ	個別指導 グループ学習	予習・復習:「実習計画書」の修正

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	事前訪問予約等の確認 「実習計画書」(案)の確認③	教科書 個別指導	復習:事前訪問の連絡調整
18	実習中に学ぶグループ課題テーマの設定 (実習反省会に向けて) 「実習計画書」(案)の確認④	グループ学習 個別指導	復習:グループ課題の資料収集、 整理
19	「実習計画書」の提出 実習指導担当者から助言・指導があった内容について修正し、提出		予習・復習:実習計画書の修正
20	「実習計画書」の発表会	個別発表 グループディスカッション	復習:他者の実習課題を確認し、 自己の新たな課題の発見
21	直前ガイダンス① 実習開始にあたっての注意事項、確認事項 実習中の記録の種類と書き方	教科書	予習:教科書の「実際編」の 熟読
22	直前ガイダンス② マナーの振り返り	グループ学習 ロールプレイ	復習:自己のマナーの再確認
23	「実習日誌」の書き方指導① 記録の意義と作成方法	教科書 グループ学習	復習・課題:「今日の出来事」 を実習日誌スタイルで作成
24	「実習日誌」の書き方指導② 記録の実際(「実習日誌」の良い例、悪い例)	配付資料	
25	課題提出:「今日の出来事」実習日誌 添削指導 自己覚知ワーク② 自己コンピテンスアセスメントシートの再記入	グループ学習 個別指導 自己コンピテンスアセスメントシートの作成	予習:シート記載内容の達成状況整理
26	実習直前準備① 実習施設・機関等との実習計画書最終調整 実習終了時の諸注意・お礼状の書き方 実習自己評価表の書き方 帰校日指導日程調整	教科書 グループ学習	予習:教科書の該当部分の一読
27	実習直前準備② 準備物の自己・他者チェック 巡回指導教員との事前打合せ ソーシャルワーク技術チェック面接の準備	教科書 グループ学習	復習:ソーシャルワーク技術 チェック面接事例の熟読
28	実習直前準備③ ソーシャルワーク技術チェック面接	VTR記録による自己のコミュニケーションスタイル等の確認	
29	実習直前準備④ ソーシャルワーク技術チェック面接	VTR記録による自己のコミュニケーションスタイル等の確認	
30	実習直前準備⑤ ソーシャルワーク技術チェック面接 配属実習(180時間以上)	VTR記録による自己のコミュニケーションスタイル等の確認 授業担当教員による講評 体調管理、時間厳守 日々の振り返りと実習日誌の記録	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
31	実習の振り返り① 実習を終えての報告 自己覚知ワーク 自己コンピテンスアセスメントシートの記入 「実習自己評価表」の提出 「実習報告書」のフォーマット受領、提出方法・提出期限の確認	個別指導 自己コンピテンスアセスメントシート	予習：実習自己評価表の作成 復習：報告書等提出物の確認、「実習報告書」(下書き)作成
32	実習の振り返り② 実習体験の共有 プロセスレコードの作成、SWOT分析まとめ等	グループ学習	予習・復習：体験した内容のまとめと話し合った内容の整理
33	実習の振り返り③ プロセスレコード、SWOT分析まとめの発表	グループ発表	予習：グループ課題のテーマに沿った資料の収集・整理
34	実習の振り返り④ 実習評価に基づく個別指導 「実習報告書」(下書き)の個別指導 実習反省会の準備① テーマと発表方法の決定、発表概要の整理	個別指導 グループ学習	予習・復習：「実習報告書」(下書き)作成・修正
35	実習の振り返り⑤ 「実習報告書」(下書き)の個別指導 実習反省会の準備② 発表内容の情報収集と添削指導	グループ学習	予習・復習：「実習反省会」配付資料のまとめ、「実習報告書」(下書き)修正
36	実習反省会の準備③ 発表内容のまとめと添削指導 発表会用配付資料等の作成	グループ学習	予習・復習：「実習反省会」配付資料、PPT資料作成
37	実習反省会の準備④ 発表内容のまとめと添削指導 発表会用配付資料等の作成	グループ学習	予習・復習：「実習反省会」配付資料、PPT資料作成
38	実習反省会の準備⑤ 発表リハーサル		
39	実習反省会の準備⑥ 発表リハーサル 「実習報告書」の提出		
40 ～ 42	「実習反省会」の実施 発表及び指導	グループ発表 実習指導担当者からの助言 後輩とのディスカッション	復習：他グループから学んだことを整理
43	「実習反省会」の振り返り	グループ学習	復習：後輩とのディスカッションのまとめ
44	「相談援助実習指導」の総合評価	個別指導	
45	「相談援助実習指導」のまとめ 授業への参加態度、グループ学習への貢献等の自己評価	グループディスカッション	

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

社会福祉士及び介護福祉士の養成を行う学校指定の規定により、相談援助実習指導の評価には、4 / 5 以上の出席が必要である。出席基準を満たすこと。また、学外施設・機関での実習指導であることから、遅刻厳禁。

以下の観点から総合的に評価するが、詳細は初回授業時に説明する。

目標 C : 実習計画書及び実習日誌の記録状況：10%、実習報告書の内容及び提出期限の遵守：30%

目標 G : 授業時の参加態度：10%、提出課題の評価：20%

目標 I・J : 実習反省会：30%

教科書

参考書

書名：「相談援助実習の手引き」
著者名：福島学院大学福祉学部福祉心理学科実習指導室

書名：社会福祉士相談援助実習
著者名：日本社会福祉士養成校協会・監修
発行所：中央法規出版
価格：2,600円（税別）
※その他の参考書籍等は、授業時間に提示する。

その他補足事項

主体的で十分な事前学習があつてはじめて意味のある実習ができ、事後学習によって社会福祉専門職を目指す上で価値ある体験としての実習の意味が深まる。実習を行う上で中核となるものは、学生自らの学習による「実習課題の設定・実習計画書の作成」である。実り多い実習にするためにも、自己研鑽に励んでほしい。また、事後学習での体験のまとめは、自己省察を通した専門職としての価値と倫理を深めることにほかならず、自らの専門性をいかに向上させていくかを問うものとなる。

実習に当たっては、不安や心配もあると思われる。些細なことであっても、早めに実習指導担当教員に相談して解決し、実習に臨んでほしい。また、実習前・実習後に、個別面談指導を実施するので、相談内容等の要点をまとめ、限られた時間を有効に活用してほしい。

授 業 科 目 名	相 談 援 助 実 習		授 業 形 態 ・ 単 位 数	実 習 ・ 4 単 位
			開 講 年 次	3 ・ 4 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 遠 藤 寿 海		開 講 期	時 間 割 外
			授 業 回 数	実 習 180 時 間 以 上
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	特 別 養 護 老 人 ホ ー ム 介 護 職 員 (平 成 11 年 9 月 ~ 平 成 13 年 4 月)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福 島 市 地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー 運 営 協 議 会 委 員 福 島 市 地 域 生 活 支 援 協 議 会 会 長 福 島 市 社 会 保 障 審 議 会 副 会 長			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	筑 波 大 学 大 学 院 人 間 総 合 科 学 研 究 科 ヒ ュ ー マ ン ケ ア 科 学 修 士 介 護 福 祉 士 日 本 老 年 社 会 学 会 、 日 本 老 年 行 動 科 学 会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
社 会 福 祉 士	専 門 教 育 科 目	必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	—	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー に つ い て は 、 相 談 援 助 実 習 指 導 の 時 間 に 説 明 し ま す 。 E-mail : endo.toshimi fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>社会福祉士の国家試験受験資格取得のために履修が義務付けられている配属実習（180時間以上）である。社会福祉が実践されている現場において、援助の対象者にどのように社会福祉の専門知識や専門技術をもって向き合い、課題解決を図るのか、また、社会資源がいかにか活用されているか等を学んでいく。</p> <p>これまでに学んだ社会福祉援助に関する価値と倫理、専門知識、専門技術について、実習体験を通して主体的に学び、社会福祉専門職に求められる基本的な態度を育成することを目指す。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	○	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受 講 し て 得 ら れ る 力)	
① 社会福祉専門職(社会福祉士)として仕事をするうえで必要な「専門知識」「専門的援助技術」及び「関連知識」の理解を深め、対象者と向き合うことができる。	目標	A・B・L
② 社会福祉援助に必要な資質・能力・技術を習得する。	目標	B
③ 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての行動ができるようになる。	目標	B
④ 自らの体験や活動を概念化、理論化、体系化していく力を養う。	目標	C
⑤ 関連分野との連携のあり方と内容を理解する。	目標	A・B
⑥ 支援計画の作成等を通して、本人・地域住民が主体となる支援の流れを理解する。	目標	B・C・L

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
	相談援助実習（180時間以上） <ul style="list-style-type: none"> 実習時間の構成は、一日8時間、週1回以上の休日をはさみ、4週間以上で、実日数23日以上となる。実習先によっては、その間に宿泊業務、休日出勤を含む場合がある。 実習の内容については、実習先の分野や、施設・機関・団体等によって異なるので、留意されたい。 実習期間中は、配属実習先の実習指導者の指示に従い、現場の業務の流れや利用者の生活状況、援助者の役割や社会福祉援助のあり方等の理解に努める。 巡回指導教員による巡回指導を実施する。必要に応じて、実習指導者、実習指導教員、実習生の三者で相談の上、実習計画の再検討を図る場合もある。 		
授業の到達目標に应ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
実習指導者による実習生の実習態度や実習課題の達成状況等の評価に基づく。 「実習評価表」による評価を基準とし、巡回指導時に話し合った実習指導者からの評価を参酌して、相談援助実習指導担当教員が本科目について成績評価を行う。			
教 科 書		参 考 書	
書 名：相談援助実習の手引き 著者名：福島学院大学福祉学部福祉心理学科実習指導室		書 名：社会福祉士相談援助実習 著者名：日本社会福祉士養成校協会・監修 発行所：中央法規出版 価 格：2,600円（税別）	
その他補足事項			
<p>*実習における留意点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習先の利用者やその関係者等と円滑な人間関係を形成するよう努めること。 2) 利用者を理解し、そのニーズを把握すること。 3) 利用者やその関係者等と援助関係を形成する能力を強めること。 4) 利用者やその関係者の課題解決能力を高める援助について学ぶこと。 5) 社会福祉専門職としての職業倫理や、就業に関する規程を学び、組織の一員として働くことの意味を理解すること。 6) 実習先で行われている地域（コミュニティ）への働きかけを学ぶこと。 7) 社会福祉専門職としてのあるべき姿と必要な能力を実際に学び、自分自身を客観的にみつめて自己覚知を深めるとともに、社会福祉援助業務を職業とすることへの理解を深めること。 8) 実習課題を常に意識し、社会福祉士の福祉実践を主体的に学ぶこと。 <p>*実習費として、1日1,000円程度を徴収する。詳細は、相談援助実習指導の授業で説明する。</p> <p>*施設によっては、事前に健康診断及び細菌検査等が必要である(対象学生のみ実費徴収)。実習先からの指示に従って、実習指導室を通して検査等を行い、診断結果を提出すること。</p> <p>*実習前に実習先を訪問し（事前訪問）、実習先への挨拶、自己紹介、実習計画書の提出等を行う。</p>			

授 業 科 目 名	精 神 保 健 学		授 業 形 態 ・ 単 位 数	講 義 ・ 4 単 位
			開 講 年 次	1 年 次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：星 野 仁 彦		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	精神科専門医として46年間の経験			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福島市を含む県北地区の学校精神科医			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	精神保健指定医、精神科専門医、日本精神神経学会会員			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
精 神 保 健 福 祉 士	専 門 教 育 科 目	必 修		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	120 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー に つ い て は 初 回 授 業 時 に 説 明 し ま す 。			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
各ライフサイクルにおける精神保健と家庭・学校・職場・地域における精神保健について学ぶ。	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
精神保健の基礎知識について理解する。	目標	A・C・H・L
各ライフサイクルにおける精神保健について理解する。	目標	A・C・H・L
精神保健における個別課題への取り組みと実験を理解する。	目標	A・C・H・L
地域精神保健と地域保健について理解する。	目標	A・C・H・L
諸外国における精神保健の概要について理解する。	目標	A・C・H・L
関連法規および施策について理解する。	目標	A・C・H・L

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	精神保健の概要、意義と課題	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p. 1～ p.16予習 当日レクチャーの復習
2	小児心身症、遺尿・夜尿・遺糞症、夜驚症、分離不安 (乳幼児期における精神保健)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.17～ p.24予習 当日レクチャーの復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	いじめ、チック・抜毛癖などの習癖異常、場面かん黙(学童期における精神保健)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.24～p.33予習 当日レクチャーの復習
4	摂食障害(拒食症、過食症)、学校不適應の予防(思春期における精神保健)	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p.33～p.41予習 当日レクチャーの復習
5	学生無気力、青い鳥症候群、思春期挫折症候群(青年期における精神保健)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.41～p.50予習 当日レクチャーの復習
6	うつ病、心身症の予防、適正飲酒(成人期における精神保健)	資料、レジュメ DVD視聴	次週予定のテキスト p.50～p.57予習 当日レクチャーの復習
7	空の巣症候群、更年期障害、更年期うつ病(更年期における精神保健)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.57～p.61予習 当日レクチャーの復習
8	認知症の予防、もの忘れと認知症の鑑別(老年期における精神保健)	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p.61～p.70予習 当日レクチャーの復習
9	マタニティ・ブルー、育児不安とストレス、産褥期うつ病(妊娠中、産褥期の精神保健)	資料、レジュメ	配付資料で予習 当日レクチャーの復習
10	不登校の予防、非行・怠学の予防(学校における精神保健)	資料、レジュメ DVD視聴	次週予定のテキスト p.191～p.200予習 当日レクチャーの復習
11	燃え尽き症候群、仕事中毒・過労死の予防(職場における精神保健)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.200～p.211予習 当日レクチャーの復習
12	健康な家庭のあり方、アダルトチルドレンと共依存(家庭における精神保健)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.181～p.190予習 当日レクチャーの復習
13	ガン患者のメンタルケア、死に至る患者のメンタルケア(ターミナルケアと精神保健)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.164～p.180予習 当日レクチャーの復習
14	ひきこもりの予防と対策、現代の社会病理(地域における精神保健)	資料、レジュメ ケーススタディ	次週予定のテキスト p.211～p.223予習 当日レクチャーの復習
15	DV(夫婦間暴力)の予防、単身赴任、離婚・別居の夫婦療法(夫婦関係の精神保健)	資料、レジュメ DVの対策と予防(30分)	次週予定のテキスト p.52～p.53予習 当日レクチャーの復習
期末試験	前期末試験		
16	児童虐待の予防、健全なしつけ方(親子関係の精神保健)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.188～p.190予習 当日レクチャーの復習
17	性非行の予防、売春対策、セックス依存、異常性愛(性に関する精神保健)	資料、レジュメ	次週予定のテキスト p.47～p.48予習 当日レクチャーの復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	月経前不機嫌 (PMS)、妊娠中絶、不妊症、レイプ・トラウマ、うつ病が女性に多い理由 (女性の精神保健)	資料、レジюме	次週予定のテキスト p.47～p.48予習 当日レクチャーの復習
19	外国人花嫁、パリ症候群、外国人労働者のメンタルヘルス (外国人の精神保健)	資料、レジюме	配付資料で予習 当日レクチャーの復習
20	教師のメンタルヘルス、校内暴力・学級崩壊の予防、様々な学校病理 (教師の精神保健)	資料、レジюме	次週予定のテキスト p.199～p.200予習 当日レクチャーの復習
21	アルコール乱用・依存の予防と対策 (アルコールと精神保健)	資料、レジюме DVD視聴、ケーススタディ	次週予定のテキスト p.92～p.109予習 当日レクチャーの復習
22	老人虐待の予防、呆け老人をもつ家族の会 (介護者の精神保健)	資料、レジюме	次週予定のテキスト p.82～p.92予習 当日レクチャーの復習
23	過度のダイエットの危険性、イメージトレーニング (スポーツ選手の精神保健)	資料、レジюме	配付資料で予習 当日レクチャーの復習
24	自殺の危険因子と予防因子、いのちの電話、集団 (群発)自殺	資料、レジюме ケーススタディ	次週予定のテキスト p.282、p.311予習 当日レクチャーの復習
25	心身症、自律神経失調症、ガン・心臓病になりやすい性格 (リエゾン精神保健)	資料、レジюме 心身症とは何か (30分)	配付資料で予習 当日レクチャーの復習
26	各種の自助グループ (アルコール、薬物・過食・ギャンブル依存)	資料、レジюме	次週予定のテキスト p.281予習 当日レクチャーの復習
27	精神保健施策の概要	資料、レジюме	次週予定のテキスト p.225～p.276予習 当日レクチャーの復習
28	精神保健における関係法規		
29	精神保健における関係施策 諸外国における精神保健		
30	精神保健福祉法とその関連性	資料、レジюме	次週予定のテキスト p.260～p.276予習 当日レクチャーの復習
期末試験	後期末試験 (上記1～30の内容)		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
目標 A・C・H・L : 毎回の豆テスト40%、期末試験60%による。詳しくは初回時に説明する。			
教科書			
書名: 精神保健の課題と支援 第6版 著者名: 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 発行所: へるす出版 価格: 2,800円 (税別)			

授 業 科 目 名	精神保健福祉に関する制度とサービス		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：北 本 明日香 <small>きた もと あすか</small>		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail：kitamoto.asuka@fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
「精神障害者の生活支援システム」との関連性を考慮しながら、次の内容を中心に学びます。 ① 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法との関わりについて学びます。 ② 精神障害者の支援に関連する制度、福祉サービス等について学びます。 ③ 更生保護制度と医療観察法について学びます。 ④ 社会調査の概要と活用について基礎的な知識を学びます。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
① 精神保健福祉法に至る法改正の変遷を理解し、人権擁護に関する手続きや現行法の問題点について述べるができる。	目標	A・K
② 精神障害者が置かれてきた歴史的背景の理解を深め、精神保健福祉士に求められる役割を説明することができる。	目標	A・C・K
③ 障害者総合支援法に至る法改正と障害福祉サービスの具体的内容を述べることができる。	目標	A・C
④ 更生保護制度と医療観察法における関係機関との連携を自分の視点で論じることができる。	目標	A・C
⑤ 精神保健福祉士にとっての社会調査の意義と目的を説明することができる。	目標	A

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバスを使用し、授業の進め方等を説明します。 教科書補足資料 教科書	
2	社会福祉と精神保健福祉	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書補足資料 教科書	予習のテーマ：「精神障害のイメージ」400字
3	精神保健福祉法成立までの経緯と歴史 精神病患者監護法	教科書補足資料 教科書	教科書 p 1～8を事前に読む
4	精神病院法と精神衛生法	教科書補足資料 教科書	教科書 p 9を事前に読む
5	精神保健法(1)	テーマについてペアワークを行います。 教科書補足資料 教科書	教科書 p 10を事前に読む
6	精神保健法(2)	教科書補足資料 教科書	教科書 p 11を事前に読む
7	精神保健福祉法(1)	DVD視聴 (30分)「精神障害者の戦後——病院か地域か——」(映像利用) 教科書補足資料 教科書	教科書 p 16～20を事前に読む 復習：感想文の作成
8	精神保健福祉法(2)	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書補足資料 教科書	予習のテーマ：「精神科医療の権利擁護について」400字
9	精神保健福祉法(3)	教科書補足資料 教科書 DVD視聴 (30分)「大阪の精神科病棟への訪問活動より」(映像利用)	教科書 p 21～29を事前に読む
10	精神保健福祉士の役割	ワールドカフェにて、精神保健福祉士の役割についてディスカッションを行います。	教科書 p 30～33を事前に読む
11	精神障害者福祉制度の概要と福祉サービス 障害者基本法と精神障害者施策	教科書 補足資料教科書	教科書 p 38～41を事前に読む
12	障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービス(1)	教科書補足資料 教科書 DVD視聴 (30分)「障害者はどう生きてきたか」(映像利用)	教科書 p 43～49を事前に読む
13	障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービス(2)	教科書補足資料 教科書	教科書 p 52～58を事前に読む
14	精神障害者を対象とした福祉施策・事業	教科書補足資料 教科書	教科書 p 60～73を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	前期のまとめ 前期の復習		教科書既修内容ポイントを再確認
期末試験	レポート		
16	精神障害者に関連する社会保障制度の概要 医療保険制度	教科書補足資料 教科書	教科書 p 76～85を事前に読む
17	介護保険制度・経済的支援に関する制度	教科書補足資料 教科書	教科書 p 86～96を事前に読む
18	相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職 や地域の支援者 行政組織と民間組織	教科書補足資料 教科書	教科書 p 104～121を事前に読む
19	専門職の役割	教科書補足資料 教科書	教科書 p 122～132を事前に読む
20	更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 刑事司法と更生保護	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書補足資料 教科書	予習のテーマ：「罪を犯した人に対する支援について」400字
21	保護観察所と更生保護の担い手	教科書補足資料 教科書 DVD視聴（30分）「保護観察官の役割」（映像利用）	教科書 p 134～146を事前に読む
22	司法・医療・福祉の連携	教科書補足資料 教科書	教科書 p 146～159を事前に読む
23	医療観察法の概要と実際 審判と精神保健参与員	教科書補足資料 教科書	教科書 p 162～169を事前に読む
24	指定入院機関における処遇	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書補足資料 教科書	予習のテーマ：「社会復帰調整官の役割について」400字
25	地域処遇と社会復帰調整官(1)	教科書補足資料 教科書 ゲスト講師招聘	教科書 p 169～180を事前に読む 復習：感想文を作成する
26	地域処遇と社会復帰調整官(2)	教科書補足資料 教科書	教科書 p 180～196を事前に読む
27	社会資源の調整・開発にかかわる社会調査 意義と目的	教科書補足資料 教科書	教科書 p 198～200を事前に読む
28	量的調査法と質的調査法	教科書補足資料 教科書	教科書 p 201～216を事前に読む
29	今後の制度の動向と精神保健福祉士	教科書補足資料 教科書	教科書 p 218～223を事前に読む
30	後期のまとめ 後期の復習	教科書補足資料 教科書	教科書既修内容ポイントを再確認
期末試験	後期末筆記試験		

期末試験の講評

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標 A・C・K：レポート（50%）

前期末にレポートを行います。レポート課題は授業内容に沿って設定します。

目標 A・C：筆記試験（50%）

後期末に記述方式のテストを実施します。

*ただし、最終的な成績評価は、課題の提出状況や授業の積極的な参加等、総合的に評価します。詳しくは、第1回目の授業時に説明します。

教科書

書名：精神保健福祉に関する制度とサービス

著者名：古屋龍太編

発行所：弘文堂

価格：2,700円（税別）

その他補足事項

授業内容の理解度を確認するため5回～6回、小テストを実施します。授業内で答え合わせを行い、理解不足の個所を各自確認する資料とします。

授 業 科 目 名	精神障害者の生活支援システム	授業形態・単位数	講義・2単位
		開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：藤 原 正 子	開 講 期	前期
		授 業 回 数	15回
		期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・福島県精神保健福祉センター、上田保健所等（18年6ヶ月）		
社会貢献としての委員会・職 等	福島県精神保健福祉士会理事		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程 文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ 課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士、英国hcpc登録ソーシャルワーカー 日本精神保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会他		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	専門教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail : fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>ソーシャルワークの原点である社会と人間の相互関係から対象者（精神障害者）の理解を含め、精神障害者を一人の生活者として捉える視点を涵養する。</p> <p>精神障害者の生活実態や人としての権利が侵害されてきた状況と精神保健福祉士の立ち位置と活動、精神障害者への退院・地域移行促進と地域生活支援の条件、居住支援・就労支援制度を活用した相談援助や生活支援活動、地域生活支援システムとしてのピア活動や各関係機関や行政機関の役割と機能、そしてそれらがつながって支え合う意味、災害支援や現代社会における精神障害者も含めた人々のよりよい生活に向けての取組など、生活支援についてみてゆく。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
精神障害者の生活支援に向き合う精神保健福祉士の原点と視点を理解する。	目標	A・J
精神障害者の生活実態や人としての権利が侵害されてきた状況と精神保健福祉士の立ち位置と活動について説明できる。	目標	J
居住支援、就労支援制度とそれを活用した相談援助や生活支援活動について説明できる。	目標	A・J
地域生活支援システムとしてピア（当事者）活動をはじめ、各関係機関の役割・機能とソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。	目標	B・J
精神保健福祉士としての現代社会における問題意識と精神障害者の生活支援について学ぶ。	目標	A・J

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 精神障害とは①	画集『心像の世界』	精神障がいに関する記事を調べる
2	精神障害とは②	ビデオ『名医にQ 統合失調症』20分	精神障がいについてまとめる
3	生活のしづらさ① 生活支援とは	ビデオ『幻聴から幻聴さんへ』37分	生活のしづらさについてまとめる
4	生活のしづらさ② 精神障害者と社会	アクティビティ 動いて選択	社会的入院についてまとめる
5	生活者としての精神障害者 精神障害者の生活実態	ビデオ『藤原さんの事例』30分	事例の感想文作成
6	社会的入院者の退院促進・地域移行の条件	ビデオ『精神科病院から地域へ』30分	地域移行の条件を各自考える
7	精神障害者のピアサポート	テキスト pp.149-156	感想文作成
8	精神障害者と家族	テキスト pp.156-161	テキストを読んでくる
9	精神障害者の生活と人権	テキスト pp.53-77	テキストを読んでくる
10	精神障害者の居住支援①	テキスト pp.79-109	テキストを読んでくる
11	精神障害者の居住支援②	ゲストスピーカー招聘	感想文作成
12	精神障害者の就労支援	テキスト pp.111-140	テキストを読んでくる
13	地域社会における生活支援システム	テキスト pp.141-148、161-170	テキストを読んでくる
14	行政における相談援助	テキスト pp.170-217	テキストを読んでくる
15	ごくあたり前の生活をめざして	テキスト pp.219-236	テキストを読んでくる
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標A・B : 期末試験60% 目標A・B・J : 授業時の課題の取組と消化度・提出レポート内容40%により評価します。 シラバスの「成績評価への補足的対応措置」を読んでおいて下さい。詳しくは第1回目の授業に説明します。			
教科書		参考書	
書名：精神障害者の生活支援システム第3版 著者名：上野容子・宮崎まさ江編 発行所：弘文堂 価格：2,700円（税別）		書名：精神保健医療福祉白書2018／2019年版 著者名：精神保健福祉白書編集委員会 発行所：中央法規 価格：2,520円（税別）	
その他補足事項			
授業の進捗程度・等により、授業内容を変更する場合があります。			

授 業 科 目 名	精神保健福祉相談援助の 基盤（基礎）		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：藤 原 正 子		開 講 期	前期
			授 業 回 数	15回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・葵橋ファミリークリニック・京都市児童福祉センター総合療育部・福島県精神保健福祉センター、上田保健所等（18年6ヶ月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県精神保健福祉士会理事			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程 文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ 課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士、英国hcpc登録ソーシャルワーカー 日本精神保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会他			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail：fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
精神保健福祉士が行う相談援助の基盤について学ぶ。すなわち、精神保健福祉士の役割と意義、相談援助（ソーシャルワーク）の定義と理念、相談援助の形成過程についての理解を深める。精神保健福祉相談援助場面を擬似体験することを通して相談援助活動について理解を深める。	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
精神保健福祉士の役割と意義について説明できる。	目標	A・B
社会福祉士の役割と意義について理解する。	目標	A・B
相談援助（ソーシャルワーク）の概念と範囲について理解する。	目標	A
相談援助（ソーシャルワーク）の理念について説明できる。	目標	A
相談援助（ソーシャルワーク）の形成過程について理解する。	目標	A
精神保健福祉相談援助場面を擬似体験することを通して相談援助活動を体感する。	目標	K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション グループの力	グループ活動	感想文作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	ピアカウンセリング① 「ほめる」	W-upグループピング、グループ活動	感想文作成
3	ピアカウンセリング② 「ほめる」	グループ演習	小テスト
4	ソーシャルワークの価値	かちかち山 日本精神保健福祉士協会倫理綱領	感想文作成
5	精神保健福祉士の役割と意義	テキストpp. 1-13 精神保健福祉士法	教科書を読んでもくる
6	社会福祉士の役割と意義 精神保健福祉士と社会福祉士	ゲストスピーカー招聘	教科書を読んでもくる pp.14-18
7	現代社会と精神保健福祉士	テキスト pp.19-34	教科書を読んでもくる
8	SST① SSTであるために	グループ演習	感想文作成
9	SST② 「ほめる」	グループ演習	感想文作成
10	ソーシャルワークの定義 国際ソーシャルワーカー連盟の定義	テキスト pp.35-43	教科書を読んでもくる
11	ソーシャルワークの形成過程 ソーシャルワーク理論①	テキスト pp.43-48 pp.77-86	教科書を読んでもくる
12	ソーシャルワーク理論② 3方法の統合とジェネラリストソーシャルワーク	テキスト pp.87-108	教科書を読んでもくる
13	家族療法 思春期の事例	配付プリント	感想文作成
14	家族療法 スカルプティング ソーシャルワークの構成要素としての価値・知識・技術 ソーシャルワークの理念① — 人間尊重、社会正義	テキスト pp.49-63	教科書を読んでもくる
15	ソーシャルワークの理念② — 利用者主体、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、社会的包摂、ノーマライゼーション	テキスト pp.63-75	教科書を読んでもくる
期末試験	前期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標A・B : 期末試験60% 目標A・B・K : 授業時の発言等の参加態度・課題の取組みと消化度・提出レポート内容40%により評価する。 シラバスの「成績評価への補足的対応措置」を読んでおいて下さい。詳しくは第1回目の授業に説明する。			
教科書		参考書	
書名：精神保健福祉相談援助の基盤 [基礎] [専門] 著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 発行所：へるす出版 価格：2,900円（税別）		書名：事例で理解する相談援助のキーワード 著者名：八木亜紀子編著他 発行所：中央法規 価格：2,200円（税別）	
その他補足事項			
授業の進捗程度・等により、授業内容を変更する場合があります。 参加・時間厳守・守秘を大切にこそ成立する授業のため全回出席を前提とします。やむを得ない場合でも2/3以上の出席が最低限必要です。グループ課題を含む授業での遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重し合うようくれぐれも留意してください。			

授 業 科 目 名	精神保健福祉相談援助の 基盤（専門）		授業形態・単位数	講義・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：北 本 明日香 <small>きた もと あすか</small>		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail：kitamoto.asuka@fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）」との関連性を考慮しながら、次の内容を中心に講義する。 ① 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。 ② 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。 ③ 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。 ④ 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。	○	A 知識
	○	B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの動向を理解し、精神保健福祉士の役割を説明することができる。	目標	A・C
チームアプローチと多職種連携について理解し、精神保健福祉士の専門性を述べるすることができる。	目標	A・B・C
メンタルヘルスに関する課題について理解し、精神保健福祉士の役割を論じることができる。	目標	A・C
精神障害者の権利擁護について理解し、その意義について説明することができる。	目標	A・C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバスを使用し、授業の進め方等を説明します。 教科書 教科書補足資料	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程 インテーク・契約・アセスメント・支援計画・支援の実施	教科書 教科書補足資料	教科書 p 108～127を事前に読む
3	精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの動向 導入期から拡大期	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料 DVD視聴 (20分)「ソーシャルワーカーの仕事」(映像利用)	教科書 p 129～137を事前に読む 予習のテーマ:「精神保健福祉士の役割について」400字
4	精神保健福祉領域における多職種連携とソーシャルワーク 相談援助に係る専門職の概念と範囲	教科書 教科書補足資料	教科書 p 139を事前に読む
5	医療機関における専門職	教科書 新聞記事等を使用しペアワークを行います。	教科書 p 140～144を事前に読む
6	福祉関連行政機関における専門職	教科書 教科書補足資料 「管理栄養士の仕事」DVD視聴(映像利用)(40分)	教科書 p 144～148を事前に読む
7	民間福祉施設・組織における専門職	教科書 教科書補足資料 「介護福祉の仕事」DVD視聴(映像利用)(40分)	教科書 p 148～151を事前に読む
8	チームアプローチと多職種連携	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料	教科書 p 152～155を事前に読む 予習のテーマ:「連携について」400字
9	相談援助専門職の連携と協働	教科書 教科書補足資料 ゲスト講師招聘	教科書 p 161～165を事前に読む 復習:感想文を作成する
10	精神障害者の相談援助における権利擁護 精神保健福祉士の生活支援	教科書 教科書補足資料	教科書 p 165～170を事前に読む
11	精神障害者の人権擁護と精神保健福祉士の役割(1)	教科書 教科書補足資料 「PSWと呼ばれる日」DVD視聴(30分)(映像利用)	教科書 p 171～173を事前に読む
12	精神障害者の人権擁護と精神保健福祉士の役割(2)	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料	予習のテーマ:「権利擁護について」400字
13	当事者を支える視点・アプローチ	教科書 教科書補足資料	教科書 p 178を事前に読む
14	ライフステージごとのメンタルヘルズ課題と精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料 不登校に関するDVD視聴(映像利用)	教科書 p 177～192を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	後期のまとめ 後期の復習	教科書 教科書補足資料	教科書既修内容ポイントを再確認
期末試験	後期末筆記試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標A・B・C：レポート（50%） レポート課題は授業内容に沿って設定します。</p> <p>目標A・C：筆記試験（50%） 後期末に記述方式のテストを実施します。</p> <p>*ただし、最終的な成績評価は、課題の提出状況や授業の積極的な参加等、総合的に評価します。詳しくは、第1回目の授業時に説明します。</p>			
教科書			
<p>書名：精神保健福祉相談援助の基盤 [基礎] [専門] 著者名：荒田寛 佐々木敏明 今井博康 他 発行所：へるす出版 価格：2,900円（税別）</p>			
その他補足事項			
授業内容の理解度を確認するため2回～3回、小テストを実施します。授業内で答え合わせを行い、理解不足の個所を各自確認する資料とします。			

授 業 科 目 名	精神保健福祉の理論と 相談援助の展開Ⅰ		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：北 本 明日香 <small>きた もと あすか</small>		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail：kitamoto.asuka fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」との関連性を考慮しながら、次の内容を中心に学びます。 ① 精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む。）の展開について学びます。 ② 精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について学びます。 ③ 地域を基盤にした相談援助活動の意義と展開の理解を深めます。	○	A 知識
	○	B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)
① 精神保健医療福祉の歴史と動向を理解し、精神保健福祉士の専門性と倫理を説明することができる。	目標	A・C
② 相談援助活動のための面接技術とソーシャルワークの展開過程を述べる事ができる。	目標	A・B
③ スーパービジョンとコンサルテーションの意義と方法について説明することができる。	目標	A・B
④ 精神障害者のケアマネジメントの意義について説明することができる。	目標	A・B
⑤ チームアプローチにおける精神保健福祉士の役割を論じることができる。	目標	A・C

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要の紹介 評価方法、授業の進め方の留意点	シラバスを使用し、授業の進め方等を説明します。 教科書 教科書補足資料	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	障害者福祉の理念と精神障害者の人権	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料	教科書 p 1～19を事前に読む 予習のテーマ：「障害者福祉の理念」400字
3	国連原則、障害者権利条約、障害者差別解消法	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「障害者権利条約について」(映像利用)	教科書 p 20～50を事前に読む
4	精神障害の概念、国際生活機能分類	教科書 教科書補足資料	教科書 p 50～63を事前に読む
5	精神保健福祉の歴史と理念 精神病患者監護法	教科書 教科書補足資料	教科書 p 73～75を事前に読む
6	精神病患者監護法から精神衛生法	教科書 教科書補足資料	教科書 p 76～78を事前に読む
7	精神衛生法から精神保健福祉法	教科書 教科書補足資料	教科書 p 78～83を事前に読む
8	精神保健福祉の現状 精神医療の現状	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 「精神科病院の身体拘束」DVD視聴(30分)(映像利用) 教科書 教科書補足資料	教科書 p 89を事前に読む 予習のテーマ：精神科医療に関する新聞記事をもとにレジюмеを作成する800字
9	精神医療の現状と地域生活支援の現状	教科書 教科書補足資料	教科書 p 90を事前に読む
10	精神保健福祉士の課題	教科書 教科書補足資料	教科書 p 91を事前に読む
11	イギリスにおけるソーシャルワークの歴史 エリザベス救貧法から第一次世界大戦	教科書 教科書補足資料	教科書 p 95～99を事前に読む
12	リカバリーの時代	教科書 教科書補足資料 DVD視聴(30分)「リカバリー—障害者自立を支える世界的潮流」(映像利用)	教科書 p 99～102を事前に読む 復習：感想文を作成する
13	アメリカにおけるソーシャルワークの歴史(1)	教科書 教科書補足資料	教科書 p 102～106を事前に読む
14	アメリカにおけるソーシャルワークの歴史(2)	教科書 教科書補足資料	教科書 p 107～110を事前に読む
15	前期のまとめ 前期の復習		教科書既修内容ポイントを再確認
期末試験	レポート		
16	日本におけるソーシャルワークの歴史 PSW誕生、Y問題	教科書 教科書補足資料	教科書 p 111～116を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	国家資格としての精神保健福祉士の意義 精神保健福祉士の専門性と倫理	教科書 教科書補足資料	教科書 p 119～143を事前に読む
18	ソーシャルワークの展開過程 受理面接（インテーク）から終結	教科書 教科書補足資料	教科書 p 151～156を事前に読む
19	ソーシャルワークの面接 面接の構造と技術	教科書 教科書補足資料	教科書 p 156～161を事前に読む
20	面接の方法①	教科書 教科書補足資料 DVD視聴（60分）「電話によるインテーク」（映像利用）	配付資料を事前に読む
21	面接の方法②	教科書 教科書補足資料 DVD視聴（60分）「訪問による面接」（映像利用）①	配付資料を事前に読む
22	面接の方法③	教科書 教科書補足資料 DVD視聴（60分）「訪問による面接」（映像利用）②	配付資料を事前に読む
23	フェイスシートの作成	教科書 教科書補足資料 フェイスシートをもとに、各グループにてディスカッションと発表を行います。	予習のテーマ：フェイスシートの作成
24	個別支援 利用者理解の視点	予習のテーマ内容を授業導入に活用します。 教科書 教科書補足資料	教科書 p 162～170を事前に読む 予習のテーマ：「断酒会、AAについて」800字
25	グループを活用した支援	教科書 教科書補足資料 ゲスト講師招聘	教科書 p 177～194を事前に読む 復習：感想文を作成する
26	地域を対象とした支援 災害時における精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書 p 195～220を事前に読む
27	スーパービジョンとコンサルテーション ケアマネジメント	教科書 教科書補足資料	教科書 p 220～253を事前に読む
28	チーム医療における精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書 p 263～267を事前に読む
29	チームアプローチおよび生活支援の理念 精神保健福祉士の役割	教科書 教科書補足資料	教科書 p 270～279を事前に読む
30	後期のまとめ 後期の復習	教科書 教科書補足資料	教科書既修内容ポイントを再確認
期末試験	後期末筆記試験		

期末試験の講評

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。

授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）

目標 A・C : レポート (50%)

前期末にレポートを行います。レポート課題は授業内容に沿って設定します。

目標 A・B・C : 筆記試験 (50%)

後期末に記述方式のテストを実施します。

*ただし、最終的な成績評価は、課題の提出状況や授業の積極的な参加等、総合的に評価します。詳しくは、第1回目の授業時に説明します。

教科書

書名：精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I

著者名：荒田寛 佐々木敏明 助川征雄 田村綾子 他

発行所：へるす出版

価格：3,100円（税別）

その他補足事項

授業内容の理解度を確認するため5回～6回、小テストを実施します。授業内で答え合わせを行い、理解不足の個所を各自確認する資料とします。

授 業 科 目 名	精神保健福祉の理論と 相談援助の展開Ⅱ		授業形態・単位数	講義・4単位
			開 講 年 次	3・4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：藤 原 正 子 <small>ふじ わら まさ こ</small>		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授業に関する主な実務経験と期間	英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・葵橋ファミリークリニック・福島県精神保健福祉センター、上田保健所等（18年6ヶ月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県精神保健福祉士会理事			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程 文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ 課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士、英国hcpc登録ソーシャルワーカー、メリデン版ファミリー ワーク基礎研修修了 日本精神保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会他			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail：fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
精神障がい者の疾病および障がいを考慮した上で、生活援助に必要なソーシャルケースワーク（個別援助技術）、ソーシャルグループワーク（集団援助技術）、コミュニティワーク（地域援助技術）などをふまえ、包括的な支援とリハビリテーションについて学ぶ。そのうえで、それらの技術における精神保健福祉士の役割・業務内容についての知識および技術を身につけ、さらには、障害特性に合わせた支援プロセスの実際について理解を深める。	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
精神障がい者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障がい者と家族の調整、及び家族支援を含む。）の展開について説明できる。	目標	A・B
精神障がい者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について説明できる。	目標	A・B
精神障がい者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方とリハビリテーションの実際を説明できる。	目標	A・B
地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について説明できる。	目標	A・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ソーシャルワークの支援レポーター①	プリント	教科書 p. 1 - 8 を読んでくる。 配付資料予復習
2	ソーシャルワークの支援レポーター②	グループ討議	各支援アプローチをまとめる
3	個別支援の実際と事例分析①	事例演習	教科書 p. 9 - 27 を読んでくる。 配付資料予復習
4	個別支援の実際と事例分析②	事例演習	教科書 p. 28 - 33 を読んでくる。 発表準備
5	個別支援の実際と事例分析③	事例演習	教科書 p. 34 - 37 を読んでくる。 発表準備
6	個別支援の実際と事例分析④	グループ発表	感想文作成
7	個別支援の実際と事例分析⑤	グループ発表	感想文作成
8	集団を活用した支援の実際と事例分析 ① デイケア	事例演習	教科書 p. 38 - 52 を読んでくる。 配付資料予復習
9	集団を活用した支援の実際と事例分析 ② アルコール依存症者ミーティング	事例演習	教科書 p. 52 - 56 を読んでくる。 配付資料予復習
10	集団を活用した支援の実際と事例分析 ③ 心理教育	事例演習	教科書 p. 57 - 60 を読んでくる。 配付資料予復習
11	集団を活用した支援の実際と事例分析 ④ SST	事例演習	教科書 p. 60 - 63 を読んでくる。 配付資料予復習
12	集団を活用した支援の実際と事例分析 ⑤ ピアサポートプログラム、就労支援プログラム	事例演習	教科書 p. 63 - 71 を読んでくる。 配付資料予復習
13	事例による相談援助活動の検討 ① 危機介入、居住支援	事例演習	教科書 p. 72 - 77 を読んでくる。 配付資料予復習
14	事例による相談援助活動の検討 ② 就労支援、権利擁護	事例演習	教科書 p. 78 - 88 を読んでくる。 配付資料予復習
15	事例による相談援助活動の検討 ③ 権利擁護、医療観察法対象者への支援	事例演習	教科書 p. 88 - 90 を読んでくる。 配付資料予復習
期末試験	前期末筆記試験		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	精神保健福祉における精神障がい者と家族の関係		教科書 p.91-100を読ん でくる。 配付資料予復習
17	家族支援の方法		教科書 p.101-108を読 んでくる。 配付資料予復習
18	事例による家族調整・支援の検討	事例演習	教科書 p.109-115を読 んでくる。 配付資料予復習
19	地域移行の対象、体制		教科書 p.117-128を読 んでくる。 配付資料予復習
20	精神保健福祉士の役割と多職種との連携		教科書 p.129-141を読 んでくる。 配付資料予復習
21	地域移行・地域定着支援の取り組み 事例による地域移行支援の検討	事例演習	教科書 p.142-169を読 んでくる。 配付資料予復習
22	精神障がい者を取り巻く社会的状況		教科書 p.171-183を読 んでくる。 配付資料予復習
23	事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討、災害時 支援	事例演習	教科書 p.184-195を読 んでくる。 配付資料予復習
24	地域を基盤にしたリハビリテーションの考え方① 地域ネットワーク、アウトリーチ 精神科リハビリテーションの理念、意義、基本原則	プリント配付	教科書 p.197-224を読 んでくる。 配付資料予復習
25	地域を基盤にしたリハビリテーションの考え方② セルフヘルプグループ、家族会、ボランティア育成 リハビリテーション評価	プリント配付	教科書 p.225-244を読 んでくる。 配付資料予復習
26	ケアマネジメントの原則、意義と方法	事例演習	教科書 p.245-269を読 んでくる。 配付資料予復習
27	ケアマネジメントの展開過程、チームケアとチームワーク 事例による精神障がい者ケアマネジメントの検討	事例演習	教科書 p.270-294を読 んでくる。 配付資料予復習
28	地域を基盤にしたリハビリテーションの意義。 地域ネットワーク		教科書 p.295-309を読 んでくる。 配付資料予復習
29	地域を基盤にした支援の具体的展開 事例による地域を基盤にした支援の検討	事例演習	教科書 p.310-335を読 んでくる。 配付資料予復習
30	地域精神保健福祉活動の意義と展開 事例による地域生活を支援する包括的な取り組みの検討	事例演習	教科書 p.338-355を読 んでくる。 配付問題学習
期末 試験	後期末筆記試験		

期末試験の講評	
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。	
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）	
<p>目標 A・B : 前期末試験30%、後期末試験30%</p> <p>目標 A・B・K : 授業参加態度（自主的な発言、発表等）、課題の消化度・レポート提出内容40%として評価する。 シラバスの「成績評価への補足的対応措置」を読んでおいて下さい。詳しくは第1回目の授業に説明する。</p>	
教科書	参考書
<p>書名：精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 著者名：日本精神保健福祉士養成校協会 編集 発行所：中央法規 価格：2,700円（税別）</p>	<p>書名：事例で理解する相談援助のキーワード 著者名：八木亜紀子編著他 発行所：中央法規 価格：2,200円（税別）</p>
その他補足事項	
授業の進捗程度・等により、授業内容を変更する場合があります。	

授 業 科 目 名	精神保健福祉援助実習指導	授業形態・単位数	演習・3単位
		開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：藤 原 正 子	開 講 期	通年
		授 業 回 数	45回
		期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・葵橋ファミリークリニック・京都市児童福祉センター総合療育部・福島県精神保健福祉センター、上田保健所等（18年6ヶ月）		
社会貢献としての委員会・職 等	福島県精神保健福祉士会理事		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程 文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ 課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士、英国hcpc登録ソーシャルワーカー 日本精神保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会他		
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業	専門教育科目	選択	
精神保健福祉士	専門教育科目	必修	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	135時間
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail：fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目		
<p>本科目は現場体験実習に向けて精神科医療機関および精神障害者を支援する障害福祉サービス事業を行う施設について学び、すでに学んだ講義（精神医学、精神保健学、精神障害者の生活支援システム、精神保健福祉に関する制度とサービス、精神保健福祉の理論と相談援助の展開等）内容を活用し、精神保健福祉士として必要な知識および技術の理解を深める。実習事前指導では、利用者への相談業務やリハビリテーション活動について必要な資質・能力・技術の深化と修得、精神保健福祉士としての専門的援助技術や支援のあり方について概念化・理論化し、体系立てていく力を養う。また、職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるように努める。実習に先立ち、実習先事前訪問を行う。</p> <p>実習事後指導では、実習の振り返りを個別・グループ別に取り組み、それらのプレゼンテーションを経て報告集にまとめる作業を通じて精神保健福祉士になる素地を涵養してゆく。</p>	○	A	知識
	○	B	技術・技能
		C	論理的思考力
	○	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)		
精神科病院および精神障害者社会復帰施設の歴史、目的、理念、関係施設の概略等について理解を深め、保健医療現場の実際を知る。	目標	A	
保健医療現場の実際について理解を深め、援助のあり方や受療援助、退院援助、地域生活援助、医療・福祉制度の活用、チームによる援助活動などを踏まえた上で、実習計画の中の援助プログラムについて考えることができるようになる。	目標	A・B	
対象者の理解を深めつつ、援助活動の実際を知り、実習計画および実習課題を明確にし、自身の実習計画書を作成する。	目標	A・D	
実習上の留意点について、特に、援助対象者のプライバシーに対する配慮等について理解して守れる。	目標	A・D	
関連分野の専門職種との連携のあり方を修得する。	目標	B	

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 実習全体の流れと学習内容	シラバス、プリント	復習：春休みの課題の整理
2	実習の意義と目的 どんな援助者になりたいか	テキストpp. 2-21	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：ワークを完成させる
3	実習を通して学ぶとは 実習したい機関・施設調べ 事前訪問の意義と事前準備 プロフィールの作成	テキストpp.23-29、 pp.64-68 実習先連絡票	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：機関分析の下書き、マナーの復習
4	実習施設理解と精神保健福祉援助① 医療機関	テキストpp.30-32、 pp.160-170 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：医療機関について整理
5	実習施設理解と精神保健福祉援助② 精神科デイケア	テキストpp.170-176 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：精神科デイケアについて整理する
6	実習施設理解と精神保健福祉援助③ 就労支援事業	テキストpp.33-37、 pp.177-200 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：就労支援事業について整理する
7	実習施設理解と精神保健福祉援助④ 地域活動支援センター、相談支援事業	テキストpp.200-210 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：地域活動支援センターについて整理する
8	実習施設理解と精神保健福祉援助⑤ 多機能事業所、自立訓練	テキストpp.211-215 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：学習課題を採る
9	実習中に必要な医療福祉制度	プリント	予習：制度概要を調べる 復習：制度についてまとめる
10	医療福祉制度の活用事例 実習への期待と不安	プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：感想文の作成
11	実習におけるスーパービジョン 実習中の予想されるトラブルへの対処法	テキストpp.89-103 pp.104-118	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：感想文の作成
12	実習プログラム例 実習計画書の必要性	テキストpp.44-48	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：自分なりの計画立案
13	実習における学習課題の設定 実習テーマの立て方	テキストpp.15-16、 pp.154-159 実習の手引き、プリント	予習および復習：実習テーマを採る
14	実習計画書作成個別指導① プロフィール表の作成	テキストpp.53-61 プロフィール表の清書	予習および復習：実習計画書の下書き
15	実習課題の設定	テキストpp.160-215 実習の手引き、プリント	予習および復習：実習課題を採る
16	実習計画書作成個別指導②	教員による個別指導	予習および復習：実習計画書の作成
17	実習計画書報告①	学生による個別報告	復習：報告を聞いての感想文の作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	実習計画書報告② 守秘義務と実習誓約書	テキストpp.61-63 実習の手引き、プリント 実習誓約書の作成	復習：報告を聞いての感想文の作成
19	実習計画書作成指導③ 実習事前訪問について	テキストpp.53-68 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：実習計画書の清書、実習事前訪問の準備
20	実習日誌の書き方①	テキストpp.79-88 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：記録の復習
21	実習日誌の書き方②	事例演習	復習：記録の模擬作成
22	「何かしてあげなければ…」から「寄り添い見守る」へ	テキストpp.17-22 プリント	復習：感想文の作成
23	個別支援計画作成演習①	ビデオ『精神障がい者ケアマネジメント』実践編 38分	予習および復習：ケアマネジメントについて調べる
24	個別支援計画作成演習②	ゲストスピーカー招聘 個別支援計画の作成	復習：個別支援計画の加筆・修正
25	実習先で出会う医療用語・略語	プリント	医療用語・略語の整理
26	実習日誌の書き方③ 場面の分析	実習の手引き	場面の分析の模擬作成
27	実習に向けた準備と心構え① 感染症予防、持ち物など	テキストpp.114-118 実習の手引き	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：準備物の自己チェック
28	実習に向けた準備と心構え② 服装、名札、実習中の連絡など	テキストpp.69-74 実習の手引き	服装等の自己チェック
29	夏季休業中の国試受験申込手続へ向けての諸注意	受験の手引き	国家試験受験の事前準備
30	実習終了時の諸注意、お礼状の書き方	実習の手引き	実習の事前準備をする
31	実習を振り返って①	グループワーク	実習全体のまとめを作成する
32	実習を振り返って② 実習個別報告指導	過去の実習報告書等 テキストpp.120-128	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：個別報告書の加筆・修正
33	実習個別報告① 医療機関	プレゼンテーション	予習：プレゼン資料の準備 復習：実習個別報告資料の作成
34	実習個別報告② 障害福祉サービス事業所	プレゼンテーション	予習：プレゼン資料の準備 復習：実習個別報告資料作成
35	実習報告発表指導①	実習日誌 グループワーク テキストpp.133-149	復習：感想文の作成
36	場面の分析① 医療機関	グループワーク プリント	予習：場面の分析資料の準備
37	実習報告発表指導②	グループワーク	復習：今後の改善点を考える
38	場面の分析② 障害福祉サービス事業所	グループワーク プリント	予習：場面の分析資料の準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
39	実習報告発表指導③	グループワーク	復習：報告内容の整理
40	実習報告会発表に向けて	グループワーク	復習：発表資料の作成
41	実習報告会発表①	グループ発表	プレゼンテーション
42	実習報告会発表②	グループ発表	プレゼンテーション 復習：質疑課題への取り組み
43	実習報告書作成指導	テキストpp.129-132 実習の手引き	復習：実習報告書原稿の作成
44	精神保健福祉士の役割と価値	グループワーク	復習：精神保健福祉士の役割についてまとめる
45	精神科医療現場で使われる医療看護用語全体のまとめ	テキストpp.150-151 プリント	復習：用語の整理、今後の課題、自分なりの心構えについてまとめる。
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標A・B：授業時の参加態度（自主的な発言、グループへの貢献度、発表等）30% 目標D：提出課題の消化度20%、実習計画書20%、実習報告会10%、実習報告書20%として評価する。提出課題および実習関係資料の提出期限は厳守すること。 ほか、評価対象には4/5以上の出席が必要である。評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う。詳しくは第1回目の授業時に説明する。</p>			
教科書		参考書	
書名：精神保健福祉援助実習・実習指導 第2版 著者名：日本精神保健福祉士協会 編集 発行所：中央法規 価格：2,700円（税別） 【教材】 精神保健福祉援助実習の手引き		書名：PSW実習ハンドブック ― 実習生のための手引き 著者名：荒田寛他 編集 発行所：へるす出版 価格：2,400円（税別）	
その他補足事項			
<p>※参加・時間厳守・守秘を大切にこそ成立する授業のため全回出席を前提とする。グループ活動を含む授業での遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重し合うようにくれぐれも留意すること。なお、欠席する場合は、次の授業までに欠席届を担当教員に提出し、配付資料を受け取りに来ること。 ※実習の履修制限については履修規程を参照のこと。</p>			

授 業 科 目 名	精神保健福祉援助実習指導		授業形態・単位数	演習・3単位
			開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：北 本 明日香 <small>きた もと あすか</small>		開 講 期	通年
			授 業 回 数	45回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	135時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail：kitamoto.asuka fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>本科目は現場体験実習に向けて精神科医療機関および精神障害者を支援する障害福祉サービス事業を行う施設について学び、すでに学んだ講義（精神医学、精神保健学、精神障害者の生活支援システム、精神保健福祉に関する制度とサービス、精神保健福祉の理論と相談援助の展開等）内容を活用し、精神保健福祉士として必要な知識および技術の理解を深める。実習事前指導では、利用者への相談業務やリハビリテーション活動について必要な資質・能力・技術の深化と修得、精神保健福祉士としての専門的援助技術や支援のあり方について概念化・理論化し、体系立てていく力を養う。また、職業倫理を見につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるように努める。実習に先立ち、実習先事前訪問を行う。</p> <p>実習事後指導では、実習の振り返りを個別・グループ別に取り組み、それらのプレゼンテーションを経て報告集にまとめる作業を通じて精神保健福祉士になる素地を涵養してゆく。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
精神科病院および精神障害者社会復帰施設の歴史、目的、理念、関係施設の概略等について理解を深め、保健医療現場の実際を知る。	目標	A
保健医療現場の実際について理解を深め、援助のあり方や受療援助、退院援助、地域生活援助、医療・福祉制度の活用、チームによる援助活動などを踏まえた上で、実習計画の中の援助プログラムについて考えることができるようになる。	目標	A・B
対象者の理解を深めつつ、援助活動の実際を知り、実習計画および実習課題を明確にし、自身の実習計画書を作成する。	目標	A・D
実習上の留意点について、特に、援助対象者のプライバシーに対する配慮等について理解して守ることができる。	目標	A・D
関連分野の専門職種との連携のあり方を修得する。	目標	B

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 実習全体の流れと学習内容	シラバス、プリント	復習：春休みの課題の整理
2	実習の意義と目的 どんな援助者になりたいか	テキストp. 2-21	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：ワークを完成させる
3	実習を通して学ぶとは 実習したい機関・施設調べ 事前訪問の意義と事前準備 プロフィールの作成	テキストpp.23-29、 pp.64-68 実習先連絡票	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：機関分析の下書き、マナーの復習
4	実習施設理解と精神保健福祉援助① 医療機関	テキストpp.30-32、 pp.160-170 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：医療機関について整理
5	実習施設理解と精神保健福祉援助② 精神科デイケア	テキストpp.170-176 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：精神科デイケアについて整理する
6	実習施設理解と精神保健福祉援助③ 就労支援事業	テキストpp.33-37、 pp.177-200 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：就労支援事業について整理する
7	実習施設理解と精神保健福祉援助④ 地域活動支援センター、相談支援事業	テキストpp.200-210 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：地域活動支援センターについて整理する
8	実習施設理解と精神保健福祉援助⑤ 多機能事業所、自立訓練	テキストpp.211-215 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：学習課題を採る
9	実習中に必要な医療福祉制度	プリント	予習：制度概要を調べる 復習：制度についてまとめる
10	医療福祉制度の活用事例 実習への期待と不安	プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：感想文の作成
11	実習におけるスーパービジョン 実習中の予想されるトラブルへの対処法	テキストpp.89-103、 pp.104-118	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：感想文の作成
12	実習プログラム例 実習計画書の必要性	テキストpp.44-48	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：自分なりの計画立案
13	実習における学習課題の設定 実習テーマの立て方	テキストpp.15-16、 pp.154-159 実習の手引き、プリント	予習および復習：実習テーマを採る
14	実習計画書作成個別指導① プロフィール表の作成	テキストpp.53-61 プロフィール表の清書	予習および復習：実習計画書の下書き
15	実習課題の設定	テキストpp.160-215 実習の手引き、プリント	予習および復習：実習課題を採る
16	実習計画書作成個別指導②	教員による個別指導	予習および復習：実習計画書の作成
17	実習計画書報告①	学生による個別報告	復習：報告を聞いての感想文の作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
18	実習計画書報告② 守秘義務と実習誓約書	テキストpp.61-63 実習の手引き、プリント 実習誓約書の作成	復習：報告を聞いての感想文の作成
19	実習計画書作成指導③ 実習事前訪問について	テキストpp.53-68 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：実習計画書の清書、実習事前訪問の準備
20	実習日誌の書き方①	テキストpp.79-88 実習の手引き、プリント	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：記録の復習
21	実習日誌の書き方②	事例演習	復習：記録の模擬作成
22	「何かしてあげなければ…」から「寄り添い見守る」へ	テキストpp.17-22 プリント	復習：感想文の作成
23	個別支援計画作成演習①	ビデオ『精神障がい者ケアマネジメント』実践編 38分	予習および復習：ケアマネジメントについて調べる
24	個別支援計画作成演習②	ゲストスピーカー招聘 個別支援計画の作成	復習：個別支援計画の加筆・修正
25	実習先で出会う医療用語・略語	プリント	医療用語・略語の整理
26	実習日誌の書き方③ 場面の分析	実習の手引き	場面の分析の模擬作成
27	実習に向けた準備と心構え① 感染症予防、持ち物など	テキストpp.114-118 実習の手引き	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：準備物の自己チェック
28	実習に向けた準備と心構え② 服装、名札、実習中の連絡など	テキストpp.69-74 実習の手引き	服装等の自己チェック
29	夏季休業中の国試受験申込手続へ向けての諸注意	受験の手引き	国家試験受験の事前準備
30	実習終了時の諸注意、お礼状の書き方	実習の手引き	実習の事前準備をする
31	実習を振り返って①	グループワーク	実習全体のまとめを作成する
32	実習を振り返って② 実習個別報告指導	過去の実習報告書等 テキストpp.120-128	予習：テキスト該当箇所を読む 復習：個別報告書の加筆・修正
33	実習個別報告① 医療機関	プレゼンテーション	予習：プレゼン資料の準備 復習：実習個別報告資料の作成
34	実習個別報告② 障害福祉サービス事業所	プレゼンテーション	予習：プレゼン資料の準備 復習：実習個別報告資料作成
35	実習報告発表指導①	実習日誌 グループワーク テキストpp.133-149	復習：感想文の作成
36	場面の分析① 医療機関	グループワーク プリント	予習：場面の分析資料の準備
37	実習報告発表指導②	グループワーク	復習：今後の改善点を考える

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
38	場面の分析② 障害福祉サービス事業所	グループワーク プリント	予習：場面の分析資料の準備
39	実習報告発表指導③	グループワーク	復習：報告内容の整理
40	実習報告会発表に向けて	グループワーク	復習：発表資料の作成
41	実習報告会発表①	グループ発表	プレゼンテーション
42	実習報告会発表②	グループ発表	プレゼンテーション 復習：質疑課題への取り組み
43	実習報告書作成指導	p.129-132 実習の手引き	復習：実習報告書原稿の作成
44	精神保健福祉士の役割と価値	グループワーク	復習：精神保健福祉士の役割についてまとめる
45	精神科医療現場で使われる医療看護用語全体のまとめ	テキストp.150-151 プリント	復習：用語の整理、今後の課題、自分なりの心構えについてまとめる。
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標A・B：授業時の参加態度（自主的な発言、グループへの貢献度、発表等）30% 目標D：提出課題の消化度20%、実習計画書20%、実習報告会10%、実習報告書20%として評価する。提出課題および実習関係資料の提出期限は厳守すること。 ほか、評価対象には4/5以上の出席が必要である。評価に関する共通理解に則る減点を総合点より行う。詳しくは第1回目の授業時に説明する。</p>			
教科書		参考書	
書名：精神保健福祉援助実習・実習指導 第2版 著者名：日本精神保健福祉士協会 編集 発行所：中央法規 価格：2,700円（税別） 【教材】 精神保健福祉援助実習の手引き		書名：PSW実習ハンドブック ― 実習生のための手引き 著者名：荒田寛他 編集 発行所：へるす出版 価格：2,400円（税別）	
その他補足事項			
<p>※参加・時間厳守・守秘を大切にこそ成立する授業のため全回出席を前提とする。グループ活動を含む授業での遅刻や欠席は他の学生に多大な迷惑がかかるので、互いの学ぶ権利を尊重し合うようくれぐれも留意すること。なお、欠席する場合は、次の授業までに欠席届を担当教員に提出し、配付資料を受け取りに来ること。 ※実習の履修制限については履修規程を参照のこと。 ※この授業は、藤原クラス、北本クラスに分かれて実施する。履修者のクラス分けは授業担当教員が決定し提示する。</p>			

授 業 科 目 名	精神保健福祉援助実習		授業形態・単位数	実習・5単位
			開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：藤 原 正 子		開 講 期	時間割外
			授 業 回 数	実習210時間以上
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間	英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・葵橋ファミリークリニック・京都市児童福祉センター総合療育部・福島県精神保健福祉センター、上田保健所等（18年6ヶ月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県精神保健福祉士会理事			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程 文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ 課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士、英国hcpc登録ソーシャルワーカー 日本精神保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会他			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	—	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail：fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
① 精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。 ② 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 ③ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等が使える。	目標	A・B
精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握できる。	目標	K
精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる。	目標	B・K
総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。	目標	K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
<p>【授業内容】</p> <p>210時間以上の実習時間の構成は、一日8時間、週1回以上の休日をはさみ、5週間以上で実日数27日以上となる。実習は、相談援助の一連の過程を網羅的に学習できるよう、各実習生は、精神科病院等の医療機関と障害福祉サービス事業を行う施設その他の実習施設等とで実施し、機能の異なる2以上の実習施設等で実習を行う。実習のうち精神科病院等の医療機関における実習を必須とし、90時間以上行う。実習施設・機関によっては、その間に宿泊業務、休日出勤を含む場合もある。実習の内容については、実習先の種別や施設・機関・団体によって異なるので各自留意されたい。</p> <p>実習期間中は、配属先の実習指導者の指示に従い、現場の業務の流れや利用者の生活状況、援助者の役割や精神保健福祉援助業務を理解する。医療保健福祉関係の各機関や施設での現場実習を通して、対象者へのサービス業務の本質や関連分野の専門職種との連携のあり方等を学びながら、精神保健福祉士に期待される役割を明確化する。</p> <p>実習担当教員による巡回指導(帰校日を含む)を実施する。必要に応じて実習指導者、実習担当教員、実習生の三者で相談して実習計画の再検討を図る。</p>			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
<p>目標K : 実習内容に関する評価50%(実習指導者40%、自己評価10%)</p> <p>目標A・B : 提出物に関する評価50%(実習日誌30%、場面の分析10%、個別支援ケースレポート10%)により評価する。</p>			
教 科 書			
<p>書 名：精神保健福祉援助実習の手引き</p> <p>発行所：福島学院大学 福祉学部福祉心理学科 実習指導室</p>			
【教材】 精神保健福祉援助実習 実習日誌			
その他補足事項			
<p>※実習費(実費徴収) 実習委託費として1,000円×27日間=27,000円程度を徴収する。</p> <p>※実習施設によっては、事前に健康診断および、細菌検査等が必要である。</p> <p>※実習の履修制限については履修規程を参照のこと。</p> <p>※この授業は、藤原クラス、北本クラスで実施する。履修者のクラス分けは授業担当教員が決定し提示する。</p>			

授 業 科 目 名	精神保健福祉援助実習		授業形態・単位数	実習・5単位
			開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：北 ^{きた} 本 ^{もと} 明日香 ^{あすか}		開 講 期	時間割外
			授 業 回 数	実習210時間以上
			期末試験の有無	無
授業に関する主な実務経験と期間	特定医療法人北勢会北勢病院（平成10年4月～平成14年12月） 西山クリニック（平成15年1月～平成21年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	社会福祉法人桑名みどり福祉会理事（平成25年～現在）			
最終卒業（修了）学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同朋大学大学院人間福祉研究科人間福祉専攻修士課程修了、修士（人間福祉） 社会福祉士、精神保健福祉士 日本社会福祉学会、日本更生保護学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
精神保健福祉士	専門教育科目	必修		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	—	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail：kitamoto.asuka@fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
① 精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。 ② 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 ③ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等が使える。	目標	A・B
精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握できる。	目標	K
精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる。	目標	B・K
総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。	目標	K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
<p>【授業内容】</p> <p>210時間以上の実習時間の構成は、一日8時間、週1回以上の休日をはさみ、5週間以上で実日数27日以上となる。実習は、相談援助の一連の過程を網羅的に学習できるよう、各実習生は、精神科病院等の医療機関と障害福祉サービス事業を行う施設その他の実習施設等とで実施し、機能の異なる2以上の実習施設等で実習を行う。実習のうち精神科病院等の医療機関における実習を必須とし、90時間以上行う。実習施設・機関によっては、その間に宿泊業務、休日出勤を含む場合もある。実習の内容については、実習先の種別や施設・機関・団体によって異なるので各自留意されたい。</p> <p>実習期間中は、配属先の実習指導者の指示に従い、現場の業務の流れや利用者の生活状況、援助者の役割や精神保健福祉援助業務を理解する。医療保健福祉関係の各機関や施設での現場実習を通して、対象者へのサービス業務の本質や関連分野の専門職種との連携のあり方等を学びながら、精神保健福祉士に期待される役割を明確化する。</p> <p>実習担当教員による巡回指導（帰校日を含む）を実施する。必要に応じて実習指導者、実習担当教員、実習生の三者で相談して実習計画の再検討を図る。</p>			
授業の到達目標に不達する到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標K : 実習内容に関する評価50%（実習指導者40%、自己評価10%）</p> <p>目標A・B : 提出物に関する評価50%（実習日誌30%、場面の分析10%、個別支援ケースレポート10%）により評価する。</p>			
教 科 書			
<p>書 名：精神保健福祉援助実習の手引き</p> <p>発行所：福島学院大学 福祉学部福祉心理学科 実習指導室</p>			
【教材】 精神保健福祉援助実習 実習日誌			
その他補足事項			
<p>※実習費（実費徴収） 実習委託費として1,000円×27日間＝27,000円程度を徴収する。</p> <p>※実習施設によっては、事前に健康診断および、細菌検査等が必要である。</p> <p>※実習の履修制限については履修規程を参照のこと。</p> <p>※この授業は、藤原クラス、北本クラスに分かれて実施する。履修者のクラス分けは授業担当教員が決定し提示する。</p>			

授 業 科 目 名	福祉住環境演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名：兼任教授 氏名：中 ^{なか} 丸 ^{まる} 一 ^{かず} 志 ^し		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	株式会社ナカノフドー建設建築施工管理10年、建築設計および工事監理・24年			
社会貢献としての委員会・職 等	特記事項なし			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	日本大学工学部 工学士 一級建築士、設備設計一級建築士、一級建築施工管理技士、宅地建物取引主任者・建築学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワー：金曜日午前中 メールアドレス：nakamaru.kazushi fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
わが国では、世界でも類を見ない速さで超高齢社会に突入している。このような状況下、福祉を学ぶものとして、医療、福祉環境について、総合的な知識を身につけておく必要がある。この演習では、福祉住環境コーディネーターの学習を通して、高齢者や障がい者の住環境を構築するうえで、福祉住環境整備を統括して見わたすことができる人材としての知識を学ぶ。また、アクティブラーニングとして、福祉住環境コーディネーター検定試験問題の検討を行う。また、施設見学の事前・事後レポートを作成する。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
福祉住環境コーディネーター2級の資格取得を目指す。	目標	A
高齢者や障害者に対し、できるだけ自立した生き生きと生活できる住環境を提案できる。	目標	A・J
コーディネーターとして、福祉に関わる各職種間のコミュニケーションが取れる。	目標	A・J・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・講師の紹介、演習の概要・目標・進め方 ・演習の選択理由・目標	映像プレゼンテーション 授業計画・配付資料	演習の選択理由について考える
2	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義	映像プレゼンテーション 配付資料	高齢者・障害者の環境調査
3	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義	映像プレゼンテーション 配付資料	高齢者・障害者の環境調査
4	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義	映像プレゼンテーション 配付資料	高齢者・障害者の環境調査

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義	映像プレゼンテーション 配付資料 JWCAD	高齢者・障害者の環境調査
6	障害のとらえ方と自立支援のあり方	映像プレゼンテーション 配付資料	自立支援のあり方調査
7	障害のとらえ方と自立支援のあり方	映像プレゼンテーション 配付資料	自立支援のあり方調査
8	疾患別・障害別にみた不便・不自由と福祉住環境の考え方	映像プレゼンテーション 配付資料	疾患・障害に関する調査
9	疾患別・障害別にみた不便・不自由と福祉住環境の考え方	映像プレゼンテーション 配付資料	疾患・障害に関する調査
10	疾患別・障害別にみた不便・不自由と福祉住環境の考え方	映像プレゼンテーション 配付資料	疾患・障害に関する調査
11	相談援助の考え方と福祉住環境の考え方	映像プレゼンテーション 配付資料	疾患・障害に関する調査
12	相談援助の考え方と福祉住環境の考え方	映像プレゼンテーション 配付資料	疾患・障害に関する調査
13	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識	映像プレゼンテーション 配付資料	福祉住環境整備に関する調査
14	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識	映像プレゼンテーション 配付資料	福祉住環境整備に関する調査
15	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識	映像プレゼンテーション 配付資料	福祉住環境整備に関する調査
期末 試験	福祉住環境コーディネーター2級検定試験過去問題	配付資料	福祉住環境整備に関する調査
16	在宅生活における福祉用具の活用	映像プレゼンテーション 配付資料	在宅生活に関する調査
17	在宅生活における福祉用具の活用	映像プレゼンテーション 配付資料	在宅生活に関する調査
18	福祉住環境コーディネーター検定試験問題の研究	映像プレゼンテーション 配付資料	試験問題の調査
19	福祉住環境コーディネーター検定試験問題の研究	映像プレゼンテーション 配付資料	試験問題の調査
20	福祉住環境コーディネーター検定試験問題の研究	映像プレゼンテーション 配付資料	試験問題の調査
21	福祉住環境コーディネーター検定試験問題の研究	映像プレゼンテーション 配付資料	試験問題の調査
22	福祉住環境コーディネーター検定試験問題の研究	映像プレゼンテーション 配付資料	試験問題の調査

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
23	本学建築（宮代キャンパス）視察	福祉用具の実際を視察	事前・事後学習 レポート作成
24	福祉用具ショールーム視察	福祉用具の実際を視察	事前・事後学習 レポート作成
25	福祉住環境事例の検討 ・福祉関係ビデオ閲覧 「2025年問題」（4分） 「良くわかる介護保険制度」（8分）	映像プレゼンテーション 配付資料	福祉住環境整備に関する調査
26	福祉住環境事例の検討 ・福祉関係ビデオ閲覧 「認知症ケア 優しさを伝える技術 ユマニチュード」（24分）	映像プレゼンテーション 配付資料	福祉住環境整備に関する調査
27	福祉住環境事例の検討 ・福祉関係ビデオ閲覧 「ユマニチュード実践例①、②、③」（20分）	映像プレゼンテーション 配付資料	福祉住環境整備に関する調査
28	福祉住環境事例の検討 ・福祉関係ビデオ閲覧 「幸せホルモン・オキシトシン」（7分）	映像プレゼンテーション 配付資料	福祉住環境整備に関する調査
29	福祉住環境事例の検討 ・福祉関係ビデオ閲覧 「ベッドサイドトイレ・夢が生まれる理想の義足」（12分）	映像プレゼンテーション 配付資料	福祉住環境整備に関する調査
30	福祉住環境事例の検討 ・福祉関係ビデオ閲覧 「電動車いす WHILL・良くわかる介護保険」（12分）	映像プレゼンテーション 配付資料	福祉住環境整備に関する調査
期末試験	福祉住環境コーディネーター2級検定試験過去問題	配付資料	予習・復習
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<p>目標A・J：筆記試験：前期、後期合わせて80点満点で評価し、平均値を採用する。</p> <p>目標A・K：視察事前・事後学習レポートを20点で評価する。</p> <p>・欠席、遅刻、授業中の態度等については、シラバス掲載の「学業成績評価の共通基準」に沿う。</p>			
教科書		参考書	
使用しない。		<p>書名：福祉住環境コーディネーター検定試験2級 公式テキスト</p> <p>著者名：東京商工会議所 発行所：東京商工会議所 価格：4,500円（税別）</p>	
その他補足事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・建築物視察交通費（約1,000円程度）は、学生個人負担とする。 ・福祉用具視察場所は先方の都合で実施日に変更になる場合がある。 			

授 業 科 目 名	特 別 研 究 I (地域の福祉)		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	3 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 日 下 輝 美		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間		柴田町社会福祉協議会 (昭和60年7月~平成19年3月)		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		福島県社会福祉協議会評議員、福島県子ども・子育て会議副会長、柴田町教育委員会委員		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了 修士 (経営学) 日本地域福祉学会、日本社会福祉学会		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業		専 門 教 育 科 目	選 択	
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	30 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		オ フ ィ ス ア ワ ー に つ い て は 初 回 授 業 時 に 説 明 し ま す 。 メ ー ル ア ド レ ス : kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>「地域福祉」とは、それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるよう、地域住民や公私の社会福祉関係者等が、お互いに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組む考え方です。</p> <p>この授業は、「東日本大震災・原発事故以降の福島のコミュニティ再生に関する課題を可視化する」をテーマに、課題解決型学習PBL (Project-Based Learning) により、自分たちで地域の課題を考え、レポート、ワークショップ等を行います。授業は、市民公益活動パートナーズと連携のもとに実施します。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力
○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
地域診断を通じて、課題を解決する活動の提案ができる。	目標	I
地域の社会資源をマッピングできる。	目標	L
フィールドワークを通して新たな活動を提案・企画できる。	目標	K

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 課題解決型学習PBLの説明と流れ	授業補足資料配付	
2	〈講義〉地域型とテーマ型活動組織 ・市民公益活動パートナーズ紹介 ・地域社会を取り巻く様々なセクター ・地域づくりや住民の暮らしに貢献する民間組織	授業補足資料配付	予習：NPO活動について調べてくる
3	〈WS〉地域の支え合いを知る① 家やキャンパスの周りを調べてみよう	WorkSheetの作成	復習：課題の完成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	〈WS〉地域の支え合いを話し合う② 地域で行われている活動は？その課題は？	WorkSheetの提出 模造紙	予習：地域活動について調べる
5	〈講義〉〈演習の投げかけ〉 「子どもの見守り・健全育成に関わる活動」について — 私たちに出来ることを考える	ゲストスピーカー招聘	宿題：講義の感想を書く
6	〈フィールドワーク〉	福島市白地図	集合場所：飯電「上松川駅」
7	「北沢又」を歩く・調べる①、②	WorkSheetの作成	
8	〈WS〉「北沢又」の活動を企画する①	WorkSheetの提出 PlanSheetの配付	復習：課題を完成させる
9	〈WS〉「北沢又」の活動を企画する②	模造紙 PlanSheetの作成	復習：課題を完成させる
10	〈WS〉「北沢又」の活動を企画する③	PlanSheetの完成 準備物表、参加者アンケート 作成、Report書式等配付	復習：課題を完成させる
11	〈講義〉〈WS〉活動に向けたリハーサル	準備物の確認、追加 役割分担等のミーティング	復習：課題を完成させる
12	〈フィールドワーク〉	Reportの配付～作成	宿題：Reportの作成
13	「北沢又」で活動する①、②		
14	〈WS〉活動を振り返る・まとめ方を考える 活動で叶ったこと、課題として残った事 活動をどうまとめる？	Reportの提出 ゲストスピーカー招聘	復習：課題を完成させる
15	〈WS〉活動を可視化する・伝える	紙面構成の検討～作成 タイトル、テキスト等の作成	宿題：紙面ラフSheetの作成
16	前期の振り返りと後期学習の説明と流れ		復習：課題を完成させる
17	〈講義〉〈演習の投げかけ〉 「高齢者・障がい者の暮らしを支える、楽しみを増やす活動」 — 私たちに出来ることを考える	ゲストスピーカー招聘	復習：課題を完成させる
18	〈WS〉「飯坂」の活動をイメージする	WorkSheetの作成	復習：課題を完成させる
19	〈フィールドワーク〉	福島市白地図	集合場所：飯電「飯坂温泉駅」
20	「飯坂市街地」を歩く・調べる①、②	WorkSheetの作成	
21	〈WS〉「飯坂」の活動を企画する①	WorkSheetの提出 PlanSheetの作成	復習：課題を完成させる
22	〈WS〉「飯坂」の活動を企画する②	PlanSheetの提出～検討	復習：課題を完成させる
23	〈講義〉〈WS〉「飯坂」の活動に向けたリハーサル	準備物の確認、追加 役割分担のミーティング	復習：課題を完成させる
24	〈フィールドワーク〉	Reportの配付～作成	宿題：Reportの作成
25	「飯坂」で活動する①、②		

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	〈WS〉活動を振り返る・まとめ方を考える 活動で叶ったこと、課題として残った事 活動の成果のまとめ(話し合い)	Reportの提出 模造紙 PlanSheetの配付～作成	復習：課題を完成させる
27	〈WS〉活動を可視化する・伝える①	PlanSheetの提出、検討	復習：課題を完成させる
28	〈WS〉活動を可視化する・伝える②	PlanSheetの検討 紙面	復習：課題を完成させる
29	〈WS〉活動を可視化する・伝える③	成果物作成作業(完成)	復習：課題を完成させる
30	活動や成果物を振り返り、今後どう地域と関わって いくかについてディスカッション、発表する	ディスカッション、プレゼン テーション	
期末 試験	後期期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価(評価方法・基準)			
目標K：期末試験 50点 目標I：ディスカッションの発言 20点 目標L：成果物作成評価 30点			
教科書			
使用しない。			

授 業 科 目 名	特 別 研 究 I 「こころの健康と精神障がい者の地域生活支援」		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：藤 原 正 子		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・葵橋ファミリークリニック・京都市児童福祉センター総合療育部・福島県精神保健福祉センター、上田保健所等（18年6ヶ月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県精神保健福祉士会理事			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程 文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士、英国hcpc登録ソーシャルワーカー、CAP（子どもへの暴力防止教育プログラム）スペシャリスト、メリデン版ファミリーワーク基礎研修修了 日本社会福祉学会、日本子ども虐待防止学会、日本精神保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会他			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail : fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
心の健康と精神障がい者の地域生活支援についての演習を行う。病気によって失われる命や障がいによって損なわれる健康生活というWHOの指標からも、国民の心の健康の推進が求められる。本科目では、子どもの心の発達と家族支援について理解し、また、たまたま精神疾患を患った人が地域でその人らしく当たり前生きる生活支援事例を見ていく。並行して履修者各自が自分の関心あるテーマについて授業で発表し学び合い、小論文にまとめていく。	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
心の健康を推進するために、各自ができること、身近な家族や学校・職場や地域の周りの人々ができること、そして政策レベルの課題について考えることができるようになる。	目標	A
子どもの心の発達を促す家族関係やそれに準ずる養育環境のあり方について理解する。	目標	A
精神障がいの特徴を理解し、認知機能障害を持つ精神障がい者が地域で当たり前前に暮らしている事例を通して、一人ひとりのリカバリーとその人らしい生き方と生活支援のあり方について互いに学び合うことができるようになる。	目標	D・K
履修者各自の研究テーマを見つけ出し、情報収集・資料検索等を通して自分で調べた内容を発表した上で小論文にまとめる。	目標	D・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション こころの健康と精神保健福祉	プリント	各自のテーマ設定準備
2	精神障がい者の地域生活支援 ① 続・不思議なレストラン はじめに	ビデオ「統合失調症を生きる」20分	発表資料準備 資料確認と整理
3	精神障がい者の地域生活支援 ② 続・クッキングハウス物語	プリント	〃
4	アディクション ― 止めたいのに止められない罪悪感	〃	〃
5	精神障がい者の地域生活支援 ③ 人生という長い尺度で旅立ちを見守る 〈小山くんのこと〉	〃	〃
6	精神障がい者の地域生活支援 ④ ここが私の故郷です 〈妙子さんのこと〉	〃	〃
7	子どもの問題の理解 症状の見立て方	〃	〃
8	子どもの発達 愛着、心の安全基地、親の役割	〃	〃
9	子どもの発達 個性差	〃	〃
10	子どもの心の発達と家族支援 分離と喪失 崩壊家庭と家庭不和	〃	〃
11	特別研究の小論文作成に向けたテーマ設定	〃	各自の研究テーマを探す
12	リカバリーへの道としてのリハビリテーション① 「日常生活の障害」とは何か リカバリーはどのように障害と関係しているのか	〃	発表資料準備 資料の確認と整理
13	リカバリーへの道としてのリハビリテーション② リカバリーとは何か 精神障害リハビリテーションとは何か	〃	〃
14	治療とリハビリテーションに家族の関与を得る①	〃	〃
15	治療とリハビリテーションに家族の関与を得る② 各自の研究テーマ中間発表①	〃	発表準備と発表後の修正
16	各自の研究テーマ中間発表②	発表テーマ別グルーピング	発表準備と発表後の修正
17	研究個別報告①	発表と質疑応答	〃
18	研究個別報告②	〃	〃
19	研究個別報告③	〃	〃
20	研究個別報告④	〃	〃
21	研究個別報告⑤	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	研究個別報告⑥	発表と質疑応答	発表準備と発表後の修正
23	研究個別報告⑦	〃	〃
24	研究個別報告⑧	〃	〃
25	研究個別報告⑨	〃	〃
26	研究個別報告⑩	〃	〃
27	研究成果報告準備①	グループ討議	発表資料準備
28	研究成果報告準備②	〃	〃
29	特別研究発表①	発表と質疑応答	発表準備と感想文作成
30	特別研究発表②	〃	〃
授業の到達目標に必ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>目標 A・D・K : 授業時の発言等参加態度50%</p> <p>目標 D・K : 発表時のレポート内容、特別研究小論文等の課題の消化度および提出期限を守っているか等50%により評価する。</p> <p>シラバスの「成績評価への補足的対応措置」を読んでおいて下さい。詳しくは第1回目の授業に説明する。</p>			
教科書		参考書	
<p>書名：続・不思議なレストラン 著者名：松浦幸子 発行所：教育史料出版会 価格：1,600円（税別）</p>		<p>書名：子どもの精神医学 著者名：マイケル・ラター 発行所：ルガル社 価格：6,800円</p> <p>書名：精神障害と回復——リバーマンのリハビリテーション・マニュアル 著者名：R.P.リバーマン 発行所：星和書店 価格：6,600円（税別）</p>	
その他補足事項			
授業の進捗程度・等により、授業内容を変更する場合があります。			

授 業 科 目 名	特 別 研 究 I (臨床心理学研究法)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：木 村 泰 博		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等		特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了、修士(人間科学) 公認心理師、臨床心理士、認定行動療法士、日本認知・行動療法学会、日本 行動医学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは初回授業時に説明します。 メールアドレス：kimura.yasuhiro fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>認知行動療法や行動療法の基本的な理論、具体的な援助方法、および臨床心理学的問題の実際に関する理解を深めることを目的とする。</p> <p>そこで、本授業では、認知行動療法や行動療法に関する文献講読を行うなかで、その基礎となる理論から実際の臨床心理学的問題までを幅広く取り上げ学習を深める。</p>	<input type="radio"/>	A 知識
		B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
認知行動療法や行動療法の基本的な理論、具体的な援助方法の理解、説明ができる。	目標	A・C・I
臨床心理学的問題について、行動論、認知論に基づいて説明することができる。	目標	A・C・I

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション	授業の進め方について 発表、ディスカッション	
2	文献検索とレジユメの作成方法	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
3	文献購読、臨床心理学の研究法①(実験法)	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
4	文献購読、臨床心理学の研究法②(調査法)	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
5	文献購読、臨床心理学の研究法③(ケース研究法)	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
6	文献購読、臨床心理学の研究法④(質的研究法)	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
7	心理統計法①	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
8	心理統計法②	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
9	心理統計法③	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
10	心理的支援技術の理解①	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
11	心理的支援技術の理解②	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
12	心理的支援技術の理解③	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
13	文献購読	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
14	文献購読	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
15	文献購読	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
16	臨床心理学研究法試行（先行研究の検索）	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
17	臨床心理学研究法試行（先行研究の検索）	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
18	臨床心理学研究法試行（先行研究の検索）	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
19	臨床心理学研究法試行（研究計画の立案）	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
20	臨床心理学研究法試行（研究計画の立案）	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
21	臨床心理学研究法試行（研究計画の立案）	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
22	臨床心理学研究法試行（データ収集）	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
23	臨床心理学研究法試行（データ収集）	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
24	臨床心理学研究法試行（データ分析）	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
25	臨床心理学研究法試行（データ分析）	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
26	臨床心理学研究法試行（執筆）	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
27	臨床心理学研究法試行（執筆）	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
28	臨床心理学研究法試行（発表）	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
29	臨床心理学研究法試行（発表）	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
30	まとめ	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標 A・C・I：理解度テスト10点 討論への参加度50点 レポート40点			
教科書			
使用しない。			
その他補足事項			
予習として発表レジュメの作成を求める。 発表文献については、授業の2週間前までに教員に確認した上でレジュメの作成を行うこと。 学習成果の発表機会などを適宜設ける。 理解度テストは、30回の授業時間内に数度、実施する。			

授 業 科 目 名	特 別 研 究 I (臨床心理学研究法)		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	3 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 岸 良 範	よ し の り	開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	愛知教育大学、茨城大学、各臨床心理相談室相談員他 (平成12年4月～平成29年3月)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	日本臨床心理士資格認定協会理事 専門職大学院認証評価判定委員会副委員長他			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了、文学修士 臨床心理士、心理臨床学会、箱庭療法学会、精神分析学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	30 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー : 木 曜 日 メ ー ル ア ド レ ス : kishi.yoshinori_fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
臨床 (clinical) という言葉は、ギリシャ語で「寝台」を意味する「クリネーク」に由来する。元々臨床とは、医療的な治療を施す術がなくなってしまった病人に対して、枕元で魂の旅立ちを世話する僧侶の役割を示すものであった。その現代的意味では、援助を求める人に対して道を共にするということがその主題となる。そのためには、人を知りその上で支援の方法を考えていくことが大事なことである。この授業では、人間に対する様々な理論を学びながら、どのような支援が役立つのか、道を共にする研究法は何か検討していくことになる。	○	A 知識
		B 技術・技能
	○	C 論理的思考力
		D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○	J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 様々な理論を通じて、心のメカニズムを知る。	目標	A
② 様々な症例を通じて、アセスメント力を高める。	目標	C
③ アセスメントを通じて、支援の方法を身につける。	目標	A・C
④ ひとつの症例の背後には、多様な事情があることを理解する。	目標	I・J
⑤ 人に寄り添うことの意味を考えられるようになる。	目標	J

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【 予 習 ・ 復 習 】
1	臨床心理学とは何を目標としているか	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
2	実践の学問としての臨床心理学の科学性	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
3	精神医学と臨床心理学との違い	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	理解することと援助すること	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
5	ケーススタディ① 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
6	ケーススタディ② 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
7	臨床心理学の様々な理論の有効性①	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
8	臨床心理学の様々な理論の有効性②	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
9	ケーススタディ③ 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
10	ケーススタディ④ 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
11	症状を持つとはどういうことか	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
12	主な援助の対象① 神経症、うつ病、統合失調症、人格障害 等	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
13	主な援助の対象② 発達障害、知的障害	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
14	ケーススタディ⑤ 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
15	ケーススタディ⑥ 実際の事例を検討する。	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
16	人間の心を理解する① — アセスメント —	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
17	人間の心を理解する② — アセスメント —	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
18	臨床心理学的援助の実践①	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
19	臨床心理学的援助の実践②	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
20	個人研究課題の検討	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
21	個人研究課題の検討	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
22	個人研究課題の検討	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
23	個人研究課題の検討	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
24	個人研究課題の検討	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
25	個人研究課題の検討	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
26	個人研究課題の検討	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
27	個人研究課題の検討	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
28	個人研究課題の発表	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
29	個人研究課題の発表	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
30	個人研究課題の発表	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<ul style="list-style-type: none"> • 目標 A・C・J：各回の小レポートと最終レポート（50%） • 目標 I：講義中における個人課題におけるプレゼンテーション（50%） 			
教科書			
<p>書名：臨床心理学 ― 全体的存在としての人間を理解する（予定） 著者名：伊藤良子（編者） 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,500円（税別）</p>			
その他補足事項			
<p>授業の理解度に応じて、講義の順番の入替が予定される。 理解度に合わせて参考文献を随時紹介する。</p>			

授 業 科 目 名	特 別 研 究 I (臨床心理学研究法)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	3年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：渡 邊 勉	わた なべ つとむ	開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	聖マリアンナ医科大学病院神経精神科心理技術員・臨床心理士（昭和57年1月～平成14年3月） 目白大学カウンセリングセンター相談員（平成14年4月～平成30年3月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島市自殺対策ネットワーク会議議長、日本心理臨床学会代議員			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程修了、文学修士 博士（医学）、臨床心理士、日本精神分析学会認定心理療法師 公認心理師、心理臨床学会、森田療法学会			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワー：水曜日午後 メールアドレス：tsutomu.watanabe@fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>本演習は、大学院進学者の履修を想定し、上限5名とするが、進学予定はあくまでも予定にすぎないと理解しているため、進学意志の有無よりも、3年次～4年次の2年間をかけてじっくり「臨床心理学」に親しまいたい学生の希望にこたえたい。</p> <p>特に、精神分析的心理療法・カウンセリング、森田療法、内観療法など洞察（内省）志向的アプローチに興味を持ち、さまざまな問題について、参考文献を探し、一緒に読書し、討論し、考察を深めたい学生を歓迎する。</p> <p>履修者の人数・興味によって授業内容を変更することがある。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	○ J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力
L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
参考文献を探しだし、読み込み、討論し、考察できる。	目標	I
人間の心理・行動を幅広い視点・複数の理論から理解できる。	目標	J
これからどうするかを提案できる。	目標	K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	なぜ私は臨床心理学を学びたかったか？ 学んだこと・学びたいこと	教員の自己紹介と討論 資料配付	自由討論
2	これからどんなことを学びたいか？ 学ぶための方法・「事例性」について	全体討論・資料配付	自由討論
3	臨床心理学の方法①：内省・内観	内観療法のデモテープを聴く	レジメ作成
4	臨床心理学の方法②：イメージ(箱庭・コラージュ療法)	事例紹介・全体討論	レジメ作成
5	臨床心理学の方法③：自然（ネイチャープレイ）	担当者発表・全体討論	レジメ作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	臨床心理学の方法④：投影・投映法	担当者発表・全体討論	レジメ作成
7	臨床心理学の方法⑤：夢をあじわう	担当者発表・全体討論	レジメ作成
8	臨床心理学の方法⑥：想定書簡法	事例紹介・全体討論	レジメ作成
9	臨床心理学の方法⑦：病跡学・伝記	担当者発表・全体討論	レジメ作成
10	臨床心理学の方法⑧：家系図法	担当者発表・全体討論	レジメ作成
11	臨床心理学の方法⑨：前方視的研究	担当者発表・全体討論	レジメ作成
12	臨床心理学の方法⑩：こころ・からだ・痛み	担当者発表・全体討論	レジメ作成
13	臨床心理学の方法⑪：物語（ナラティブ）	担当者発表・全体討論	レジメ作成
14	臨床心理学の方法⑫：トラウマ	担当者発表・全体討論	レジメ作成
15	前期のまとめ	全体討論	
16	臨床事例・参考文献を読む①	担当者発表・全体討論	レジメ作成
17	臨床事例・参考文献を読む②	担当者発表・全体討論	レジメ作成
18	臨床事例・参考文献を読む③	担当者発表・全体討論	レジメ作成
19	臨床事例・参考文献を読む④	担当者発表・全体討論	レジメ作成
20	臨床事例・参考文献を読む⑤	担当者発表・全体討論	レジメ作成
21	臨床事例・参考文献を読む⑥	担当者発表・全体討論	レジメ作成
22	臨床事例・参考文献を読む⑦	担当者発表・全体討論	レジメ作成
23	臨床事例・参考文献を読む⑧	担当者発表・全体討論	レジメ作成
24	臨床事例・参考文献を読む⑨	担当者発表・全体討論	レジメ作成
25	臨床事例・参考文献を読む⑩	担当者発表・全体討論	レジメ作成
26	臨床事例・参考文献を読む⑪	担当者発表・全体討論	レジメ作成
27	臨床事例・参考文献を読む⑫	担当者発表・全体討論	レジメ作成
28	臨床事例・参考文献を読む⑬	担当者発表・全体討論	レジメ作成
29	臨床事例・参考文献を読む⑭	担当者発表・全体討論	レポート作成
30	総合ディスカッション（後期）	課題レポート提出	
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
前期 目標 I・J : 授業時の発表ディスカッション (50点) 後期 目標 I・J・K : 期末レポート (50点) 前期と後期の結果を総合して評価します。			
その他補足事項			
履修を決める前に研究室に訪ねてきてくれると、お互いの情報交換が出来て有益だと思います。			

授 業 科 目 名	特 別 研 究 Ⅱ (地域の福祉)		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	4 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 日 下 輝 美		開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	有
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間		柴田町社会福祉協議会 (昭和60年7月~平成19年3月)		
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等		福島県社会福祉協議会評議員、福島県子ども・子育て会議副会長、柴田町教育委員会委員		
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等		東北大学大学院経済学研究科博士課程前期現代応用経済科学専攻 修了 修士 (経営学) 日本地域福祉学会、日本社会福祉学会		
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許		授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別	
卒 業		専 門 教 育 科 目	選 択	
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	30 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等		オ フ ィ ス ア ワ ー に つ い て は 初 回 授 業 時 に 説 明 し ま す 。 メ ー ル ア ド レ ス : kusaka.terumi@fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
<p>「地域福祉」とは、それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるよう、地域住民や公私の社会福祉関係者等が、お互いに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組む考え方です。</p> <p>この授業は、「東日本大震災・原発事故以降の福島のコミュニティ再生に関する課題を可視化する」をテーマに、課題解決型学習PBL (Project-Based Learning) により、自分たちで地域の課題を考え、レポート、ワークショップ等を行います。授業は、市民公益活動パートナーズと連携のもとに実施します。</p>	A	知識
	B	技術・技能
	C	論理的思考力
	D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力
○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
地域診断を通じて、課題を解決する活動の提案ができる。	目標	I
地域の社会資源をマッピングできる。	目標	L
フィールドワークを通して新たな活動を提案・企画できる。	目標	K

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 課題解決型学習PBLの説明と流れ	授業補足資料配付	
2	〈講義〉地域型とテーマ型活動組織 ・市民公益活動パートナーズ紹介 ・地域社会を取り巻く様々なセクター ・地域づくりや住民の暮らしに貢献する民間組織	授業補足資料配付	予習：NPO活動について調べてくる
3	〈WS〉地域の支え合いを知る① 家やキャンパスの周りを調べてみよう	WorkSheetの作成	復習：課題の完成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	〈WS〉地域の支え合いを話し合う② 地域で行われている活動は？その課題は？	WorkSheetの提出 模造紙	予習：地域活動について調べる
5	〈講義〉〈演習の投げかけ〉 「子どもの見守り・健全育成に関わる活動」について — 私たちに出来ることを考える	ゲストスピーカー招聘	宿題：講義の感想を書く
6	〈フィールドワーク〉 「北沢又」を歩く・調べる①、②	福島市白地図 WorkSheetの作成	集合場所：飯電「上松川駅」
7			
8	〈WS〉「北沢又」の活動を企画する①	WorkSheetの提出 PlanSheetの配付	復習：課題を完成させる
9	〈WS〉「北沢又」の活動を企画する②	模造紙 PlanSheetの作成	復習：課題を完成させる
10	〈WS〉「北沢又」の活動を企画する③	PlanSheetの完成 準備物表、参加者アンケート 作成、Report書式等配付	復習：課題を完成させる
11	〈講義〉〈WS〉活動に向けたリハーサル	準備物の確認、追加 役割分担等のミーティング	復習：課題を完成させる
12	〈フィールドワーク〉 「北沢又」で活動する①、②	Reportの配付～作成	宿題：Reportの作成
13			
14	〈WS〉活動を振り返る・まとめ方を考える 活動で叶ったこと、課題として残った事 活動をどうまとめる？	Reportの提出 ゲストスピーカー招聘	復習：課題を完成させる
15	〈WS〉活動を可視化する・伝える	紙面構成の検討～作成 タイトル、テキスト等の作成	宿題：紙面ラフSheetの作成
16	前期の振り返りと後期学習の説明と流れ		復習：課題を完成させる
17	〈講義〉〈演習の投げかけ〉 「高齢者・障がい者の暮らしを支える、楽しみを増やす活動」 — 私たちに出来ることを考える	ゲストスピーカー招聘	復習：課題を完成させる
18	〈WS〉「飯坂」の活動をイメージする	WorkSheetの作成	復習：課題を完成させる
19	〈フィールドワーク〉 「飯坂市街地」を歩く・調べる①、②	福島市白地図 WorkSheetの作成	集合場所：飯電「飯坂温泉駅」
20			
21	〈WS〉「飯坂」の活動を企画する①	WorkSheetの提出 PlanSheetの作成	復習：課題を完成させる
22	〈WS〉「飯坂」の活動を企画する②	PlanSheetの提出～検討	復習：課題を完成させる
23	〈講義〉〈WS〉「飯坂」の活動に向けたリハーサル	準備物の確認、追加 役割分担のミーティング	復習：課題を完成させる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	〈フィールドワーク〉 「飯坂」で活動する①、②	Reportの配付～作成	宿題：Reportの作成
25			
26	〈WS〉活動を振り返る・まとめ方を考える 活動で叶ったこと、課題として残った事 活動の成果のまとめ（話し合い）	Reportの提出 模造紙 PlanSheetの配付～作成	復習：課題を完成させる
27	〈WS〉活動を可視化する・伝える①	PlanSheetの提出、検討	復習：課題を完成させる
28	〈WS〉活動を可視化する・伝える②	PlanSheetの検討 紙面	復習：課題を完成させる
29	〈WS〉活動を可視化する・伝える③	成果物作成作業（完成）	復習：課題を完成させる
30	活動や成果物を振り返り、今後どう地域と関わって いくかについてディスカッション、発表する	ディスカッション、プレゼン テーション	
期末 試験	後期期末試験		
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標K：期末試験 50点 目標I：ディスカッションの発言 20点 目標L：成果物作成評価 30点			
教科書			
使用しない。			

授 業 科 目 名	特 別 研 究 Ⅱ 「こころの健康と精神障がい者の地域生活支援」		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名：教授 氏名：藤 原 正 子 ふじ わら まさ こ		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間	英国王立盲学校重複障害者生活自立支援施設・英国コヴェントリー市社会福祉局危機介入チーム・障害者洛南共同作業所・葵橋ファミリークリニック・京都市児童福祉センター総合療育部・福島県精神保健福祉センター、上田保健所等（18年6ヶ月）			
社会貢献としての委員会・職 等	福島県精神保健福祉士会理事			
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等	同志社大学文学研究科社会福祉学専攻修士課程 文学修士 英国マンチェスター大学医学部精神科精神医学ソーシャルワークディプロマ課程修了 Diploma in PSW 精神保健福祉士、英国hcpc登録ソーシャルワーカー、CAP（子どもへの暴力防止教育プログラム）スペシャリスト、メリデン版ファミリーワーク基礎研修修了 日本社会福祉学会、日本子ども虐待防止学会、日本精神保健福祉学会、日本精神障害者リハビリテーション学会他			
卒業・資格・免許	授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業	専門教育科目	選択		
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーについては初回授業時に説明します。 E-mail : fujiwara.masako fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
心の健康と精神障がい者の地域生活支援についての演習を行う。病気によって失われる命や障がいによって損なわれる健康生活というWHOの指標からも、国民の心の健康の推進が求められる。本科目では、子どもの心の発達と家族支援について理解し、また、たまたま精神疾患を患った人が地域でその人らしく当たり前生きる生活支援事例を見ていく。並行して履修者各自が自分の関心あるテーマについて授業で発表し学び合い、小論文にまとめていく。	○	A 知識
		B 技術・技能
		C 論理的思考力
	○	D 文章表現力
		E 表情及び身体表現力
		F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
	○	K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
心の健康を推進するために、各自ができること、身近な家族や学校・職場や地域の周りの人々ができること、そして政策レベルの課題について考えることができるようになる。	目標	A
子どもの心の発達を促す家族関係やそれに準ずる養育環境のあり方について理解する。	目標	A
精神障がいの特徴を理解し、認知機能障害を持つ精神障がい者が地域で当たり前前に暮らしている事例を通して、一人ひとりのリカバリーとその人らしい生き方と生活支援のあり方について互いに学び合うことができるようになる。	目標	D・K
履修者各自の研究テーマを見つけ出し、情報収集・資料検索等を通して自分で調べた内容を発表した上で小論文にまとめる。	目標	D・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション こころの健康と精神保健福祉	プリント	各自のテーマ設定準備
2	精神障がい者の地域生活支援 ① 続・不思議なレストラン はじめに	ビデオ「統合失調症を生きる」20分	発表資料準備 資料確認と整理
3	精神障がい者の地域生活支援 ② 続・クッキングハウス物語	プリント	〃
4	アディクション ― 止めたいのに止められない罪悪感	〃	〃
5	精神障がい者の地域生活支援 ③ 人生という長い尺度で旅立ちを見守る 〈小山くんのこと〉	〃	〃
6	精神障がい者の地域生活支援 ④ ここが私の故郷です 〈妙子さんのこと〉	〃	〃
7	子どもの問題の理解 症状の見立て方	〃	〃
8	子どもの発達 愛着、心の安全基地、親の役割	〃	〃
9	子どもの発達 個性差	〃	〃
10	子どもの心の発達と家族支援 分離と喪失 崩壊家庭と家庭不和	〃	〃
11	特別研究の小論文作成に向けたテーマ設定	〃	各自の研究テーマを探す
12	リカバリーへの道としてのリハビリテーション① 「日常生活の障害」とは何か リカバリーはどのように障害と関係しているのか	〃	発表資料準備 資料の確認と整理
13	リカバリーへの道としてのリハビリテーション② リカバリーとは何か 精神障害リハビリテーションとは何か	〃	〃
14	治療とリハビリテーションに家族の関与を得る①	〃	〃
15	治療とリハビリテーションに家族の関与を得る② 各自の研究テーマ中間発表①	〃	発表準備と発表後の修正
16	各自の研究テーマ中間発表②	発表テーマ別グルーピング	発表準備と発表後の修正
17	研究個別報告①	発表と質疑応答	〃
18	研究個別報告②	〃	〃
19	研究個別報告③	〃	〃
20	研究個別報告④	〃	〃
21	研究個別報告⑤	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	研究個別報告⑥	発表と質疑応答	発表準備と発表後の修正
23	研究個別報告⑦	〃	〃
24	研究個別報告⑧	〃	〃
25	研究個別報告⑨	〃	〃
26	研究個別報告⑩	〃	〃
27	研究成果報告準備①	グループ討議	発表資料準備
28	研究成果報告準備②	〃	〃
29	特別研究発表①	発表と質疑応答	発表準備と感想文作成
30	特別研究発表②	〃	〃
授業の到達目標に必ずる到達度の評価 (評価方法・基準)			
<p>目標 A・D・K : 授業時の発言等参加態度50%</p> <p>目標 D・K : 発表時のレポート内容、特別研究小論文等の課題の消化度および提出期限を守っているか等50%により評価する。</p> <p>シラバスの「成績評価への補足的対応措置」を読んでおいて下さい。詳しくは第1回目の授業に説明する。</p>			
教科書		参考書	
<p>書名：続・不思議なレストラン 著者名：松浦幸子 発行所：教育史料出版会 価格：1,600円（税別）</p>		<p>書名：子どもの精神医学 著者名：マイケル・ラター 発行所：ルガル社 価格：6,800円</p> <p>書名：精神障害と回復 ― リバーマンのリハビリテーション・マニュアル 著者名：R.P.リバーマン 発行所：星和書店 価格：6,600円（税別）</p>	
その他補足事項			
授業の進捗程度・等により、授業内容を変更する場合があります。			

授 業 科 目 名	特 別 研 究 Ⅱ (臨床心理学研究)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	4年次
担 当 教 員	職名：講師 氏名：木 ^き 村 ^{むら} 泰 ^{やす} 博 ^{ひろ}		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授業に関する主な実務経験と期間		特記事項なし		
社会貢献としての委員会・職 等		特記事項なし		
最終卒業(修了)学校及び学位 等 資格・免許及び所属学会 等		早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了、修士(人間科学) 公認心理師、臨床心理士、認定行動療法士、日本認知・行動療法学会、日本行動医学会		
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは初回授業時に説明します。 メールアドレス：kimura.yasuhiro fukushima-college.ac.jp		

授 業 の 概 要	授業の概要及び到達目標との対応項目	
<p>認知行動療法や行動療法の基本的な理論、具体的な援助方法、および臨床心理学的問題の実際に関する理解を深めることを目的とする。</p> <p>そこで、本授業では、認知行動療法や行動療法に関して自らの関心を踏まえた題材をもとに実際に研究を行う。</p>	<input type="checkbox"/>	A 知識
	<input type="checkbox"/>	B 技術・技能
	<input type="checkbox"/>	C 論理的思考力
	<input type="checkbox"/>	D 文章表現力
	<input type="checkbox"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="checkbox"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G 協働能力
	<input type="checkbox"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="checkbox"/>	K 課題対処力
	<input type="checkbox"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授業の到達目標	授業の概要・到達目標との対応項目 (受講して得られる力)	
認知行動療法に関して興味ある題材をもとに研究を行い、まとめる。	目標	C・K

授 業 計 画			
回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション	授業の進め方について 発表、ディスカッション	
2	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
3	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
4	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
5	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
6	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成
7	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジユメの作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
8	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
9	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
10	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
11	研究計画の立案	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
12	データ収集	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
13	データ収集	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
14	データ収集	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
15	データ収集	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
16	データ分析	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
17	データ分析	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
18	データ分析	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
19	データ分析	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
20	執筆	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
21	執筆	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
22	執筆	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
23	執筆	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
24	執筆	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
25	執筆	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
26	執筆	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
27	発表の準備	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
28	発表の準備	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
29	発表の準備	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
30	発表	発表、ディスカッション	予習：発表レジュメの作成
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
目標C：研究レポート 90点 目標K：研究遂行のための取り組み 10点			
教科書			
使用しない。			
その他補足事項			
予習として発表レジュメの作成を求める。 学習成果の発表機会などを適宜設ける。			

授 業 科 目 名	特 別 研 究 Ⅱ (臨床心理学研究法)		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	4 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 岸 良 範	よ し の り	開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 す る 主 な 実 務 経 験 と 期 間	愛知教育大学、茨城大学、各臨床心理相談室相談員他 (平成12年4月～平成29年3月)			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	日本臨床心理士資格認定協会理事 専門職大学院認証評価判定委員会副委員長他			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了、文学修士 臨床心理士、心理臨床学会、箱庭療法学会、精神分析学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	30 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー : 木 曜 日 メ ー ル ア ド レ ス : kishi.yoshinori_fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
臨床 (clinical) という言葉は、ギリシャ語で「寝台」を意味する「クリネーク」に由来する。元々臨床とは、医療的な治療を施す術がなくなってしまった病人に対して、枕元で魂の旅立ちを世話する僧侶の役割を示すものであった。その現代的意味では、援助を求める人に対して道を共にするというのがその主題となる。そのためには、人を知りその上で支援の方法を考えていくことが大事なことである。並行して、学生が自分自身の関心領域を明確にし、具体的な研究のプロセスへの理解を深めて、小論文にまとめていく。	<input type="radio"/>	A 知識
	<input type="radio"/>	B 技術・技能
	<input type="radio"/>	C 論理的思考力
	<input type="radio"/>	D 文章表現力
	<input type="radio"/>	E 表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F 感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G 協働能力
	<input type="radio"/>	H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J 多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K 課題対処力
	<input type="radio"/>	L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)	
① 様々な理論を通じて、心のメカニズムを知る。	目標	A・C
② 様々な症例を通じて、アセスメント力を高め、支援の方法を身につける。	目標	A・J
③ 心理学領域の研究において必要な知識・技術を習得する。	目標	A
④ 自らの興味関心に応じた先行研究を調べ、研究プロセスを構築していく力を身につける。	目標	C・K

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 【予習・復習】
1 ┆ 10	研究テーマの検討 先行研究の整理	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予習及び 復習
11 ┆ 20	研究方法の検討と調査	講義及びグループ討議、 発表	文献該当箇所の予習及び 復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21 ～ 30	論文の執筆、発表	講義及びグループ討議、発表	文献該当箇所の予習及び復習
期末試験の講評			
期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明します。			
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
<ul style="list-style-type: none"> • 目標 A・C：小レポート（20%） • 目標 A・C：最終レポート（50%） • 目標 J・K：授業での討議、発表等への参加態度（30%） 			
教科書			
随時紹介。			
その他補足事項			
<p>授業の理解度に応じて、講義の順番の入替が予測される。 理解度に合わせて参考文献を随時紹介する。 最終レポートの作成・提出及び成果発表を求める授業である。</p>			

授 業 科 目 名	特 別 研 究 Ⅱ (臨床心理学研究)		授 業 形 態 ・ 単 位 数	演 習 ・ 2 単 位
			開 講 年 次	4 年 次
担 当 教 員	職 名 : 教 授 氏 名 : 渡 邊 勉	わた なべ つとむ	開 講 期	通 年
			授 業 回 数	30 回
			期 末 試 験 の 有 無	無
授 業 に 関 する 主 な 実 務 経 験 と 期 間	聖マリアンナ医科大学病院神経精神科心理技術員・臨床心理士（昭和57年1月～平成14年3月） 目白大学カウンセリングセンター相談員（平成14年4月～平成30年3月）			
社 会 貢 献 と し て の 委 員 会 ・ 職 等	福島市自殺対策ネットワーク会議議長、日本心理臨床学会代議員			
最 終 卒 業 (修 了) 学 校 及 び 学 位 等 資 格 ・ 免 許 及 び 所 属 学 会 等	上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程修了、文学修士 博士（医学）、臨床心理士、日本精神分析学会認定心理療法師 公認心理師、心理臨床学会、森田療法学会			
卒 業 ・ 資 格 ・ 免 許	授 業 科 目 区 分	必 修 ・ 選 択 必 修 ・ 選 択 の 別		
卒 業	専 門 教 育 科 目	選 択		
開 講 キ ャ ン パ ス	福 島 駅 前 キ ャ ン パ ス	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 時 間	30 時 間	
オ フ ィ ス ア ワ ー ・ メ ー ル ア ド レ ス 等	オ フ ィ ス ア ワ ー : 水 曜 日 午 後 メ ー ル ア ド レ ス : tsutomu.watanabe@fukushima-college.ac.jp			

授 業 の 概 要	授 業 の 概 要 及 び 到 達 目 標 と の 対 応 項 目	
大学の最終年次では、これまで学んできたことをカタチにする。どんな格好になろうとも締め切りまでに、首尾一貫した論文（レポート）として完成することを目指す。	A	知識
	B	技術・技能
	○ C	論理的思考力
	○ D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力
	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力
	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	○ I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	J	多様性への理解力、応用力
	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
	授 業 の 到 達 目 標	授 業 の 概 要 ・ 到 達 目 標 と の 対 応 項 目 (受講して得られる力)
複数の参考文献から自分のテーマを絞り込むことができる。	目 標	C
首尾一貫した長文を完成することができる。	目 標	D
研究の成果を簡潔に説明できる。	目 標	I

授 業 計 画			
回 数	授 業 テ ー マ ・ 授 業 内 容	授 業 方 法 (ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ の 方 法) 及 び 授 業 で 使 用 す る 教 材 等	授 業 時 間 以 外 の 必 要 な 学 修 方 法 【 予 習 ・ 復 習 】
1	一步踏み込んで明らかにしたいことは何か？	全体討論	レジメ作成
2	先行研究探索①	発表と討論	発表準備
3	先行研究探索②	発表と討論	発表準備
4	先行研究探索③	発表と討論	発表準備
5	先行研究探索④	発表と討論	発表準備
6	先行研究探索⑤	発表と討論	発表準備

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)及び、授業で使用する教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
7	先行研究探索⑥	発表と討論	発表準備
8	先行研究探索⑦	発表と討論	発表準備
9	先行研究探索⑧	発表と討論	発表準備
10	先行研究探索⑨	発表と討論	発表準備
11	先行研究探索⑩	発表と討論	発表準備
12	先行研究探索⑪	発表と討論	発表準備
13	先行研究探索⑫	発表と討論	発表準備
14	先行研究探索⑬	発表と討論	発表準備
15	前期のまとめ・これからの研究の予定を立てる	計画予定表の提出	レジメ作成
16	研究調査活動①	報告と討論	資料収集・整理
17	研究調査活動②	報告と討論	資料収集・整理
18	研究調査活動③	報告と討論	資料収集・整理
19	研究調査活動④	報告と討論	資料収集・整理
20	研究調査活動⑤	報告と討論	資料収集・整理
21	研究調査活動⑥	報告と討論	資料収集・整理
22	研究調査活動⑦	報告と討論	資料収集・整理
23	研究調査活動⑧	報告と討論	資料収集・整理
24	研究調査活動⑨	報告と討論	資料収集・整理
25	研究調査活動⑩	報告と討論	資料収集・整理
26	進捗状況の確認	全体討論と指導	進捗報告
27	執筆指導①	論文構成の指導 レジメ配付	添削
28	執筆指導②	個別・全体討論	添削
29	執筆指導③	個別・全体指導	添削
30	総合ディスカッション：論文・レポート提出	全体討論と講評	最終稿完成
授業の到達目標に応ずる到達度の評価（評価方法・基準）			
前期 目標C : 討論における発言 (30点) 後期 目標D・I : 論文・レポート提出と発表 (70点) 前期と後期の結果を総合して評価します。			